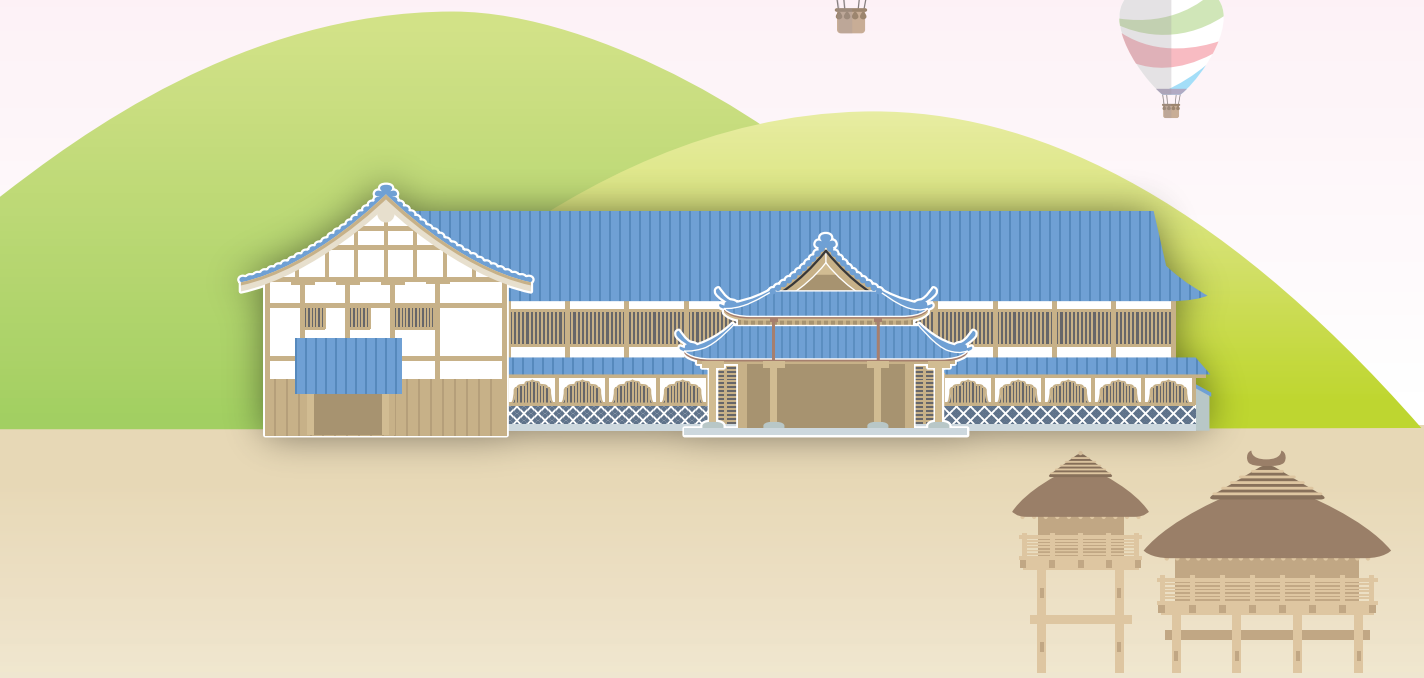
2026-2027
検査案内



項目索引
検査ご利用にあたって
総合・細菌・病理組織・細胞診依頼書の記入要領・ご利用の手引き
検査依頼書・検査報告書
【Webきゃどらいん】のご案内
電子カルテとのデータ連携のご案内
中継器システムのご案内
センターセット検査項目一覧表
検体検査料について
容器の種類
生化学的検査
血液学的検査
腫瘍マーカー
免疫学的検査
内分泌学的検査
一般臨床検査
微生物学的検査
病理学的検査
細胞診検査
その他検査
薬物検査
毒物・産業医学的代謝物質、労働安全衛生法による特殊検査
特殊検査
長時間心電図解析
異常値報告の対象項目と検査値範囲
共用基準範囲 特定健診基準範囲 臨床判断値
測定法の概要
主要参考文献

公益財団法人
佐賀県健康づくり財団
佐賀県健診・検査センター

佐賀県健康づくり財団の電話番号案内

お問い合わせ、ご相談、
ご予約など、お気軽にご連絡ください。



臨床検査・集配・営業窓口

TEL　0952-37-3302

FAX　0952-37-3062

電話受付時間　平日　8：30～19：30
土･日･祝　8：30～17：30

個別健診（広域子宮頸がん検診含む）
産業医健診、ヘルスサポート健診窓口

TEL　0952-37-3312

FAX　0952-37-3061

電話受付時間　平日･土　8：30～17：30
日･祝　電話窓口休止しております。

保険診療窓口（CT・超音波など）
施設健診窓口（人間ドックなど）

TEL　0952-37-3313

FAX　0952-37-3063

電話受付時間　平日　8：30～16：00
土･日･祝　電話窓口休止しております。

巡回健診窓口

TEL　0952-37-3304

FAX　0952-37-3061

電話受付時間　平日　8：30～17：30
土･日･祝　電話窓口休止しております。

2026－2027 検査案内 目次

項目索引 …… 2
検査ご利用にあたって …… 12
総合・細菌・病理組織・細胞診依頼書の記入要綱・ご利用の手引き …… 14
検査依頼書・検査報告書 …… 21
【Webきゃどらいん】のご案内 …… 24
電子カルテとのデータ連携のご案内 …… 26
中継器システムのご案内 …… 27
センターセット検査項目一覧表 …… 28
検体検査料について …… 30
容器の種類 …… 32
生化学的検査（脂質・糖質・ビタミン・その他・酵素・低分子窒素化合物・有機酸） …… 42
血液学的検査（血液一般・形態・凝固因子／凝固・線溶） …… 54
腫瘍マーカー …… 58
免疫学的検査（感染症・ウイルス感染症・免疫血液・肝炎ウイルス関連・自己免疫・免疫グロブリン／補体・血漿蛋白・アレルギー） …… 60
内分泌学的検査（視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺／副腎皮質・副腎髄質・膵・消化管・心臓・その他・性腺・胎盤） …… 88
一般臨床検査（尿検査・便検査・髄液・穿刺液・関節液・精液） …… 96
微生物学的検査（一般細菌・主な抗生物質・化学療法剤・抗酸菌（結核菌）） …… 100
病理学的検査 …… 110
細胞診検査 …… 112
その他検査（遺伝子関連（病理）） …… 115
薬物検査 …… 116
毒物・産業医学的代謝物質、労働安全衛生法による特殊検査 …… 124
特殊検査（細胞性免疫・HLA・染色体・AIRS） …… 126
長時間心電図解析（ホルター心電図・骨塩定量検査） …… 131
異常値報告の対象項目と検査値範囲 …… 132
共用基準範囲・特定健診基準範囲・臨床判断値 …… 133
測定法の概要 …… 134
主要参考文献 …… 136
トピックス …… 139

項目索引

五十音

	ページ	点数
ア		
亜鉛（Zn）	44	132
悪性リンパ腫解析検査（MLA）CD45ゲーティング	126	1940
アスコルビン酸（ビタミンC）	49	296
アスピリン→サリチル酸	118	㊖
アスペルギルス抗原	60	157
アセタゾラミド	116	㊖
アセチルコリンレセプター抗体→抗アセチルコリンレセプター抗体	80	752
アデノウイルス＜CF＞	66	79
アデノシンデアミナーゼ（ADA）＜血清・胸水・腹水＞	50,98	32
アトピー鑑別試験（ファディアトープ）	84	194
アナリーゼ（白血球分類／血液像）＜自動機械法＞	54	15
アナリーゼ（白血球分類／血液像）＜鏡検法＞	54	25
アプリンジン	117	㊖
アポリポ蛋白＜A-Ⅰ、A-Ⅱ、B、C-Ⅱ、C-Ⅲ、E＞	46	1項目31
アミオダロン	117	㊖
アミカシン	118	㊖
アミノ酸分析（39種類）	51	1074
アミノ酸分析（41種類）	51	1074
アミラーゼ＜血清・尿中＞	45	11
アミラーゼ・アイソザイム	45	48
アルカリホスファターゼ（ALP）	45	11
アルカリホスファターゼアイソザイム（ALPアイソザイム）	45	48
アルドステロン＜血清・血漿・尿中＞	90	122
アルドステロン／レニン活性比	90	122+100
アルドラーゼ	50	11
アルブミン（ALB）＜血清＞	42,82	11
アルブミン（ALB）＜尿中＞	42,82	99
アルブミン／グロブリン比（A／G比）	42	
アルベカシン	118	㊖
アルミニウム（Al）	124	109
アレビアチン→フェニトイン	116	㊖
アレルゲン一覧（特異的IgE）	85	各110
アンカロン→アミオダロン	117	㊖
アンギオテンシンⅠ転換酵素（ACE）	50	136
アンジェルマン症候群（15染色体）＜先天異常＞	129	2477
アンチトロンビンⅢ（ATⅢ）	56	70
アンチプラスミン（α_2プラスミンインヒビター）	56	128
アンモニア	51	50
イ		
胃癌HER2タンパク（IHC）	115	690
胃癌HER2遺伝子（FISH）	115	2700
胃がんリスク層別化検査（ABC分類）〔LA〕	50	
一般細菌塗抹鏡検	100	67
インスリン（IRI）	48,92	100
インスリン抗体	92	107
インフルエンザウイルス（A型、B型）＜CF、HI＞	66	79
ウ		
ウイリアムス症候群（7染色体）＜先天異常＞	129	2477
エ		
エステル型コレステロール	46	
エストラジオール（E_2）	93	167
エストロゲンレセプター（ER）	110	720
エトスクシミド	116	㊖
エラスターゼ1	58	120
エリスロポエチン	94	209
塩基性フェトプロテイン（BFP）	59	150
エンドトキシン定量	60	229
オ		
黄体形成ホルモン（LH）	88	105
オートタキシン	83	194
オーム病（クラミドフィラシッタシ）＜CF＞	61	79
オステオカルシン	52,90	153
カ		
喀痰中好酸球	55	15
ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）	59	175
活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）	56	29
カテコールアミン3分画＜血漿・尿中＞	91	161
カドミウム（Cd）＜血中・尿中＞	124	
ガバペンチン	116	㊖
花粉アレルギーセット	84	660
花粉アレルギーセット＋小児アトピー鑑別セット	84	770
可溶性IL-2レセプター（sIL-2R）	59	438
可溶性フィブリンモノマー複合体（SFMC）	56	93
カリウム（K）＜血清・尿中＞	43	11
カルシウム（Ca）＜血清・尿中＞	44	11
カルシトニン	90	127
カルニチン分画	49	95+95
カルバマゼピン	116	㊖
環境検査（MRSA）	101	
肝細胞増殖因子（HGF）	94	227
関節液結晶検査	98	50
関節液一般検査（細胞数・細胞種類）	98	
間接クームス	71	47
間接ビリルビン	42	
癌胎児性抗原（CEA）	58	99
ガンマ-セミノプロテイン（γ-Sm）	58	192
寒冷凝集反応	60	11
キ		
キシレン→メチル馬尿酸	124,125	
凝固因子活性検査（第ⅡⅤⅦⅧⅨⅩⅪⅫⅩⅢ因子）	57	223
ク		
クームス試験（間接）	71	47
クームス試験（直接）	71	34
クラミドフィラシッタシ（オーム病）＜CF＞	61	79
クラミジアトラコマティス増幅同定＜リアルタイムPCR＞	62	188
クラミジアトラコマティス抗体（IgA・IgG）	61	200
クラミドフィラニューモニエ抗体（IgA）	61	75
クラミドフィラニューモニエ抗体（IgG）	61	70
クラミドフィラニューモニエ抗体（IgM）	61	152
クラミドフィラシッタシ（オーム病）	61	79
クリオグロブリン	81	42
グリコアルブミン（GA）	48	55
クリプトコックス抗原→クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	60	164
クレアチニン（CRE）＜血清・尿中＞	43	11
クレアチンキナーゼ（CK）（CPK）	45	11
クロール（Cl）＜血清・尿中＞	43	11
クロール定量＜髄液＞	97	11

	ページ	点数
クロストリジオイデスディフィシル<便>→CDトキシン（GDH）	101	95
クロスマッチ（交差適合試験）	71	
クロナゼパム	116	㊖
クロバザム	116	㊖
クロム（Cr）＜血中・尿中＞	124	
ケ		
血液型（ABO式、Rh式）	71	39
血液像（白血球分類／アナリーゼ）＜自動機械法＞	54	15
血液像（白血球分類／アナリーゼ）＜鏡検法＞	54	25
結核菌（塗抹）→抗酸菌（塗抹）	102	65+35
結核菌（培養）→抗酸菌（培養）	102	315
結核菌特異的IFN-γ（T-SPOT）	102	593
結核菌群TRC	102	410
結核菌感受性（MIC）	102	415
結核菌群LAMP	102	410
血漿血糖（血糖）	48	11
血小板関連IgG（PAIgG）	80	190
血小板第４因子・ヘパリン複合体抗体（HIT抗体）	80	390
血清アミロイドA蛋白（SAA）	83	47
血清抗p53抗体	58	163
血清HER2タンパク	58	320
血清鉄（Fe）	44	11
血清銅（Cu）	44	23
血清補体価（CH50）	81	38
結石分析	49	117
血糖	48	11
ケトン体分画	51	59
嫌気性培養（一般細菌）	100	137
ゲンタマイシン	118	㊖
コ		
抗ARS抗体	79	190
抗BP180抗体（抗BP180－NC16a抗体）	80	270
抗CCP抗体（抗シトルリン化ペプチド抗体）	77	193
抗DNA抗体＜RIA＞	78	159
抗ds-DNA（IgG抗体）	78	159
抗ds-DNA（IgM抗体）	78	
抗EA（IgG）	68	200
抗EA-DR（IgA）	68	79
抗EA-DR（IgG）	68	200
抗EBNA	68	79
抗EBNA（IgG）	68	200
抗GBM抗体（抗糸球体基底膜抗体）	80	257
抗GAD抗体（抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体）	92	134
抗IA-2抗体	92	213
抗Jo-1抗体＜CLEIA＞	79	140
抗LKM-1抗体	79	215
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	79	166
抗RNP抗体＜CLEIA＞	78	144
抗Scl-70抗体＜CLEIA＞	79	157
抗Sm抗体＜CLEIA＞	78	147
抗SS-A/Ro抗体＜CLEIA＞	78	161
抗SS-B/La抗体＜CLEIA＞	78	153
抗ss-DNA（IgG抗体）	78	159
抗ss-DNA（IgM抗体）	78	

	ページ	点数
抗Tg抗体（抗サイログロブリン抗体）	89	136
抗TPO抗体（抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体）	89	138
抗VCA（IgA）	68	79
抗VCA（IgG・IgM）＜FA・EIA＞	68	200
抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	80	752
抗核抗体（ANA）	77	99
抗ガラクトース欠損IgG抗体	77	111
抗カルジオリピンβ$_2$グリコプロテインⅠ複合体抗体	80	223
抗カルジオリピンIgG抗体	80	226
抗カルジオリピンIgM抗体	80	226
抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）	92	134
抗血小板抗体（APA）	80	261
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）	89	138
抗好中球細胞質抗体（MPO-ANCA、P-ANCA）	79	250
抗好中球細胞質抗体（PR3-ANCA、C-ANCA）	79	250
抗サイログロブリン抗体（抗Tg抗体）	89	136
交差適合試験（クロスマッチ）	71	
抗酸菌同定（質量分析）	102	376
抗酸菌（塗抹）	102	65+35
抗酸菌（培養）	102	315
抗酸菌薬剤感受性	102	415
抗酸菌感受性（MIC）SGM、RGM	102	415
抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	80	257
抗シトルリン化ペプチド（CCP）抗体	77	193
甲状腺刺激性抗体（TSAb）	89	330
甲状腺刺激ホルモン（TSH）	89	98
抗ストレプトリジンO（ASO・ASLO）	60	15
高精度分染法→染色体＜先天異常＞	129	2444+386
抗セントロメア抗体	79	173
抗デスモグレイン１抗体	80	300
抗デスモグレイン３抗体	80	270
抗平滑筋抗体（ASMA）	79	
抗ヘリコバクターピロリ抗体［LA］	94	80
抗ミトコンドリア抗体（AMA）	79	181
抗ミトコンドリアM2抗体	79	189
抗利尿ホルモン（AVP）	88	224
コクサッキーウイルス（A群・B群）＜CF・NT＞	69	79
骨塩定量検査	131	140
骨型アルカリホスファターゼ（BAP）	52	157
骨型酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）	52	156
骨髄像	54	788
コリンエステラーゼ（ChE）	45	11
コルチゾール＜血清・尿中＞	90	121
サ		
サーファクタントプロテインA（SP-A）	83	130
サーファクタントプロテインD（SP-D）	83	136
細菌塗抹鏡検（一般細菌）	100	67
細菌培養同定（一般細菌）	100	頁参照
細菌薬剤感受性（一般細菌）	100	頁参照
細菌塗抹鏡検（抗酸菌）	102	65+35
細菌培養（抗酸菌）	102	315
細菌薬剤感受性（抗酸菌）	102	415
サイクリックAMP（c-AMP）＜血漿・尿中＞	94	161
サイトケラチン19フラグメント（シフラ・CYFRA）	59	154

項目索引

	ページ	点数
サイトメガロウイルスpp65抗原（C7-HRP）	65	356
サイトメガロウイルス（CMV）＜CF＞	68	79
サイトメガロウイルス（CMV）（IgG・IgM）	68	200
細胞機能検査	126	頁参照
細胞診検査＜婦人科＞	112	150
＜婦人科（LBC）＞	112	150+45
＜婦人科以外＞	112	190
細胞表面マーカー	126,127	頁参照
サイロキシン（T_4）	89	105
サイロキシン結合グロブリン（TBG）	89	130
サイログロブリン	89	128
サリチル酸	118	㊖
三塩化酢酸＜尿中＞	124	
サンリズム→ピルシカイニド	117	㊖
シ		
ジアゼパム	116	㊖
シアリルTn抗原（STN）	59	146
シアリルLe^x－i抗原（SLX）	58	140
シアリルLe^{x}抗原（CSLEX）	58	152
シアル化糖鎖抗原（KL-6）	83	108
糸球体基底膜抗体→抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	80	257
シクロスポリン	118	㊖
ジゴキシン	116	㊖
シスタチンC	82	109
ジソピラミド	117	㊖
シフラ（サイトケラチン19フラグメント）	59	154
シベノール→シベンゾリン	117	㊖
シベンゾリン	117	㊖
脂肪酸分画（４成分）	47	389
絨毛性ゴナドトロピン（HCG）＜血清＞	93	130
絨毛性ゴナドトロピン（HCG）＜尿中＞	93	130
女性AIRS	130	
心筋トロポニンT	83,92	109
神経特異エノラーゼ（NSE）	59	142
心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	83,92	184
浸透圧＜血清＞	44	15
浸透圧＜尿中＞	44	16
ス		
膵アミラーゼ（P型アミラーゼ定量）	50	48
膵グルカゴン（IRG）	92	150
推定一日食塩摂取量	43	
髄液クロール定量	97	11
髄液一般検査（反応・比重・細胞数・細胞種類）	97	77
水痘・帯状ヘルペスウイルス（VZV）＜CF＞	67	79
水痘・帯状ヘルペスウイルス（VZV）（IgG・IgM）	67	200
膵ホスホリパーゼA_2（膵PLA_2）	50	204
スチレン→尿中スチレン代謝物	124,125	
セ		
精液検査	97	70
成長ホルモン（GH）	88	104
赤血球不規則抗体（不規則抗体）	71	174
セルロプラスミン	82	90
セロトニン	91	

	ページ	点数
穿刺液一般検査＜胸水・腹水＞（比重・リバルタ反応・細胞数・細胞種類）	98	
染色体（血液疾患）	129	
染色体（先天異常）	129	
セントロメア抗体→抗セントロメア抗体	79	173
前立腺特異抗原（PSA）	58	121
ソ		
総コレステロール	46	17
総三塩化物＜尿中＞	124,125	
総蛋白（TP）	42	11
総鉄結合能（TIBC）	44	
総ビリルビン	42	11
ゾニサミド	116	㊖
ソマトメジン-C（IGF-Ⅰ）	88	212
タ		
第Ⅱ因子（凝固因子活性検査）	57	223
第Ⅴ因子（凝固因子活性検査）	57	223
第Ⅶ因子（凝固因子活性検査）	57	223
第Ⅷ因子（凝固因子活性検査）	57	223
第Ⅸ因子（凝固因子活性検査）	57	223
第Ⅹ因子（凝固因子活性検査）	57	223
第Ⅺ因子（凝固因子活性検査）	57	223
第Ⅻ因子（凝固因子活性検査）	57	223
第XIII因子（凝固因子活性検査）	57	223
タクロリムス	118	㊖
胆汁酸	47	47
単純ヘルペスウイルス（HSV）＜CF＞	66	79
単純ヘルペスウイルス（HSV）（IgG・IgM）	66	200
単純ヘルペス特異抗原	66	180
男性AIRS	130	
蛋白定量＜関節液＞	98	11
＜髄液＞	97	11
＜穿刺液＞	98	11
＜尿＞（随時尿・24h蓄尿）	97	7
蛋白分画	42	18
チ		
膣トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出＜リアルタイムPCR＞	62	350
中性脂肪（トリグリセライド・TG）	46	11
虫卵検査（便）＜集卵法＞	99	15
虫卵検査（便）＜塗沫＞	99	20
長時間心電図解析（ホルター心電図）	131	1750
直接クームス	71	34
直接ビリルビン	42	11
沈渣（尿）＜鏡検法＞	96	27
ツ		
ツツガムシ カトー・カープ・ギリアム（IgG）（IgM）	61	各203
テ		
低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）	52,90	150
テイコプラニン	118	㊖
デオキシピリジノリン（DPD）＜尿中＞	52	191
テオフィリン	116	㊖
テグレトール→カルバマゼピン	116	㊖
テストステロン	93	119
鉄（Fe）	44	11

	ページ	点数
テトラクロルエチレン＜尿中＞	124,125	
デパケン→バルプロ酸Na	116	㊟
デヒドロエピアンドロステロンサルフェート（DHEA-S）	90	164
ト		
銅（Cu）	44	23
糖定量＜関節液＞	98	11
＜髄液＞	97	11
＜穿刺液＞	98	11
＜尿＞（随時尿・24ｈ蓄尿）	48,97	9
動脈硬化指数（AI）	47	
トキソプラズマ抗体（IgG）	61	93
トキソプラズマ抗体（IgM）	61	95
特異的IgE	84	各110
特異的IgE（Arah2）（ピーナッツ由来）	84	110
特殊染色＜骨髄＞	55	788+60
特殊染色＜血液＞	55	25+52
トピラマート	116	㊟
トブラマイシン	118	㊟
トランスサイレチン（プレアルブミン）	82	101
トランスフェリン＜血清＞	82	60
トランスフェリン＜尿中＞	82	98
トリグリセライド（中性脂肪・TG）	46	11
トリクロルエチレン＜尿中＞	124,125	
トリクロル酢酸→三塩化酢酸	124,125	
トリコスポロン・アサヒ抗体	61	798
トリプシン	50	189
トリプトファン反応→髄液一般検査	97	(77)
トリメタジオン	116	㊟
トリヨードサイロニン（T_3）	89	99
トルエン→馬尿酸	124,125	
トロポニンT→心筋トロポニンT	83,92	109
トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体（TAT）	56	166
トロンボモジュリン	57	204
ナ		
ナトリウム（Na）＜血清・尿中＞	43	11
鉛（Pb）＜血中＞	124,125	
ニ		
ニトラゼパム	116	㊟
日本脳炎ウイルス＜CF・HI＞＜JaGAr株＞	66	79
乳癌HER2/neuタンパク	115	690
乳癌HER2遺伝子（FISH）	115	2700
乳癌PD-L1タンパク（IHC）	115	2700
乳酸	51	47
乳酸脱水素酵素（LD）	45	11
尿アミラーゼ	45	11
尿酸（UA）＜血清・尿中＞	43	11
尿浸透圧	44	16
尿素呼気試験（ユービット）	94	70
尿素窒素（BUN・UN）＜血清・尿中＞	43	11
尿中蛋白＜定量＞（随時尿・24h蓄尿）	97	7
尿中アルブミン	42,82	99
尿中一般物質定性（比重・反応・糖定性・蛋白定性・ウロビリノゲン・ケトン体・ビリルビン・潜血反応・尿細菌）	96	26
尿中スチレン代謝物	124,125	
尿中マンデル酸エチルベンゼン	124	
尿中BTA	59	80
尿中HCG（ヒト絨毛性ゴナドトロピン）	93	130
尿中NAG（尿中N-アセチルグルコサミニダーゼ）	50	41
尿中C-ペプチド（尿中CPR）	48,92	105
尿中免疫電気泳動＜尿中ベンズジョーンズ蛋白の同定＞	81	201
尿中β_2-マイクログロブリン（β_2-m）	82	98
尿中ミオグロビン	83,92	131
尿中Ⅳ型コラーゲン	83	179
尿沈渣＜鏡検法＞	96	27
尿糖＜定量＞（随時尿・24h蓄尿）	48,97	9
ノ		
ノルマルヘキサン→2,5-ヘキサンジオン	124,125	
ノロウイルス抗原	94	
ノロウイルスRNA定性	94	
ノンネ・アペルト反応→髄液一般検査	97	(77)
ハ		
肺癌PD-L1タンパク（IHC）	115	2700
肺サーファクタントプロテインA（SP-A）	83	130
肺サーファクタントプロテインD（SP-D）	83	136
梅毒定量 TP抗体（定量）	64	53
培養同定（一般細菌）	100	頁参照
白血病・リンパ腫解析検査（LLA）CD45ゲーティング	126	1940
白血球分類（血液像・アナリーゼ）＜自動機械法＞	54	15
白血球分類（血液像・アナリーゼ）＜鏡検法＞	54	25
バニールマンデル酸（VMA）＜定量＞＜血漿・尿中＞	91	90
馬尿酸	124,125	
ハプトグロビン（Hp）	82	129
パラインフルエンザウイルス（1・2・3型）＜HI＞	66	79
バルプロ酸ナトリウム	116	㊟
ハロペリドール	117	㊟
バンコマイシン	118	㊟
パンディー反応→髄液一般検査	97	(77)
ヒ		
ヒアルロン酸＜血清＞	49	179
ヒアルロン酸＜胸水＞	49	
鼻汁中好酸球	55	15
ビタミンB_1	49	239
ビタミンB_2	49	231
ビタミンB_6	49	
ビタミンB_{12}	49	136
ビタミンC（アスコルビン酸）	49	296
ヒダントール→フェニトイン	116	㊟
非特異的IgE	84	100
ヒトTARC定量（Th2ケモカイン）	84	179
ヒト脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）	92	136
ヒト心房性Na利尿ペプチド（HANP）	92	221
ヒト脳性Na利尿ペプチド（BNP）	92	130
ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）＜血清・尿中＞	93	130
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）	92	131
ヒトパピローマウイルスDNA（16型・18型その他ハイリスクグループ）	65	347
ヒトパピローマウイルス（HPV）ジェノタイプ判定	65	2000
ヒトパルボウイルスB19（IgG）	68	
ヒトパルボウイルスB19（IgM）	68	200

項目索引

	ページ	点数
百日咳菌DNA	60	360
百日咳抗体<EIA>	60	250
百日咳抗体 IgA	60	80
百日咳抗体 IgM	60	80
病理組織検査<生検、手術材料>	110	860
<標本作成のみ>	110	
<免疫染色>	110	400
<特殊染色>	111	
ビリルビン→総ビリルビン	42	11
ピルシカイニド（サンリズム）	117	㊖
ピルビン酸	51	47
ピルメノール	117	㊖
フ		
ファディアトープ（アトピー鑑別試験）	84	194
フィブリノゲン（FIB）	56	23
フィブリン分解産物（FDP定量）<血液>	56	95
フィブリン分解産物（FDP定量）<尿>	56	77
（可溶性）フィブリンモノマー複合体（SFMC）	56	93
フィブリンモノマー複合体定量	56	215
風疹ウイルス<HI>	67	79
風疹ウイルス<IgG・IgM>	67	200
フェニトイン	116	㊖
フェノバルビタール	116	㊖
フェリチン（FER）	44	102
フォン・ウィルブランド因子活性（リストセチンコファクター）	56	126
フォン・ウィルブランド因子抗原定量	56	147
不規則抗体	71	174
ふき取り（環境検査）	101	
副甲状腺ホルモン-INTACT（PTH-INTACT）	90	161
副甲状腺ホルモン（Whole PTH）	90	161
副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）	90	185
副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	88	184
不飽和鉄結合能（UIBC）	44	11
プラスミノゲン	56	100
プラダーウイリ症候群（15染色体）<先天異常>	129	2477
フリーテストステロン	93	156
フリーPSA	58	
プリミドン	116	㊖
プレアルブミン（トランスサイレチン）	82	101
フレカイニド	117	㊖
プロカインアミド	117	㊖
プロカルシトニン（PCT）	60	276
プロゲステロン	93	139
プロゲステロンレセプター（PgR）	110	690
プロコラーゲンⅢペプチド（P-Ⅲ-P）	83	136
プロテインC活性	57	227
プロテインC（抗原量）	57	220
プロテインS活性	57	163
プロテインS（抗原量）	57	152
プロテインS（遊離型抗原量）	57	152
プロトロンビン時間（PT・PT-INR）	56	18
プロパフェノン	117	㊖
ブロムペリドール	117	㊖
プロラクチン（PRL）	88	98

	ページ	点数
ヘ		
平滑筋抗体→抗平滑筋抗体（ASMA）	79	
ペプシノゲン	50	
ヘモグロビン（免疫学的・定性）<便>	99	37
ヘモグロビン（免疫学的・精密）<便>	99	41
ヘモグロビンA1c（HbA1c）	48	49
ヘモグロビン及びトランスフェリン<便>	99	56
ヘリコバクターピロリ抗原<便>	94	138
ヘリコバクター培養	94	200
ヘルペスウイルス（水痘・帯状）<CF>	67	79
ヘルペスウイルス（水痘・帯状）（IgG・IgM）	67	200
ヘルペスウイルス（単純）<CF>	66	79
ヘルペスウイルス（単純）（IgG・IgM）	66	200
ベンス・ジョーンズ蛋白同定/尿中免疫電気泳動	81	201
便中カルプロテクチン	79	268
便ヘモグロビン<定性>	99	37
便ヘモグロビン<精密>	99	41
便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	99	56
便中ヘリコバクターピロリ抗原	94	138
便虫卵検査<集卵法>	99	15
便虫卵検査<塗沫>	99	20
扁平上皮癌関連抗原（SCC抗原）	59	101
ホ		
補体価（CH50）	81	38
ホモバニリン酸（HVA）<定量><血漿・尿中>	91	69
ボリコナゾール	118	㊖
ホルター心電図（長時間心電図解析）	131	1730
マ		
マイクロサテライト不安定性（MSI）検査	115	2500
マイコプラズマ抗体価<PA・CF>	61	32
マイコプラズマニューモニエDNA	61	291
マイスタン→クロバザム	116	㊖
マグネシウム（Mg）	44	11
麻疹ウイルス（IgG・IgM）	67	200
末梢血液一般	54	21
末梢血液像（白血球分類／アナリーゼ）<自動機械法>	54	15
末梢血液像（白血球分類／アナリーゼ）<鏡検法>	54	25
末梢血好中球BCR-ABL1 t(9；22) 転座	129	2477
マトリックスメタロプロティナーゼ-3（MMP-3）	77	116
マラリア原虫	55	40
マンガン（Mn）	124	27
ミ		
ミエリン塩基性蛋白（MBP）<髄液>	97	570
ミオグロビン<血清・尿中>	83,92	131
ミオシン軽鎖Ⅰ→心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	83,92	184
ミトコンドリア抗体→抗ミトコンドリア抗体（AMA）	79	181
ム		
無機リン（IP）<血清・尿中>	44	17
ムンプスウイルス<CF>	67	79
ムンプスウイルス（IgG・IgM）	67	200
メ		
メキシチール（メキシレチン）	117	㊖
メタネフリン・ノルメタネフリン分画	91	220
メチルジゴキシン→ジゴキシン	116	㊖

	ページ	点数
メチル馬尿酸	124,125	
免疫グロブリン（IgG・IgA・IgM）	81	各38
免疫電気泳動（特異抗血清による同定）	81	218
免疫電気泳動（尿中ベンスジョーンズ蛋白同定）	81	201
モ		
網状赤血球数	54	12
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	126,127	頁参照
ヤ		
薬剤感受性検査（一般細菌）	100	頁参照
薬剤感受性検査（抗酸菌）	102	415
薬剤耐性菌検出	100	50
薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）	126	頁参照
ユ		
遊離HCG-β（HCG-βサブユニット）＜血清＞	93	129
遊離コレステロール（F-cho）	46	11
遊離サイロキシン（FT_4）	89	121
遊離脂肪酸（NEFA）	46	59
遊離トリヨードサイロニン（FT_3）	89	121
ユービット（尿素呼気試験）	94	70
ヨ		
葉酸	49	146
ラ		
落下菌（環境検査）	101	
ラモトリギン	116	㊟
ランドセン→クロナゼパム	116	㊟
卵胞刺激ホルモン（FSH）	88	105
リ		
リーマス→リチウム	117	㊟
リウマチ因子（RF定量）	77	30
リウマチ因子IgG	77	198
リストセチンコファクター（フォン・ウィルブランド因子活性）	56	126
リチウム	117	㊟
リドカイン	117	㊟
リパーゼ	45	24
リバルタ反応＜穿刺液＞→穿刺液一般	98	
リポ蛋白（a）→LP（a）	46	107
リポ蛋白分画（アガロース法）	46	49
淋菌およびクラミジア同時同定＜リアルタイムPCR＞	62	262
淋菌増幅同定＜リアルタイムPCR＞	62	198
リン脂質（PL）	46	15
リンパ球幼若化検査（PHA,Con-A）	126	345
ル		
ループスアンチコアグラント	80	265
レ		
レチノール結合蛋白（RBP）	82	129
レニン活性（PRA）	94	100
レニン濃度（ARC）	94	102
レベチラセタム	116	㊟
レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP-C）	46	174
ロ		
ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）	45	11

項目索引

アルファベット

	ページ	点数
A		
ABC分類→胃がんリスク層別化検査	50	
ABO式血液型	71	39
ACE（アンギオテンシンⅠ転換酵素）	50	136
AChR（抗アセチルコリンレセプター抗体）	80	752
ACTH（副腎皮質刺激ホルモン）	88	184
ADA（アデノシンデアミナーゼ）＜血清・胸水・腹水＞	50,98	32
AFP（α-フェトプロテイン）	58	98
AFPレクチン分画（AFP-L3%）	58	185
A／G比（アルブミン／グロブリン比）	42	
AI（動脈硬化指数）	47	
AIRS（男性）	130	
AIRS（女性）	130	
ALB（アルブミン）＜血清＞	42,82	11
ALB（アルブミン）＜尿中＞	42,82	99
ALPアイソザイム（アルカリホスファターゼアイソザイム）	45	48
ALP（アルカリホスファターゼ）	45	11
ALT（アラニンアミノトランスフェラーゼ）→GPT	45	17
Al（アルミニウム）	124	109
AMA（抗ミトコンドリア抗体）	79	181
AMY（アミラーゼ）＜血清・尿中＞	45	11
ANA（抗核抗体）	77	99
ANP（HANP・ヒト心房性Na利尿ペプチド）	92	221
APA（抗血小板抗体）	80	261
APTT（活性化部分トロンボプラスチン時間）	56	29
Arah2（ピーナッツ由来）（特異的IgE）	84	110
ASMA（抗平滑筋抗体）	79	
ASO（ASLO・抗ストレプトリジンO）	60	15
AST（アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ）→GOT	45	17
ATⅢ（アンチトロンビンⅢ）	56	70
ATLA抗体価（HTLV-1抗体価）＜CLIA＞	76	159
AVP（抗利尿ホルモン）	88	224
B		
BAP（骨型アルカリホスファターゼ）	52	157
BCA225	58	158
BFP（塩基性フェトプロテイン）	59	150
B-J蛋白（ベンス・ジョーンズ蛋白）同定	81	201
BMG（β_2-マイクログロブリン・β_2-MG）＜血清・尿中＞	82	98
BNP（ヒト脳性Na利尿ペプチド）	92	130
BTA＜尿中＞	59	80
BUN（尿素窒素・UN）＜血清・尿中＞	43	11
BVスコア	101	
B型肝炎ウイルスコア関連抗原（HBcrAg）	72	246
C		
C1インアクチベーター活性（C1エステラーゼインヒビター活性）	56	253
C_3	81	70
C_4	81	70
Ca（カルシウム）＜血清・尿中＞	44	11
c-AMP（サイクリックAMP）＜血漿・尿中＞	94	161
C-ANCA（PR3-ANCA・抗好中球細胞質抗体）	79	250
CA19-9	58	121
CA15-3	58	112
CA72-4	59	146
CA125	58	136
C-Banding 染色体＜先天異常＞	129	2444+386
Cd（カドミウム）＜血中・尿中＞	124	
CD45ゲーティング（悪性リンパ腫解析検査）（MLA）	126	1882
CD45ゲーティング（白血病・リンパ腫解析検査）（LLA）	126	1882
CDトキシン（GDH）＜便＞→クロストリジオイデスディフィシル	101	95
CEA（癌胎児性抗原）	58	99
CH50（血清補体価）	81	38
ChE（コリンエステラーゼ）	45	11
CK（CPK）（クレアチンキナーゼ）	45	11
CK-MB	45	55
CK-MB＜CLEIA＞	45	90
Cl（クロール）＜血清・尿中＞	43	11
CMV pp65抗原（C7-HRP）→サイトメガロウイルス pp65抗原（C7-HRP）	65	356
CMV→サイトメガロウイルス＜CF＞	68	79
CMV→サイトメガロウイルス（IgG・IgM）	68	200
Con-Aによるリンパ球幼若化検査	126	345
CPR（C-ペプチド）＜血清・尿中＞	48,92	105
Cr（クロム）＜血中・尿中＞	124	
CRE（クレアチニン）＜血清・尿中＞	43	11
CRP（C反応性蛋白）	83	16
CSLEX（シアリルLe^{x}抗原）	58	152
Cu（血清銅）	44	23
CYFRA（サイトケラチン19フラグメント）	59	154
C-ペプチド（CPR）＜血清・尿中＞	48,92	105
D		
Dダイマー	56	127
DHEA-S（デヒドロエピアンドロステロンサルフェート）	90	164
DLST（薬剤によるリンパ球刺激試験）	126	頁参照
DNA抗体＜RIA＞→抗DNA抗体＜RIA＞	78	159
DPD（デオキシピリジノリン）	52	191
ds-DNA　IgG抗体→抗ds-DNA　IgG抗体	78	159
ds-DNA　IgM抗体→抗ds-DNA　IgM抗体	78	
DUPAN-2	58	115
E		
E_2（エストラジオール）	93	167
EBウイルス抗EA（IgG）	68	200
EBウイルス抗EA-DR（IgA）	68	79
EBウイルス抗EA-DR（IgG）	68	200
EBウイルス抗EBNA	68	79
EBウイルス抗EBNA（IgG）	68	200
EBウイルス抗VCA（IgA）	68	79
EBウイルス抗VCA（IgG・IgM）＜FA・EIA＞	68	200
EGFR変異解析V2.0	115	2500
ER（エストロゲンレセプター）	110	720
F		
FDP定量（フィブリン分解産物）＜血液＞	56	95
FDP定量（フィブリン分解産物）＜尿中＞	56	77
FER（フェリチン）	44	102
Fe（血清鉄）	44	11
FGF23（CLEIA）	94	788
FIB（フィブリノゲン）	56	23
FSH（卵胞刺激ホルモン）	88	105
FT_3（遊離トリヨードサイロニン）	89	121
FT_4（遊離サイロキシン）	89	121

	ページ	点数
F／T比PSA	58	150
F-cho（遊離コレステロール）	46	11
G		
GA（グリコアルブミン）	48	55
GAD抗体→抗GAD抗体	92	134
G-Banding 染色体＜血液疾患・先天異常＞	129	2444+386
GBM抗体→抗GBM抗体（抗糸球体基底膜抗体）	80	257
GH（成長ホルモン）	88	104
GOT→AST	45	17
GPT→ALT	45	17
H		
HANP（ヒト心房性Na利尿ペプチド・ANP）	92	221
HA抗体価	73	146
HbA1c（ヘモグロビンA1c）	48	49
HBc抗体価	72	130
HBcrAg（B型肝炎ウイルスコア関連抗原）	72	246
HBe抗原	72	98
HBe抗体価	72	98
HBs抗原＜定性＞	72	29
HBs抗原	72	88
HBs抗体価＜定性＞	72	32
HBs抗体価	72	88
HBVゲノタイプ＜EIA＞	72	340
HBV-DNA定量＜リアルタイムPCR＞	72	256
HCG-βサブユニット＜血清＞	93	129
HCG（ヒト絨毛性ゴナドトロピン）＜血清・尿中＞	93	130
HCV RNAコアジェノタイプ	73	
HCV-RNA定量＜リアルタイムPCR＞	73	412
HCV群別（グルーピング）	73	215
HCV抗原（HCVコア蛋白）	73	102
HCV抗体価＜CLIA＞	73	102
HCV抗体価＜第３世代＞	73	102
HDL-コレステロール	46	17
HER2遺伝子（FISH）	110,115	2700
HER2タンパク（IHC）4B5	110,115	690
H-FABP（ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白）	92	131
HGF（肝細胞増殖因子）	94	227
HIT抗体（血小板第４因子・ヘパリン複合体抗体）	80	390
HIV-1RNA定量＜リアルタイムPCR＞	76	520
HIV抗原抗体＜CLIA＞	76	109
HLA-A（遺伝子型タイピング）	128	
HLA-B（遺伝子型タイピング）	128	
HLA-C（遺伝子型タイピング）	128	
HLA-DRB1（遺伝子型タイピング）	128	
HPV DNA（16型、18型、その他ハイリスクグループ）	65	347
HPV ジェノタイプ判定	65	2000
Hp（ハプトグロビン）	82	129
HSV→単純ヘルペスウイルス＜CF＞	66	79
HSV→単純ヘルペスウイルス（IgG・IgM）	66	200
HTLV-1抗体価（ATLA抗体価）＜CLIA＞	76	159
HTLV-1抗体価＜ラインブロット法＞（LIA法）	76	425
HVA（ホモバニリン酸）＜定量＞＜血漿・尿中＞	91	69
I		
IA-2抗体→抗IA-2抗体	92	213
IgA	81	38
IgE（MAST）→特異的IgE（MAST-36、MAST-48mix）	84	1430
IgG	81	38
IgG4（LA）	81	373
IgGサブクラス分画	81	
IgM	81	38
IgM-HA抗体価	73	146
IgM-HBc抗体価	72	146
IGF-Ⅰ（ソマトメジン-C）	88	212
Intact PTH→副甲状腺ホルモン－INTACT	90	161
IP（無機リン）＜血清・尿中＞	44	17
IRI→インスリン	48,92	100
IRG（膵グルカゴン）	92	150
J		
Jo-1抗体→抗Jo-1抗体＜CLEIA＞	79	140
K		
KL-6（シアル化糖鎖抗原）	83	108
K（カリウム）＜血清・尿中＞	43	11
L		
LAP（ロイシンアミノペプチダーゼ）	45	11
LD（LDH）（乳酸脱水素酵素）	45	11
LD（LDH）（胸水・腹水）	98	11
LDHアイソザイム	45	48
LDL-コレステロール＜FW計算＞	46	
LDL-コレステロール＜直接法＞	46	18
L-FABP（L型脂肪酸結合蛋白）	92	210
LH（黄体形成ホルモン）	88	105
LKM-1抗体→抗LKM-1抗体	79	215
LLA（白血病・リンパ腫解析検査）CD45ゲーティング	126	1882
LP（a）→リポ蛋白（a）	46	107
M		
Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体（M2BPGi）	83	194
MAC TRC	102	421
MAST36→特異的IgE	84	1430
MAST48mix→特異的IgE	84	1430
MBP（ミエリン塩基性蛋白）	97	570
Mg（マグネシウム）	44	11
MLA（悪性リンパ腫解析検査）CD45ゲーティング	126	1882
MMP-3（マトリックスメタロプロテイナーゼ-3）	77	116
Mn（マンガン）	124	27
MPO-ANCA（抗好中球細胞質抗体・P-ANCA）	79	250
MRSA（環境検査）	101	
MSI検査（マイクロサテライト不安定性検査）	115	2500

項目索引

	ページ	点数
N		
NAG（N-アセチルグルコサミニダーゼ）	50	41
Na（ナトリウム）＜血清・尿中＞	43	11
NCC-ST-439	58	112
NEFA（遊離脂肪酸）	46	59
NK細胞活性	126	
N・N-ジメチルホルムアミド→N-メチルホルムアミド	124,125	
non HDLコレステロール	46	
NSE（神経特異エノラーゼ）	59	142
NT-proBNP（ヒト脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント）	92	136
NTx（Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド）＜尿中＞	52	153
N-メチルホルムアミド＜尿中＞	124,125	
P		
P-Ⅲ-P（プロコラーゲンⅢペプチド）	83	136
PAIgG（血小板関連IgG）	80	190
P-ANCA（MPO-ANCA・抗好中球細胞質抗体）	79	250
Pb（鉛）	124,125	
PCT（プロカルシトニン）	60	276
PD-L1タンパク（IHC）	115	2700
PgR（プロゲステロンレセプター）	110	690
PHAによるリンパ球幼若化検査	126	345
PICテスト（α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体）	56	150
PIVKA-Ⅱ＜CLEIA＞	58	131
PLA_2→膵PLA_2（膵ホスホリパーゼA_2）	50	204
PL（リン脂質）	46	15
PR3-ANCA（抗好中球細胞質抗体・C-ANCA）	79	250
PRA（レニン活性）	94	100
PRL（プロラクチン）	88	98
ProGRP（ガストリン放出ペプチド前駆体）	59	175
PSA（前立腺特異抗原）	58	121
PSA F/T比	58	150
PTH-INTACT（副甲状腺ホルモン－INTACT）	90	161
PTHrP（副甲状腺ホルモン関連蛋白）	90	185
PT（プロトロンビン時間）	56	18
P型アミラーゼ定量（膵アミラーゼ）	50	48
P1NP→total P1NP	52	160
Q		
Q-Banding 染色体＜先天異常＞	129	2444+386
R		
RAS・BRAF遺伝子変異解析	115	4000
RBP（レチノール結合蛋白）	82	129
RF定量（リウマチ因子）	77	30
Rh式血液型	71	39
RLP-C（レムナント様リポ蛋白コレステロール）	46	174
RNP抗体→抗RNP抗体＜CLEIA＞	78	144
ROS1融合遺伝子定性	115	2500
RPR＜定性＞	64	15
RPR＜定量＞	64	34
RSウイルス＜CF＞	66	79
S		
SAA（血清アミロイドA蛋白）	83	47
SCC抗原（扁平上皮癌関連抗原）	59	101
Scl-70抗体→抗Scl-70抗体＜CLEIA＞	79	157
SFMC（可溶性フィブリンモノマー複合体）	56	93
SLX（シアリルLe^x-i抗原）	58	140
Sm抗体→抗Sm抗体＜CLEIA＞	78	147
SPan-1	58	144
SP-A（肺サーファクタントプロテインA）	83	130
SP-D（肺サーファクタントプロテインD）	83	136
SS-A抗体→抗SS-A/Ro抗体＜CLEIA＞	78	161
SS-B抗体→抗SS-B/La抗体＜CLEIA＞	78	153
ss-DNA IgG抗体→抗ss-DNA IgG抗体	78	159
ss-DNA IgM抗体→抗ss-DNA IgM抗体	78	
STN（シアリルTn抗原）	59	146
T		
T_3（トリヨードサイロニン）	89	99
T_4（サイロキシン）	89	105
TAT（トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体）	56	166
TBG（サイロキシン結合グロブリン）	89	130
TG（トリグリセライド・中性脂肪）	46	11
TIBC（総鉄結合能）	44	
total P1NP（Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド）	52	160
TP抗体定性（CLIA）	64	32
TP抗体定量（LA）	64	53
TPO抗体→抗TPO抗体（抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体）	89	138
TP（総蛋白）	42	11
TRACP-5b（骨型酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ）	52	156
TRAb（TSHレセプター抗体）	89	208
TARC（Th2ケモカイン）	84	179
TSAb（甲状腺刺激性抗体）	89	330
TSH（甲状腺刺激ホルモン）	89	98
TSHレセプター抗体	89	208
T-SPOT（結核菌特異的IFN-γ）	102	593
Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	126,127	頁参照
T細胞・B細胞百分率	126	193
U		
UA（尿酸）＜血清、尿中＞	43	11
UBiT→ユービット（尿素呼気試験）	94	70
ucOC（低カルボキシル化オステオカルシン）	52,90	150
UIBC（不飽和鉄結合能）	44	11
UN（尿素窒素・BUN）＜血清・尿中＞	43	11
V		
Viewアレルギー39→特異的IgE	84	1430
VMA（バニールマンデル酸）＜定量＞＜血漿・尿中＞	91	90
VZV→水痘・帯状ヘルペスウイルス＜CF＞	67	79
VZV→水痘・帯状ヘルペスウイルス（IgG・IgM）	67	200
W		
Whole PTH（副甲状腺ホルモン）	90	161
Z		
Zn（血清亜鉛）	44	132

数字

	ページ	点数
1.1.1-トリクロルエタン<尿中>	124,125	
1,5AG（1,5-アンヒドロ-D-グルシトール）	48	80
1,25-（OH)$_2$ビタミンD	49	388
11-OHCS（11-ヒドロキシコルチコステロイド）	90	60
15染色体（プラダーウイリ・アンジェルマン症候群）<先天異常>	129	2477
Ⅰ型コラーゲンC末端テロペプチド（ⅠCTP）	59	170
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）<尿中>	52	153
Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（total P1NP）	52	160
（1→3）-β-Dグルカン	60	190
25ヒドロキシビタミンD（くる病、骨軟化症）	49	117
25-OH ビタミンD（骨粗鬆症）	49	117
2,5-ヘキサンジオン	124,125	
Ⅳ型コラーゲン<血清>	83	131
Ⅳ型コラーゲン<尿中>	83	179
Ⅳ型コラーゲン・7S	83	148
5-HIAA（5-ハイドロキシインドール酢酸）<血漿・尿中>	91	95
7染色体（ウイリアムス症候群）<先天異常>	129	2477

ギリシャ文字

	ページ	点数
α		
α$_1$-酸性糖蛋白（α1アシドグリコプロテイン）	82	
α$_1$-マイクログロブリン<血清・尿中>	82	129
α$_2$プラスミンインヒビター（アンチプラスミン）	56	128
α$_2$プラスミンインヒビター・プラスミン複合体（PICテスト）	56	150
α$_2$-マクログロブリン	82	138
α-フェトプロテイン（AFP）	58	98
α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）	58	185
β		
β$_2$マイクログロブリン（β$_2$-m）<血清・尿中>	82	98
β-Dグルカン	60	190
δ		
δ-アミノレブリン酸（δALA）	124,125	106
γ		
γ-GT（γ-GTP）（γ-グルタミルトランスフェラーゼ）	45	11
γ-Sm（γ-セミノプロテイン）	58	187

検査ご利用にあたって

1．検査のご依頼について

●検査のご依頼に際しましては、所定の検査依頼書、申込書、検体ラベル（総合依頼書には検体貼り付け用のバーコードラベルが添付されています）及び検体容器をご使用ください。
必要な検査依頼書等は、ご連絡によりお届けいたします。

検査依頼書

●患者名、性別、生年月日、採取月日を黒ボールペンで正確にご記入ください。
●担当医名、カルテ№、入院・外来、診療科名、材料（検体の種類）欄もご記入ください。
●ご依頼検査項目は、該当箇所にご指示ください。依頼書に記載されていない項目の場合は、「連絡事項」欄にご記入ください。
●その他、所定欄に採取時間、身長・体重、尿量、採尿方法（採尿区分）、臨床所見等を必要に応じてご記入ください。

検体ラベル

●貴院名、患者名、採取日時、材料名等をご記入の上、容器に貼り付けてください。

2．検体の取扱いについて

●本案内書をご参照の上、所定の容器に必要量を採取してください。
検査項目で採取容器が異なるため、容器の種類を記号で表示しています。記号の詳細は「容器の種類」（P32～40）をご参照ください。
●検体量は単一検査の場合の必要量を記載しています。複数の項目をご依頼される場合は、原則として記載合計量の60～80％を目安にしてください。
なお、検体量は「血清」または「血漿」で表示しています。実際の採血量は、以下の通りです。

◇血清：表示検体量の４～５倍　　◇血漿：表示検体量の３～４倍

●培養を伴う検査の検体採取は、無菌的に行い、所定の滅菌容器にてご提出ください。
●材料採取や保存・提出方法等は、検査項目の備考欄をご参照ください。

3．検体の受け取りについて

●検体の回収は、原則として貴院の指定された場所に伺いますので、依頼書と検体を照合の上、ご提出ください。
●一部の検査（備考欄右下に★または■印の表示項目）につきましては、当センター責任管理の下に、下記会社へ外部委託しています。

★：株式会社 エスアールエル
■：株式会社 シー・アール・シー

4．所要日数について

●検体をお預かりした日を起算日とし、報告書を依頼元に届けるまでの標準的な日数を記載しています。
●依頼検査項目の組み合わせにより、所要日数が長くなることがあります。
●再検査の場合は、さらに若干の日数を要することがあります。

5．検査結果の報告について

●検査結果は、所定の報告書にて直接お届けいたします。

●緊急報告を希望される場合は、検査依頼時に予めチェックをお願いします。
検査結果は、電話またはFAXにてご報告させていただきます。

●基準範囲を大幅に上回る場合や下回る場合は、電話にて速やかにご報告させていただきます。
※P132をご参照ください。

●［Webきゃどらいん］にて検査結果を閲覧できます。詳細はP24～25をご参照ください。

●［中継器システム］を導入すると、電子カルテ上での検査結果閲覧が簡単にできます。詳細はP27をご参照ください。

6．検体の保管について

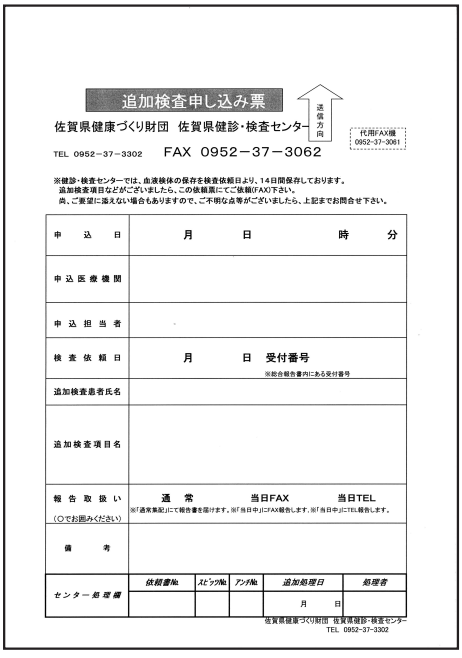
●再検査や追加検査に対応するため、お預かりした検体は検査後、「血清・末梢血・尿・便検査」の検体は２週間、「細菌検査」の検体は１週間、「細胞診検査」の検体は検体受付日の翌日まで保管しています。
ただし、婦人科細胞診検査をLBCで提出された場合のバイアルは６週間保管しています。
なお、保管期間を過ぎた場合は、当センターで処分させていただきます。

●当センターから外部委託する測定項目は、測定委託先の基準に基づいて保管しています。

●追加検査のご依頼は、電話またはFAXにて対応しております。

FAXの場合は、右図の「追加検査申し込み票」をご利用ください。

なお、変性・保存条件等により、やむをえず、検査依頼に応じられない場合がありますので、ご了承ください。



追加検査申し込み票

佐賀県健康づくり財団　佐賀県健診・検査センター

送信方向

代用FAX機 0952-37-3061

TEL 0952－37－3302　FAX 0952－37－3062

※健診・検査センターでは、血液検体の保存を検査依頼日より、14日間保存しております。
追加検査項目などがございましたら、この依頼票にてご依頼(FAX)下さい。
尚、ご質問に答えない場合もありますので、ご不明な点等がございましたら、上記までお問合せ下さい。

申込日	月　日　時　分				
申込医療機関					
申込担当者					
検査依頼日	月　日　受付番号 ※総合報告書内にある受付番号				
追加検査患者氏名					
追加検査項目名					
報告取扱い (○でお囲みください)	通常　当日FAX　当日TEL ※「通常郵記」にて報告書を届けます。※「当日中」にFAX報告します。※「当日中」にTEL報告します。				
備考					
センター処理欄	依頼書No.	スピッツNo.	アンプルNo.	追加処理日	処理者
				月　日	

佐賀県健康づくり財団 佐賀県健診・検査センター
TEL 0952-37-3302

7．検査に関するお問合せについて

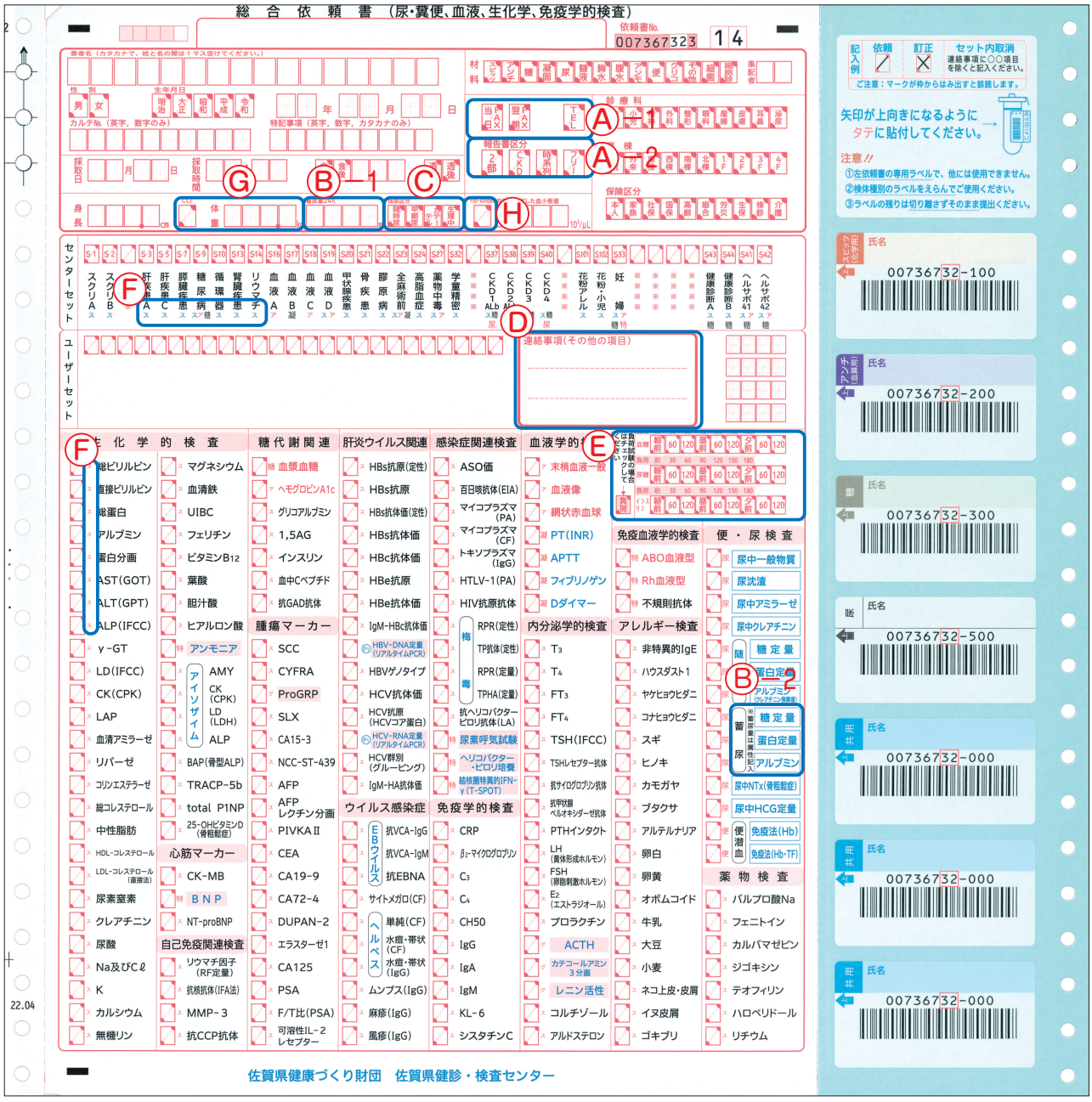
●検査結果や検査内容等についてのお問い合わせ、ご意見につきましては、当センターまでご連絡ください。

☎ 0952-37-3302

総合依頼書の記入要綱

- 黒ボールペンで強く丁寧にご記入ください。
- 患者名はカタカナで、姓と名の間は１マス空けて枠内にご記入ください。濁点、半濁点は１マスとしてご記入ください。例）サガ→サカ゛
- 性別・生年月日・カルテNo.・採取日もご記入ください。
- 特記事項は英字・数字・カタカナのみでご記入ください。
- それぞれに固有の依頼書No.が付けられており、検体ラベルを他の依頼書に代用することはできませんので、ご留意ください。

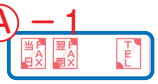
※機械での処理を行うため、折り曲げたり、汚したり、破れたりしないようお願いいたします。



総合依頼書の記入要綱

報告について

Ⓐ－1



緊急報告の区分に「/」を記入頂くと、以下区分に応じて報告いたします。
当日FAX：検査完了後、即時に検査結果をFAXいたします。
翌朝FAX：翌朝７：00より検査結果をFAXいたします。
Ｔ　Ｅ　Ｌ：検査完了後、TELにて検査結果を報告いたします。

報告書区分について

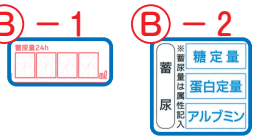
Ⓐ－2



必要時、該当箇所に「/」を記入してください。
（CKDはP23専用報告書参照）

蓄尿－1、2について

Ⓑ－1　Ⓑ－2



Ⓑ－２の検査を依頼される場合は、１日の蓄尿量をⒷ－１へ記入してください。

採尿区分について

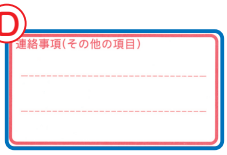
Ⓒ



随時、早朝、カテーテル、生理中の該当箇所に「/」を記入してください。

連絡事項について

Ⓓ



依頼書に記載がない項目や、その他の連絡事項などにご利用ください。

ターゲス・負荷試験について

Ⓔ



・ターゲスの場合：各項目の枠内の時間に応じて「/」を記入してください。
・負荷試験の場合：左枠に「/」を記入後、各項目の枠上の時間に応じて「/」を記入してください。
記入例：血糖負荷前、負荷後60分、負荷後120分の時

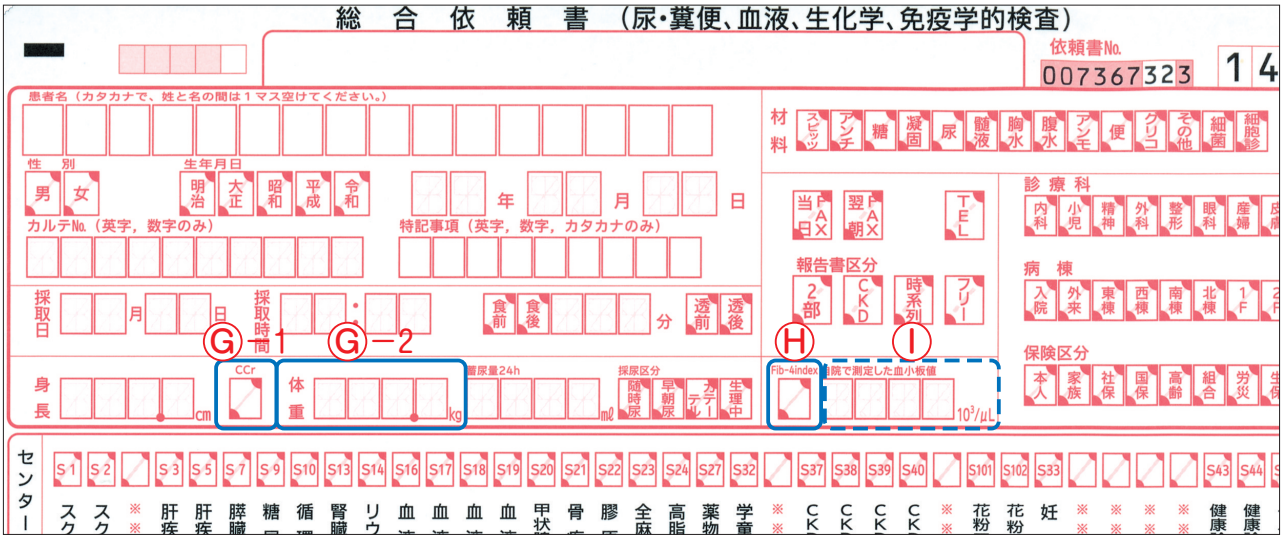
採取容器について





検査セット名称の下部及び各項目の左側に採取容器を示しております。
ス：スピッツ（茶色栓）
ア：アンチクロット（藤色栓　２mL）
糖：血糖（灰色栓）
凝：凝固（黒色栓）
尿：ポリスピッツ
便：専用容器
特：特殊容器（検査項目に応じた専用容器をご使用ください）

総合依頼書の記入要綱

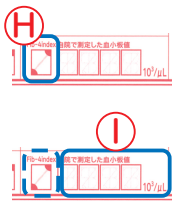


CCrの報告について



CCrの報告をご依頼される場合、Ⓖ－１に「/」を記入してください。
その際、体重をⒼ－２に記入してください。
（詳細な記入法に関しては、P140をご参照ください。）

FiB-4 indexの報告について



FiB-4 indexの報告をご依頼される場合、「/」を記入してください。
（詳細な記入法に関しては、P139をご参照ください。）

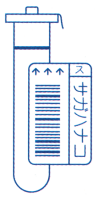
※　センターセット【S-5 肝疾患C】をご依頼の際に、
自院測定の血小板値を①にご記入いただくと
FiB-4 indexをご報告いたします。

ラベルについて

患者名を記入し、採取容器の栓より約１cm下程から矢印が上向きになる様、縦に貼り付けてください。

ラベルの貼り方

矢印が上向きになるように
タテに貼付してください。

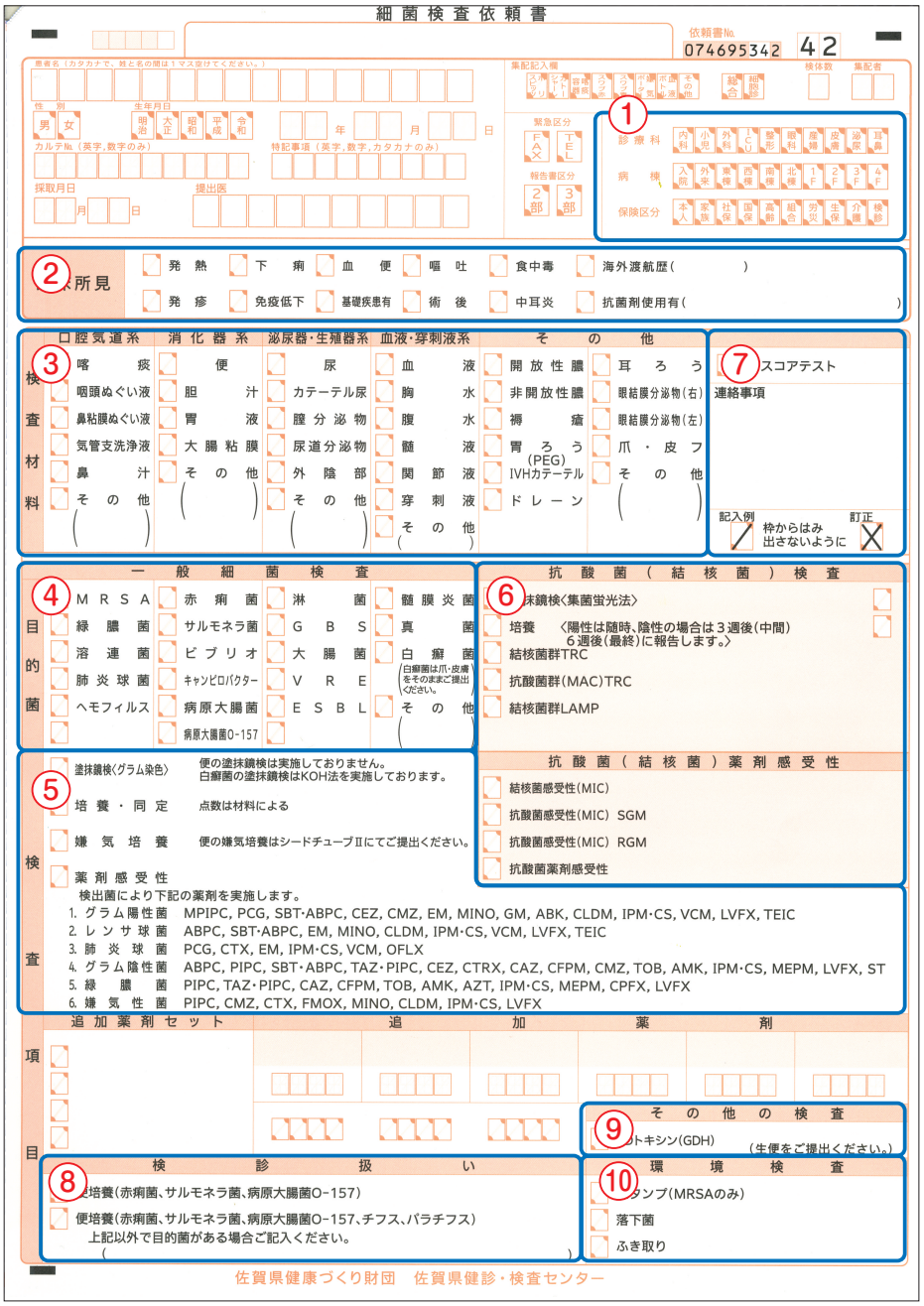


注意!!
①検体ラベルは、他の総合依頼書には使用できません。
②検体種別のラベルを選んでご使用ください。
③ラベルの残りは切り離さず、そのままご提出ください。

細菌依頼書の記入要綱

●黒ボールペンで強く丁寧にご記入ください。
●患者名はカタカナで、姓と名の間は１マス空けて枠内にご記入ください。濁点、半濁点は１マスとしてご記入ください。例）サガ→サガ゛
●性別・生年月日・カルテNoもご記入ください。
●特記事項は英字・数字・カタカナのみでご記入ください。

※１材料につき、１枚の依頼書にご記入ください。
※機械での処理を行いますので、折り曲げたり、汚したり、破れたりしないようお願いいたします。
※ご不明な点などのお問い合せは細菌室へご連絡ください。



①診療科・病棟・保険区分
便の検診培養の時は検診に「／」をご記入ください。

②臨床所見
枠内に「／」をご記入ください。該当項目の記載がない所見は連絡事項にご記入ください。抗菌剤使用有の時、（　）の中に薬剤名をご記入ください。

③検査材料
必ずご記入ください。
記載されていない材料の時は、系列別のその他の枠内に「／」を記入し、（　）の中にご記入ください。

④目的菌
目的菌の指定がある場合は「／」をご記入ください。
該当菌の記載がない場合は、連絡事項欄にご記入ください。

⑤一般細菌検査
枠内に「／」をご記入ください。薬剤感受性検査の時、枠内に「／」をご記入ください。
追加薬剤がある場合はご記入ください。
追加薬剤セットがある場合は前もってご連絡ください。

⑥抗酸菌（結核菌）検査
枠内に「／」をご記入ください。抗酸菌薬剤感受性の時、薬剤名の枠内に「／」をご記入ください。

⑦連絡事項
依頼書に記載されていない項目やその他連絡事項としてご利用ください。

⑧検診扱い
便検診の時はご利用ください。

⑨その他の検査
枠内に「／」をご記入ください。

⑩環境検査
枠内に「／」をご記入ください。

病理組織検査依頼書の記入要綱

●黒ボールペンで強く丁寧にご記入ください。
※**青不可**：「青色」でご記入されますと、機械での読取りができませんのでご遠慮ください。
●患者名は姓と名の間を１マス空けて、カタカナで枠内にご記入ください。濁点、半濁点は１マスとしてご記入ください。例）サガ→サカ゛
●性別・生年月日・カルテNoは必ずご記入ください。

※１材料につき、１枚の依頼書にご記入ください。
※機械での処理を行いますので、折り曲げたり、汚したり、破れたりしないようお願いいたします。
※ご不明な点、お問い合せ等は病理細胞診室へご連絡ください。



①患者属性情報
氏名、性別、生年月日、カルテNo、特記事項、採取日、提出医などご記入ください。診療科、病棟、保険区分は枠内に「／」をご記入ください。

②検査材料
該当項目に「／」をご記入ください。なお、該当項目がない場合は、その他の材料に「／」を記入し、（　）内に採取部位などをできるだけ詳しくご記入ください。

③連絡事項
依頼書に記載されていない項目やその他連絡事項などにご利用ください。

④臨床所見
できるだけ詳しくご記入ください。

⑤過去の組織診・細胞診
過去の検査歴がありましたら、標本番号をご記入ください。

細胞診検査依頼書の記入要綱

●黒ボールペンで強く丁寧にご記入ください。
　※緑不可：「緑色」でご記入されますと、機械での読取りができませんのでご遠慮ください。
●患者名は姓と名の間を１マス空けて、カタカナで枠内にご記入ください。濁点、半濁点は１マスとしてご記入ください。例）サガ→サカ゛
●性別・生年月日・カルテNoは必ずご記入ください。

※１材料につき、１枚の依頼書にご記入ください。
※機械での処理を行いますので、折り曲げたり、汚したり、破れたりしないようお願いいたします。
※ご不明な点、お問い合せ等は病理細胞診室へご連絡ください。



①患者属性情報
氏名、性別、生年月日、カルテNo、特記事項、採取日、提出医などご記入ください。診療科、病棟、保険区分は枠内に「／」をご記入ください。

②検査材料
該当項目に「／」をご記入ください。なお、該当項目がない場合は、その他の材料に「／」を記入し、（　）内に採取部位などをできるだけ詳しくご記入ください。

③婦人科材料に関して
標本作製方法、採取器具の該当項目に「／」をご記入ください。

④臨床所見
できるだけ詳しくご記入ください。

⑤過去の組織診・細胞診
過去の検査歴がありましたら、標本番号をご記入ください。

⑥最終月経・閉経
婦人科材料の際、ご記入ください。

◇　検査項目欄の見方　◇

検体をお預かりした翌日を起算日とし、報告書を依頼元に届けるまでの日数です。
再検査の場合や祝祭日の前後はさらに日数を要することがあります。

例）

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
038	血清鉄（Fe）	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵	1	11 ※3	ニトロソーPSAP法	M：54～200 F：48～154 μg/dL	
039	総鉄結合能（TIBC）					ニトロソーPSAP法（算出法）	M：253～365 F：246～410 μg/dL	TIBC＝血清鉄＋UIBC 血清鉄とUIBCより算出
040	不飽和鉄結合能（UIBC）				11 ※3	ニトロソーPSAP法	M：104～259 F：108～325 μg/dL	

項目コード　略称／別称　検査項目名　M：男性（Male）　F：女性（Female）　検査項目についての注意・参照事項です。

① 採取材料
②採取量(mL)
③ 採取容器

検査材料 Ⓐ
検体量(mL) Ⓑ
保存 Ⓒ

例）

① 血液
② 2
③スピッツ

遠心

血清 Ⓐ
0.2 Ⓑ
冷蔵 Ⓒ

採取する際の、①採取材料、②採取量、③採取容器です。

例）
スピッツ（③）に血液（①）を２mL（②）採取し、ご提出ください。
採取容器は検体採取時及び、提出時に用いる容器を表示しています。
容器名、記号などの詳細についてはP32～P40をご参照ください。
検体の遠心・保存は当センターにて行います。

例）
検査に使用する材料は血清（Ⓐ）約0.2mL（Ⓑ）です。
保存条件（Ⓒ）は検査材料の保存条件です。検査項目によって保存状態が検査結果に影響する場合もありますので、ご注意ください。

保存条件

冷蔵：４℃前後　凍結：－10℃以下　室温：20℃前後
遮光：直射日光、蛍光灯、紫外線を避けて保存

●「採取容器」欄の見方

検体採取及び提出時に用いる容器を表示しています。
容器記号など詳細については、P32～の「容器の種類」をご参照ください。

●基準値・単位の略号

基準値欄の略号
M：男性（Male）　F：女性（Female）

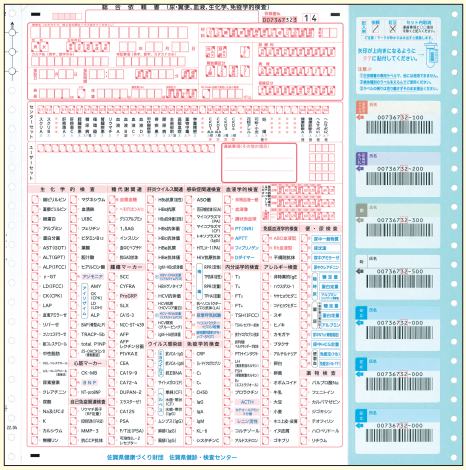
単位の略号

L	liter（=1000mL）	U	unit	pmol	picomole（$=10^{-12}$mol）
dL	deciliter（=0.1L=100mL）	mU	milliunit（=0.001U）	fmol	femtomole（$=10^{-15}$mol）
mL	milliliter（=0.001L）	μU	microunit（$=10^{-6}$U）	M	mol/L
g	gram	IU	International unit	mEq	milliequivalent
mg	milligram（=0.001g）	mIU	milli International unit（=0.001IU）	mOsm	milliosmole
μg	microgram（$=10^{-6}$g）	mmol	millimole（=0.001mol）	cpm	count per minutes
ng	nanogram（$=10^{-9}$g）	μmol	micromole（$=10^{-6}$mol）	%	percent（=1/100）
pg	picogram（$=10^{-12}$g）	nmol	nanomole（$=10^{-9}$mol）	‰	permill（=1/1000）

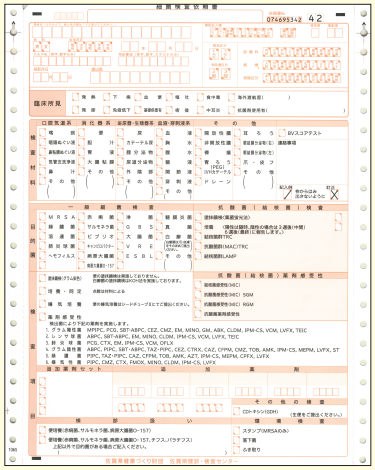
1．検査依頼書

※複写の一部をご依頼元控えとし、併せて「受領書」とさせていただきますのでご了承ください。
※検体ラベルに患者名・採取日時・材料名等をご記入の上、容器にお貼りください。

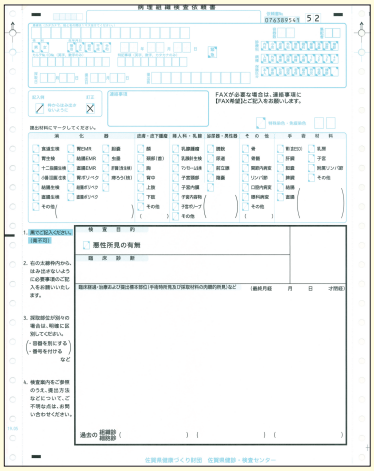
総合依頼書



細菌検査依頼書



病理組織検査依頼書



細胞診検査依頼書



交差適合試験依頼書／報告書


交差適合試験依頼書

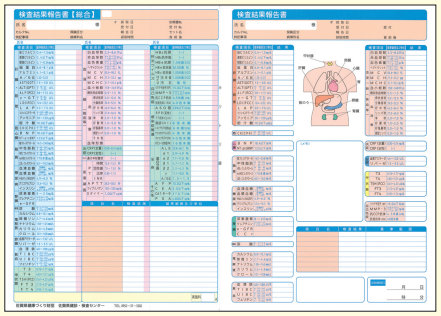
検査報告書

2．検査結果報告書

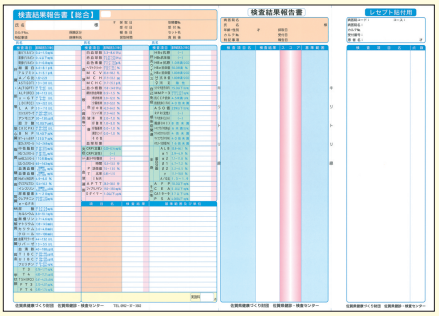
※検査結果は、以下の汎用報告書、専用報告書にて報告いたします。
　汎用報告書は、A版またはB版サイズのご利用が可能です。

汎用報告書

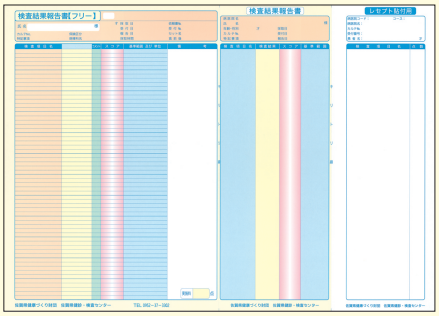
総合（シェーマ付）



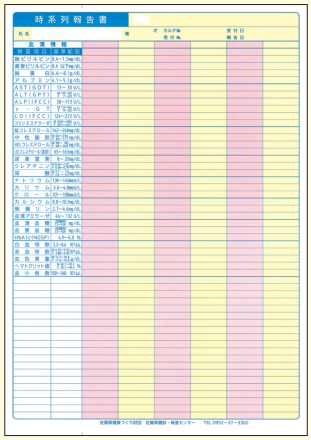
総合（括り）



総合（フリー）



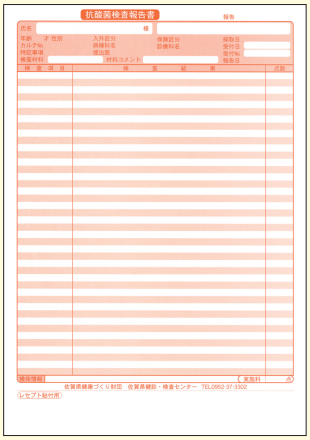
時系列



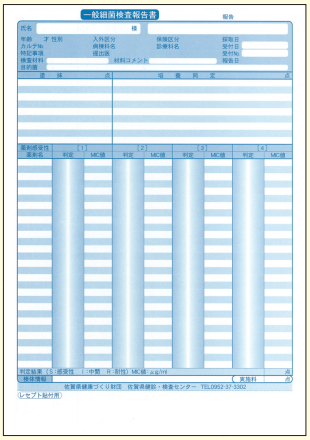
未完了



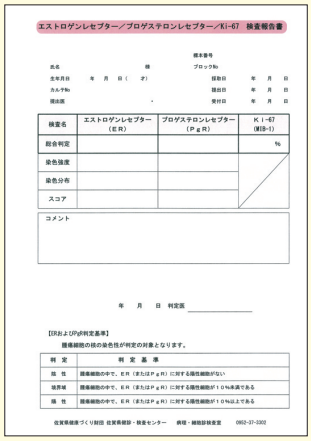
抗酸菌検査



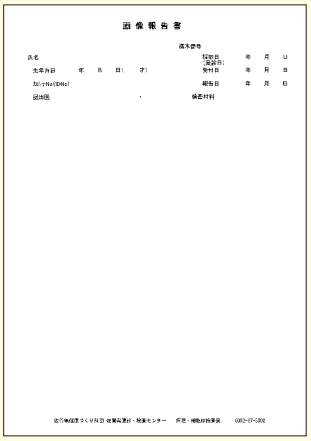
一般細菌検査



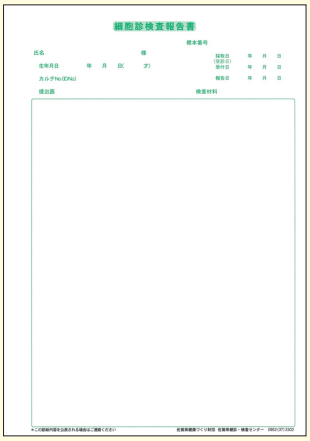
ER/PgR/Ki-67検査



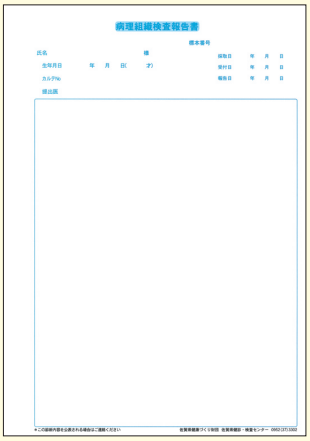
画像



細胞診検査

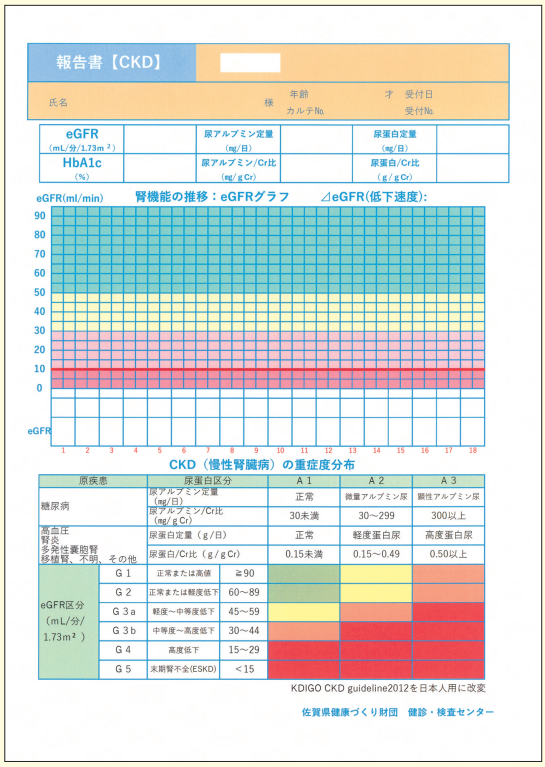


病理組織検査

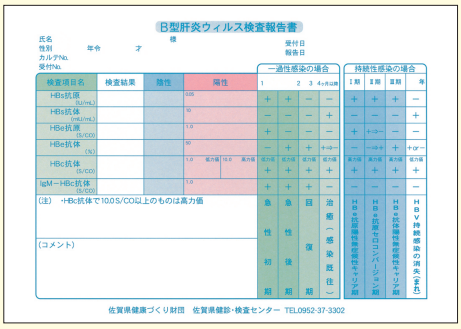


専用報告書

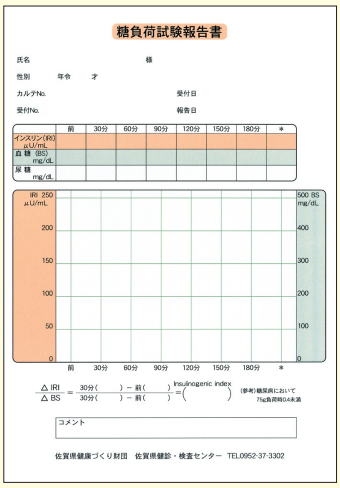
CKD報告書



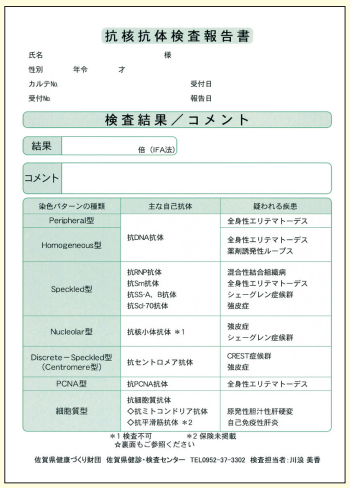
B型肝炎ウイルス



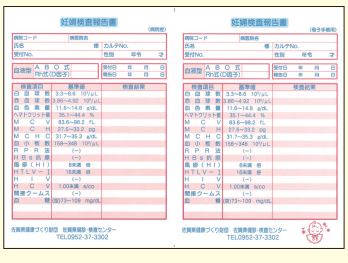
糖負荷試験



抗核抗体



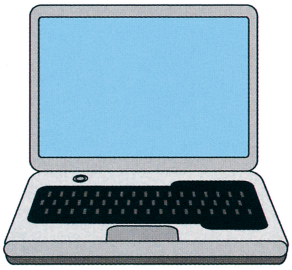
妊婦検査



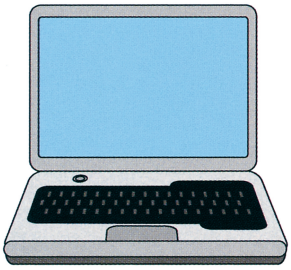
血液型



Webきゃどらいん



Webブラウザがあれば、いつでも利用可能です



「Webきゃどらいん」

1．検査結果閲覧

●インターネット環境があればＰＣ（Windows・Mac）を選ばず、迅速な検査結果の閲覧が可能です。定時に配送される報告書を待たずに、検査結果の問い合わせや検査履歴の閲覧が行えます。ただし、病理組織検査・細胞診検査の検査結果は閲覧出来ません。

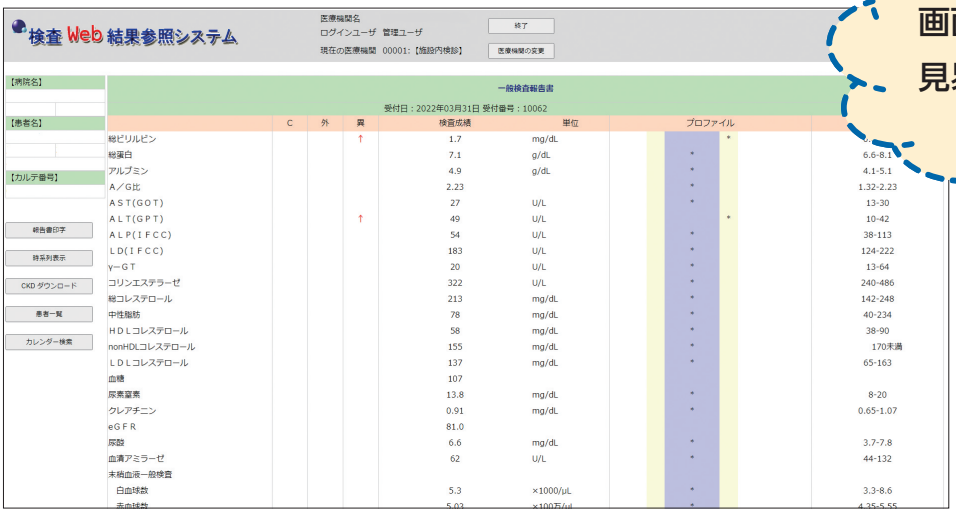
●患者への説明に便利な折れ線グラフや前回値（時系列）一覧の表示・印刷機能も充実。
※カラープリンター使用であれば、折れ線グラフはカラー印刷可能です。

●簡易報告書の印刷機能。
※従来どおり、正式検査報告書もお届けいたします。

2．その他

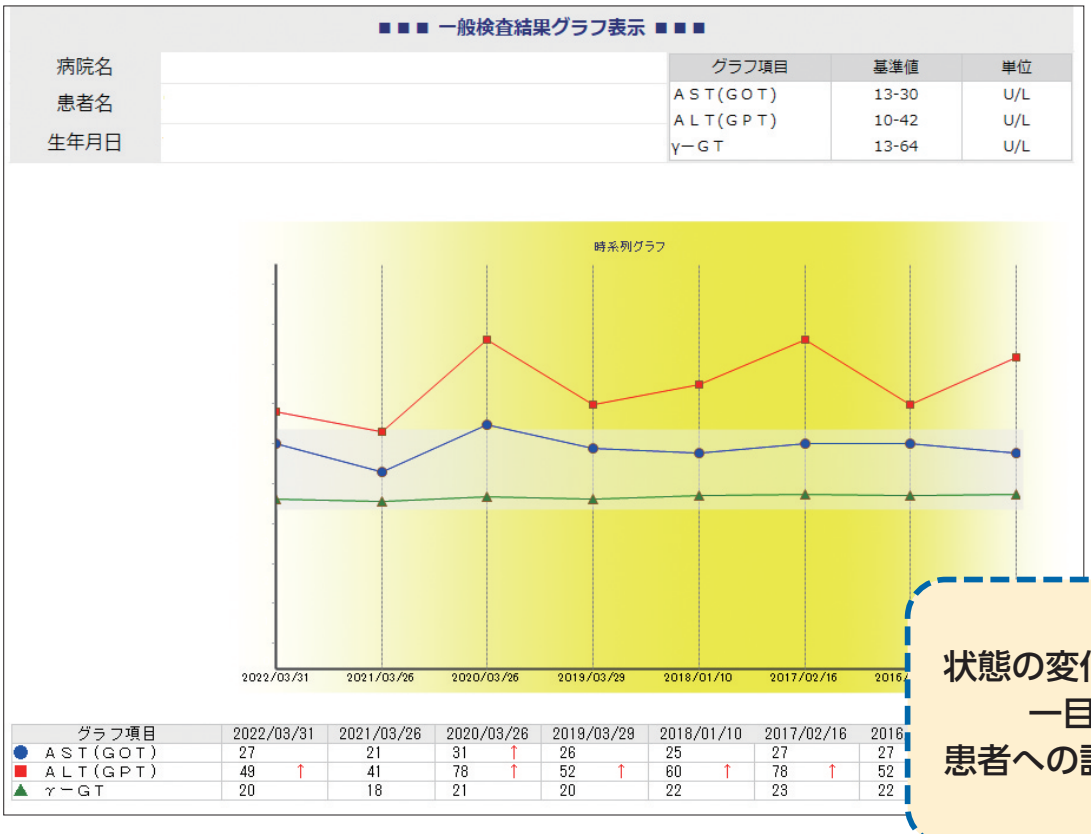
●検査データを一元管理して、スマートな業務が可能です。

検査結果の問い合わせ画面（イメージ）



画面構成や色使いが
見易いと評判です！

前回値グラフ表示画面（イメージ）



状態の変化が
一目瞭然！！
患者への説明に便利

結果時系列表示画面（イメージ）



臨 床 検 査 時 系 列 報 告 書

［病 院 名］　　［性 ・ 年］
［患 者 名］　　［生年月日］　　No. 1 / 2

		受付日	2022/03/31	2021/03/26	2020/03/26	2019/03/29	2018/01/10	2017/02/16	2016/02/16	2015/03/06
		受付番号	10062	10056	10033	10021	10013	10030	10043	10037
		カルテNO	0000000000	0000000000	0000000000	0000000000	0000000000	0000000000	0000000000	0000000000
検査項目名	単位	基準値	検査成績	検査成績	検査成績	検査成績	検査成績	検査成績	検査成績	検査成績
総ビリルビン	mg/dL	0.4-1.5	1.7 ↑	1.6 ↑	0.8	1.4	0.5	0.6	1.5 ↑	0.7
総蛋白	g/dL	6.6-8.1	7.1	7.7	7.4	7.3	7.2	7.1	7.5	7.2
アルブミン	g/dL	4.1-5.1	4.9	5.2 ↑	5.1	4.9	4.9	4.8	5.3 ↑	4.8
A／G比		1.32-2.23	2.23	2.08	2.22	2.04	2.13	2.09	2.41	2.00
TTT	単位	4.0 以下				1.0	1.1	2.6	1.2	1.1
ZTT	単位	12.9 以下				5.3	4.9	7.4	5.7	5.7
AST(GOT)	U/L	13-30	27	21	31 ↑	26	25	27	27	25
ALT(GPT)	U/L	10-42	49 ↑	41	78 ↑	52 ↑	60 ↑	78 ↑	52 ↑	71 ↑
ALP	U/L	106-322		195	182	170	192	198	199	228
ALP(IFCC)	U/L	38-113	54	67						
LD	U/L	124-222		188	210	251 ↑	210	194	223	197
LD(IFCC)	U/L	124-222	183	189						

・・・・医療現場のIT化推進に「Webきゃどらいん」の利用を是非ご検討ください・・・・

ご連絡いただければ、デモンストレーションや説明に伺います。お気軽にお問い合わせください。

電子カルテとのデータ連携の２つのメリット

1 電子カルテ上での検査結果の閲覧が可能に！

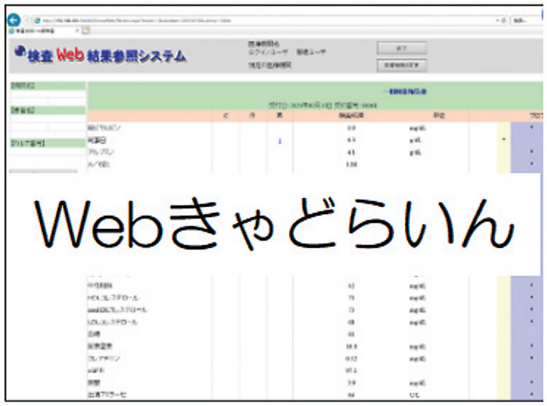
データ連携をすることにより、現在利用されている電子カルテ上で血液検査の結果閲覧を行えるようになります。なお、データ連携するには電子媒体（USBメモリ）、オンライン（Webきゃどらいん）で毎回取り込みをしていただく仕組みです。

数多くの電子カルテ会社と連携実績がありますのでご安心ください。

2 「Webきゃどらいん」をご使用いただくともっと便利に‼

結果データは電子媒体（USBメモリ等）のお届け以外にも「Webきゃどらいん」からのダウンロードによってデータ連携を行うことができます。定期集配にてUSB等のお届けを待つ必要がないため便利です！





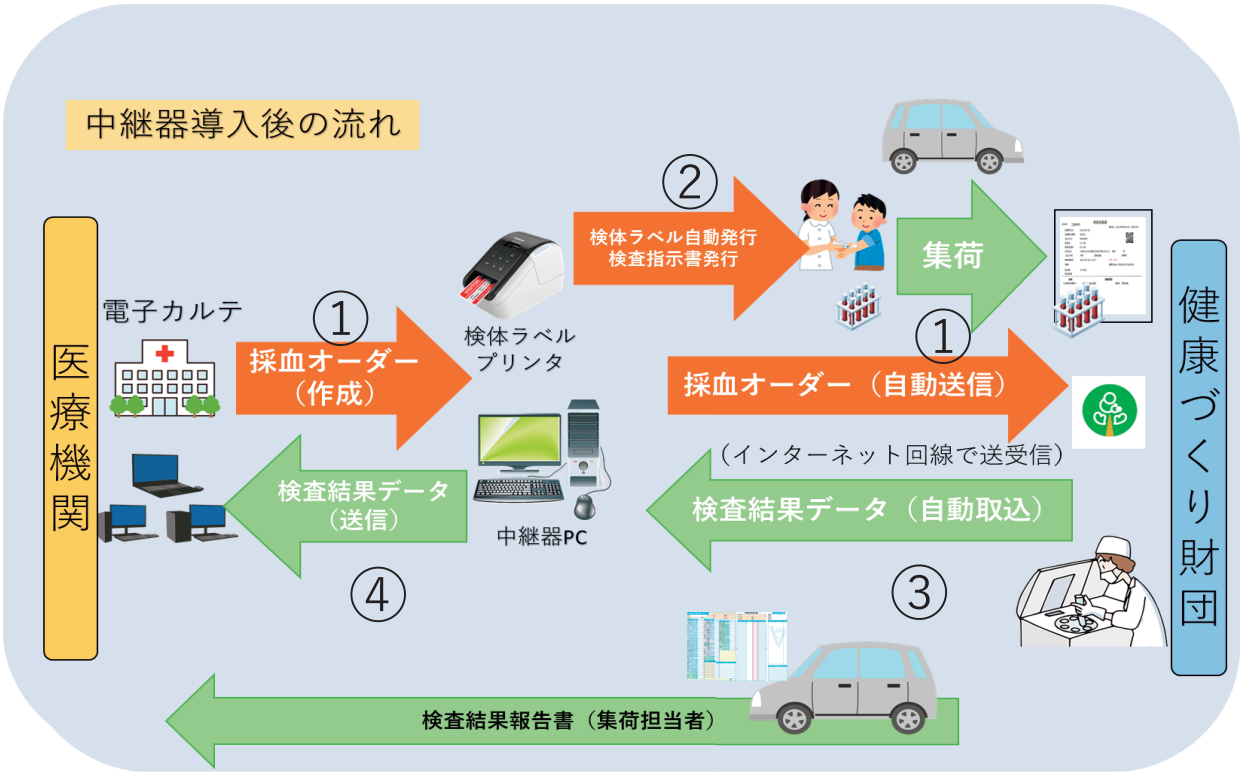
集配便で

インターネットで



お使いの電子カルテで
検査データが閲覧できます!!

中継器システムを導入すれば検査（採血）作業が確実で効率的に行えます



①電子カルテより採血オーダーを作成し、自動送信します。

②中継器PCを経由して自動で検体ラベルと検査指示書を出力いたします。

③検査結果が完了した時点で、データを中継器へ自動送信します。

④院内の電子カルテへの取り込み（血算・尿検査等）が可能となります。

1 電子カルテ上での検査結果閲覧がかんたんに出来ます

中継器システムを導入いただくと、電子カルテのデータを活用し検査依頼のオーダー及び血液検査結果の閲覧が行えるようになります。

2 面倒な検査依頼書の手書き作業がなくなります

検査依頼書、検体ラベルが中継器システムから出力されるため、検査依頼書の属性や検査マークの記入及び検体ラベルへの患者名の記入の手間がなくなります。

3 検査結果の取り込み自動化

インターネットを介して結果データが自動で取り込めます。USBメモリ等の記録媒体やWebきゃどらいんからのダウンロードを省略できます。

ご連絡いただければ、ご説明に伺います。お気軽にお問合せください。

臨床検査渉外課：0952-37-3302

センターセット検査項目一覧表

令和８年６月１日

セット番号＆セット名	S－1 スクリーニング〈A〉	S－2 スクリーニング〈B〉	S－3 肝疾患〈A〉（急性肝炎 ウイルス性肝炎）	S－5 肝疾患〈C〉（経過観察）	S－7 膵臓疾患	S－9 糖尿病	S－10 循環器（高血圧・動脈硬化）	S－13 腎臓疾患	S－14 リウマチ（関節痛）
採血管種類	スピッツ(茶)	スピッツ(茶)	スピッツ(茶)	スピッツ(茶)	スピッツ(茶)	スピッツ(茶) アンチ(藤) 血糖(灰)	スピッツ(茶)	スピッツ(茶)	スピッツ(茶)
セット項目	総ビリルビン 総蛋白 ＡＳＴ(ＧＯＴ) ＡＬＴ(ＧＰＴ) ＡＬＰ(ＩＦＣＣ) ＬＤ(ＩＦＣＣ) γ－ＧＴ 血清アミラーゼ 総コレステロール 中性脂肪 HDL−コレステロール LDL−コレステロール 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 ＮａとＣｌ Ｋ (10項目以上103点) ＣＲＰ 16 nonHDL−コレステロール ｅＧＦＲ ★血清血糖	総ビリルビン 総蛋白 アルブミン ＡＳＴ(ＧＯＴ) ＡＬＴ(ＧＰＴ) ＡＬＰ(ＩＦＣＣ) ＬＤ(ＩＦＣＣ) γ－ＧＴ 血清アミラーゼ 総コレステロール 中性脂肪 HDL−コレステロール LDL−コレステロール 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 ＮａとＣｌ Ｋ (10項目以上103点) 間接ビリルビン Ａ／Ｇ比 nonHDL−コレステロール ｅＧＦＲ ★直接ビリルビン ★コリンエステラーゼ ★ＣＫ(ＣＰＫ) ★カルシウム ★無機リン ★血清血糖	総ビリルビン 直接ビリルビン 総蛋白 ＡＳＴ(ＧＯＴ) ＡＬＴ(ＧＰＴ) ＡＬＰ(ＩＦＣＣ) ＬＤ(ＩＦＣＣ) γ－ＧＴ コリンエステラーゼ 総コレステロール (10項目以上103点) ＣＲＰ 16 HBs抗原(定性) 29 HCV抗体価 102 IgM−HA抗体 146 間接ビリルビン ★血清血糖	総ビリルビン 直接ビリルビン 総蛋白 アルブミン ＡＳＴ(ＧＯＴ) ＡＬＴ(ＧＰＴ) ＡＬＰ(ＩＦＣＣ) ＬＤ(ＩＦＣＣ) γ－ＧＴ コリンエステラーゼ 総コレステロール (10項目以上103点) 間接ビリルビン Ａ／Ｇ比 ◆Ｆｉｂ−4index ★血清血糖	総ビリルビン 総蛋白 ＡＳＴ(ＧＯＴ) ＡＬＴ(ＧＰＴ) ＡＬＰ(ＩＦＣＣ) ＬＤ(ＩＦＣＣ) γ－ＧＴ 総コレステロール 尿素窒素 血清アミラーゼ リパーゼ (10項目以上103点) ★血清血糖	総蛋白 アルブミン 総コレステロール 中性脂肪 HDL−コレステロール LDL−コレステロール 血糖 (５～７項目93点) HbA1c(NGSP) 49 Ａ／Ｇ比 nonHDL−コレステロール	総蛋白 ＡＳＴ(ＧＯＴ) ＡＬＴ(ＧＰＴ) ＬＤ(ＩＦＣＣ) 総コレステロール 中性脂肪 HDL−コレステロール LDL−コレステロール 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 ＮａとＣｌ Ｋ カルシウム (10項目以上103点) 間接ビリルビン Ａ／Ｇ比 nonHDL−コレステロール ｅＧＦＲ ★総ビリルビン ★直接ビリルビン ★アルブミン ★ALP(IFCC) ★γ－ＧＴ ★コリンエステラーゼ ★ＣＫ(ＣＰＫ) ★血清アミラーゼ ★無機リン ★血清血糖	総蛋白 アルブミン 総コレステロール 中性脂肪 クレアチニン 尿素窒素 尿酸 ＮａとＣｌ Ｋ カルシウム 無機リン (10項目以上103点) Ａ／Ｇ比 ｅＧＦＲ ★血清血糖	総蛋白 アルブミン ALP(IFCC) ＬＤ(ＩＦＣＣ) 尿酸 カルシウム 蛋白分画 (５～７項目93点) ＣＲＰ 16 リウマチ因子 30 Ａ／Ｇ比
実施料(点)	119	103	396	103	103	142	103	103	139
判断料	④+⑥	④	④+⑥	④	④	③+④	④	④	④+⑥
(点)	288	144	288	144	144	269	144	144	288

◆Ｓ－５をご依頼の際に、自院測定の血小板値を記入されれば、Fib-4indexを報告します。

セット番号＆セット名	S－16 血液〈A〉	S－17 血液〈B〉（凝固）	S－18 血液〈C〉	S－19 血液〈D〉（貧血）	S－20 甲状腺疾患	S－21 骨疾患	S－22 膠原病	S－23 全身麻酔術前セット	S－24 高脂血症
採血管種類	アンチ(藤)	凝固(黒)	アンチ(藤)	スピッツ(茶) アンチ(藤)	スピッツ(茶)	スピッツ(茶)	スピッツ(茶)	スピッツ(茶) アンチ(藤) 凝固(黒)	スピッツ(茶)
セット項目	末梢血液一般 21	ＰＴ 18 ＡＰＴＴ 29 フィブリノゲン 23	末梢血液一般 21 血液像(機械法) 15	末梢血液一般 21 血液像(機械法) 15 血清鉄 11 ＵＩＢＣ 11 フェリチン 102 ＴＩＢＣ	総蛋白 ＡＳＴ(ＧＯＴ) ＡＬＴ(ＧＰＴ) ＡＬＰ(ＩＦＣＣ) ＬＤ(ＩＦＣＣ) ＣＫ(ＣＰＫ) 総コレステロール 中性脂肪 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 ＮａとＣｌ Ｋ カルシウム 無機リン (10項目以上103点) ＦＴ４ 121 ＴＳＨ 98 ｅＧＦＲ	総蛋白 ALP(IFCC) カルシウム 無機リン	総蛋白 ＡＳＴ(ＧＯＴ) ＡＬＴ(ＧＰＴ) ＬＤ(ＩＦＣＣ) ＣＫ(ＣＰＫ) 総コレステロール 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 ＮａとＣｌ Ｋ 蛋白分画 (10項目以上103点) ＣＲＰ 16 リウマチ因子(RF) 30 抗核抗体(ANA) 99 ｅＧＦＲ	総ビリルビン 総蛋白 アルブミン ＡＳＴ(ＧＯＴ) ＡＬＴ(ＧＰＴ) ＡＬＰ(ＩＦＣＣ) ＬＤ(ＩＦＣＣ) γ－ＧＴ コリンエステラーゼ ＣＫ(ＣＰＫ) 血清アミラーゼ 総コレステロール 中性脂肪 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 ＮａとＣｌ Ｋ カルシウム 血清鉄 (10項目以上103点) ＣＲＰ 16 ＨＢｓ抗原(定性) 29 ＨＣＶ抗体価 102 ＴＰ抗体定性 32 末梢血液一般 21 血液像(機械法) 15 ＰＴ 18 ＡＰＴＴ 29 フィブリノゲン 23 Ａ／Ｇ比 ｅＧＦＲ ★血清血糖	総コレステロール 中性脂肪 HDL−コレステロール LDL−コレステロール nonHDL−コレステロール ★血清血糖
実施料(点)	21	70	36	160	322	50	248	※388	46
判断料	③	③	③	③+④	④+⑤	④	④+⑥	手術前医学管理料	④
(点)	125	125	125	269	288	144	288	※	144

★印は、報告項目です。

センターセット検査項目一覧表

公益財団法人
佐賀県健康づくり財団
佐賀県健診・検査センター
〒840-0054 佐賀市水ヶ江１丁目12番10号
TEL/0952(37)3302　FAX/0952(37)3061

セット番号＆セット名	S－27 薬物中毒	S－32 学童精密	S－33 妊婦	S－37 CKD1 ALB	S－38 CKD2 ALB	S－39 CKD3	S－40 CKD4	S－101 アレルギー	S－102 花粉アトピー鑑別
採血管種類	スピッツ(茶) アンチ(藤)	スピッツ(茶)	スピッツ(茶) アンチ(藤) 血糖(灰) 特別(黄)	スピッツ(茶) 血糖(灰) 尿	スピッツ(茶) 血糖(灰) 尿	スピッツ(茶) 血糖(灰) 尿	スピッツ(茶) 血糖(灰) 尿	スピッツ(茶)	スピッツ(茶)
セット項目	総ビリルビン 総蛋白 アルブミン AST(GOT) ALT(GPT) ALP(IFCC) LD(IFCC) γ－GT コリンエステラーゼ 総コレステロール 中性脂肪 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 Na と Cl K (10項目以上103点) 末梢血液一般 21 A／G比 eGFR	総蛋白 アルブミン 総コレステロール 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 (5～7項目93点) IgA 38 C3 70 A／G比	HBs抗原(定性) HCV抗体価 HIV抗原抗体 RPR 風疹抗体(HI) HTLV－1 血液型(ABO式) 血液型(Rh式) 間接クームス 血糖 末梢血液一般	総蛋白 アルブミン 総コレステロール 中性脂肪 HDL－コレステロール LDL－コレステロール 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 Na と Cl K 血糖 (10項目以上103点) 尿中ALB部分尿 99 A／G比 nonHDL－コレステロール eGFR	総蛋白 AST(GOT) ALT(GPT) LD(IFCC) 総コレステロール 中性脂肪 HDL－コレステロール LDL－コレステロール 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 Na と Cl K カルシウム 血糖 (10項目以上103点) 尿中ALB部分尿 99 間接ビリルビン A／G比 nonHDL－コレステロール eGFR ★総ビリルビン ★直接ビリルビン ★アルブミン ★ALP(IFCC) ★γ－GT ★コリンエステラーゼ ★CK(CPK) ★血清アミラーゼ ★無機リン	総蛋白 アルブミン 総コレステロール 中性脂肪 HDL－コレステロール LDL－コレステロール 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 Na と Cl K 血糖 (10項目以上103点) 尿蛋白定量 7 A／G比 nonHDL－コレステロール eGFR ★尿蛋白/クレアチニン比 ★推定1日食塩摂取量 ★尿ナトリウム ★尿クレアチニン	総蛋白 AST(GOT) ALT(GPT) LD(IFCC) 総コレステロール 中性脂肪 HDL－コレステロール LDL－コレステロール 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 Na と Cl K カルシウム 血糖 (10項目以上103点) 尿蛋白定量 7 間接ビリルビン A／G比 nonHDL－コレステロール eGFR ★尿蛋白/クレアチニン比 ★推定1日食塩摂取量 ★総ビリルビン ★直接ビリルビン ★アルブミン ★ALP(IFCC) ★γ－GT ★コリンエステラーゼ ★CK(CPK) ★血清アミラーゼ ★無機リン ★尿ナトリウム ★尿クレアチニン	特異的IgE ・スギ ・カモガヤ ・ハウスダスト1 ・ヤケヒョウヒダニ ・ネコのフケ ・イヌのフケ (1アレルゲン110点)	特異的IgE ・スギ ・カモガヤ ・ハウスダスト1 ・ヤケヒョウヒダニ ・食物マルチ [卵白、牛乳、小麦 ピーナッツ、大豆 ・動物上皮マルチ [ネコのフケ イヌのフケ モルモット上皮 ラット マウス ・カビマルチ [ペニシリウム クラドスポリウム アスペルギルス カンジダ アルテルナリア ヘルミントスポリウム
実施料(点)	124	201	※	202	202	110	110	660	770
判断料(点)	③+④ 269	④+⑥ 288	※③+④+⑥ ※413	①+④ 178	①+④ 178	①+④ 178	①+④ 178	⑥ 144	⑥ 144

セット番号＆セット名	S－43 健康診断〈A〉	S－44 健康診断〈B〉	S－41 ヘルスサポート41	S－42 ヘルスサポート42
採血管種類	スピッツ(茶) 血糖(灰)	スピッツ(茶) 血糖(灰)	スピッツ(茶) アンチ(藤) 血糖(灰)	スピッツ(茶) アンチ(藤) 血糖(灰)
セット項目	総ビリルビン 直接ビリルビン 総蛋白 アルブミン AST(GOT) ALT(GPT) ALP(IFCC) LD(IFCC) γ－GT コリンエステラーゼ 総コレステロール 中性脂肪 HDL－コレステロール LDL－コレステロール 血清アミラーゼ 尿素窒素 クレアチニン 尿酸 カルシウム 血糖 (10項目以上103点) 間接ビリルビン A／G比 nonHDL－コレステロール eGFR	AST(GOT) ALT(GPT) γ－GT 中性脂肪 HDL－コレステロール LDL－コレステロール 血糖 (5～7項目93点)	総ビリルビン 直接ビリルビン 総蛋白 アルブミン ALP(IFCC) LD(IFCC) コリンエステラーゼ 血清アミラーゼ 総コレステロール 尿素窒素 Na と Cl K カルシウム (10項目以上103点) 末梢血液一般 21 間接ビリルビン A／G比 nonHDL－コレステロール eGFR ★AST(GOT) ★ALT(GPT) ★γ－GT ★CK(CPK) ★中性脂肪 ★HDL－コレステロール ★LDL－コレステロール ★クレアチニン ★尿酸 ★無機リン ★血糖 ★HbA1c(NGSP)	総ビリルビン 総蛋白 アルブミン LD(IFCC) コリンエステラーゼ 総コレステロール 尿素窒素 Na と Cl K カルシウム (10項目以上103点) 末梢血液一般 21 間接ビリルビン A／G比 nonHDL－コレステロール eGFR ★直接ビリルビン ★AST(GOT) ★ALT(GPT) ★ALP(IFCC) ★γ－GT ★CK(CPK) ★血清アミラーゼ ★中性脂肪 ★HDL－コレステロール ★LDL－コレステロール ★クレアチニン ★尿酸 ★無機リン ★血糖 ★HbA1c(NGSP)
実施料(点)	103	93	124	124
判断料(点)	④ 144	④ 144	③+④ 269	③+④ 269

※印を保険診療の対象にする場合は、項目、病名を考慮して下さい。

検体検査判断料	
①尿・糞便検査	34点
②遺伝子関連検査・染色体検査	100点
③血液学的検査	125点
④生化学的検査(Ⅰ)	144点
⑤生化学的検査(Ⅱ)	144点
⑥免疫学的検査	144点
⑦微生物学的検査	150点
⑧病理学的検査	130点

生化学的検査(Ⅰ)包括点数	
㋑ 5項目以上7項目以下	93点
㋺ 8項目又は9項目	99点
㋩ 10項目以上	103点

内容
・スピッツ（茶色栓９mL用）
・アンチ（藤色栓２mL用）
・凝固（黒色栓２mL用）
・血糖（灰色栓２mL用）
・特別（黄色栓５mL用）
・尿（黄色栓滅菌ポリスピッツ）

検体検査料について

検体検査料は、実施料と判断料とに区分されております。

・検体検査判断料は、以下の通りです。

尿・糞便等検査判断料	（月１回 34点）……※１
遺伝子関連・染色体検査判断料	（月１回100点）……※２
血液学的検査判断料	（月１回125点）……※３
生化学的検査（Ⅰ）判断料	（月１回144点）……※４
生化学的検査（Ⅱ）判断料	（月１回144点）……※５
免疫学的検査判断料	（月１回144点）……※６
微生物学的検査判断料	（月１回150点）……※７
病理判断料	（月１回130点）……※８

●包括点数について

現在、次のような点数の包括化算定が実施されております。

◆血液化学検査

検査項目

- 総ビリルビン
- 直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン
- 総蛋白
- アルブミン（BCP改良法）
- 尿素窒素
- クレアチニン
- 尿酸
- アルカリホスファターゼ（ALP）
- コリンエステラーゼ（ChE）
- γ-グルタミルトランスフェラーゼ（γ-GT）
- 中性脂肪
- ナトリウム及びクロール
- カリウム
- カルシウム
- マグネシウム
- クレアチン
- グルコース
- 乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）
- アミラーゼ
- ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）
- クレアチンキナーゼ（CK）
- アルドラーゼ
- 遊離コレステロール
- 鉄（Fe）
- 血中ケトン体・糖・クロール検査（試験紙法・アンプル法・固定化酵素電極によるもの）
- 不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）
- 総鉄結合能（TIBC）（比色法）
- リン脂質
- HDL-コレステロール
- 無機リン及びリン酸
- 総コレステロール
- アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）
- アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）
- LDL-コレステロール
- 蛋白分画
- 銅（Cu）
- リパーゼ
- イオン化カルシウム
- マンガン（Mn）

5 項目以上 7 項目以下……93点　　8 項目又は 9 項目……99点　　10項目以上……103点

入院中の患者について算定した場合は、入院時初回加算として、初回に限り20点を所定点数に加算する。

◆出血・凝固検査

検査項目

- Dダイマー定性
- プラスミンインヒビター（アンチプラスミン）
- Dダイマー半定量
- von Willebrand因子（VWF）活性
- Dダイマー
- α2-マクログロブリン
- PIVKA-Ⅱ
- 凝固因子インヒビター
- von Willebrand因子（VWF）抗原
- プラスミン・プラスミンインヒビター複合体（PIC）
- プロテインS抗原
- プロテインS活性
- β-トロンボグロブリン（β-TG）
- トロンビン・アンチトロンビン複合体（TAT）
- 血小板第４因子（PF_4）
- プロトロンビンフラグメントF1＋2
- トロンボモジュリン
- フィブリンモノマー複合体
- 凝固因子（第Ⅱ因子，第Ⅴ因子，第Ⅶ因子，第Ⅷ因子，第Ⅸ因子，第Ⅹ因子，第Ⅺ因子，第Ⅻ因子，第XIII因子）
- プロテインC抗原
- プロテインC活性
- tPA・PAI-1複合体

3 項目又は 4 項目……530点　　5 項目以上……722点

◆自己抗体検査

検査項目

- 抗Jo-１抗体定性
- 抗Jo-１抗体半定量
- 抗Jo-１抗体定量
- 抗サイログロブリン抗体
- 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
- 抗RNP抗体定性
- 抗RNP抗体半定量
- 抗RNP抗体定量
- 抗Sm抗体定性
- 抗Sm抗体半定量
- 抗Sm抗体定量
- C1q結合免疫複合体
- 抗Scl-70抗体定性
- 抗Scl-70抗体半定量
- 抗Scl-70抗体定量
- 抗SS-B/La抗体定性
- 抗SS-B/La抗体半定量
- 抗SS-B/La抗体定量
- 抗SS-A/Ro抗体定性
- 抗SS-A/Ro抗体半定量
- 抗SS-A/Ro抗体定量
- 抗RNAポリメラーゼⅢ抗体
- 抗ARS抗体
- 抗MDA5抗体
- 抗TIF1-γ抗体
- 抗Mi-2抗体

2 項目……320点　　3 項目以上……490点

検体検査料について

◆腫瘍マーカー
検査項目

- 癌胎児性抗原（CEA）
- α-フェトプロテイン（AFP）
- 扁平上皮癌関連抗原（SCC抗原）
- 組織ポリペプタイド抗原（TPA）
- NCC-ST-439
- CA15-3
- DUPAN-2
- エラスターゼ1
- 前立腺特異抗原（PSA）
- CA19-9
- PIVKA-Ⅱ半定量
- PIVKA-Ⅱ定量
- CA125
- 神経特異エノラーゼ（NSE）
- 核マトリックスプロテイン22（NMP22）定量（尿）
- 核マトリックスプロテイン22（NMP22）定性（尿）
- SPan-1
- シアリルLe^{x}-i抗原（SLX）
- CA72-4
- シアリルTn抗原（STN）
- 塩基性フェトプロテイン（BFP）
- 遊離型PSA比（PSA F/T比）
- BCA225
- サイトケラチン19フラグメント（シフラ）
- サイトケラチン8・18（尿）
- シアリルLe^{x}抗原（CSLEX）
- 抗p53抗体
- Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ⅠCTP）
- ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）
- CA54/61
- CA602
- α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）
- 組織因子経路インヒビター2（TFPI2）
- γ-セミノプロテイン（γ-Sm）
- ヒト精巣上体蛋白4（HE4）
- 可溶性メソテリン関連ペプチド
- S2、3 PSA%
- プロステートヘルスインデックス（phi）
- 癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液）
- 癌胎児性抗原（CEA）半定量（乳頭分泌液）
- HER2蛋白
- アポリポ蛋白A2（APOA2）アイソフォーム
- 可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）

2項目……230点　3項目……290点　4項目以上……385点

◆肝炎ウイルス関連検査
検査項目

- HBs抗原
- HBs抗体
- HBe抗原
- HBe抗体
- HCV抗体定性・定量
- HCVコア蛋白
- HCV抗体・HCVコア蛋白同時検出定性
- HBc抗体半定量・定量
- HCVコア抗体
- HA-IgM抗体
- HA抗体
- HBc-IgM抗体
- HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性
- HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量
- HE-IgA抗体定性
- HCV血清群別判定
- HBVコア関連抗原（HBcrAg）
- デルタ肝炎ウイルス抗体
- HCV特異抗体価
- HBVジェノタイプ判定

3項目……290点　4項目……360点　5項目以上……425点

◆内分泌学的検査
検査項目

- 卵胞刺激ホルモン（FSH）
- C-ペプチド（CPR）
- 黄体形成ホルモン（LH）
- テストステロン
- 遊離サイロキシン（FT_4）
- 遊離トリヨードサイロニン（FT_3）
- コルチゾール
- アルドステロン
- サイロキシン結合グロブリン（TBG）
- サイログロブリン
- ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）
- 脳性Na利尿ペプチド（BNP）
- カルシトニン
- 抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）
- ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量
- ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）半定量
- 脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）
- サイロキシン結合能（TBC）
- プロゲステロン
- グルカゴン
- 低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）
- Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）
- 酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）
- オステオカルシン（OC）
- 遊離テストステロン
- 骨型アルカリホスファターゼ（BAP）
- インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（Intact PINP）
- Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（PⅠNP）
- 低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）半定量
- 副甲状腺ホルモン（PTH）
- カテコールアミン分画
- Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体（β-CTX）
- デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体（DHEA-S）
- セクレチン
- Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体（β-CTX）（尿）
- サイクリックAMP（cAMP）
- エストラジオール（E_2）
- エストリオール（E_3）
- エストロゲン半定量
- エストロゲン定量
- 副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント（C-PTHrP）
- 副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）
- 副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）
- カテコールアミン
- デオキシピリジノリン（DPD）（尿）
- 17-ケトジェニックステロイド（17-KGS）
- エリスロポエチン
- ソマトメジンC
- 17-ケトステロイド分画（17-KS分画）
- 17α-ヒドロキシプロゲステロン（17α-OHP）
- 抗IA-2抗体
- プレグナンジオール
- メタネフリン
- 17-ケトジェニックステロイド分画（17-KGS分画）
- メタネフリン・ノルメタネフリン分画
- 心房性Na利尿ペプチド（ANP）
- 抗利尿ホルモン（ADH）
- プレグナントリオール
- ノルメタネフリン
- インスリン様成長因子結合蛋白3型（IGFBP-3）
- ガストリン

3項目以上5項目以下……410点　6項目又は7項目……623点　8項目以上……900点

容器の種類

スピッツ〈茶色栓〉



容量　9 mL

保管方法
常温

添加剤
凝固促進フィルム

主な検査項目
・生化学的検査
・免疫学的検査
・内分泌学的検査
・ウイルス抗体検査
その他

採血方法

アンチ〈藤色栓〉



容量　2 mL

保管方法
常温

添加剤
EDTA-2K

主な検査項目
・血液一般検査
・末梢血液像
・ヘモグロビンA1c

採血方法
血液を採取後、よく混和させ、ご提出ください。

血糖〈灰色栓〉



容量　2 mL

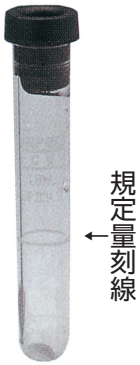
保管方法
常温

添加剤
フッ化Na、EDTA-2Na
ヘパリンNa

主な検査項目
・血糖検査

採血方法
血液を採取後、よく混和させてください。

凝固〈黒色栓〉



容量　2 mL

保管方法
常温

添加剤
3.2%クエン酸Na 0.2mL

主な検査項目
・血液凝固因子検査
・線溶系検査
・ループスアンチコアグラント

採血方法
規定量刻線まで血液を採取後、よく混和させ、当日中にご提出ください。

輸血関連検査



容量　5 mL

保管方法
常温

添加剤
EDTA-2Na

主な検査項目
・血液型
・不規則抗体
・交差適合試験
・間接クームス

採血方法
血液を採取後、よく混和させてください。

Ⓒ BNP用



容量　5 mL

保管方法
常温

添加剤
EDTA-2Na

主な検査項目
・BNP

採血方法
血液を 5 mL採取後、よく混和させてください。

(PH5) ヘパリン入り



容量　5 mL

保管方法
常温

添加剤
ヘパリンNa 65IU

主な検査項目
・T-SPOT
・血中薬物検査
（ガバペンチン、ラモトリギン、アミオダロン、ピルメノール、レベチラセタム）
・鉛、クロム、カドミウム
マンガン
・染色体検査

採血方法
血液を採取後、よく混和させ、そのままご提出ください。

(PH9) ヘパリン入り



容量　10mL

保管方法
常温

添加剤
ヘパリンNa 90IU

主な検査項目
・DLST（薬剤によるリンパ球刺激試験）
・リンパ球幼若化検査

採血方法
血液を採取後、よく混和させてください。
必ず常温保存してください。

(PN5) EDTA-2Na（5 mL）



採血量　5 mL

保管方法
常温

添加剤
EDTA-2Na

主な検査項目
・男性AIRS
・女性AIRS

採取方法
採取方法はP130を参照してください。

(A) EDTA-2Na（7 mL）



容量　7 mL

保管方法
常温

添加剤
EDTA-2Na

主な検査項目
・レニン活性
・カテコールアミン3分画
・ACTH
・ProGRP
その他

採血方法
血液を5～7 mL採取後、よく混和させてください。

(PKF) EDTA-2K入り



容量　2 mL

保管方法
常温

添加剤
EDTA-2K 3.6mg

主な検査項目
・シクロスポリン
・タクロリムス

採血方法
血液を採取後、よく混和させ、そのままご提出ください。

(PNR) EDTA-2Na入り



採血量　2 mL

保管方法
常温

添加剤
EDTA-2Na　5mg

主な検査項目
・ビタミンB_1
・ビタミンB_2

採血方法
血液を採取後、よく混和させ、そのままご提出ください。

容器の種類

S5F HBV-DNA専用容器 HCV-RNA専用容器



採血量　5 mL

保管方法
常温
添加剤
凝固促進剤＋血清分離剤入り
主な検査項目
・HBV-DNA定量 ・HCV-RNA定量 ・HCVRNAコアジェノタイプ
採血方法
血液を採取後、4～5回静かに転倒混和してご提出ください。

PSF HIV-1RNA専用容器



採血量　5 mL

保管方法
常温
添加剤
EDTA-2K＋血漿分離剤入り
主な検査項目
・HIV-1RNA定量
採血方法
血液を採取後、4～5回静かに転倒混和してご提出ください。

PAC PAIgG



採血量　7.5mL

保管方法
常温
添加剤
ACD-A保存液
主な検査項目
・PAIgG （血小板関連IgG）
採血方法
採血後、よく混和させ冷蔵保存にてご提出ください。

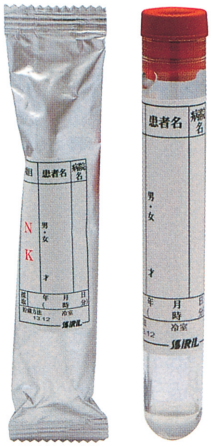
PAP EDTA＋アプロチニン



採血量　3 mL

保管方法
常温
添加剤
EDTA-2Na＋アプロチニン
主な検査項目
・HANP ・副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP） ・膵グルカゴン
採血方法
血液を3 mL採取後、よく混和させてください。

PNK NK細胞活性



採血量　5 mL

保管方法
冷蔵
添加剤
保存液
主な検査項目
・NK細胞活性
採血方法
血液を採取後、よく混和させ冷蔵保存してください。採血後、当日中にご提出ください。

PHS （遮光）ヘパリン入り



容量　4 mL

保管方法
常温
添加剤
ヘパリンNa（83.6単位）
主な検査項目
・赤血球遊離プロトポルフィリン
採血方法
血液を採取後、よく混和させてください。

U00 遮光ポリスピッツ



保管方法
常温

添加剤

主な検査項目
・ビタミンB6（分離用）
・δ-アミノレブリン酸

採取方法

M50 ビタミンC



除蛋白液入り（0.5mL）

保管方法
冷蔵

添加剤
0.8N過塩素酸

主な検査項目
・ビタミンC
（アスコルビン酸）

採血方法
血清0.5mLを容器に加え、十分攪拌後、遠心分離し、その上清を 遮光 ポリスピッツに入れ、ご提出ください。

AZZ 酸洗浄済みのポリスピッツ



保管方法
常温

添加剤

主な検査項目
・尿中クロム
・尿中カドミウム

採血方法

SZZ アルミニウム用



採血量　3 mL

保管方法
常温

添加剤
トロンビン+ヘパリン中和剤

主な検査項目
・アルミニウム（Al）

採血方法
採血後、十分転倒混和してください。

アンモニア（NH_3）



除蛋白液入り　4 mL

保管方法
常温

添加剤
タングステン酸Na硫酸

主な検査項目
・アンモニア（NH_3）

採血方法
採血後直ちに正確に血液1.0mLを容器に加え、十分攪拌後、ご提出ください。

M30 乳酸・ピルビン酸用



除蛋白液入り　4 mL

保管方法
冷蔵

添加剤
0.8N過塩素酸

主な検査項目
・乳酸・ピルビン酸

採血方法
採血後直ちに正確に血液1.0mLを容器に加え、十分攪拌後、ご提出ください。

容器の種類

滅菌ポリスピッツ



容量　10mL

保管方法
常温
添加剤
主な検査項目
・一般臨床検査 ・細菌検査 （尿・髄液・穿刺液等） ・細胞診検査
採取方法

U70 尿中Ⅳ型コラーゲン採取セット



保管方法
常温
添加剤
Tris＋Hcl入り
主な検査項目
・尿中Ⅳ型コラーゲン
採取方法
早朝一番尿をご提出ください。

U50 尿中ミオグロビン用



保管方法
常温
添加剤
保存液入り
主な検査項目
・尿中ミオグロビン
採取方法
ラベルに印刷してある線まで尿を入れ、よく混和し、冷蔵保存にてご提出ください。

U90 FDP（尿用）〈黄色栓〉

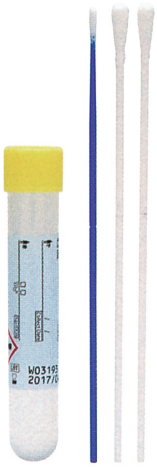


容量　2 mL

保管方法
常温
添加剤
抗プラスミン剤入り
主な検査項目
・フィブリン分解産物（尿中FDP）
採取方法
新鮮尿を採尿後、2 mLを容器に注入し、よく混和してください。

V50 淋菌およびクラミジア同時同定（PCR法）

分泌物用



保管方法
常温
添加剤
保存液
主な検査項目
・淋菌およびクラミジア同時同定 ・クラミジア・トラコマティス増幅同定 ・淋菌増幅同定
採取方法
採取方法はP63を参照してください。

U10 淋菌およびクラミジア同時同定（PCR法）

うがい液用・尿用



保管方法
常温
添加剤
保存液
主な検査項目
・淋菌およびクラミジア同時同定 ・クラミジア・トラコマティス増幅同定 ・淋菌増幅同定
採取方法
採取方法はP63を参照してください。

H00 保存液入りマルク用



保管方法
凍結

添加剤
保存液入り

主な検査項目
・血液疾患染色体

採取方法
骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存して下さい。検体は採取後、当日中にご提出ください。

V30 抗原検査採取セット



保管方法
採取セット：常温
アセトン：冷蔵

添加剤

主な検査項目
・水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原
・単純ヘルペスウイルス抗原

採取方法
同封の説明書を参照してください。
アセトン固定後、ご提出ください。

精液容器



保管方法
常温

添加剤

主な検査項目
・精液検査

採取方法
採取時刻を明記し、全量を１時間以内にご提出ください。

シードチューブHP用



保管方法
冷蔵

添加剤
保存・輸送用培地

主な検査項目
・ヘリコバクター
ピロリ培養

採取方法
胃または十二指腸粘膜組織を採取し、すみやかに「――線」の深さまで挿入してください。(P95参照)
採取後、冷蔵保存にてご提出ください。

V 呼気採取バック



保管方法
常温

添加剤

主な検査項目
・尿素呼気試験
（ユービット専用）

採取方法
採取方法はP95をご参照ください。

PE2 エンドトキシン・β-Dグルカン



採血量　2 mL

保管方法
常温

添加剤
ノボヘパリン 15IU

主な検査項目
・エンドトキシン定量
・(1→3) β-Dグルカン

採血方法
血液を採取後、よく混和させてください。冷蔵保存にてご提出ください。

容器の種類

Ⓚ便ヘモグロビン専用



保管方法

常温

添加剤

保存液

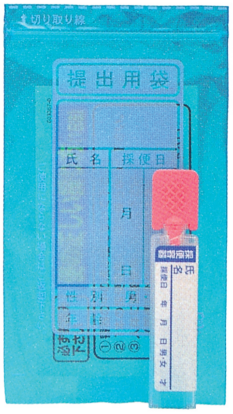
主な検査項目

・便ヘモグロビン
・大腸ガン検診

採取方法

採便後は冷暗所で保存してください。(一週間以内に提出)
同封の説明書をよく読んでから採便してください。

F80 便中ヘモグロビン及びトランスフェリン専用容器



保管方法

常温

添加剤

保存液

主な検査項目

・便中ヘモグロビン及びトランスフェリン

採取方法

採便後キャップをしっかり閉めてください。
袋に入れ、冷蔵保存し、ご提出ください。

F30 便中カルプロテクチン



保管方法

冷蔵

添加剤

トリス緩衝液、BSA
アジ化ナトリウム（0.1%以下）

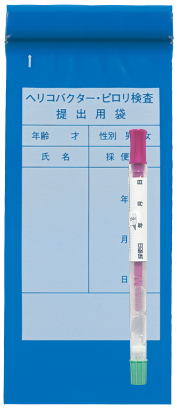
主な検査項目

・便中カルプロテクチン

採取方法

採便後キャップをしっかり閉めてください。

F20 便中ヘリコバクターピロリ抗原



保管方法

常温

添加剤

ほう酸 1.0mL

主な検査項目

・便中ヘリコバクターピロリ抗原

採取方法

採取ブラシで便を採取してください。(P95参照)
冷蔵保存にてご提出ください。

便容器



保管方法

常温

添加剤

主な検査項目

・CDトキシン（GDH）
・ノロウイルス

採取方法

ARR



保管方法

常温

添加剤

主な検査項目

・百日咳菌DNA
・マイコプラズマ
ニューモニエDNA

採取方法

Ⓜ(青)カルチャースワブプラス



保管方法
常温
添加剤
輸送用培地
主な検査項目
・一般細菌検査 ・膿分泌物、便等の細菌検査
採取方法

Ⓝ(ミニ)カルチャースワブプラス



保管方法
常温
添加剤
輸送用培地
主な検査項目
・一般細菌検査 ・耳鼻咽喉科用細菌検査
採取方法

血液培養ボトル



保管方法
常温
添加剤
培地
主な検査項目
・血液細菌培養 (青色栓：好気用 赤色栓：嫌気用)
採取方法
採取方法はP105を参照してください。 当センター使用機器の専用ボトルです。他の血液培養ボトルの提出は避けてください。

滅菌喀痰容器



保管方法
常温
添加剤
主な検査項目
・一般細菌検査 ・結核菌検査 ・細胞診検査
採取方法

シードチューブⅡ

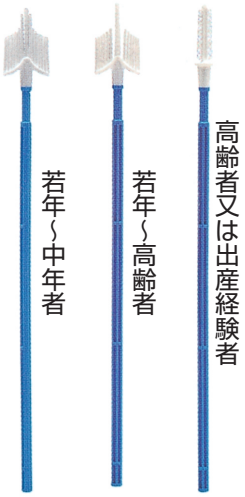


保管方法
常温
添加剤
寒天培地・炭酸ガス
主な検査項目
・嫌気培養検査
採取方法
採取方法はP104を参照してください。

容器の種類

Ⓜ2 組織専用容器				保管方法
小	中	大		常温
				添加剤 10%中性緩衝ホルマリン 主な検査項目 採取方法 容器は“小”、“中”、“大”があります。組織の大きさにあった容器を選び、固定してください。
口径（1.0～1.2） 高さ（4.1～4.8） （cm）	口径（2.5～3.0） 高さ（4.5～6.0） （cm）	口径（3.0） 高さ（10.0） （cm）	口径（4.7） 高さ（9.0） （cm）	

Ⓥ41 LBC・HPV	保管方法
	常温（15～30℃） 添加剤 保存液 主な検査項目 ・細胞診検査 ・HPV DNA （16型、18型その他ハイリスクグループ） ・ヒトパピローマウイルス（HPV）ジェノタイプ判定 採取方法 採取方法はP65を参照してください。

LBC・HPV用ブラシ	保管方法
	常温（15～30℃） 添加剤 主な検査項目 ・細胞診検査 ・HPV DNA （16型、18型、その他ハイリスクグループ） ・ヒトパピローマウイルス（HPV）ジェノタイプ判定 採取方法 三種類準備しております。

生化学的検査

血液学的検査

腫瘍マーカー

免疫学的検査

内分泌学的検査

一般臨床検査

微生物学的検査

生化学的検査

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0001	総ビリルビン	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.2 冷蔵	1~2	11 ※4	バナジン酸酸化法	0.4~1.5 mg/dL	
0002	直接ビリルビン	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.2 冷蔵		11 ※4		0.4以下 mg/dL	
0003	間接ビリルビン	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.2 冷蔵			バナジン酸酸化法(算出法)	0.1~0.8 mg/dL	総ビリルビンと直接ビリルビンより算出
0004	総蛋白	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.2 冷蔵		11 ※4	ビウレット法	6.6~8.1 g/dL	
0005	アルブミン	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.2 冷蔵		11 ※4	BCP改良法	4.1~5.1 g/dL	
0006	A／G比	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.2 冷蔵			ビウレット・BCP改良法(算出法)	1.32~2.23	総蛋白とアルブミンより算出
3901	蛋白分画	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.3 冷蔵	2~4	18 ※4	キャピラリー電気泳動法	Alb 55.8~66.1 α_1 2.9~ 4.9 α_2 7.1~11.8 β_1 4.7~ 7.2 β_2 3.2~ 6.5 γ 11.1~18.8 % A/G比 1.3~ 1.9	★
1608	尿中アルブミン	滅菌 ポリスピッツ	蓄尿 2 冷蔵	1~2	99 ※1	免疫比濁法	30.0未満 mg/day	24時間蓄尿量を明記してください。冷所で蓄尿し、混和後一部採取してご提出ください。
1602	尿中アルブミン(クレアチニン換算値)	滅菌 ポリスピッツ	部分尿 2 冷蔵				尿中アルブミン換算値 30.0未満 mg/g・CRE	CKD報告書を発行できます。※下記参照

●CKD（慢性腎臓病）について

1．CKDの定義

①尿異常、画像診断、血液、病理で腎障害の存在が明らか。特に0.15g/gCr以上の蛋白尿（30mg/gCr以上のアルブミン尿）の存在が重要
②GFR＜60mL/分/1.73㎡
①，②いずれか、または両方が３か月以上持続する

2．CKDの重症度分類

CKDの重症度は、原疾患（Cause：C）、腎機能（GFR：G）、蛋白尿・アルブミン尿（Albminuria：A）に基づくCGA分類で評価する。

原疾患		尿蛋白区分		A1	A2	A3
糖尿病		尿アルブミン定量(mg/日)		正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
		尿アルブミン/Cr比(mg/gCr)		30未満	30~299	300以上
高血圧 腎炎 多発性嚢胞腎 移植腎、不明、その他		尿蛋白定量（g/日）		正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
		尿蛋白/Cr比（g/gCr）		0.15未満	0.15~0.49	0.50以上
eGFR区分(mL/分/1.73㎡)	G1	正常または高値	≧90			
	G2	正常または軽度低下	60~89			
	G3a	軽度~中等度低下	45~59			
	G3b	中等度~高度低下	30~44			
	G4	高度低下	15~29			
	G5	末期腎不全（ESKD）	＜15			

KDIGO CKD guideline2012を日本人用に改変
日本腎臓学会編CKD診療ガイド2024

3．佐賀県健康づくり財団のCKD対応

①検査
CKD対策に重点を置いたセンターセット検査（S-37・S-38・S-39・S-40）を準備しております。
※P28~29：センターセット項目一覧表参照

②報告書
CKD専用報告書をご依頼時に発行いたします。
総合依頼書の報告書区分【CKD】にチェックをお願い致します。
※P23：検査結果報告書参照

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0019	尿素窒素(UN)	血液	血液 2 スピッツ ⇒遠心	血清 0.2 冷蔵	1~2	11 ※4	ウレアーゼUV法	8~20 mg/dL	
0264		尿	滅菌 ポリスピッツ	尿 3 冷蔵		11 ※4		7.0~14.0 g/day	24時間蓄尿量を明記してください。冷所で蓄尿し、混和後一部採取してご提出ください。
0020	クレアチニン(CRE)	血液	血液 2 スピッツ ⇒遠心	血清 0.2 冷蔵		11 ※4	酵素法	M：0.65~1.07 F：0.46~0.79 mg/dL	※GFR、CCr推算式については下記資料を参照ください。
0266		尿	滅菌 ポリスピッツ	尿 3 冷蔵		11 ※4		1.0~1.5 g/day	24時間蓄尿量を明記してください。冷所で蓄尿し、混和後一部採取してご提出ください。
0022	尿酸(UA)	血液	血液 2 スピッツ ⇒遠心	血清 0.2 冷蔵		11 ※4	ウリカーゼPOD法	M：3.7~7.8 F：2.6~5.5 mg/dL	
0268		尿	滅菌 ポリスピッツ	尿 3 冷蔵		11 ※4		0.4~1.2 g/day	24時間蓄尿量を明記してください。冷所で蓄尿し、混和後一部採取してご提出ください。
0026	ナトリウム(Na)	血液	血液 2 スピッツ ⇒遠心	血清 0.2 冷蔵		11 ※4	イオン選択電極法(希釈法)	138~145 mmol/L	
0270		尿	滅菌 ポリスピッツ	尿 3 冷蔵		11 ※4		1.6~5.8 g/day	24時間蓄尿量を明記してください。冷所で蓄尿し、混和後一部採取してご提出ください。
0028	クロール(Cl)	血液	血液 2 スピッツ ⇒遠心	血清 0.2 冷蔵		11 ※4	イオン選択電極法(希釈法)	101~108 mmol/L	
0274		尿	滅菌 ポリスピッツ	尿 3 冷蔵		11 ※4		2.5~8.9 g/day	24時間蓄尿量を明記してください。冷所で蓄尿し、混和後一部採取してご提出ください。
0027	カリウム(K)	血液	血液 2 スピッツ ⇒遠心	血清 0.2 冷蔵		11 ※4	イオン選択電極法(希釈法)	3.6~4.8 mmol/L	採血後、全血のまま冷蔵庫の中に保存すると溶血しやすくなるため、Kの値が高くなる傾向があります。
0272		尿	滅菌 ポリスピッツ	尿 3 冷蔵		11 ※4		1.0~3.9 g/day	24時間蓄尿量を明記してください。冷所で蓄尿し、混和後一部採取してご提出ください。
0070	推定一日食塩摂取量		滅菌 ポリスピッツ	尿 3 冷蔵			尿中ナトリウム、尿中クレアチニンより算出（田中式）		必ず、生年月日・身長・体重をご記入下さい。

◆血液化学検査
□の項目について、1回に5項目以上検査を行った場合
(1) 5項目以上7項目以下…… 93点
(2) 8項目又は9項目…… 99点
(3) 10項目以上…… 103点

スピッツ茶色栓項目採血量目安
1～2項目：3～5mL
3～6項目：5～7mL
7項目以上：9mL

・推定一日食塩摂取量計算式（P140参照）
推定一日食塩摂取量（g/日）＝24時間尿Na排泄量（mmol/日）÷17

※参考資料

●日本人のGFR推算式

男性：推算GFRcreat（mL/min/1.73㎡）$=194\times Cr^{-1.094}\times Age^{-0.287}$
女性：推算GFRcreat（mL/min/1.73㎡）$=194\times Cr^{-1.094}\times Age^{-0.287}\times 0.739$
酵素法で測定されたクレアチニン値を用いて推算します。18歳以上に適用されます。（18歳未満には適用しません。）

●CCr（クレアチニンクリアランス）の推算式（Cockcroft-Gaultの計算式）（P140参照）

男性：CCr（mL/min）＝（140-Age）×体重(Kg)/72×Cr(mg/dL)
女性：CCr（mL/min）＝{(140-Age）×体重(Kg)/72×Cr(mg/dL)} ×0.85

スピッツ〈茶色栓〉



滅菌ポリスピッツ



生化学的検査

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0023	カルシウム(Ca)	血液	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵	1~2	11 ※4	アルセナゾⅢ法	8.8~10.1 mg/dL	
0276		尿	滅菌 ポリスピッツ	尿 3 冷蔵		11 ※4		0.1~0.3 g/day	24時間蓄尿量を明記してください。冷所で蓄尿し、混和後一部採取してご提出ください。
0024	無機リン(IP)	血液	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵		17 ※4	酵素法	2.7~4.6 mg/dL	
0278		尿	滅菌 ポリスピッツ	尿 3 冷蔵		17 ※4		0.5~2.0 g/day	24時間蓄尿量を明記してください。冷所で蓄尿し、混和後一部採取してご提出ください。
1261	マグネシウム(Mg)		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵		11 ※4	酵素法	1.8~2.6 mg/dL	
1121	浸透圧	血液	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.7 冷蔵	2~4	15 ※3	氷点降下法	276~292 mOsm/kg・H_2O	
1122		尿	滅菌 ポリスピッツ	部分尿 1 冷蔵		16 ※1		濃縮時 850以上 希釈時 40~85 (Fishberg試験時) mOsm/kg・H_2O	★
0038	血清鉄(Fe)		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵	1~2	11 ※4	ニトロソーPSAP法	40~188 μg/dL	
0039	総鉄結合能(TIBC)		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵			ニトロソーPSAP法(算出法)	M：253~365 F：246~410 μg/dL	血清鉄とUIBCより算出 TIBC＝血清鉄＋UIBC
0040	不飽和鉄結合能(UIBC)		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵		11 ※4	ニトロソーPSAP法	M：104~259 F：108~325 μg/dL	
0042	フェリチン(FER)		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵		102 ※4	ラテックス凝集法	M：22~275 F：5~204 ng/mL	
1262	血清銅(Cu)		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	23 ※4	比色法	68~128 μg/dL	★
1257	血清亜鉛(Zn)		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	132 ※4	比色法	80~130 μg/dL	★

◆血液化学検査
□の項目について、1回に5項目以上検査を行った場合
(1) 5項目以上7項目以下…… 93点
(2) 8項目又は9項目…… 99点
(3) 10項目以上…… 103点

スピッツ茶色栓項目採血量目安
1～2項目：3～5mL
3～6項目：5～7mL
7項目以上：9mL

スピッツ〈茶色栓〉



滅菌ポリスピッツ



項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0007	AST（GOT）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.2 冷蔵	1～2	17 ※4	JSCC標準化対応法	13～30 U/L	
0008	ALT（GPT）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.2 冷蔵		17 ※4		M：10～42 F：7～23 U/L	
0102	ALP〔IFCC〕	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.2 冷蔵		11 ※4	IFCC法	38～113 U/L	
1021	ALPアイソザイム	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2～4	48 ※4	アガロースゲル電気泳動法	ALP1 0.0～5.3 ALP2 36.6～69.2 ALP3 25.2～54.2 ALP5 0.0～18.1%	血液型BまたはO型でLewis分泌型の人では、ALP総活性値およびALP5の出現率が高くなることがあります。 ★
0103	LD〔IFCC〕	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.2 冷蔵	1～2	11 ※4	IFCC法	124～222 U/L	
1001	LD（LDH）アイソザイム	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 室温	2～4	48 ※4	アガロースゲル電気泳動法	LDH1 21～31 LDH2 28～35 LDH3 21～26 LDH4 7～14 LDH5 5～13%	溶血でのご依頼は避けてください。 追加検査はデータが変動している場合がありますのでご考慮ください。 ★
0012	γ-GT	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.2 冷蔵	1～2	11 ※4	JSCC標準化対応法	M：13～64 F： 9～32 U/L	
0031	LAP	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.2 冷蔵		11 ※4	L-ロイシル-P-ニトロアニリド基質法	30～70 U/L	
0013	コリンエステラーゼ（ChE）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.2 冷蔵		11 ※4	JSCC標準化対応法（PHBC）	M：240～486 F：201～421 U/L	
0029	CK（CPK）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.2 冷蔵		11 ※4	JSCC標準化対応法	M：59～248 F：41～153 U/L	
0030	CK-MB	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.2 冷蔵		55 ※4	免疫阻害一UV法	4～21 U/L	保険請求上の名称は「CKアイソザイム」となります。
1035	CK-MB（CLEIA）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2～4	90 ※4	CLEIA法	M：5.7以下 F：3.1以下 ng/mL	★
0014	アミラーゼ 血液	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.2 冷蔵	1～2	11 ※4	JSCC標準化対応法（エチリデンG7PNP）	44～132 U/L	
0262	アミラーゼ 尿	滅菌 ポリスピッツ	尿 3 冷蔵		11 ※4		63～475 U/L	
0071	アミラーゼ・アイソザイム	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.2 冷蔵		48 ※4	免疫阻害法	総44～132 P 15～ 52 S 7～ 77 P/S比平均値（0.93） U/L	
0045	リパーゼ	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.2 冷蔵		24 ※4	DGGMR法	13～55 U/L	

生化学的検査
脂質

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
1200	遊離脂肪酸（NEFA）	血液 2 スピッツ	血清 0.3 凍結	2～4	59 ※4	酵素法	140～850 μEq/L	
0034	リン脂質（PL）	血液 2 スピッツ	血清 0.5 冷蔵	2～4	15 ※4	酵素法	160～260 mg/dL	
0036	遊離コレステロール（F-cho）	血液 2 スピッツ	血清 0.5 冷蔵	2～4	11 ※4	酵素法	30～60 mg/dL	
1235	エステル型コレステロール	血液 2 スピッツ	血清 0.5 冷蔵	2～4		コレステロール酸化酵素（COD-POD）酵素法	90～200 mg/dL	★
0015	中性脂肪（TG）	血液 2 スピッツ	血清 0.2 冷蔵	1～2	11 ※4	酵素比色法（遊離グリセロール消去）	M：40～234 F：30～117 mg/dL	
0016	総コレステロール	血液 2 スピッツ	血清 0.2 冷蔵		17 ※4	酸化酵素法	142～248 mg/dL	
0033	HDL-コレステロール	血液 2 スピッツ	血清 0.2 冷蔵		17 ※4	直接法	M：38～90 F：48～103 mg/dL	
1204	LDL-コレステロール（直接法）	血液 2 スピッツ	血清 0.2 冷蔵		18 ※4	酵素法	65～163 mg/dL	
0054	LDL-コレステロール（FW計算）	血液 2 スピッツ	血清 0.2 冷蔵			中性脂肪、総コレステロール、HDLコレステロールより算出		FWの式 $LDL=総コレステロール-\frac{中性脂肪}{5}-HDLコレステロール$
0060	nonHDLコレステロール	血液 2 スピッツ	血清 0.2 冷蔵			総コレステロール、HDLコレステロールより算出		nonHDLコレステロール =総コレステロール−HDLコレステロール
1075	アポリポ蛋白 A-Ⅰ	血液 各2 スピッツ	血清 各0.3 冷蔵	2～4	1項目 31 2項目 62 3項目以上 94 ※4	免疫比濁法	A-Ⅰ M:119～155 F:126～165	項目をご指定ください。 ★
1076	アポリポ蛋白 A-Ⅱ						A-Ⅱ M:25.9～35.7 F:24.6～33.3	
1077	アポリポ蛋白 B						B M:73～109 F:66～101	
1078	アポリポ蛋白 C-Ⅱ						C-Ⅱ M:1.8～4.6 F:1.5～3.8	
1079	アポリポ蛋白 C-Ⅲ						C-Ⅲ M:5.8～10.0 F:5.4～9.0	
1080	アポリポ蛋白 E						E M:2.7～4.3 F:2.8～4.6 mg/dL	
1209	リポ蛋白（a）	血液 2 スピッツ	血清 0.5 冷蔵	2～4	107 ※4	LA（ラテックス凝集比濁法）	40以下（参考値） mg/dL	★
1210	リポ蛋白分画（アガロース法）	血液 2 スピッツ	血清 0.2 冷蔵	2～4	49 ※4	アガロースゲル電気泳動法	M:α 26.9～50.5 preβ 7.9～23.8 β 35.3～55.5 F:α 32.6～52.5 preβ 6.6～20.8 β 33.6～52.0%	凍結は避けてください。 ★
1234	レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP-C）	血液 2 スピッツ	血清 0.5 冷蔵	2～4	174 ※4	酵素法	7.5以下 mg/dL	糖尿病、冠動脈疾患等の既往歴のある場合は5.2mg/dL以上がハイリスク域といわれています。 ★

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
3711	脂肪酸分画（4成分）	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	4～6	389 ※5	Gas-chromatograph法	ジホモ-γ-リノレン酸 22.6～72.5 アラキドン酸 135.7～335.3 エイコサペンタエン酸 10.2～142.3 ドコサヘキサエン酸 54.8～240.3 μg/mL EPA/AA比 0.05～0.61 DHA/AA比 0.27～1.07 (EPA+DHA)/AA比 0.32～1.66	★
0044	胆汁酸	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2～4	47 ※4	酵素法	10.0以下 μmol/L	★

$$\text{動脈硬化指数（AI）[基準値3以下]} = \frac{(\text{総コレステロール} - \text{HDLコレステロール})}{\text{HDLコレステロール}}$$

動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版抜粋

表1　脂質異常症診断基準

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120～139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症**
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	150mg/dL以上（空腹時採血*）	高トリグリセライド血症
	175mg/dL以上（随時採血*）	
Non-HDLコレステロール	170mg/dL以上	高non-HDLコレステロール血症
	150～169mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症**

＊　基本的に10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし水やお茶などのカロリーのない水分の摂取を可とする。空腹時であることが確認できない場合を「随時」とする。

＊＊スクリーニングで境界域高LDL-C血症、境界域non-HDL-C血症を示した場合は、高リスク病態がないか検討し、治療の必要性を考慮する。

●LDL-CはFriedewald式（TC-HDL-C-TG/5）で計算する（ただし空腹時採血の場合のみ）。また直接法で求める。

●TGが400mg/dL以上や随時採血の場合はnon-HDL-C（＝TC-HDL-C）かLDL-C直接法を使用する。ただしスクリーニングでnon-HDL-Cを用いる時は、高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が＋30mg/dLより小さくなる可能性を念頭においてリスクを評価する。

●TGの基準値は空腹時採血と随時採血により異なる。

●HDL-Cは単独では薬物介入の対象とはならない。

表2　リスク区分別脂質管理目標値

治療方針の原則	管理区分	脂質管理目標値（mg/dL）			
		LDL-C	Non-HDL	TG	HDL-C
一次予防 まず生活習慣の改善を行った後薬物療法の適用を考慮する	低リスク	<160	<190	<150（空腹時）*** <175（随時）	≧40
	中リスク	<140	<170		
	高リスク	<120 <100*	<150 <130*		
二次予防 生活習慣の是正とともに薬物治療を考慮する	冠動脈疾患またはアテローム血栓性脳梗塞（明らかなアテローム****を伴うその他の脳梗塞を含む）の既往	<100 <70**	<130 <100**		

●*糖尿病において、PAD、細小血管症（網膜症、腎症、神経障害）合併時、または喫煙ありの場合に考慮する。

●**「急性冠症候群」、「家族性高コレステロール血症」、「糖尿病」、「冠動脈疾患とアテローム血栓性脳梗塞（明らかなアテロームを伴うその他の脳梗塞を含む）」の4病態のいずれかを合併する場合に考慮する。

●一次予防における管理目標達成の手段は非薬物療法が基本であるが、いずれかの管理区分においてもLDL-Cが180mg/dL以上の場合は薬物療法を考慮する。家族性高コレステロール血症の可能性も念頭におく。

●まずLDL-Cの管理目標値を達成し、次にnon-HDL-Cの達成を目指す。LDL-Cの管理目標を達成してもnon-HDL-Cが高い場合は高TG血症を伴うことが多く、その管理が重要となる。低HDL-Cについては基本的には生活習慣の改善で対処すべきである。

●これらの値はあくまでも到達努力目標であり、一次予防（低・中リスク）においてはLDL-C低下率20～30%も目標値としてなり得る。

●***10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただしお水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。それ以外の条件を「随時」とする。

●****頭蓋内外動脈の50%以上の狭窄、または弓部大動脈（最大肥厚4mm以上）

●高齢者については動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版 第7章を参照。

◆血液化学検査

□の項目について、1回に5項目以上検査を行った場合

(1)　5項目以上7項目以下……　93点

(2)　8項目又は9項目……　99点

(3)　10項目以上……　103点

※「HDL-コレステロール」、「総コレステロール」及び「LDL-コレステロール」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。

スピッツ茶色栓項目採血量目安

1～2項目：3～5mL

3～6項目：5～7mL

7項目以上：9mL

スピッツ（茶色栓）



生化学的検査

糖質

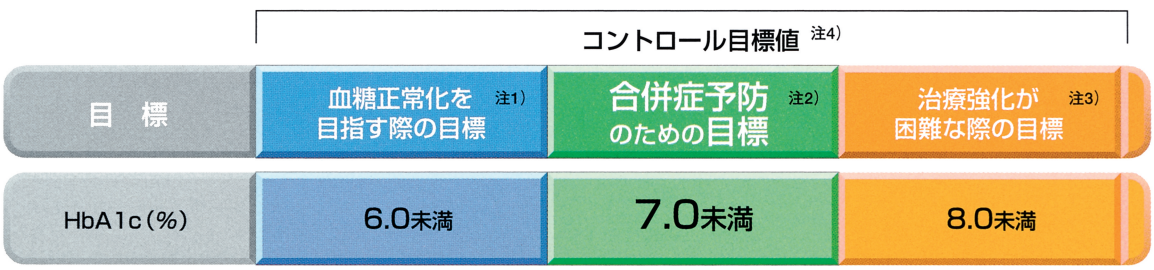
項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0055	ヘモグロビンA1c HbA1c（NGSP）		血液 2 アンチ	血液 2 冷蔵	1~2	49 ※3	HPLC	4.9~6.0 %	EDTA-2Naでも検査出来ます。（7 mL）
0501~	血糖		血液 2 血糖 遠心	血漿 0.5 冷蔵		各11 ※4	ヘキソキナーゼ法	（前） 73~109 mg/dL	フッ化Naに2 mL採血してください。
0531~	尿糖		滅菌 ポリスピッツ	尿 3 冷蔵		各9 ※1	ヘキソキナーゼ法		負荷試験をご依頼の時は検体ラベルに時間を明記してください。
0590	インスリン（IRI）		血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵		100 ※5	CLIA	（前） 5.0~10.0 μU/mL	溶血により低値となります。
2755	C-ペプチド（CPR）	血液	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.4 冷蔵	2~4	105 ※5	CLEIA	（前） 0.61~2.09 ng/mL	★
2785		尿	滅菌 ポリスピッツ	蓄尿 1 凍結				蓄尿 29.2~167 μg/day	蓄尿は冷所にて行うか、あらかじめ安定化剤を蓄尿容器に一袋全量を入れて蓄尿を行ってください。他項目との重複依頼は避けてください。★
1201	グリコアルブミン（GA）		血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.2 冷蔵	1~2	55 ※4	酵素法	12.4~16.3 %	
1203	1,5AG（1,5アンヒドロ-D-グルシトール）		血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2~4	80 ※4	酵素法	M：14.9~44.7 F：12.4~28.8 μg/mL	★

◆血液化学検査
□の項目について、1回に5項目以上検査を行った場合
(1) 5項目以上7項目以下…… 93点
(2) 8項目又は9項目…… 99点
(3) 10項目以上…… 103点

◆内分泌学的検査
□の項目について、1回に3項目以上検査を行った場合
(1) 3項目以上5項目以下…… 410点
(2) 6項目又は7項目…… 623点
(3) 8項目以上…… 900点

※「HbA1c」、「グリコアルブミン」又は「1,5AG」のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療開始6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。

血糖コントロール目標 （65歳以上の高齢者については「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標」を参照）



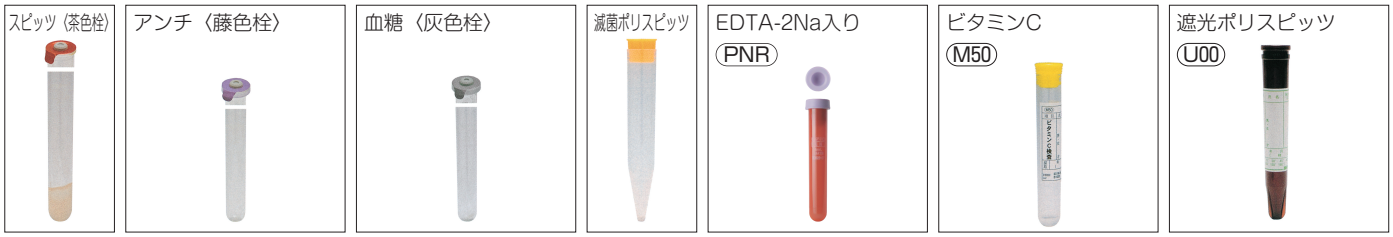
治療目標は年齢、罹病期間、臓器障害、低血糖の危険性、サポート体制などを考慮して個別に設定する。

注1）適切な食事療法や運動療法だけで達成可能な場合、または薬物療法中でも低血糖などの副作用なく達成可能な場合の目標とする。
注2）合併症予防の観点からHbA1cの目標値を7%未満とする。対応する血糖値としては、空腹時血糖値130mg/dL未満、食後2時間血糖値180mg/dL未満をおおよその目安とする。
注3）低血糖などの副作用、その他の理由で治療の強化が難しい場合の目標とする。
注4）いずれも成人に対しての目標値であり、また妊娠例は除くものとする。

日本糖尿病学会編 糖尿病治療ガイド 2024 より引用

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
1186	ヒアルロン酸	血液	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.4 冷蔵	2～4	179 ※4	ラテックス凝集免疫比濁法	50以下 ng/mL	★
1187		胸水	滅菌 ポリスピッツ	胸水 0.4 冷蔵				ng/mL	
1334	ビタミンB_1		血液 2 PNR	血液 0.5 凍結 遮光	3～5	239 ※4	LC/MS/MS	24～66 ng/mL	EDTA-2K入り容器(PNR)に血液を採取し、混和後全血のままご提出ください。★
1335	ビタミンB_2		血液 2 PNR	血液 0.5 凍結 遮光		231 ※4	HPLC	66.1～111.4 ng/mL	EDTA-2K入り容器(PNR)に血液を採取し、混和後全血のままご提出ください。★
1355	ビタミンB_6		血液 3 スピッツ	遠心 → 血清 0.5 冷蔵 遮光	3～5		HPLC	ピリドキサミン(PAM) M：0.6以下 F：0.6以下 ピリドキサール(PAL) M：6.0～40.0 F：4.0～19.0 ピリドキシン(PIN) M：3.0以下 F：3.0以下 ng/mL	血液を採取し遮光してご提出ください。★
1337	ビタミンB_{12}		血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.6 冷蔵	2～4	136 ※4	CLEIA	180～914 pg/mL	★
1352	葉酸		血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.6 冷蔵	2～4	146 ※4	CLEIA	4.0以上 ng/mL	溶血の場合、赤血球中葉酸の影響で高値となります。★
1338	ビタミンC (アスコルビン酸)		血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.5 冷蔵 M50 → 遠心 除蛋白上清 0.5 凍結 遮光	3～5	296 ※4	HPLC	5.5～16.8(血清中) μg/mL	正確に血清0.5mLを専用容器(M50)に加え、混和後、遠心分離し、その上清を必ず遮光ポリスピッツにてご提出ください。★
1363	25-OHビタミンD (骨粗鬆症)		血液 3 スピッツ	遠心 → 血清 0.5 冷蔵	2～4	117 ※4 ①	CLEIA	ビタミンD欠乏 20.0未満 ビタミンD不足 20.0～29.9 ng/mL	★
1349	25ヒドロキシビタミンD (くる病、骨軟化症)		血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.5 冷蔵	2～4	117 ※4 ②	CLEIA	ビタミンD欠乏 20以下 ng/mL	★
1353	1,25-$(OH)_2$ ビタミンD		血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.6 冷蔵	3～7	388 ※4	RIA2抗体法	成人：20.0～60.0 小児：20.0～70.0 pg/mL	★
1175	カルニチン分画		血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.5 冷蔵	2～4	95+95 ※4	酵素サイクリング法	総カルニチン 45～91 遊離カルニチン 36～74 アシルカルニチン 6～23 μmol/L	★
1312	結石分析〔成分比率〕			結石 10mg 室温	4～6	117 ※5	赤外線吸収スペクトロフォトメトリー	%	検体は乾燥させてご提出ください。血液等のついた検体は蒸留水で洗浄後、乾燥させてください。★

①原発性骨粗鬆症の患者に対して、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に１回に限り算定できる。
②ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中に測定した場合にのみ算定できる。ただし、診断時においては１回を限度とし、その後は３月に１回を限度として算定できる。



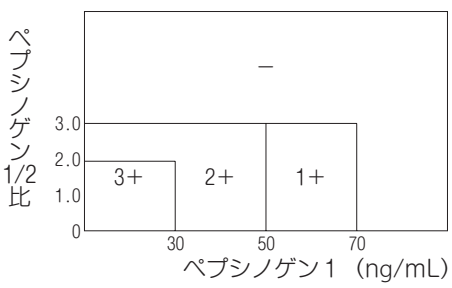
生化学的検査
酵素

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
1136	ADA (アデノシンデアミナーゼ)	血液	血液 2 スピッツ (遠心)	血清 0.6 冷蔵	2～4	32 ※4	酵素法	5.0～20.0 U/L	
1137		胸水	滅菌 ポリスピッツ	胸水 0.6 冷蔵		32 ※4		U/L	
1138		腹水	滅菌 ポリスピッツ	腹水 0.6 冷蔵		32 ※4		U/L	★
1149	膵アミラーゼ〔P型アミラーゼ定量〕		血液 2 スピッツ (遠心)	血清 0.5 冷蔵	2～4	48 ※4	JSCC標準化対応法	16～52 U/L	
1156	トリプシン		血液 2 スピッツ (遠心)	血清 0.5 冷蔵	2～4	189 ※4	ラテックス凝集比濁法	210～570 ng/mL	
1174	膵ホスホリパーゼA_2（膵PLA_2）		血液 2 スピッツ (遠心)	血清 0.3 凍結	2～5	204 ※4	RIA固相法	130～400 ng/dL	
1123	アルドラーゼ		血液 2 スピッツ (遠心)	血清 0.5 冷蔵	2～4	11 ※4	UV－酵素法	2.1～6.1 U/L	★
2739	アンギオテンシンⅠ転換酵素（ACE）		血液 3 スピッツ (遠心)	血清 0.7 冷蔵	2～4	136 ※4	笠原法	8.3～21.4 U/L	EDTA血漿は測定不能となります。 ★
0261	Nーアセチルグルコサミニダーゼ（尿中NAG）		滅菌 ポリスピッツ	部分尿 0.5 冷蔵	2～4	41 ※1	比色法	0.7～11.2 IU/L	
1160	ペプシノゲン		血液 2 スピッツ (遠心)	血清 0.5 冷蔵	2～4		CLEIA	下記参照	★
3721	胃がんリスク層別化検査（ABC分類）〔LA〕		血液 3 スピッツ (遠心)	血清 1.0 冷蔵	2～4		抗ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕：ラテックス凝集比濁法 ペプシノゲン：CLEIA	下記参照	ペプシノゲンとヘリコバクターピロリ抗体を実施し、それぞれの検査結果とABC分類をご報告いたします。 除菌治療後の場合は「除菌有り」と記入下さい。 ★

◆血液化学検査
□の項目について、1回に5項目以上検査を行った場合
(1)　5項目以上7項目以下……　93点
(2)　8項目又は9項目……　99点
(3)　10項目以上……　103点

●[1160] ペプシノゲン（判定基準）

		ペプシノゲン1		ペプシノゲン1/2比
強陽性	3+	30ng/mL以下	かつ	2.0以下
中程度陽性	2+	50ng/mL以下	かつ	3.0以下
陽性	1+	70ng/mL以下	かつ	3.0以下
陰性	－	上記条件以外		



●[3721] 胃がんリスク層別化検査（ABC分類）〔LA〕（判定基準）

ABC分類		抗ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕	
		10未満（－）	10以上（＋）
ペプシノゲン	(－)	A群	B群
	(1＋)～(3＋)	D群	C群

ピロリ菌の除菌治療を受けた方はE群となります。

A群	健康的な胃粘膜で、胃疾患の危険性は低いと考えられます。
B群	消化性潰瘍に留意する必要があります。
C群	萎縮の進んだ胃粘膜で、胃がんなどになりやすいタイプと考えられます。
D群	萎縮が非常に進んだ胃粘膜で、胃がんなどになりやすいタイプと考えられます。
E群	除菌治療を受けた方は定期的に内視鏡検査が必要です。

※胃がんリスク層別化検査（ABC分類）の注意事項
以下の場合には、正しい結果が得られない可能性があります。
1．明らかな上部消化器症状のある方
2．上部消化管疾患治療中の方
3．プロトンポンプ阻害剤服用中の方
4．胃切除をされた方
5．腎不全の方
6．ピロリ菌の除菌治療を受けた方

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0046	アンモニア	血液 1 アンモニア用	遠心 除蛋白上清 3 凍結	1~2	50 ※4	藤井奥田変法	30~130 μg/dL	除蛋白液4.0mLに血液1.0mLを加え、よく混和してご提出ください。採取後は、冷蔵保存してください。
1324	アミノ酸分析(39種類)	血液 2 Ⓐ	遠心 血漿 0.5 凍結	4~6	1074 ※5	LC／MS	下記参照	EDTA-2Na入採血管に採血してください。十分混和してご提出ください。★
1322	アミノ酸分析(41種類)	滅菌 ポリスピッツ	酸性蓄尿 2 凍結	7~10	1074 ※5	HPLC	下記参照	6N塩酸約20mLを入れた蓄尿瓶へ24時間蓄尿し、よく混和後必要量を提出してください。100mLに対して6N塩酸1mLの割合で入れてください。必ず酸性蓄尿に(pH1.0~3.0)してください。★
1190	ケトン体分画(静脈血)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 凍結	2~4	59 ※4	酵素法	アセト酢酸：55以下 3-ヒドロキシ酪酸：85以下 総ケトン体：130以下 μmol/L	早朝空腹時採血（静脈）してください。採血後は速やかにご提出ください。★
1182	乳酸	血液 各1 M30	遠心 除蛋白上清 各0.4 冷蔵	2~4	47 ※4	乳酸オキシダーゼによる酵素法	3.0~17.0 (全血中) mg/dL	除蛋白液（0.8N過塩素酸）1.0mLと血液1.0mL（1：1）を混合し、十分攪拌後ご提出ください。★
1188	ピルビン酸			2~4	47 ※4	ピルビン酸オキシダーゼによる酵素法	0.30~0.94 (全血中) mg/dL	

●アミノ酸分析基準値

アミノ酸名	略号	基準値 血漿	基準値 尿
Taurine	Tau	39.5~93.2	322.2~5214.5
Phosphoethanolamine ▲	PEA		31.0~110.0
Urea ▲	Urea		◎130.3~493.2
Aspartic acid	Asp	2.4以下	12.7以下
Hydroxyproline	Hypro	21.6以下	ND
Threonine	Thr	66.5~188.9	79.9~528.3
Serine	Ser	72.4~164.5	208.8~1020.0
Asparagine	Asn	44.7~96.8	60.7~372.3
Glutamic acid	Glu	12.6~62.5	11.3~42.7
Glutamine	Gln	422.1~703.8	207.0~1357.3
Sarcosine	Sarco	TR	99.0以下
α-Aminoadipic acid	α-AAA	ND	16.7~118.6
Proline	Pro	77.8~272.7	ND
Glycine	Gly	151.0~351.0	652.1~3670.6
Alanine	Ala	208.7~522.7	141.2~833.9
Citrulline	Cit	17.1~42.6	13.5~55.6
α-Aminobutyric acid	α-ABA	7.9~26.6	27.1以下
※Valine	Val	147.8~307.0	24.8~82.2
Cystine	Cys	13.7~28.3	23.7~170.9
Cystathionine	Cysthio	TR	TR~44.7
※Methionine	Met	18.9~40.5	TR~20.2
※Isoleucine	Ileu	43.0~112.8	7.5~23.5
※Leucine	Leu	76.6~171.3	24.6~89.3
※Tyrosine	Tyr	40.4~90.3	50.6~308.4
※Phenylalanine	Phe	42.6~75.7	27.2~110.2

※印はアミノ酸分析（9種類）の実施アミノ酸名
ND：測定感度以下　TR：痕跡
▲印は「アミノ酸」ではありませんが、本項目に含めて測定いたします。

単位　血漿：nmol/mL、尿：μmol/day（但し◎印（Urea）はmmol/day）

アミノ酸名	略号	基準値 血漿	基準値 尿
γ-Amino β-hydroxy butyric acid	γ-A β-HBA	ND	ND
β-Alanine	β-Ala	TR	TR~153.0
β-Amino-iso-butyric acid	β-AIBA	TR	TR~1623.9
γ-Aminobutyric acid	γ-ABA	ND	ND
Monoethanolamine ▲	MEA	10.4以下	195.3~606.2
Homocystine	Homocys	ND	ND
※Histidine	His	59.0~92.0	436.4~2786.5
3-Methylhistidine	3-Me His	5.0以下	113.4~480.9
1-Methylhistidine	1-Me His	18.5以下	59.3~2816.2
Carnosine ▲	Carno	ND	87.6以下
Anserine ▲	Ans	ND	231.4以下
Tryptophan	Trp	37.0~74.9	20.7~150.7
Hydroxylysine	Hylys	ND	22.9以下
Ornithine	Orni	31.3~104.7	6.9~43.9
※Lysine	Lys	108.7~242.2	51.6~1639.6
※Arginine	Arg	53.6~133.6	11.6~54.8
Total AA（総アミノ酸：非必須アミノ酸の和+必須アミノ酸の和）		2068.2~3510.3	
NEAA（非必須アミノ酸の和）		1381.6~2379.4	
EAA（必須アミノ酸の和）		660.0~1222.3	
BCAA（分岐鎖アミノ酸の和）		265.8~579.1	
EAA/NEAA（必須アミノ酸の和/非必須アミノ酸の和）		0.40~0.63	
BCAA/Total AA（分岐鎖アミノ酸の和/総アミノ酸）		0.11~0.18	
フィッシャー比		2.43~4.40	

EAA/NEAA，BCAA/Total AA、フィッシャー比においては単位なし

スピッツ（茶色栓）



EDTA-2Na（7mL）Ⓐ



滅菌ポリスピッツ



アンモニア（NH_3）



乳酸・ピルビン酸用 M30



生化学的検査

酵素

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
2401	骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 凍結	2~4	⑤ 156 ※5	EIA	M：170~590 F（YAM）：120~420 mU/dL	YAM：若年者成人平均値 女性の基準値は、健常閉経前女性（30~44歳）で確立された平均±1.96標準偏差の範囲としています。なお、閉経後女性にも適用されます。★
2405	Ⅰ型ｺﾗｰｹﾞﾝ架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症) 尿	滅菌 ポリスピッツ	尿 3 冷蔵	2~4	②③⑤ 153 ※5	CLEIA	M：13.0~66.2 F：（閉経前）9.3~54.3 （閉経後）14.3~89.0 判定基準：P53参照 nmolBCE/mmol·CRE	午前中の第二尿をご提出ください。
2413	デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)	滅菌 ポリスピッツ	尿 3 冷蔵	2~4	②③⑤ 191 ※5	EIA	M：2.1~5.4 F：2.8~7.6 判定基準：P53参照 nmol/mmol·CRE	★
1029	骨型アルカリホスファターゼ（BAP）	血液 3 スピッツ	遠心 血清 0.8 冷蔵	2~4	⑥ 157 ※5	CLEIA	M：3.7~20.9 F：（閉経前）2.9~14.5 （閉経後）3.8~22.6 μg/L	★
2420	Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(total P1NP)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2~4	⑥ 160 ※5	ECLIA	M：（30~83歳）18.1~74.1 F：（30~44歳 閉経前）16.8~70.1 （45~79歳 閉経後）26.4~98.2 ng/mL	溶血でのご依頼は避けてください（溶血の場合、データが低値傾向となります。）★
2627	低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.6 凍結	2~4	① 150 ※5	CLEIA	4.50未満 ng/mL	溶血でのご依頼は避けてください。★
2623	オステオカルシン	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 凍結	2~4	③④⑤ 153 ※5	ECLIA	M：8.4~33.1 F：（閉経前）7.8~30.8 （閉経後）14.2~54.8 ng/mL	★

◆内分泌学的検査
□の項目について、1回に3項目以上検査を行った場合
(1) 3項目以上5項目以下…… 410点
(2) 6項目又は7項目…… 623点
(3) 8項目以上…… 900点

①低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）は、骨粗鬆症におけるビタミンK_2剤の治療選択目的で行った場合又は治療経過観察を行った場合に算定できる。ただし、治療開始前においては1回、その後は6月以内に1回に限り算定できる。
②Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）及びデオキシピリジノリン（DPD）（尿）は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。
なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できる。
③Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）、オステオカルシン（OC）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。
④オステオカルシン（OC）は、続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合に限り算定できる。
⑤酒石酸低抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）は、代謝性骨疾患及び骨転移（代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る）の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。
本検査とⅠ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）、オステオカルシン（OC）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定できる。
なお、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。
⑥骨型アルカリホスファターゼ（BAP）、Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（P1NP）、インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（Intact P1NP）及び「D007」血液化学検査のALPアイソザイム（PAG電気泳動法）のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

スピッツ〈茶色栓〉



滅菌ポリスピッツ



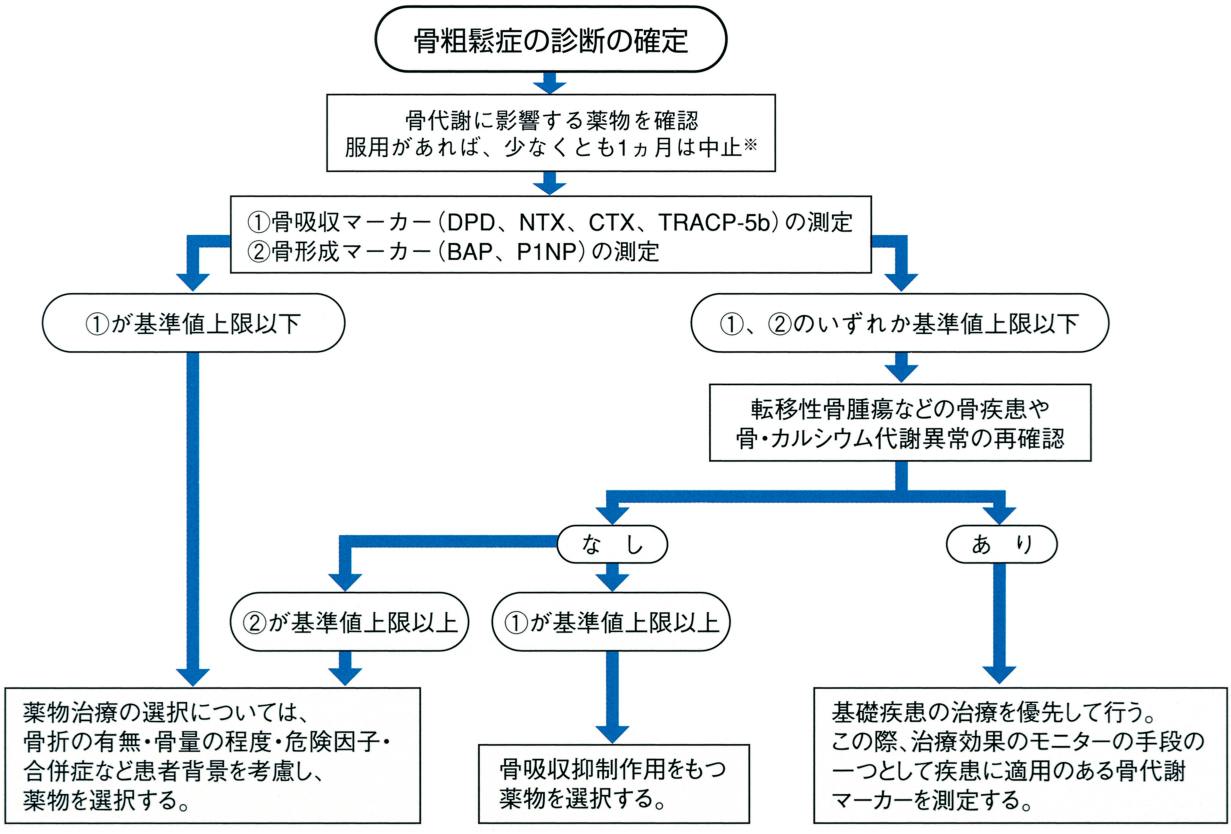
[2405] Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）（骨粗鬆症）の判定基準
[2413] デオキシピリジノリン（DPD）（骨粗鬆症）

検査項目	骨粗鬆症薬剤治療の指標		単　位
	骨折リスク　カットオフ値	骨量減少　カットオフ値	
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）（骨粗鬆症）	54.3	35.3	nmolBCE/mmol・CRE
デオキシピリジノリン（DPD）（骨粗鬆症）	7.6	5.9	nmol/mmol・CRE

[2405] Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）基準値、判定基準（単位：nmolBCE/mmol・CRE）

基準値（参考値）	男性	13.0～66.2
	閉経前女性	9.3～54.3
	閉経後女性	14.3～89.0
判定基準	骨吸収亢進の指標	55以上
	副甲状腺摘出術の適応	200以上
	悪性腫瘍（乳癌、肺癌、前立腺癌）の骨転移の指標	100以上

骨粗鬆症治療薬における骨代謝マーカーの適正使用ガイドライン 2018年版



骨粗鬆症治療薬の選択時における骨吸収マーカーと骨形成マーカーの測定
※ビスホスホネートでは少なくとも3ヶ月の中止後。

血液学的検査

血液一般・形態

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器 / 検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0300 末梢血液一般	白血球数	アンチ / 血液 2 冷蔵	1~2	21 ※3	自動機械法	3.3~8.6 $10^3/\mu L$	EDTA2K入り採血管に2.0mL採取し、凝固しないように転倒混和してください。
	赤血球数					M：4.35~5.55 F：3.86~4.92 $10^6/\mu L$	
	血色素量					M：13.7~16.8 F：11.6~14.8 g/dL	
	ヘマトクリット値					M：40.7~50.1 F：35.1~44.4 %	
	MCV					83.6~98.2 fL	
	MCH					27.5~33.2 pg	
	MCHC					31.7~35.3 g/dL	
	血小板数					158~348 $10^3/\mu L$	
0309	血液像			15 ※3	自動機械法	Neutro 42.0~64.0 Ly 27.0~46.0 Mo 2.0~7.0 Eo 1.0~5.0 Ba 0~1.0 %	備考 Neu 好中球 Stab St 桿状核好中球 Seg Se 分葉核好中球 Lymp Ly リンパ球 Mono Mo 単球 Eosin Eo 好酸球 Baso Ba 好塩基球 Blast 芽球様細胞 Promyel 前骨髄球 Myelo 骨髄球 Meta 後骨髄球 血液像 塗抹標本は、できる限り数枚ご提出ください。
				25 ※3	鏡検法（May-Giemsa染色）	Stab 3.0~12.0 Seg 39.0~52.0 Ly 27.0~46.0 Mo 2.0~7.0 Eo 1.0~5.0 Ba 0~1.0 異型Ly 0~1.0 %	
0310	網状赤血球数			12 ※3	自動機械法	0.5~1.5 %	
0313	骨髄像	骨髄穿刺塗抹標本 4~5枚 骨髄圧座標本 1枚 血液塗抹標本 1枚 室温	4~9	788 ※3	ギムザ染色による鏡検法		検査ご依頼の際は、専用の依頼書が必要となりますので事前にお問い合わせ下さい。 ★

アンチ〈藤色栓〉



項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器 検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
	特殊染色標本作成	骨髄塗抹標本 1染色につき 2～3枚 室温	7～12	骨髄血 788 ＋ 特染 各60 ※3			特殊染色：ペルオキシダーゼ染色、PAS染色、鉄染色、エステラーゼ染色、アルカリフォスファターゼ染色。上記以外の染色についてはお問い合わせください。★
		血液塗抹標本 1染色につき 2～3枚 室温		末梢血 25 ＋ 特染 各52 ※3			
0312	鼻汁中好酸球	塗抹標本 1～2枚 室温	1～2	15 ※3	Giemsa 染色鏡検	(－)	塗抹冷風乾燥後1～2枚ご提出ください。
0345	喀痰中好酸球			15 ※3			
0333	マラリア原虫	アンチ 血液 2 冷蔵 及び 塗抹標本 2～3枚 室温		40 ※3		(－)	提出の際はご連絡ください。

末梢血液像について

通常依頼の場合（センターセット内の血液像検査を含む）は自動機械法（15点）で測定、目視指定の場合は鏡検法（25点）で結果報告します。

但し、異常判定の抽出条件で鏡検法の測定が望ましい検体の場合は、その旨を提出医療機関へ連絡します。

＊異常判定の抽出条件

・好中球左方推移
・幼若球（芽球(Blast)様細胞～後骨髄球）の出現
・異型リンパ球の増加
・その他の異常所見を認めた場合



血液学的検査

凝固因子／凝固・線溶

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0321	プロトロンビン時間 (PT・PT-INR)	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.3 凍結	1～2	18 ※3	凝固時間法	時間 10.5～13.5秒 活性値 70～130% 比率 0.85～1.15 INR	【PT-INR】 抗凝固療法の治療管理指標である国際基準比（INR）もご報告いたします。
0322	活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.3 凍結		29 ※3		24.0～34.0 秒	
0323	フィブリノゲン (FIB)	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.3 凍結		23 ※3		150～350 mg/dL	3.2%クエン酸Na採血管に規定量（全量2.0mL）採血してください。
1425	Dダイマー	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.5 凍結	1～2	127 ※3	ラテックス免疫比濁法	1.0以下 μg/mL	
1435	FDP定量：尿 (フィブリン分解産物)	部分尿 (新鮮尿) 2 U90	遠心 → 上清 (部分尿) 0.5 凍結	2～6	77 ※1	LPIA	100以下 ng/mL	専用容器に新鮮尿2.0mL採取してください。 ★
0329	FDP定量：血液 (フィブリン分解産物)	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.3 凍結	2～4	95 ※3	ラテックス免疫比濁法	4以下 μg/mL	
1454	フォンウィルブランド因子抗原定量	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.2 凍結	2～4	147 ※3	ラテックス凝集反応	50～155 %	
1442	フォンウィルブランド因子活性 (リストセチンコファクター)	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.5 凍結	2～4	126 ※3	固定血小板凝集法	60～170 %	
1427	プラスミノゲン	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.5 凍結	2～4	100 ※3	発色性合成基質法	75～125 %	
1429	アンチプラスミン (α_2プラスミンインヒビター)	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.5 凍結	2～4	128 ※3	発色性合成基質法	85～115 %	
0326	アンチトロンビンⅢ (ATⅢ)	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.5 凍結	2～4	70 ※3	発色性合成基質法	79～121 %	3.2%クエン酸Na採血管に規定量（全量2.0mL）採血してください。
1688	C1インアクチベーター活性 (C1エステラーゼインヒビター活性)	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.2 凍結	2～4	253 ※6	発色性合成基質法	70～130 %	
1466	可溶性フィブリンモノマー複合体 (SFMC)	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.4 凍結	2～4	93 ※3	LPIA	7未満 陰性 μg/mL	
1439	フィブリンモノマー複合体定量	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.5 凍結	2～4	215 ※3	ラテックス免疫比濁法	6.1以下 μg/mL	
1430	α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体 (PICテスト)	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.2 凍結	2～4	150 ※3	LPIA	0.8以下 μg/mL	
1428	トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体 (TAT)	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.5 凍結	2～4	166 ※3	CLEIA	3.0以下 ng/mL	★

凝固〈黒色栓〉



スピッツ〈茶色栓〉



FDP（尿用）〈黄色栓〉 U90



◆出血・凝固検査
□の項目について、1回に3項目以上検査を行った場合
(1) 3項目又は4項目……530点
(2) 5項目以上……722点

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器		検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
1451	凝固因子活性検査	第Ⅱ因子(F2)	血液 各2 凝固	遠心	血漿 各0.4 凍結	2～4	223 ※3	凝固時間法	75～135 %	3.2%クエン酸Na採血管に規定量（全量2.0mL）採血してください。
1452		第Ⅴ因子(F5)					223 ※3		70～135 %	
1453		第Ⅶ因子(F7)					223 ※3		75～140 %	
1455		第Ⅷ因子(F8)					223 ※3		60～150 %	
1456		第Ⅸ因子(F9)					223 ※3		70～130 %	
1457		第Ⅹ因子(F10)					223 ※3		70～130 %	
1458		第Ⅺ因子(F11)					223 ※3		75～145 %	
1459		第Ⅻ因子(F12)					223 ※3		50～150 %	
1460		第ⅩⅢ因子(F13)	血液 2 凝固	遠心	血漿 0.4 凍結	2～4	223 ※3	合成基質法	70～140 %	★
1432	プロテインC（抗原量）		血液 2 凝固	遠心	血漿 0.3 凍結	2～4	220 ※3	LPIA	70～150 %	3.2%クエン酸Na採血管に規定量（全量2.0mL）採血してください。 ★
1433	プロテインC活性		血液 2 凝固	遠心	血漿 0.4 凍結	2～4	227 ※3	凝固時間法	64～146 %	
1481	プロテインS（抗原量）		血液 2 凝固	遠心	血漿 0.2 凍結	2～4	152 ※3	ラテックス凝集反応	M：73～137 F：59～143 %	※プロテインS（抗原量）測定対象はトータル（遊離型および複合体型）です。 3.2%クエン酸Na採血管に規定量（全量2.0mL）採血してください。 ★
1434	プロテインS（遊離型抗原量）		血液 2 凝固	遠心	血漿 0.2 凍結	2～4	152 ※3	ラテックス凝集反応	M：50～131 F：49～133 %	
1440	プロテインS活性		血液 2 凝固	遠心	血漿 0.4 凍結	2～4	163 ※3	凝固時間法	M：67～164 F：56～126 %	
1443	トロンボモジュリン		血液 2 スピッツ	遠心	血清 0.4 凍結	2～4	204 ※3	CLEIA	12.1～24.9 U/mL	★

凝固検査の採血量について

○凝固検査の採血では、必ず抗凝固剤と血液の比率を
1：9（抗凝固剤 0.2mL：血液 1.8mL）
にする必要があります。
抗凝固剤と血液との混合比が不適切な場合は
「採血量が規定量より少ない（多い）ため、検査値は不正確です。」
のコメントをつけて結果をお返しいたします。
　また、検査値に大きな影響があると思われる場合は、検体の再提出をお願いいたします。

腫瘍マーカー

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	提出材料 検体量(mL) 提出容器・保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0705	CEA (癌胎児性抗原)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	1~2	99 ※5	CLIA	5.0以下 ng/mL	
0703	AFP (α-フェトプロテイン)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	1~2	98 ※5	CLIA	10.0以下 ng/mL	
2334	AFPレクチン分画 (AFP-L3%)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	185 ※5	LBA(LBA-EATA)法	総AFP 10.0以下 ng/mL AFP-L3 10.0未満 %	★
2321	PIVKA－Ⅱ	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	131 ※5	CLEIA	40未満 mAU/mL	★
0704	CA19－9	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	1~2	121 ※5	CLIA	37以下 U/mL	
2313	エラスターゼ1	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 凍結	2~4	120 ※5	ラテックス免疫比濁法	300以下 ng/dL	
2306	DUPAN-2	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2~4	115 ※5	EIA	150以下 U/mL	
2308	SPan-1	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵	2~4	144 ※5	RIA固相法 (IRMA)	30以下 U/mL	
2311	CA15－3	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2~4	112 ※5	CLEIA	25.0以下 U/mL	
2310	NCC-ST-439	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	112 ※5	EIA	F： 49歳以下 7.0未満 50歳以上 4.5未満 M： 4.5未満 U/mL	
2400	血清HER2タンパク	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	320 ※5	CLIA	15.2以下 ng/mL	
2322	BCA225	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	158 ※5	CLEIA	160未満 U/mL	★
2326	SLX (シアリルLe^{x}-i抗原)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵	2~4	140 ※5	RIA固相法 (IRMA)	38以下 U/mL	溶血でのご依頼は避けてください。 ★
2332	CSLEX (シアリルLe^{x}抗原)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2~8	152 ※5	EIA	8.0未満 U/mL	★
2387	PSA (前立腺特異抗原)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 凍結	1~2	121 ※5	CLIA	4.000以下 ng/mL	前立腺肥大症(BPH) と前立腺癌とのカットオフ値は10.0が推奨されます。
2386	F/T比PSA				150 ※5		17.0以上 % グレーゾーン(4.0~10.0)におけるカットオフ値	F/T比PSAのみの依頼はできません。PSAを同時にご依頼ください。
2388	フリーPSA	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 凍結			CLIA	ng/mL	F/T比PSAの依頼のときに測定いたします。
2327	γ-Sm (γ-セミノプロテイン)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 凍結	2~4	187 ※5	CLEIA	4.0以下 ng/mL	4.0ng/mLは良性疾患との鑑別値です。 ★
2333	血清抗p53抗体	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	163 ※5	CLEIA	1.30以下 U/mL	★
2325	CA125	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2~4	136 ※5	CLEIA	35.0以下 U/mL	★

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	提出材料 検体量(mL) 提出容器・保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
2315	CA72-4	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.5 冷蔵	2～4	146 ※5	ECLIA	10.0以下 U/mL	★
2312	SCC (扁平上皮癌関連抗原)	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.5 冷蔵	2～4	101 ※5	CLEIA	2.5以下 ng/mL	唾液・フケ・皮膚(表皮)・毛髪・爪などの混入により高値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いには十分にご注意ください。★
2328	CYFRA (サイトケラチン19フラグメント)	血液 3 スピッツ	遠心 → 血清 0.8 冷蔵	2～4	154 ※5	CLEIA	3.5以下 ng/mL	検体の混和・攪拌により低値傾向を示す場合がありますので検体の取り扱いにはご注意ください。★
2381	ProGRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)	血液 2 Ⓐ	遠心 → 血漿 0.4 凍結	2～4	175 ※5	CLEIA	81未満 pg/mL	★
2324	NSE (神経特異エノラーゼ)	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.5 冷蔵	2～4	142 ※5	ECLIA	16.3以下 ng/mL	溶血の場合、赤血球からNSEが逸脱して高値になります。★
2314	BFP (塩基性フェトプロテイン)	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.3 冷蔵	2～8	150 ※5	EIA	75未満 ng/mL	溶血でのご依頼は避けてください。★
3207	可溶性IL-2レセプター (sIL-2R)	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.5 冷蔵	2～4	438 ※5	CLEIA	157～474 U/mL	
2398	ICTP (Ⅰ型コラーゲンC末端テロペプチド)	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.3 冷蔵	2～4	170 ※5	RIA2抗体法	4.5未満 ng/mL	★
2343	尿中BTA	部分尿 10 滅菌ポリスピッツ	尿 1.5 冷蔵	2～4	80 ※5	ラテックス凝集試験法	(－)	採尿時発泡性プラスチックコップ禁止 48時間以上経過した場合は測定値に影響を与えることがあります。★

◆腫瘍マーカー

□の項目について、1回に2項目以上検査を行った場合

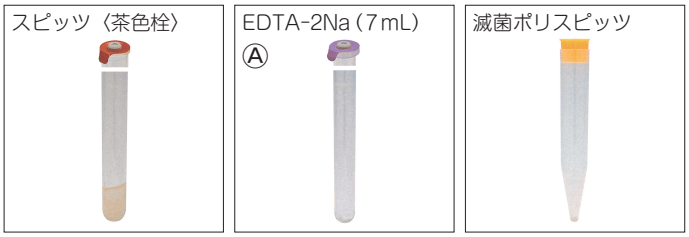
(1) 2項目……230点
(2) 3項目……290点
(3) 4項目以上…385点

スピッツ茶色栓項目採血量目安
1～2項目：3～5mL
3～6項目：5～7mL
7項目以上：9mL

※腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に1回を限度として算定する。
悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ、腫瘍マーカーは、原則として、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できない。ただし、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。

▼別途算定可能な場合

ア．急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のために、エラスターゼ1を行った場合
イ．肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、AFP、PIVKAⅡ半定量又は定量を行った場合（月1回に限る）
ウ．子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的として、CA125又はCA602を行った場合（診断又は治療前及び治療後の各1回に限る）
エ．家族性大腸腺腫症の患者に対して、CEAを行った場合



免疫学的検査

感染症

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0405	寒冷凝集反応	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.3 冷蔵	3~5	11 ※6	HA	256未満 倍	血清分離までは37℃保存 ★
0403	ASO (抗ストレプトリジンO)	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.6 冷蔵	2~4	15 ※6	ラテックス凝集免疫法	239以下 IU/mL	★
1360	プロカルシトニン (PCT)	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.4 凍結	2~4	276 ※4	CLEIA	0.05以下 ng/mL	敗血症（細菌症）鑑別診断のカットオフ値：0.50未満 敗血症（細菌症）重症度判定のカットオフ値：2.00以上 ★
1536	(1→3)-β-Dグルカン	血液 2 (PE2)	血液 2 (PE2) 冷蔵	2~4	190 ※6	発色合成基質法	20.0以下 (カットオフ値) pg/mL	20pg/mLは、深在性真菌症のカットオフ値です。エンドトキシン以外の項目との重複依頼は避けてください。 専用容器に採血し、よく混和させ、速やかに冷蔵保存にてご提出ください。 ★
1538	エンドトキシン定量				229 ※6	比濁時間分析法	1.0以下 (カットオフ値) pg/mL	1.0pg/mLは、グラム陰性菌による敗血症診断のカットオフ値です。1.1pg/mL以上は、グラム陰性菌による敗血症の疑いがあります。 専用容器に採血し、よく混和してください。室温保存ではデータ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存してください。 ★
1554	アスペルギルス抗原	血液 3 スピッツ	遠心 → 血清 1.0 冷蔵	2~4	157 ※6	ELISA	0.5未満　陰性	判定基準 0.5未満　陰性（−） 0.5以上　陽性（+） ★
1575	クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	血液 3 スピッツ	遠心 → 血清 0.8 冷蔵	2~4	164 ※6	ラテックス凝集反応	陰性	★
2175	百日咳抗体 (EIA)	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.2 冷蔵	2~4	250 ※6	EIA	PT-IgG　10未満 FHA-IgG 10未満 EU/mL	★
1794	百日咳抗体IgA	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.2 冷蔵	2~4	80 ※6	ELISA	8.5未満 陰性 判定基準：下記参照	★
1797	百日咳抗体IgM							
3870	百日咳菌DNA	ARR	後鼻腔ぬぐい液 凍結	2~4	360 ※7	LAMP	陰性	後鼻腔ぬぐい液は、フロックスワブで採取し、ARRにスワブを入れてご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。 ★

スピッツ〈茶色栓〉



ARR

滅菌喀痰容器



エンドトキシン・(PE2) β-Dグルカン



〔1794〕百日咳抗体IgA
〔1797〕百日咳抗体IgM } **の判定基準**

NTU値	判定
＜8.5	陰性（−）
8.5~11.5	判定保留（±）※
＞11.5	陽性（+）

※2～4週間後に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
3638	トリコスポロン・アサヒ抗体		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 凍結	7~14	798 ※6	Antigen-captured ELISA	0.15未満 (CAI)	判定基準 0.15未満 陰性 0.15~0.30未満 判定保留 0.30以上 陽性 ★
1505	トキソプラズマ抗体	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.3 冷蔵	2~4	93 ※6	ELISA	6未満 IU/mL	判定基準 6未満 陰性 6~8 判定保留 9以上 陽性 ★
1506		IgM				95 ※6		0.8未満 Index	判定基準 0.8未満 陰性 0.8~0.9 判定保留 1.0以上 陽性 ★
0406	マイコプラズマ抗体価（PA）		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵	2~4	32 ※6	PA	40未満 倍	髄液の測定も可能です。 検体量 0.4mL 基準値 設定なし ★
1507	マイコプラズマ抗体価（CF）		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	6~7		CF	4未満 倍	※CF ★
2169	マイコプラズマニューモニエDNA		ARR	咽頭ぬぐい液 凍結	2~4	291 ※7	LAMP法	陰性	咽頭ぬぐい液は、滅菌綿棒で拭い、ARRに綿棒を入れてご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。 ★
2170			滅菌 喀痰容器	喀痰 2 凍結					
1546	ツツガムシカトー	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	3~6	203 ※6	FA	10未満 倍	感染の有無はペア血清で判断してください。 ★
1547		IgM							
1548	ツツガムシカープ	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	3~6	203 ※6			
1549		IgM							
1550	ツツガムシギリアム	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	3~6	203 ※6			
1551		IgM							
1565	クラミジアトラコマティス抗体	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	2~4	200 ※6	EIA	0.90未満（−）	判定基準 0.90未満 (−) 0.90~1.09 (±) 1.10以上 (+) ★
1567		IgA							
1591	クラミドフィラニューモニエ抗体	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	2~4	70 ※6	ELISA	30未満（−）	判定基準：下記参照 ★
1593		IgA				75 ※6		8未満（−）	
1559		IgM				152 ※6		0.5未満（−）	
1570	オーム病（クラミドフィラシッタシ）		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	6~7	79 ※6	CF	4未満 倍	※CF ★

※CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかにご提出ください。（髄液の測定も可能です　検体量　各0.4mL　基準値　1倍未満）

クラミドフィラニューモニエ抗体判定基準

判定	〔1591〕IgG EIU値	〔1593〕IgA EIU値	〔1559〕IgM S/CO値
−	EIU < 30	EIU < 8	S/CO < 0.5
±	30 ≦ EIU ≦ 45	8 ≦ EIU ≦ 12	0.5 ≦ S/CO ≦ 1.1
+	EIU > 45	EIU > 12	S/CO > 1.1

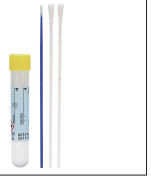
スピッツ茶色栓項目採血量目安
1~2項目：3~5mL
3~6項目：5~7mL
7項目以上：9mL

免疫学的検査

感染症

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
2139	クラミジア トラコマティス 増幅同定 (PCR)	専用容器 (V50)	分泌物 適量 室温	2~4	188 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	(−)	採取方法はP63参照ください。 ★
2141		専用容器 (U10)	部分尿 5 室温					
2140		専用容器 (U10)	うがい液 5 室温					
2135	淋菌 増幅同定 (PCR)	専用容器 (V50)	分泌物 適量 室温	2~4	198 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	(−)	採取方法はP63参照ください。 ★
2136		専用容器 (U10)	部分尿 5 室温					
2134		専用容器 (U10)	うがい液 5 室温					
3381	淋菌および クラミジア トラコマティス 同時同定 (PCR)	専用容器 (V50)	分泌物 適量 室温	2~4	262 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	淋菌 (−) クラミジア (−)	採取方法はP63参照ください。 ★
3384		専用容器 (U10)	部分尿 5 室温					
3387		専用容器 (U10)	うがい液 5 室温					
3354	膣トリコモナスおよび マイコプラズマ ジェニタリウム 同時核酸検出 (PCR)	専用容器 (V50)	分泌物 適量 室温	2~4	350 ※7	PCR (リアルタイムPCR)	膣トリコモナス 陰性 マイコプラズマ ジェニタリウム 陰性	採取方法はP63参照ください。 ★
3357		専用容器 (U10)	部分尿 5 室温					

淋菌およびクラミジア (V50) 同時同定 (PCR法)

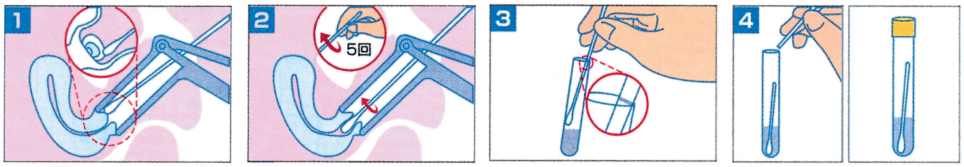


淋菌およびクラミジア (U10) 同時同定 (PCR法)

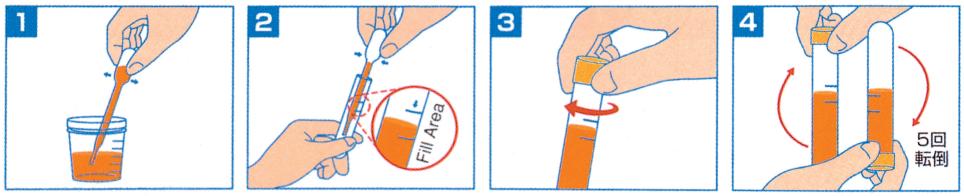


●淋菌およびクラミジアトラコマティス同時同定（リアルタイムPCR）
●クラミジア・トラコマティス増幅同定（リアルタイムPCR）
●淋菌増幅同定（リアルタイムPCR）
●膣トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出（リアルタイムPCR）

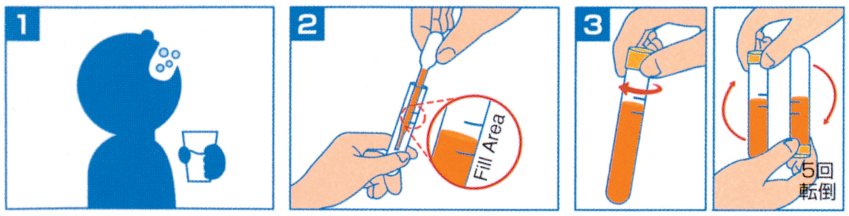
[2135・2139・3381・3354]
①スワブ検体採取セット付属の１本目のスワブで子宮頸管とその周辺部の過剰な粘液を充分拭い取ります。
②付属されている２本目のスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと５回スワブを回します。
③専用容器のキャップを開け、採取したスワブの先端の綿球が容器内の溶液に漬からないように注意しながら入れ、柄につけられた黒い線を専用容器の縁に合わせます。
④専用容器の縁を利用して、スワブの柄につけられた線で折り入れキャップをしっかり閉め、室温保存にて提出してください。



[2136・2141・3384・3357]
●尿検体からの採取
最後の排尿から少なくとも１時間以上経過後の初尿を採取してください。
①滅菌済みカップに初尿を採取し、滅菌済みスポイトを用いて初尿を専用容器に移します。
②専用容器に記載されている２つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。
③専用容器のキャップをしっかりと閉めてください。
④専用容器を５回転倒混和して室温にて提出してください。



[2134・2140・3387]
●うがい液検体からの採取
検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けてください。
①滅菌生理食塩水をカップに15～20mL入れ口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよくうがいを行ないます。
②うがい液全量をコップに回収し、スポイトで専用容器に記載されている２つのラインの間に収まるように添加します。
③専用容器のキャップをしっかりと閉め、５回転倒混和して室温保存にて提出してください。



免疫学的検査

感染症

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0411	RPR（定性）	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.3 冷蔵	1~2	15 ※6	炭素凝集法	（−）	
0413	TP抗体定性（CLIA）	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.3 冷蔵	1~2	32 ※6	CLIA		
0412	RPR（定量）	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.3 冷蔵	1~2	34 ※6	炭素凝集法	1未満 倍	
1499	梅毒定量 TP抗体	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.3 冷蔵	2~4	53 ※6	ラテックス比濁法	5未満 U/mL	判定基準 5未満　陰性 5～9　判定保留 10以上　陽性 ★

梅毒スクリーニング検査の結果の解釈

RPR	TP抗体	結果の解釈
（−）	（−）	・非梅毒 ・感染後極めて早期（2－3週以内）
（+）	（−）	・生物学的偽陽性
（+）	（+）	・梅毒感染
（−）	（+）	・梅毒治癒後（治療の必要なし） ・感染後極めて早期（2－4週後）

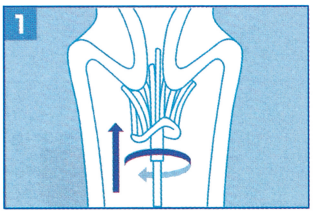
梅毒感染初期が疑われる場合は2～3週間後に再検査する。

スピッツ〈茶色栓〉

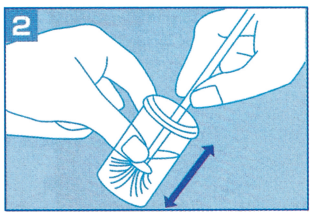


項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
2181	サイトメガロウイルス pp65抗原（C7-HRP）	血液 7 Ⓐ	血液 3 室温	2～4	356 ※6	直接酵素抗体法	陰性	受託可能日は月～金曜日です。血液は採取後、速やかにご提出ください。採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。★
2196	ヒトパピローマウイルス（HPV）DNA（16型、18型、その他ハイリスクグループ）	専用容器 V41	子宮頸部 室温	2～4	347 ※7	PCR（リアルタイムPCR）	16型 陰性 18型 陰性 その他ハイリスクグループ 陰性	測定対象は16型、18型、その他ハイリスクグループ（31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型および66型）です。「その他ハイリスクグループ」については、型別の判定ではありません。必ず専用容器で採取してご提出ください。★
3802	ヒトパピローマウイルス（HPV）ジェノタイプ判定	専用容器 V41	子宮頸部 室温	4～6	2000 ※7	PCR-rSSO法	検出せず	検出可能な型は16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型です。本検査はあらかじめ組織診断によりCIN1またはCIN2と診断された患者から採取された検体を専用容器(V41)でご提出ください。★

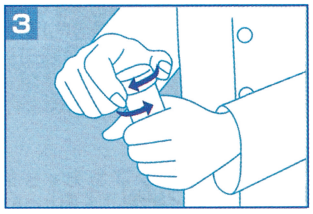
〈婦人科検体・HPV〉採取方法



①子宮頸部の細胞を採取する。
綿棒以外の採取器具（ブラシ、スパーテル）を用いて細胞を採取して下さい。



②細胞を洗い落とす。
採取器具を容器に入れ、容器の底で採取器具の先端が広がるように10回程度押し付けた後、強くかき回して採取した細胞を洗い落としてください。



③しっかりフタを閉める。
採取器具を取り出し、しっかり蓋をして検体を常温保存してください。
（注）採取器具の先端は容器に残さないでください。

［ご注意］
妊婦より細胞を採取する場合は、安全性を考慮し、ブラシ等の採取用具の使用は避け、綿棒を使用してください。ただし、綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために、採取前に別の綿棒で粘膜を除去し、採取に使用した綿棒を保存液中で十分にすすぎ、採取した細胞を洗い落としてください。容器には綿棒の先端を残さないで常温保存してください。また、綿棒では無理な力がかかりますと折れる可能性がありますので、十分にご注意ください。

LBC・HPV
V41



EDTA-2Na（7mL）
Ⓐ



免疫学的検査
ウイルス感染症

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
1807	インフルエンザ	A型	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.3 冷蔵	6～7	79 ※6	CF	4未満 倍	※CF ★
1808		B型				79 ※6			
1851	インフルエンザ	A型 (H1N1) (H3N2)	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	3～5	79 ※6	HI	10未満 倍	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。ワクチン製造時の流行予測株にあわせて株を自動的に選択し、ご報告します。（髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL 基準値 10倍未満） ★
1848		B型				79 ※6			
1871	パラインフルエンザ	1型	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	3～5	79 ※6	HI	10未満 倍	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。（髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL 基準値 10倍未満） ★
1872		2型				79 ※6			
1873		3型				79 ※6			
1806	アデノウイルス		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	6～7	79 ※6	CF	4未満 倍	※CF ★
1809	RSウイルス		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	6～7	79 ※6	CF		
1813	日本脳炎		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	6～7	79 ※6	CF		
1884	日本脳炎（JaGAr株）		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	4～7	79 ※6	HI	ジャガー 10未満 ジャガー 2ME10未満 倍	髄液の測定も可能です。検体量 1.0mL 基準値 10倍未満 ★
2103	単純ヘルペス特異抗原		V30	塗抹標本 2枚 凍結	2～4	180 ※6	FA	HSV 1型（－） HSV 2型（－）	抗原検査採取セットを準備しております。ご連絡ください。 ★
1801	単純ヘルペス（HSV）		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	6～7	79 ※6	CF	4未満 倍	※CF ★
2003	単純ヘルペス（HSV）	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	2～4	200 ※6	EIA	2.0未満 陰性 判定基準：下記参照	髄液の測定も可能です。検体量 0.4mL 判定基準 下記参照 ★
2006		IgM						0.80未満 陰性 判定基準：下記参照	髄液の測定も可能です。検体量 0.4mL 基準値 0.80未満 陰性 ★

〔2006〕単純ヘルペスウイルスIgM
〔2003〕単純ヘルペスウイルスIgG
の判定基準

判定	IgM（抗体指数）	IgG（EIA価）	
		血清	髄液
－	0.80未満	2.0未満	0.20未満
±	0.80～1.20	2.0～3.9	0.20～0.39
＋	1.21以上	4.0以上	0.40以上

依頼方法および結果解釈

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期（発病後早期）および回復期（発病後2～3週間）の血清をペアで依頼してください。

なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が4倍（2管差）以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

※CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかにご提出ください。（髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL 基準値 1倍未満）

抗原検査採取セット V30



スピッツ（茶色栓）



項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
1802	水痘・帯状ヘルペス(VZV)		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	6~7	79 ※6	CF	4未満 倍	※CF ★
1985	水痘・帯状ヘルペス(VZV)	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	2~4	200 ※6	EIA	2.0未満 陰性 判定基準：下記参照	髄液の測定も可能です。 検体量 各0.4mL 基準値 IgG 0.20未満 陰性 IgM 0.80未満 陰性 ★
1988		IgM						0.80未満 陰性 判定基準：下記参照	
1997	麻疹	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	2~4	200 ※6	EIA	2.0未満 陰性 判定基準：下記参照	髄液の測定も可能です。 検体量 各0.4mL 基準値 IgG 0.20未満 陰性 IgM 0.80未満 陰性 ★
2000		IgM						0.80未満 陰性 判定基準：下記参照	
1810	ムンプス		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	6~7	79 ※6	CF	4未満 倍	※CF ★
2017	ムンプス	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	2~4	200 ※6	EIA	2.0未満 陰性 判定基準：下記参照	髄液の測定も可能です。 検体量 各0.4mL 基準値 IgG 0.20未満 陰性 IgM 0.80未満 陰性 ★
2020		IgM						0.80未満 陰性 判定基準：下記参照	
0409	風疹		血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	3~5	79 ※6	HI	8未満 倍	髄液の測定も可能です。 検体量 0.4mL 基準値 1倍未満 ★
1991	風疹	IgG			2~4	200 ※6	EIA	2.0未満 陰性 判定基準：下記参照	髄液の測定も可能です。 検体量 各0.4mL 基準値 IgG 0.20未満 陰性 IgM 0.80未満 陰性 ★
1994		IgM						0.80未満 陰性 判定基準：下記参照	

〔2000、1997〕麻疹ウイルス
〔2020、2017〕ムンプスウイルス
〔1994、1991〕風疹ウイルス
〔1988、1985〕水痘・帯状ヘルペスウイルス
の判定基準

判定	IgM（抗体指数）	IgG（EIA価）
−	0.80未満	2.0未満
±	0.80~1.20	2.0~3.9
＋	1.21以上	4.0以上

〈ウイルス抗体価〉（定性・半定量・定量）
＊同一検体についてウイルス抗体価の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。
＊ウイルス抗体価に当たって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

〈グロブリンクラス別ウイルス抗体価〉
＊同一検体についてグロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。
＊グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。
＊同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
＊ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
＊ヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

1）ヘルペスウイルス　2）風疹ウイルス　3）サイトメガロウイルス　4）EBウイルス
5）麻疹ウイルス　6）ムンプスウイルス　7）ヒトパルボウイルスB19　8）水痘・帯状疱疹ウイルス

免疫学的検査
ウイルス感染症

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
1953	EBV	抗VCA IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	3～5	200 ※6	FA	10未満 倍	出発希釈 10倍 ★
1955		抗VCA IgM							
1954		抗VCA IgA				79 ※6			
1956		抗EA-DR IgG				200 ※6			
1957		抗EA-DR IgA				79 ※6			
1959		抗EBNA							
2047		抗VCA IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	2～4	200 ※6	EIA	0.5未満 陰性 判定基準：下記参照	★
2045		抗VCA IgM							
2043		抗EA IgG							
2041		抗EBNA IgG							
1805	サイトメガロ(CMV)		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	6～7	79 ※6	CF	4未満 倍	※CF ★
2451	サイトメガロ(CMV)	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.5 冷蔵	2～4	200 ※6	CLIA	6.0未満 陰性 (AU/mL) 判定基準：下記参照	★
2454		IgM						0.85未満 陰性 (Index) 判定基準：下記参照	
2121	ヒトパルボB19	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	2～4		EIA	0.80未満 陰性 判定基準：下記参照	★
2123		IgM				200 ※6			

〔2047〕EBウイルス 抗VCA IgG
〔2045〕EBウイルス 抗VCA IgM
〔2043〕EBウイルス 抗EA IgG
〔2041〕EBウイルス 抗EBNA IgG
の判定基準

判定	抗体指数
−	0.5未満
±	0.5～0.9
＋	1.0以上

〔2123、2121〕ヒトパルボウイルスB19（判定基準）

判定	抗体指数
−	0.80未満
±	0.80～0.99
＋	1.00以上

〔2451、2454〕サイトメガロウイルスの判定基準

判定	IgG（AU/mL）	IgM（Index）
−	6.0未満	0.85未満
±		0.85～1.00未満 ※2
＋	6.0以上 ※1	1.00以上

※1：6.0～15.0AU/mLの結果値の際には、適切な期間（例：2週間）内に再採取し、再検査をお勧めします。
※2：判定保留の際には、適切な期間（例：2週間）内に再採取し、再検査をお勧めします。

※CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかにご提出ください。（髄液の測定も可能です 検体量 各0.4mL 基準値 1倍未満）

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
	コクサッキーA群	2型	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	7~20	79 ※6	NT (中和反応)	4未満	※CF
1911		3型							
1912		4型							
1924		5型							
1913		6型							
1914		7型							
1915		9型							
1826			血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	6~7		CF		
1916		10型	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	7~20		NT	倍	
1917		16型							
1918	コクサッキーB群	1型	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.2 冷蔵	7~20		NT	4未満	髄液の測定も可能です。 検体量　各0.4mL 基準値　1倍未満
1919		2型							
1920		3型							
1921		4型							
1922		5型							
1923		6型							
1828		1型	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.3 冷蔵	6~7		CF		
1829		2型							
1830		3型							
1831		4型							
1832		5型							
1833		6型						倍	★

〈ウイルス抗体価〉（定性・半定量・定量）
＊同一検体についてウイルス抗体価の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。
＊ウイルス抗体価に当たって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

〈グロブリンクラス別ウイルス抗体価〉
＊同一検体についてグロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。
＊グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。
＊同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
＊ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
＊ヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

1）ヘルペスウイルス　2）風疹ウイルス　3）サイトメガロウイルス　4）EBウイルス
5）麻疹ウイルス　6）ムンプスウイルス　7）ヒトパルボウイルスB19　8）水痘・帯状疱疹ウイルス

スピッツ〈茶色栓〉



免疫学的検査
ウイルス感染症検査（参考資料）

ウイルス抗体検査法の特徴

検査方法	特　　徴
補体結合反応（CF）	・群特異性が高い　・比較的早期に抗体消失 ・感染スクリーニング用
赤血球凝集抑制反応（HI）	・型特異性が高い ・早期に抗体が上昇、持続する
蛍光抗体法（FA）	・抗体分画が可能
中和反応（NT）	・型特異性が高い
酵素免疫測定法（EIA）	・抗体分画が可能　・定量的データ ・他法に比して高感度
受身凝集反応（PA）	・高感度
ウエスタンブロット法（WB）	・特異性が高い　・確認試験

検出抗体の性質

性質／抗体	動　　態	抗ウイルス抗体活性	補体結合能	胎盤移行性
IgM	早期産生されるが短期間で消失	＋	＋	－
IgG	IgMに遅れて出現。漸減しながら長期間持続	＋	＋	＋
IgA	IgMより多少遅れて出現するがIgMより長期間検出可能。	＋	－	－

抗体価の解釈

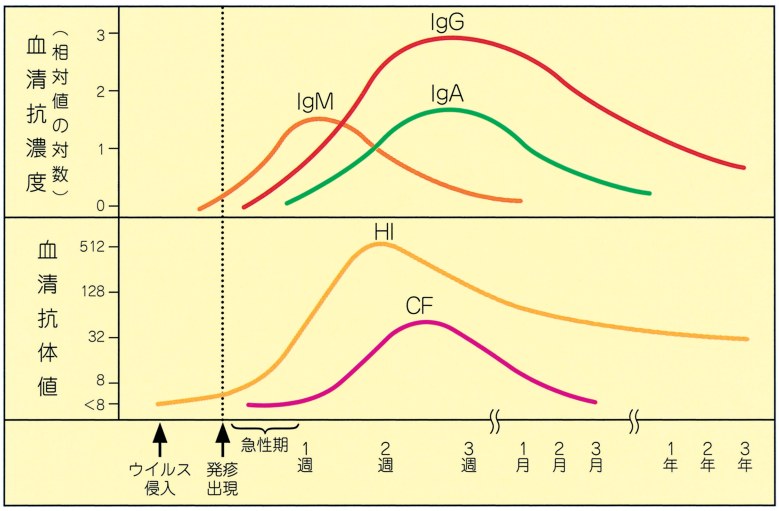
1．ウイルス血清抗体価には正常値という概念はありません。
2．ウイルス感染後に産生される抗体の検出は、過去にそのウイルスに感染したことを回顧的に示すだけで、現在の状態を必ずしも反映してはいません。
3．抗体価は感染直後に高く、以後下降するパターンを示しますが、個体差や測定のバラツキにより単一の血清の抗体価の高低で感染の有無を判定できない場合が多いといえます。
4．ウイルス感染後の抗体応答パターン、各検査法の特徴、検査意義を理解し、目的に応じた検査法を選択する必要があります。
5．急性期（発病後早期）と回復期（発病後14～21日）のペア血清の抗体価が4倍以上上昇した場合有意と判断しそのウイルスの感染を推定します。ただし、治療にγグロブリンを投与した場合の抗体価の上昇は、必ずしも有意とは考えられません。

目的別検査法選択のめやす

検査法の特徴により目的に合った検査の選択が必要です。自然感染では感染初期に応答するIgM抗体の検出やペア血清による抗体上昇をみることが有用です。

また、既往の有無やワクチンの効果判定にはEIAによるIgG抗体の検査が有用です。

ペアー血清検査はなぜ必要か
―風疹ウイルス感染後の抗体応答例―



	自然感染	既往の有無	ワクチン効果判定
麻疹	HI,NT,EIA(IgM)(IgG)	NT,EIA(IgG)	NT,EIA(IgG)
風疹	HI,EIA(IgM)(IgG)	HI,EIA(IgG)	HI,EIA(IgG)
ムンプス	CF,HI,NT,EIA(IgM)(IgG)	EIA(IgG)	NT,EIA(IgG)
水痘	CF,EIA(IgM)(IgG)	EIA(IgG)	EIA(IgG)
日本脳炎	HI,CF		HI
インフルエンザ	CF,HI		HI

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0314	ABO式血液型	血液 5 輸血用	血液 冷蔵	1~2	39 ※6	カラム凝集法		生後1歳未満の乳幼児の場合はオモテ試験のみ実施いたしますので毛細管採血（2～3本）でも検査可能です。
0315	Rh式血液型	血液 5 輸血用	血液 冷蔵		39 ※6	カラム凝集法		
0316	直接クームス	血液 2 アンチ	血液 室温		34 ※6	試験管法	(－)	
0317	間接クームス	血液 5 輸血用	血液 冷蔵		47 ※6	カラム凝集法	(－)	
0318	不規則抗体	血液 5 輸血用	血液 冷蔵		174 ※6*	カラム凝集法	(－)	
0391 ～ 0395	交差適合試験（クロスマッチ）	下記参照	血液 冷蔵	1~2		試験管法（生食法 クームス法）	適合	下記参照

ABO式血液型：生後1歳未満の乳幼児の場合は、抗A・抗B抗体の産生が不十分なため、オモテ試験のみのご報告となります。
成長後の再検査をお勧めいたします。
＊手術に際して輸血が行われた場合は、本検査又はK920輸血の「注6」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。

●不規則抗体検査について

〈スクリーニング〉

LISS-クームス法	(－)	(－)	(＋)	(＋)
Fisin 2段法	(－)	(＋)	(－)	(＋)

パネルセルによる同定検査

〈結果〉 (－) 別紙報告

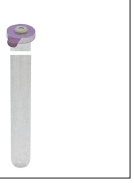
1．不規則抗体は、カラム凝集法にて、酵素法（Fisin 2段法）・LISS-クームス法を実施しています。

2．本検査は37℃で反応する血清中の不規則抗体の検出を目的としています。

●交差適合試験について

1．ご依頼時、当センターに予約電話（☎0952-37-3302：臨床検査渉外課・臨床検査課）をお願いします。
2．検査には、専用依頼書と以下の検体が必要です。
①患者（受血者）血液：輸血検査用黄色栓（EDTA-2Na 添加）採血　5 mL
②輸血バッグのセグメントチューブ（血液）：1バッグにつき2～3本
※必ずセグメントチューブにシールを添付してください。
※輸血バッグ本体は、貴施設で保管をお願いします。
3．輸血前検査として、ABO式血液型・Rh式血液型及び不規則抗体検査をあらかじめ検査されることをお勧めします。
4．血液型検査と交差適合試験の検体は、検体取違いによる過誤輸血を予防するため、異なる時点で採血した別検体をご提出ください。
5．検査時間は、当センターに検体到着後、約2時間程度要します。
6．検体搬送については、原則的には病医院からの直接持込みをお願いします。
直接お持込みができない場合は、当センターの集配便をご利用ください。なお、集配コースの途中での回収となりますので、センター到着に時間を要する場合があります。

アンチ〈藤色栓〉



輸血関連検査



免疫学的検査
肝炎ウイルス関連

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0431	HBs抗原（定性）	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	1～2	29 ※6	CLIA	（－）	
0436	HBs抗原	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵		88 ※6	CLIA	0.05未満（－） 0.05以上（＋） IU/mL	
0432	HBs抗体価（定性）	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵		32 ※6	CLIA	（－）	
0437	HBs抗体価	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵		88 ※6	CLIA	10.0未満（－） 10.0以上（＋） mIU/mL	10.0mIU/mLは、HBVワクチンの再接種基準のためのカットオフ値です。（最小防衛抗体価）
0453	HBe抗原	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2～4	98 ※6	CLEIA	1.0未満　陰性 1.0以上　陽性 C.O.I	★
0456	HBe抗体価	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.7 冷蔵		98 ※6	CLEIA	陰性：INHIBITION　60未満 陽性：INHIBITION　60以上 %	★
0440	HBc抗体価	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	1～2	130 ※6	CLIA	1.00未満（－） 1.00以上（＋） S/CO	S/CO値10.00以上の時は高力値
0442	IgM-HBc抗体価	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2～4	146 ※6	CLIA	1.00未満（－） 1.00以上（＋） S/CO	★
3880	HBV-DNA定量（リアルタイムPCR）	血液 5 S5F	遠心 血清 1.8 S5F 冷蔵	3～5	256 ※7	PCR（リアルタイムPCR）	検出せず Log IU/mL	他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 注①　★
3857	HBVゲノタイプ（EIA）	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.6 冷蔵	2～4	340 ※6	EIA		HBs抗原量の少ない検体は、判定保留となる場合があります。 ★
2054	B型肝炎ウイルスコア関連抗原（HBcrAg）	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2～5	246 ※6	CLEIA	2.1未満 Log U/mL	★

◆肝炎ウイルス関連検査
□の項目について、1回に3項目以上検査を行った場合
(1)　3項目……290点
(2)　4項目……360点
(3)　5項目以上…425点

〔3880〕HBV-DNA定量の結果の解釈について（注①）

結果【LogIU/mL】	ウイルスの有無	結果の意味合い
9.1以上	＋	測定上限を超える量のウイルスがいます
1.0～9.0	＋	ウイルス量が測定できました
1.0未満	＋	極めて少ないウイルスが存在します
検出せず	－	ウイルスは検出されませんでした

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
2051	HA抗体価	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2~4	146 ※6	CLIA	1.00未満（−） 1.00以上（+） S/CO	★
0443	IgM-HA抗体価	血清 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	2~4		CLIA	0.80未満（−） 0.80~1.20（±） 1.21以上（+） S/CO	＊下記参照 ★
0446	HCV抗体価	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	1~2	102 ※6	CLIA	1.00未満 S/CO	
2098	HCV抗体価（第3世代）	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.7 冷蔵	1~2	102 ※6	CLEIA	1.0未満 COI	不活化（非働化）検体は偽陽性を呈する場合がありますので避けてください。
2073	HCV抗原（HCVコア蛋白）	血液 3 スピッツ	遠心 血清 0.8 冷蔵	2~4	102 ※6	CLIA	3.0未満（定量下限値） fmol/L	★
2075	HCV群別（グルーピング）	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	215 ※6	CLEIA	（グループ）	★
2061	HCV-RNA定量（リアルタイムPCR）	血液 5 (S5F)	遠心 血清 1.8 (S5F) 冷蔵	3~5	412 ※7	RT-PCR（リアルタイムPCR）	検出せず Log IU/mL	他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱いに十分ご注意ください。注② ★
2078	HCV RNA コアジェノタイプ	血液 5 (S5F)	遠心 血清 0.5 (S5F) 冷蔵	5~7		RT-PCR	検出せず	他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱いに十分ご注意ください。 ★

◆肝炎ウイルス関連検査
□の項目について、1回に3項目以上検査を行った場合
(1) 3項目……290点
(2) 4項目……360点
(3) 5項目以上…425点

＊結果において、0.80~1.20（±）を示した場合、IgM型HAV抗体レベルが上昇を示すか（急性A型肝炎初期）、またはIgM型HAV抗体レベルが下降もしくは変化を示さないか（肝炎の回復期）を判断するために、経過観察（約1週間間隔）を行うことが望ましい。
肝炎ウイルス検査について、P74~75もご参照ください。

〔2061〕HCV-RNA定量の結果の解釈について（注②）

結果【Log IU/mL】	ウイルスの有無	結果の意味合い
8.0以上	+	測定上限を超える量のウイルスがいます
1.2~7.9	+	ウイルス量が測定できました
1.2未満	+	極めて少ないウイルスが存在します
検出せず	−	ウイルスは検出されませんでした

スピッツ（茶色栓）


EDTA-2Na（7mL）Ⓐ


HBV-DNA専用容器
HCV-RNA専用容器
(S5F)


免疫学的検査
肝炎ウイルス関連(参考資料)

HCV感染の診断について

HCV抗体は宿主側の免疫応答により産生されている抗体で、HCV抗体が陽性であっても現在の感染を反映しているとは限りません。

また、HCV抗体の陽性化には感染後1～3カ月かかる（ウインドウ期）ことから、HCV感染の有無を確認する場合には、HCV抗体の検査結果のみにより行わず、HCV抗原（コア蛋白質）やHCV-RNA検査の結果や臨床経過を考慮して総合的に判断する必要があります。

HBV感染の診断について

HBV感染の診断には、検出感度の高いEIAや化学発光法などを用いたHBs抗原の測定が有用ですが、HBV感染直後はウイルス量が極めて少なく、どのような高感度の検査試薬を用いてもウイルスを確認できません。この時期はウインドウ期と呼ばれており、ウインドウ期に採取された血液では、HBs抗原が必ず検出されるとは限りません。

また、まれにHBV持続感染者でHBs抗原が陰性化することや、急性肝炎においてHBs抗原が初診時既に陰性化している症例も存在します。さらに、HBs抗原のエスケープ変異株により抗原活性が低下した場合などでもHBs抗原が検出されないことがあります。

これらのことから、HBV感染の有無を確認する場合には、HBs抗原の検出結果のみにより行わず、他のHBV関連検査の結果や臨床経過を考慮して総合的に判断する必要があります。

カットオフ値付近におけるデータ解釈について

従来の測定法では陰性・陽性の判定に加え判定保留域が設定されていましたが、最近の検査方法では高感度化に伴い判定保留域の設定が無くなりつつあります。

高感度化により抗原および抗体の検出感度は向上しましたが、感染初期においてはウインドウ期が存在することから、HBs抗原やIgM-HBc抗体などでは、判定の基準となるカットオフ値付近で陰性となる場合も考えられます。

これらのことから、陰性・陽性の判定結果のみならず、判定の基準となるカットオフ値付近におけるデータ解釈については、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的に判断する必要があります。

HBs抗体〔CLIA〕の基準値設定について

本測定法における基準値は、HBs抗体の陰性・陽性のための判定値ではなく、HBVワクチンの再接種基準とされている抗体価をカットオフ値（10.0mIU/mL）として設定しています（最小防衛抗体価）。

欧米ではHBVワクチンの追加接種の目安として10.0mIU/mLが広く用いられていますが、日本肝臓学会では100mIU/mL未満としています。

なお、本抗体価が10.0mIU/mL未満であっても抗体の存在を否定するものではありません。

HBc抗体〔CLIA〕について

従来の競合法によるHBc抗体の検出は、その測定原理上、高抗体価の場合に十分な測定レンジが得られないことから、200倍希釈による測定を行うことにより、HBc抗体の力価判定を行っていました。

近年、HBc抗体の測定法としてサンドイッチ法が開発され、競合法と比べて測定レンジが広いことから、希釈測定をすることなくHBc抗体の高力価と低力価の判定が可能とされ、S/CO（Sample/Cut Off）値10.00以上がHBc抗体高力価の目安であるとされています。

ただし、HBc抗体力価によるHBVキャリアの判定には限界があることから、HBVキャリアの診断には、HBs抗原やHBV-DNAなどの検査結果や臨床経過を考慮して総合的に判断する必要があります。

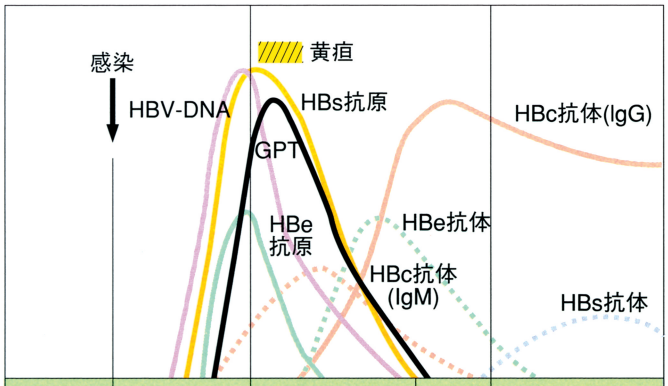
●肝炎ウイルスマーカーの選択基準

	急性肝炎の型別診断	B型急性肝炎 経過観察	B型急性肝炎 治癒判定	C型急性肝炎 経過観察	C型急性肝炎 治癒判定	慢性肝炎の型別診断	B型慢性肝炎 経過観察	B型慢性肝炎 急性増悪時	B型慢性肝炎 抗ウイルス療法時	B型無症候性キャリアの経過観察	C型慢性肝炎 経過観察	C型慢性肝炎 抗ウイルス療法時	HBワクチン 接種対象者選別	集検・ドック等スクリーニング	入院時のスクリーニング
IgM-HA抗体	◎														
HBs抗原	◎	◎	◎			◎	○	○	○	○			◎	◎	◎
HBs抗体			◎										◎		○
HBc抗体													○		○
IgM-HBc抗体	◎							◎							
HBe抗原		○					◎	◎	◎	◎					
HBe抗体		○					◎	◎	◎	◎					
HBV DNA		◎	○				◎	◎	◎	◎					
HCV抗体	◎			○	○	◎		○						◎	◎
HCV遺伝子型												◎			
HCV RNA定量				○							○	◎			
HCVコア抗原	○			○		○					○	◎			

肝疾患におけるウイルスマーカーの選択基準（4版）．日本消化器病学会　肝機能研究班．日消誌2006:103:1403-1412

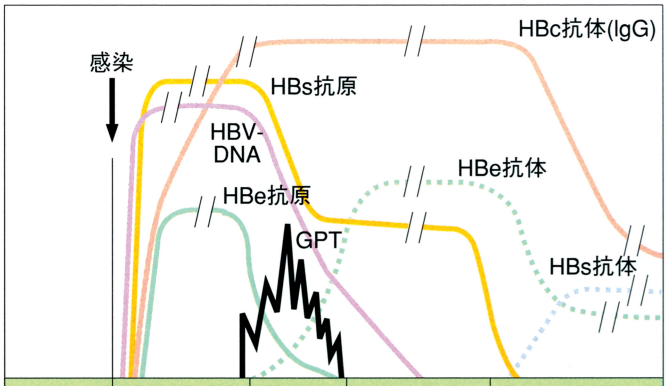
●B型肝炎の経過と血中抗原・抗体の出現パターン

一過性感染



期　間	1～6カ月	1～2カ月	2～3カ月	4カ月以降
	潜伏期	急性期	回復期	治　癒（感染既往）
感染性		◎	○	○	

持続性感染



期　間	Ⅰ　期	Ⅱ　期	Ⅲ　期	年
	HBe抗原陽性 無症候性キャリア期	肝炎期	HBe抗体陽性 無症候性キャリア期	HBV持続感染の消失（稀）
感染性	◎		○	

※HBV-DNAが陽性の期間はHBe抗体陽性であっても肝炎が起こる可能性がある。

免疫学的検査
ウイルス感染症

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0464	HTLV-1抗体価（ATLA）（CLIA）	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.5 冷蔵	1~2	159 ※6	CLIA	（−）	検査結果が「陽性」であった場合、ラインブロット法による確認検査をお勧めいたします。
3201	HTLV-1抗体価	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.2 冷蔵	3~6	425 ※6	ライン ブロット法 (LIA法)	陰性 判定基準：下記参照	測定対象は、抗HTLV-1抗体および抗HTLV-2抗体です。型別の報告ではありません。 ★
0462	HIV抗原抗体	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.4 冷蔵	1~2	109 ※6	CLIA	陰性	保険請求上の名称は「HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性」となります。
2100	HIV-1RNA定量	血液 5 (PSF)	遠心 → 血漿 1.8 (PSF) 冷蔵	3~5	520 ※7	RT-PCR (リアルタイムPCR)	検出せず コピー/mL	他項目との重複依頼は避けてください。 注① ★

〔3201〕HTLV-1抗体価（ラインブロット法）（判定基準）

ラインが認められない		陰性
ラインが1本認められる（≧±）	gag p19かgag p24か env gp46のいずれかが認められる	陰性
	env gp21が認められる	保留
ラインが2本認められる（≧±）	env gp21が認められない	保留
	env gp21が認められる	陽性
ラインが3本以上認められる（≧±）		陽性

〔2100〕HIV-1RNA定量の結果の解釈について（注①）

結果【コピー/mL】	ウイルスの有無	結果の意味合い
1.1×10^{7}以上	＋	測定上限を超える量のウイルスがいます
2.0×10^{1}〜1.0×10^{7}	＋	ウイルス量が測定できました
2.0×10^{1}未満	＋	極めて少ないウイルスが存在します
検出せず	−	ウイルスは検出されませんでした

スピッツ〈茶色栓〉



HIV-1RNA専用容器 (PSF)



項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0430	リウマチ因子(RF定量)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵	1〜2	30 ※6	ラテックス凝集法	15.0以下 IU/mL	
1671	リウマチ因子IgG	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	2〜4	198 ※6	ELISA	2.00未満	★
1691	MMP-3(マトリックスメタロプロティナーゼ-3)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2〜4	116 ※6	LTIA	M：36.9〜121.0 F：17.3〜59.7 ng/mL	不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。★
1692	抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2〜4	193 ※6	CLEIA	4.5未満 U/mL	★
1689	抗ガラクトース欠損IgG抗体	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.6 冷蔵	2〜4	111 ※6	CLEIA	6.0未満 AU/mL	★
3781	抗核抗体(ANA)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	2〜4	99 ※6	間接蛍光抗体法	40未満 倍	下記参照 ★

●抗核抗体（ANA）の成人健常者における出現率

抗体価	出現率（%）
40倍未満	67〜75
40倍	16〜22
80倍	7〜13
160倍	1〜4
320倍	1

●抗核抗体（ANA）染色型と主な自己抗体および疾患

染色パターンの種類	主な自己抗体	疑われる疾患
Peripheral型	抗DNA抗体	全身性エリテマトーデス
Homogeneous型		全身性エリテマトーデス 薬剤誘発性ループス
Speckled型	抗RNP抗体 抗Sm抗体 抗SS-A、B抗体 抗Scl-70抗体	混合性結合組織病 全身性エリテマトーデス シェーグレン症候群 強皮症
Nucleolar型	抗核小体抗体※1	強皮症 シェーグレン症候群
Discrete-Speckled型(Centromere型)	抗セントロメア抗体	CREST症候群 強皮症
PCNA型	抗PCNA抗体	全身性エリテマトーデス
細胞質型	抗細胞質抗体 ◆抗ミトコンドリア抗体 ◆抗平滑筋抗体※2	原発性胆汁性肝硬変 自己免疫性肝炎

※1：検査不可　※2：保険未掲載

免疫学的検査
自己免疫

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
1702	抗DNA抗体（RIA）		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵	2~4	159 ※6	RIA硫安塩析法	6.0以下 IU/mL	
1705	抗ss-DNA	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.3 冷蔵	2~4		ELISA	25以下 AU/mL	
1706		IgM			2~15			17未満 U/mL	
1703	抗ds-DNA	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.3 冷蔵	2~4	159 ※6	ELISA	12以下 IU/mL	
1704		IgM			2~15			6未満 U/mL	★
1708	抗Sm抗体		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	147 ※6	CLEIA	10.0未満 U/mL	不活性(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
1710	抗RNP抗体		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	144 ※6	CLEIA	10.0未満 U/mL	
1714	抗SS-A/Ro抗体		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	161 ※6	CLEIA	10.0未満 U/mL	
1715	抗SS-B/La抗体		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	153 ※6	CLEIA	10.0未満 U/mL	★

●膠原病疾患が疑われた時の疾患特異的自己抗体

疑わしい疾患	主な抗体
RA（関節リウマチ）	RF（リウマチ因子）
SLE（全身性エリテマトーデス）	抗ds-DNA抗体・抗Sm抗体（抗DNA抗体）
SSc（強皮症）	抗Scl-70抗体・抗セントロメア抗体
PM/DM（多発性筋炎/皮膚筋炎）	抗Jo-1抗体
MCTD（混合性結合組織病）	抗RNP抗体
PN（結節性多発動脈炎） MPA（顕微鏡的多発血管炎） AGA（アレルギー性肉芽腫性血管炎） WG（ウェゲナー肉芽腫症）	抗好中球細胞質抗体 MPO-ANCA（P-ANCA） PR3-ANCA（C-ANCA）
SS（シェーグレン症候群）	抗SS-A抗体・抗SS-B抗体
APS（抗リン脂質抗体症候群）	抗カルジオリピン抗体（aCL） ループスアンチコアグラント（LA）

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
1717	抗Scl-70抗体	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	157 ※6	CLEIA	10.0未満 U/mL	
1730	抗Jo-1抗体	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	140 ※6	CLEIA	10.0未満 U/mL	不活性(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
1791	抗ARS抗体	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	2~4	190 ※6	ELISA	25.0未満 陰性	★
1750	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	2~4	166 ※6	ELISA	28未満	28未満 陰性(−) 28~50未満 (±) 50以上 陽性(+) ★
1719	抗セントロメア抗体	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	173 ※6	CLEIA	10.0未満 U/mL	★
1732	抗ミトコンドリア抗体(AMA)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	2~4	181 ※6	FA	陰性(20未満) 倍	★
1772	抗ミトコンドリアM2抗体	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	189 ※6	CLEIA	7.0未満	不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ★
1764	抗LKM-1抗体	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	2~8	215 ※6	ELISA	17未満 Index	17未満 陰性(−) 17~49 判定保留(±) 50以上 陽性(+) ★
1733	抗平滑筋抗体(ASMA)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	2~4		FA	陰性(40未満) 倍	★
1766	抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	250 ※6	CLEIA	3.5未満 U/mL	不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ★
1767	抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	250 ※6	CLEIA	3.5未満 U/mL	
3296	便中カルプロテクチン	専用容器 F30	便 専用スティック1本 凍結	3~7	268 ※1	FEIA	50.0以下 mg/kg	潰瘍性大腸炎の内視鏡的非活動状態のカットオフ値300以下 クローン病の内視鏡的非活動状態のカットオフ値80以下 他項目との重複依頼は避けてください。 ★

◆自己抗体検査
□の項目について、1回に2項目以上検査を行った場合
(1) 2項目……320点
(2) 3項目以上…490点

スピッツ〈茶色栓〉


便中カルプロテクチン F30


免疫学的検査
自己免疫

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
1745	抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.5 冷蔵	2~4	257 ※6	CLEIA	3.0未満 U/mL	★
1768	ループスアンチコアグラント	血液 4.5 凝固	遠心 → 血漿 1.0 凍結	2~4	265 ※6	希釈ラッセル蛇毒時間法	1.2以下	★
1759	抗カルジオリピンβ2グリコプロテインI複合体抗体(抗CL・β2GPI)	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.3 凍結	2~4	223 ※6	ELISA	3.5未満 U/mL	
3069	抗カルジオリピンIgG抗体	血液 各2 スピッツ	遠心 → 血清 各0.3 冷蔵	2~4	226 ※6	ELISA	12.3以下 U/mL	
3070	抗カルジオリピンIgM抗体			2~4	226 ※6	ELISA	20.8以下 U/mL	★
1747	抗デスモグレイン1抗体	血液 各2 スピッツ	遠心 → 血清 各0.5 冷蔵	2~4	300 ※6	CLEIA	20.0未満 U/mL	不活化(非働化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
1748	抗デスモグレイン3抗体			2~4	270 ※6	CLEIA	20.0未満 U/mL	
1744	抗BP180抗体（抗BP180NC16a抗体）	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.5 冷蔵	2~4	270 ※6	CLEIA	9.0未満 U/mL	★
1736	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.3 冷蔵	3~7	752 ※6	RIA	0.2以下 nmol/L	★
1755	抗血小板抗体（APA）	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.4 冷蔵	3~6	261 ※6	MPHA（混合受身凝集法）	陰性	採血後、室温で静置し、完全に血餅凝固後、ご提出ください。 ★
1756	PAIgG（血小板関連IgG）	専用容器 (PAC)	血液 7.5 (PAC)冷蔵	2~4	190 ※6	ELISA	46以下 ng/10^7cells	受託可能日は月～金曜日です。1便にてご提出ください。末梢血の血小板が3×10^4/μL以下の場合は専用容器(PAC)2本を使用し必ず10mL以上採血してください。 ★
3861	HIT抗体（血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体）	血液 2 凝固	遠心 → 血漿 0.5 凍結	2~4	390 ※6	ラテックス比濁法	1.0未満 陰性 U/mL	血小板第4因子・ヘパリン複合体に対するHIT抗体（IgM、IgG、IgA）を測定しております。なお、検査結果はグロブリンクラス別での報告ではありません。 ★

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
1657	免疫電気泳動 (特異抗血清による同定)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	4～6	218 ※6	免疫固定法		特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承ください。 ★
1656	尿中免疫電気泳動 (ベンスジョーンズ蛋白同定)	滅菌 ポリスピッツ	尿 0.4 冷蔵	4～6	201 ※6	免疫固定法		
0421	IgG	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.4 冷蔵	2～4	38 ※6	免疫比濁法	870～1700 mg/dL	
0422	IgA			2～4	38 ※6		110～410 mg/dL	
0423	IgM			2～4	38 ※6		M：33～190 F：46～260 mg/dL	
1665	IgG4(LA)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2～4	373 ※6	ラテックス免疫比濁法	11～121 mg/dL	
1636	IgG サブクラス分画 (TIA)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2～6		免疫比濁法およびラテックス免疫比濁法	IgG1 351～962 IgG2 239～838 IgG3 8.5～140 IgG4 4.5～117 mg/dL	★
1625	クリオグロブリン (定性)	血液 3 スピッツ	遠心 血清 1.0 冷蔵	4～6	42 ※6	寒冷沈澱法	陰性	採血時より血清分離までの間は37℃の状態で行ってください。必ず血清でご依頼ください。 ★
1679	血清補体価 (CH50)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 凍結	2～4	38 ※6	Mayer法 相対比濁法	25.0～48.0 CH50/mL	検体保存の問題上、追加検査ができない場合があります。 ★
1680	C_3 (β_1C/β_1Aグロブリン)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2～4	70 ※6	免疫比濁法	86～160 mg/dL	
1681	C_4 (β_1Eグロブリン)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2～4	70 ※6	免疫比濁法	17～45 mg/dL	★

スピッツ茶色栓項目採血量目安
1～2項目：3～5mL
3～6項目：5～7mL
7項目以上：9mL

スピッツ〈茶色栓〉



凝固〈黒色栓〉



PAIgG
PAC



滅菌ポリスピッツ



免疫学的検査
血漿蛋白

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0005	アルブミン	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵	1~2	11 ※4	BCP改良法	4.1~5.1 g/dL	
1608	尿中アルブミン	滅菌 ポリスピッツ	蓄尿 2 冷蔵	1~2	99 ※1	免疫比濁法	30.0未満 mg/day	24時間蓄尿量を明記してください。冷所で蓄尿し、混和後一部採取してご提出ください。
1602	尿中アルブミン(クレアチニン換算値)	滅菌 ポリスピッツ	部分尿 2 冷蔵	1~2	99 ※1	免疫比濁法	尿中アルブミン換算値 30.0未満 mg/g・CRE	
1601	プレアルブミン(トランスサイレチン)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	101 ※6	免疫比濁法	22.0~40.0 mg/dL	
1181	レチノール結合蛋白(RBP)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	129 ※6	ラテックス凝集比濁法	M：2.7~6.0 F：1.9~4.6 mg/dL	★
1620	α_1-マイクログロブリン 血液	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵	1~2	129 ※6	ラテックス凝集免疫法	M：12.5~25.5 F：11.0~19.0 mg/L	
1621	α_1-マイクログロブリン 尿	滅菌 ポリスピッツ	部分尿 1 冷蔵	1~2	129 ※6	ラテックス凝集免疫法	M：1.0~15.5 F：0.5~9.5 mg/L	
1624	α_1-酸性糖蛋白(α_1-アシドグリコプロテイン)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2~4		ネフェロメトリー	M：45~98 F：39~86 mg/dL	
1622	α_2-マクログロブリン	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2~4	138 ※3	ネフェロメトリー	M：100~200 F：130~250 mg/dL	
1626	ハプトグロビン	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	129 ※6	ネフェロメトリー	1-1型 83~209 2-1型 66~218 2-2型 25~176 mg/dL	
1607	セルロプラスミン	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2~4	90 ※6	ネフェロメトリー	21~37 mg/dL	
1615	トランスフェリン	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	60 ※6	免疫比濁法	M：190~300 F：200~340 mg/dL	★
1610	尿中トランスフェリン	滅菌 ポリスピッツ	蓄尿 0.5 冷蔵	2~4	98 ※1	ラテックス凝集比濁法	0.80以下 mg/day	24時間蓄尿量を明記してください。冷所で蓄尿し、混和後一部採取してご提出ください。 ★
1616	尿中トランスフェリン(クレアチニン換算値)	滅菌 ポリスピッツ	部分尿 1 冷蔵	2~4	98 ※1	ラテックス凝集比濁法	尿中トランスフェリン換算値 1.00以下 mg/g・CRE	★
0425	β_2-マイクログロブリン(β_2-m) 血液	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵	1~2	98 ※6	ラテックス凝集法	1.0~1.9 mg/L	
0263	β_2-マイクログロブリン(β_2-m) 尿	滅菌 ポリスピッツ	部分尿 1 冷蔵	1~2	98 ※6	ラテックス凝集法	230以下 μg/L	
1196	シスタチンC	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	109 ※4	金コロイド凝集法	M：0.63~0.95 F：0.56~0.87 mg/L	推算GFRcys値をご報告いたします。 ★

◆出血・凝固検査
の項目について、1回に3項目以上検査を行った場合
(1) 3項目又は4項目……530点
(2) 5項目以上……722点

◆血液化学検査
の項目について、1回に5項目以上検査を行った場合
(1) 5項目以上7項目以下…… 93点
(2) 8項目又は9項目…… 99点
(3) 10項目以上……103点

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0401	CRP	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.2 冷蔵	1~2	16 ※6	ラテックス比濁法	0.00~0.14 mg/dL	
1666	血清アミロイドA蛋白(SAA)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	47 ※6	ラテックス凝集免疫法	3.0以下 mg/L	
1612	ミオグロビン	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	131 ※4	CLIA	M：154.9以下 F：106.0以下 ng/mL	★
1613	尿中ミオグロビン	専用容器 U50	部分尿 6 U50 冷蔵	2~4	131 ※4	CLEIA	2.0未満 ng/mL	採尿後、速やかに専用容器に入れ、冷蔵してください。凍結は避けてください。 ★
1611	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~6	184 ※4	EIA	2.5以下 ng/mL	★
1635	心筋トロポニンT	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	109 ※4	ECLIA	0.014以下 ng/mL	急性心筋梗塞診断のカットオフ値0.100ng/mL ★
1142	Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体(M2BPGi)定量	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	194 ※4	CLEIA	0.84未満 AU/mL	★
1135	オートタキシン	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~6	194 ※4	CLEIA	判定基準：下記参照 mg/L	★
1131	プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	136 ※4	CLIA	3.62~9.52 ng/mL	カットオフ値（肝に線推化のみられる疾患） 6.95ng/mL ★
1140	Ⅳ型コラーゲン・7S	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	148 ※4	CLEIA	4.4以下 ng/mL	
1133	Ⅳ型コラーゲン	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2~4	131 ※4	ラテックス凝集比濁法	150以下 ng/mL	★
1134	尿中Ⅳ型コラーゲン	専用容器 U70	部分尿 5 U70 冷蔵	3~9	179 ※1	EIA	30~39歳 4.0以下 40歳以上 4.9以下 μg/g・CRE	早朝一番尿をご提出ください。随時尿による参考基準値（健常人）は7.3μg/g・CRE以下と報告されています。 ★
1206	シアル化糖鎖抗原KL-6	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	108 ※4	CLEIA	500未満 U/mL	
1205	肺サーファクタントプロテインD(SP-D)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	136 ※4	ラテックス免疫凝集法	110未満 ng/mL	
1195	肺サーファクタントプロテインA(SP-A)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	2~4	130 ※4	CLEIA	43.8未満 ng/mL	★

〔1135〕オートタキシンの判定基準（カットオフ値）(mg/L)

判定	男性	女性
(1) 肝線維化進展例※	0.91	1.27
(2) 肝硬変	1.69	2.12

(1) より高い検体は、肝線維化進展例と判定します。
(2) より高い検体は、肝硬変と判定します。
※C型肝炎治療ガイドライン（第5.4版）の「肝線維化F2以上」にあたります。

スピッツ（茶色栓）


滅菌ポリスピッツ


尿中ミオグロビン用 U50


尿中Ⅳ型コラーゲン採取セット U70


免疫学的検査
アレルギー検査

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0424	非特異的IgE	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	2~4	100 ※6	FEIA	173以下 IU/mL	★
4001 ~ 4718	特異的IgE	血液 各2 スピッツ	遠心 血清 各0.3 冷蔵	2~4	1アレルゲン 110 ※6	FEIA	0 SCORE 0.35未満 U_A/mL	P85参照 ★
S101	花粉アレルギーセット	血液 3 スピッツ	遠心 血清 0.7 冷蔵	2~4	660 ※6	FEIA	0 SCORE 0.35未満 U_A/mL	P86参照 ★
S102	花粉アレルギー+小児アトピー鑑別セット	血液 3 スピッツ	遠心 血清 0.8 冷蔵	2~4	770 ※6			
4927	MAST36	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	3~5	1430 ※6	CLEIA	MASTクラス0 1.39以下 LC	P87参照
4929	MAST48mix	血液 3 スピッツ	遠心 血清 0.6 冷蔵	4~6	1430 ※6	CLEIA	MASTクラス0 1.39以下 LC	P87参照 ★
4928	Viewアレルギー39	血液 3 スピッツ	遠心 血清 1.0 冷蔵	2~4	1430 ※6	FEIA	クラス0 0.27未満 index値	P87参照 ★
4731	アトピー鑑別試験(ファディアトープ)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	2~4	194 ※6	FEIA	(−)	P86参照 ★
4922	ヒトTARC定量(Th2ケモカイン)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	2~4	179 ※6	CLEIA	6ヵ月以上~12ヵ月未満：1367未満 1歳以上~2歳未満：998未満 2歳以上~16歳未満：743未満 16歳以上：450未満 pg/mL	★
4771	イムノキャップ特異的IgE(Ara h 2)(ピーナッツ由来)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 冷蔵	2~4	110 ※6	FEIA	陰性 0.35未満 U_A/mL	特異的IgEピーナッツの陽性者が対象です。下記参照 ★

※特異的IgEアレルゲン一覧は次頁をご参照ください。
※S101・S102のご依頼は総合依頼書（センターセット欄）に記載しております。

特異的IgEクラス判定基準

SCORE	IgE濃度（U_A/mL）	判定
0	0.35未満	陰性
1	0.35~0.70未満	陽性
2	0.70~3.50未満	
3	3.50~17.5未満	
4	17.5~50.0未満	
5	50.0~100未満	
6	100以上	

〔4771〕イムノキャップ特異的IgE(Ara h 2)（ピーナッツ由来）判定基準

判定	特異的IgE抗体価（U_A/mL）
陽性	4.00以上
疑陽性	0.35~3.99
陰性	0.35未満

注意：判定には他のイムノキャップ特異的IgE測定項目と判定基準が異なりクラス判定(0~6)を使用しません。

スピッツ〈茶色栓〉



特異的IgEアレルゲン一覧

保険点数（実施料）：１アレルゲン110点
ただし、患者から１回に採取した血液を用いて検査を行った場合は、1,430点を限度として算定する。

イネ科植物花粉

4001	G1	ハルガヤ
4003	G2	ギョウギシバ
4005	G3	カモガヤ
4007	G4	ヒロハウシノケグサ
4009	G5	ホソムギ
4011	G6	オオアワガエリ
4013	G7	アシ
4015	G8	ナガハグサ
4017	G9	コヌカグサ（属）
4019	G10	セイバンモロコシ
4029	G15	小麦（花粉）
4031	G16	オオスズメノテッポウ
4033	G17	スズメノヒエ（属）

雑草花粉

4051	W1	ブタクサ
4053	W2	ブタクサモドキ
4055	W3	オオブタクサ
4059	W5	ニガヨモギ
4061	W6	ヨモギ
4063	W7	フランスギク
4065	W8	タンポポ（属）
4067	W9	ヘラオオバコ
4069	W10	シロザ
4073	W12	アキノキリンソウ
4083	W18	ヒメスイバ
4087	W20	イラクサ（属）
4097	W22	カナムグラ

樹木花粉

4131	T1	カエデ（属）
4133	T2	ハンノキ（属）
4135	T3	シラカンバ（属）
4139	T5	ブナ（属）
4141	T6	ビャクシン（属）
4143	T7	コナラ（属）
4145	T8	ニレ（属）
4147	T9	オリーブ
4149	T10	クルミ（属）
4153	T12	ヤナギ（属）
4159	T16	マツ（属）
4161	T17	スギ
4165	T19	アカシア（属）
4169	T70	クワ（属）
4181	T24	ヒノキ

ダニ

4451	D1	ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）
4453	D2	コナヒョウヒダニ（ダニ2）
4455	D70	アシブトコナダニ
4457	D71	サヤアシニクダニ
4459	D72	ケナガコナダニ

室内塵

4401	H1	ハウスダスト1
4403	H2	ハウスダスト2

真菌

4201	M1	ペニシリウム
4203	M2	クラドスポリウム
4205	M3	アスペルギルス
	M218	Asp f 1(アスペルギルス由来)
4207	M4	ムコール
4209	M5	カンジダ
4211	M6	アルテルナリア
4215	M8	ヘルミントスポリウム
4235	M205	トリコフィトン
4241	M227	マラセチア（属）

動物

4377	E1	ネコのフケ
4325	E3	ウマのフケ
4327	E4	ウシのフケ
4329	E5	イヌのフケ
4331	E6	モルモット上皮
4335	E70	ガチョウ羽毛
4349	E77	セキセイインコのフン
4351	E78	セキセイインコ羽毛
4355	E80	ヤギ上皮
4357	E81	羊上皮
4359	E82	家兎上皮
4361	E83	豚上皮
4363	E84	ハムスター上皮
4365	E85	ニワトリ羽毛
4367	E86	アヒル羽毛
4369	E87	ラット
4371	E88	マウス

昆虫

4271	I1	ミツバチ
4273	I3	スズメバチ
4275	I4	アシナガバチ
4277	I6	ゴキブリ
4283	I7	ユスリカ（成虫）
4281	I8	ガ
4279	I71	ヤブカ

職業性

4307	K72	オオバコ種子
4309	K75	イソシアネートＴＤＩ
4311	K76	イソシアネートＭＤＩ
4313	K77	イソシアネートＨＤＩ
4315	K79	無水フタル酸
4317	K80	ホルマリン
4305	K82	ラテックス
	K220	Hev b 6.02(ラテックス由来)

食物

卵

4501	F1	卵白
4503	F75	卵黄
4665	F233	オボムコイド

牛乳・乳製品など

4511	F2	牛乳
4513	F76	α-ラクトアルブミン
4515	F77	β-ラクトグロブリン
4517	F78	カゼイン
4519	F81	チーズ
4521	F82	モールドチーズ

肉類

4523	F26	豚肉
4525	F27	牛肉
4531	F83	鶏肉
4533	F88	羊肉

魚介類

4541	F3	タラ
4547	F23	カニ
4549	F24	エビ
4551	F37	ムラサキイガイ
4553	F40	マグロ
4555	F41	鮭（サケ）
4557	F50	サバ
4565	F58	イカ
4567	F59	タコ
4559	F60	アジ
4569	F61	イワシ
4571	F80	ロブスター
4577	F207	アサリ
4573	F254	カレイ
4575	F290	カキ（貝）
4579	F338	ホタテ
4537	F349	イクラ
4539	F350	タラコ

穀類

4581	F4	小麦
4603	F416	ω-5グリアジン
4713	F79	グルテン
4583	F5	ライ麦
4585	F6	大麦
4587	F7	オート麦
4589	F8	トウモロコシ
4591	F9	米
4593	F10	ゴマ
4595	F11	ソバ
4597	F55	キビ
4599	F56	アワ

豆類・ナッツ

4611	F12	エンドウ
4613	F13	ピーナッツ
4615	F14	大豆
4774	F353	Gly m 4（大豆由来）
4617	F15	インゲン
4621	F17	ハシバミ
4623	F18	ブラジルナッツ
4627	F20	アーモンド
4629	F36	ココナッツ
4619	F256	クルミ
4778	F441	Jug r 1（クルミ由来）
4631	F202	カシューナッツ
4776	F443	Ana o 3（カシューナッツ由来）

野菜

4641	F25	トマト
4643	F31	ニンジン
4645	F35	ジャガイモ
4647	F47	ニンニク
4649	F48	タマネギ
4651	F51	タケノコ
4653	F54	サツマイモ
4655	F85	セロリ
4657	F86	パセリ
4667	F97	ヤマイモ
4661	F214	ホウレンソウ
4663	F225	カボチャ

果物

4677	F33	オレンジ
4679	F44	イチゴ
4681	F49	リンゴ
4685	F84	キウイ
4687	F87	メロン
4689	F91	マンゴ
4671	F92	バナナ
4691	F93	カカオ
4693	F94	洋ナシ
4695	F95	モモ
4697	F96	アボガド
4673	F209	グレープフルーツ
4699	F329	スイカ

その他

4711	F45	ビール酵母
4715	F89	マスタード
4717	F90	麦芽

寄生虫

4101	P1	カイチュウ
4105	P4	アニサキス

その他

4251	C73	ヒトインシュリン
4253	C74	ゼラチン
4427	O1	綿
4237	M80	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンA
4239	M81	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンB

免疫学的検査
アレルギー検査

●ミックスアレルゲンの構成

No.	4733	4735	4737	4739	4741	4743
	EX2　動物上皮マルチ	WX5　雑草マルチ	MX2　カビマルチ	FX6　穀物マルチ	FX5　食物マルチ	GX5　イネ科マルチ
構成アレルゲン	ネコのフケ イヌのフケ モルモット上皮 ラット マウス	ブタクサ ヨモギ フランスギク タンポポ（属） アキノキリンソウ	ペニシリウム クラドスポリウム アスペルギルス カンジダ アルテルナリア ヘルミントスポリウム	小麦 トウモロコシ 米 ゴマ ソバ	卵白 牛乳 小麦 ピーナッツ 大豆	ハルガヤ ギョウギシバ カモガヤ オオアワガエリ アシ

[S101]花粉アレルギーセット

スギ	T-17
カモガヤ	G-3
ハウスダスト1	H-1
ヤケヒョウヒダニ(ダニ1)	D-1
ネコのフケ	E-1
イヌのフケ	E-5

（実施料　660点）

[S102]花粉＋小児アトピー鑑別セット

スギ	T-17
カモガヤ	G-3
ハウスダスト1	H-1
ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）	D-1
食物マルチ （構成アレルゲン：卵白、牛乳、小麦、ピーナッツ、大豆）	FX5
動物上皮マルチ （構成アレルゲン：ネコのフケ、イヌのフケ、モルモット上皮、ラット、マウス）	EX2
カビマルチ （構成アレルゲン：ペニシリウム、クラドスポリウム、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア、ヘルミントスポリウム）	MP1

（実施料　770点）

[4731]アトピー鑑別試験

アレルゲン
ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）
コナヒョウヒダニ（ダニ2）
ネコのフケ
イヌのフケ
ギョウギシバ
カモガヤ
ブタクサ
ヨモギ
シラカンバ（属）
スギ
カンジダ
アルテルナリア

アレルギー検査 疾患別アレルゲンセット組み合わせ例

乳幼児のアレルギー性疾患

乳幼児13　ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）、ハウスダスト1、卵白、オボムコイド、牛乳、大豆、小麦、米、ソバ、イワシ、ゼラチン、動物上皮マルチ、カビマルチ

乳幼児8　ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）、卵白、牛乳、大豆、小麦、米、イワシ、動物上皮マルチ

乳幼児4　ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）、卵白、牛乳、大豆

アトピー性皮膚炎（学童～成人）

皮膚炎13　ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）、ハウスダスト1、スギ、卵白、牛乳、大豆、小麦、米、カンジダ、黄色ブドウ球菌エンテロトキシンA、黄色ブドウ球菌エンテロトキシンB、マラセチア、動物上皮マルチ

皮膚炎8　ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）、卵白、牛乳、大豆、カンジダ、マラセチア、穀物マルチ、動物上皮マルチ

皮膚炎4　ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）、卵白、穀物マルチ、カビマルチ

気管支喘息（学童～成人）

喘息13　ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）、ハウスダスト1、スギ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、ガ、ユスリカ（成虫）、ゴキブリ、カンジダ、アルテルナリア、アスペルギルス、動物上皮マルチ

喘息8　ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）、スギ、カモガヤ、ガ、ゴキブリ、動物上皮マルチ、カビマルチ、雑草マルチ

喘息4　ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）、ガ、動物上皮マルチ、カビマルチ

アレルギー性鼻炎　アレルギー性結膜炎（学童～成人）

鼻炎13　ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）、ハウスダスト1、スギ、ヒノキ、ハンノキ（属）、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、ガ、ユスリカ（成虫）、ゴキブリ、動物上皮マルチ、カビマルチ

鼻炎8　ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）、スギ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、ガ、動物上皮マルチ、カビマルチ

鼻炎4　ヤケヒョウヒダニ（ダニ1）、スギ、イネ科マルチ、雑草マルチ

[4927]MAST36　構成アレルゲン

食物アレルゲン（20項目）		花粉アレルゲン（8項目）	環境アレルゲン（4項目）	その他のアレルゲン（4項目）
1．キウイ**	11．エビ*	1．オオアワガエリ	1．コナヒョウヒダニ	1．カンジダ
2．バナナ**	12．カニ*	2．カモガヤ	2．ハウスダスト1	2．アルテルナリア
3．ゴマ**	13．ミルク*	3．ブタクサ混合1	3．ネコ皮屑	3．ラテックス
4．ソバ*	14．豚肉**	4．ヨモギ	4．イヌ皮屑	4．アスペルギルス
5．小麦*	15．牛肉**	5．スギ		
6．ピーナッツ*	16．鶏肉**	6．ヒノキ		
7．大豆**	17．オボムコイド*	7．ハンノキ		
8．米	18．卵白*	8．シラカンバ		
9．マグロ	19．トマト			
10．サケ**	20．モモ**			

＊　：食品の表示義務のある「特定原材料」に関するアレルゲン
＊＊：表示を推奨されている「特定原材料に準ずるもの」に関するアレルゲン

MAST36・MAST48mix　判定基準

MASTクラス	ルミカウント（LC）	判　定
0	0　～ 1.39	陰　性
1	1.4 ～ 2.77	疑陽性
2	2.78 ～ 13.4	陽　性
3	13.5 ～ 58.0	
4	58.1 ～ 119	
5	120 ～ 159	
6	160 ～ 200	

[4929]MAST48mix　構成アレルゲン

食物アレルゲン（22項目・24種類）		花粉アレルゲン（7項目・13種類）	環境アレルゲン（3項目・5種類）	その他のアレルゲン（4項目・6種類）
1．キウイ**	12．カニ*	1．ヨモギ	1．ハウスダスト1	1．カンジダ
2．バナナ**	13．ミルク*	2．スギ	2．イヌ・ネコ皮屑ミックス	2．ラテックス
3．ゴマ**	14．豚肉**	3．ヒノキ	3．ダニミックス	3．アスペルギルス
4．ソバ*	15．牛肉**	4．ハンノキ		4．カビミックス
5．小麦*	16．鶏肉**	5．シラカンバ		
6．ピーナッツ*	17．オボムコイド*	6．ブタクサミックス		
7．大豆**	18．卵白*	7．イネ科ミックス		
8．米	19．トマト			
9．マグロ	20．モモ**			
10．サケ**	21．サバ**			
11．エビ*	22．木の実ミックス			

●ミックスアレルゲンの構成

	木の実ミックス	ブタクサミックス	イネ科ミックス	イヌ・ネコ皮屑ミックス	ダニミックス	カビミックス
構成アレルゲン	アーモンド ヘーゼルナッツ クルミ**	ブタクサ オオブタクサ ブタクサモドキ	オオアワガエリ カモガヤ ナガハグサ ハルガヤ ギョウギシバ	イヌ皮屑 ネコ皮屑	コナヒョウヒダニ ヤケヒョウヒダニ	アルテルナリア ペニシリウム クラドスポリウム

＊　：食品の表示義務のある「特定原材料」に関するアレルゲン
＊＊：表示を推奨されている「特定原材料に準ずるもの」に関するアレルゲン

[4928]Viewアレルギー39　構成アレルゲン

食物アレルゲン（20項目）		吸入アレルゲン（18項目）		その他のアレルゲン（1項目）
1．キウイ**	12．カニ*	1．ヨモギ	12．アスペルギルス	1．ラテックス
2．バナナ**	13．牛乳*	2．スギ	13．カンジダ	
3．ゴマ**	14．豚肉**	3．ヒノキ	14．マラセチア（属）	
4．ソバ*	15．牛肉**	4．ハンノキ（属）	15．ネコ（フケ）	
5．コムギ（実）*	16．鶏肉**	5．シラカンバ（属）	16．イヌ（フケ）	
6．ピーナッツ*	17．オボムコイド*	6．カモガヤ	17．ゴキブリ	
7．大豆**	18．卵白*	7．オオアワガエリ	18．ガ	
8．米	19．サバ**	8．ブタクサ		
9．マグロ	20．リンゴ**	9．ハウスダスト1		
10．サケ**		10．ヤケヒョウヒダニ		
11．エビ*		11．アルテルナリア		

＊　：食品の表示義務のある「特定原材料」に関するアレルゲン
＊＊：表示を推奨されている「特定原材料に準ずるもの」に関するアレルゲン
※各39項目について、個々のindex値とクラスをご報告致します。判定基準は、従来の「特異的IgE」とは異なります。

Viewアレルギー39　判定基準

ｸﾗｽ	index値	判　定
0	0.27未満	陰　性
1	0.27 ～ 0.50未満	疑陽性
2	0.50 ～ 1.80未満	陽　性
3	1.80 ～ 7.05未満	
4	7.05 ～ 17.35未満	
5	17.35 ～ 29.31未満	
6	29.31以上	

内分泌学的検査

視床下部・下垂体

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
2501	GH (成長ホルモン)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	104 ※5	ECLIA	M：2.47以下 F：0.13~9.88 ng/mL	★
3078	ソマトメジン-C (IGF-1)SDスコア	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	212 ※5	ECLIA	下記参照 ng/mL	
2511	LH (黄体形成ホルモン)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	105 ※5	CLIA	下記参照 mIU/mL	
2521	FSH (卵胞刺激ホルモン)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	105 ※5	CLIA	下記参照 mIU/mL	
2541	プロラクチン (PRL)	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.4 冷蔵	2~4	98 ※5	ECLIA	M：4.29~13.69 F：(閉経前) 4.91~29.32 F：(閉経後) 3.12~15.39 ng/mL	
2531	ACTH (副腎皮質刺激ホルモン)	血液 7 Ⓐ	遠心 血漿 0.5 凍結	2~4	184 ※5	ECLIA	午前7時~10時 7.2~63.3 pg/mL	日内変動に注意 EDTA-2Naに採血し、よく混和させ、ご提出ください。ACTHはEDTA濃度増加により測定値が低下するため、容器の指定容量を採取してください。★
2581	抗利尿ホルモン (AVP)	血液 7 Ⓐ	遠心 血漿 1.5 凍結	5~7	224 ※5	RIA2抗体法	水制限 4.0以下 自由飲水 2.8以下 pg/mL	★

◆内分泌学的検査

□の項目について、1回に3項目以上検査を行った場合

(1) 3項目以上5項目以下……410点

(2) 6項目又は7項目……623点

(3) 8項目以上……900点

スピッツ茶色栓項目採血量目安

1~2項目：3~5mL

3~6項目：5~7mL

7項目以上：9mL

[2511] 黄体形成ホルモン (LH) 基準値 (単位：mIU/mL)

女性	卵胞期	1.76~10.24
	排卵期	2.19~88.33
	黄体期	1.13~14.22
	閉経後	5.72~64.31
男性		0.79~5.72

[2521] 卵胞刺激ホルモン (FSH) 基準値 (単位：mIU/mL)

女性	卵胞期	3.01~14.72
	排卵期	3.21~16.60
	黄体期	1.47~8.49
	閉経後	157.79以下
男性		2.00~8.30

[2585] ソマトメジン-C年齢別・性別における基準値 (参考値)

(単位：ng/mL)

年齢(歳)	男性	女性
0	11~149	15~154
1	14~148	23~186
2	18~154	32~213
3	24~164	40~227
4	32~176	48~238
5	44~193	56~252
6	55~215	69~287
7	63~247	89~357
8	72~292	111~438
9	84~350	133~517
10	99~423	155~588
11	113~499	175~638
12	125~557	188~654
13	133~579	193~643
14	138~570	193~625
15	141~552	192~614
16	142~543	192~611
17	142~540	191~599
18	142~526	188~574
19	143~501	182~539
20	142~470	175~499
21	139~436	168~459
22	135~405	161~425
23	131~379	155~397
24	128~356	151~375
25	125~337	147~358
26	119~329	146~336

(単位：ng/mL)

年齢(歳)	男性	女性
27	116~322	141~328
28	114~315	137~320
29	111~309	133~312
30	109~303	129~304
31	107~297	126~297
32	105~292	122~290
33	103~287	119~283
34	102~283	115~277
35	100~279	112~271
36	99~275	109~265
37	97~272	106~260
38	96~269	103~254
39	95~266	100~250
40	94~263	98~245
41	94~261	95~240
42	93~259	93~236
43	92~257	90~233
44	92~255	88~229
45	91~253	87~226
46	90~250	85~224
47	90~250	83~221
48	89~248	82~219
49	88~246	81~218
50	87~245	80~216
51	87~243	79~215
52	86~242	78~213
53	85~240	77~212

(単位：ng/mL)

年齢(歳)	男性	女性
54	84~239	76~211
55	84~238	75~210
56	83~237	74~208
57	82~236	73~207
58	81~235	72~205
59	80~233	71~203
60	79~232	70~201
61	77~230	69~198
62	76~228	68~196
63	75~226	66~194
64	73~224	65~191
65	72~221	64~188
66	70~219	62~186
67	68~216	61~183
68	66~213	60~180
69	65~209	59~177
70	63~206	57~175
71	61~202	56~172
72	58~198	55~170
73	56~194	54~167
74	54~190	53~165
75	52~185	52~163
76	50~181	50~160
77	48~177	49~158
78	45~172	48~155
79	43~167	44~152
80以上	41~163	43~149

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0771	トリヨードサイロニン（T_3）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.7 冷蔵	2～4	99 ※5	CLEIA	0.62～1.16 ng/mL	
0772	サイロキシン（T_4）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2～4	105 ※5	CLEIA	4.53～8.38 μg/dL	★
0773	甲状腺刺激ホルモン（TSH）〔IFCC〕	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	1～2	98 ※5	ECLIA	0.61～4.23 μIU/mL	
0774	遊離トリヨードサイロニン（FT_3）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	1～2	121 ※5	ECLIA	2.30～4.00 pg/mL	
0775	遊離サイロキシン（FT_4）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	1～2	121 ※5	ECLIA	0.90～1.70 ng/dL	
2593	サイロキシン結合グロブリン（TBG）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2～4	130 ※5	CLEIA	14～31 μg/mL	
3072	サイログロブリン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2～4	128 ※5	CLEIA	35.1以下 ng/mL	★
3073	抗サイログロブリン抗体（抗Tg抗体）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2～4	136 ※6	CLEIA	19.3未満 IU/mL	
3074	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2～4	138 ※6	CLEIA	3.3未満 IU/mL	★
3071	TSHレセプター抗体	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.8 冷蔵	2～4	208 ※6	CLEIA	2.0未満 IU/L	TSHレセプターのTSH結合部位を認識するM22抗体（抗TSHレセプターヒトモノクローナル抗体）を用いた第3世代TRAbです。★
2597	甲状腺刺激抗体（TSAb）	血液 3 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	2～4	330 ※6	Bioassay	110未満 %	★

◆自己抗体検査
□の項目について、1回に2項目以上検査を行った場合
(1) 2項目……320点
(2) 3項目以上…490点

スピッツ〈茶色栓〉



EDTA-2Na（7mL）
Ⓐ



内分泌学的検査

副甲状腺/副腎皮質

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
2617	副甲状腺ホルモン－INTACT (PTH-INTACT)		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 凍結	1~2	161 ※5	ECLIA	15~65 pg/mL	
2618	副甲状腺ホルモン (Whole PTH)		血液 7 Ⓐ	遠心 血漿 0.5 冷蔵	2~4		CLEIA	8.3~38.7 pg/mL	★
2621	副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)		血液 3 PAP	遠心 血漿 0.5 凍結	5~7	185 ※5	RIA固相法 (IRMA)	1.1以下 pmol/L	
2611	カルシトニン		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 凍結	2~4	127 ※5	ECLIA	M：9.52以下 F：6.40以下 pg/mL	
2623	オステオカルシン		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.3 凍結	2~4	153 ※5	ECLIA	M：8.4~33.1 F：(閉経前)7.8~30.8 (閉経後)14.2~54.8 ng/mL	
2627	低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 凍結	2~4	150 ※5	ECLIA	4.50未満 ng/mL	★
2689	11-OHCS (11-ヒドロキシコルチコステロイド)		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~8	60 ※5	蛍光法 (De Moor変法)	7.0~23.0 (午前10時採血) μg/dL	★
2681	コルチゾール	血液	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 凍結	2~4	121 ※5	ECLIA	午前6時~10時 7.07~19.6 μg/dL	★
2686		尿	滅菌 ポリスピッツ	蓄尿 5 冷蔵	2~6	121 ※5	CLIA	4.3~176 μg/day	非抱合型コルチゾールの測定となります。 ★
3041	アルドステロン	血清	血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 凍結	2~4	122 ※5	CLEIA	4.0~82.1 pg/mL	★
3042		血漿	血液 7 Ⓐ	遠心 血漿 0.5 凍結	2~4	122 ※5			★
3043		尿	滅菌 ポリスピッツ	蓄尿 1.5 凍結	5~7	122 ※5		1.0~19.3 μg/day	★
3046	アルドステロン／レニン活性比		血液 7 Ⓐ	遠心 血漿 1.2 凍結	3~5	122+100 ※5	アルドステロン：CLEIA レニン活性：EIA	下記参照	★
2693	DHEA-S (デヒドロエピアンドロステロンサルフェート)		血液 2 スピッツ	遠心 血清 0.5 冷蔵	2~4	164 ※5	CLEIA	下記参照 μg/dL	★

[3046] アルドステロン／レニン活性比　基準値

アルドステロン(pg/mL)
4.0~82.1

レニン活性(ng/mL/hr)	
臥位	0.2~2.3
座位	0.2~3.9
立位	0.2~4.1

アルドステロン／レニン活性比
200以下

[2693] デヒドロエピアンドロステロンサルフェート（DHEA-S）基準値　（単位：μg/dL）

年齢(歳)	男性	女性
18~20	24~537	51~321
21~30	85~690	18~391
31~40	106~464	23~266
41~50	70~495	19~231
51~60	38~313	8~188
61~70	24~244	12~133
71~	5~253	7~177

スピッツ〈茶色栓〉



滅菌ポリスピッツ



EDTA-2Na（7mL）Ⓐ



EDTA＋アプロチニン PAP



◆内分泌学的検査
□の項目について、1回に3項目以上検査を行った場合
(1) 3項目以上5項目以下……410点
(2) 6項目又は7項目……623点
(3) 8項目以上……900点

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
2631	血中カテコールアミン3分画（アドレナリン ノルアドレナリン ドーパミン）		血液 5 Ⓐ	遠心 → 血漿 1.5 凍結	4~6	161 ※5	HPLC	アドレナリン（A） 100以下 ノルアドレナリン（NA） 100~450 ドーパミン（DA） 20以下 pg/mL	薬剤投与時は測定不能となることがあります。 EDTA-2Naに採血し、よく混和させ、ご提出ください。 ★
2635	尿中カテコールアミン3分画（アドレナリン ノルアドレナリン ドーパミン）		滅菌 ポリスピッツ	酸性蓄尿 2 冷蔵		161 ※5		アドレナリン（A） 3.4~26.9 ノルアドレナリン（NA） 48.6~168.4 ドーパミン（DA） 365.0~961.5 μg/day	所定容量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。24時間蓄尿量を明記してください。薬剤投与時は測定不能となることがあります。 ★
2656	VMA定量（バニールマンデル酸）	血液	血液 5 Ⓐ	遠心 → 血漿 1.5 冷蔵	4~6	90 ※5	HPLC	3.3~8.6 ng/mL	★
2651		尿	滅菌 ポリスピッツ	酸性蓄尿 1.5 冷蔵	4~6	90 ※5		1.5~4.3 mg/day	所定容量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。24時間蓄尿量を明記してください。 ★
2663	HVA定量（ホモバニリン酸）	血液	血液 5 Ⓐ	遠心 → 血漿 1.5 冷蔵	4~6	69 ※5	HPLC	4.4~15.1 ng/mL	★
2658		尿	滅菌 ポリスピッツ	酸性蓄尿 1.5 冷蔵	4~6	69 ※5		2.1~6.3 mg/day	所定容量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。24時間蓄尿量を明記してください。 ★
3021	メタネフリン・ノルメタネフリン分画		滅菌 ポリスピッツ	酸性蓄尿 2 冷蔵	4~6	220 ※5	LC/MS/MS	メタネフリン 0.04~0.19 ノルメタネフリン 0.09~0.33 mg/day	所定容量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響が見られますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。24時間蓄尿量を明記してください。メタネフリン総（mg/day）も報告いたします。 ★
3031	メタネフリン・ノルメタネフリン分画（クレアチニン換算値）		滅菌 ポリスピッツ	部分尿 2 冷蔵	4~6			メタネフリンCRE換算値 0.04~0.22 ノルメタネフリンCRE換算値 M：0.09~0.32 F：0.13~0.41 μg/mg. CRE	★
2673	5-HIAA（5-ハイドロキシインドール酢酸）	血液	血液 5 Ⓐ	遠心 → 血漿 1.5 冷蔵	4~6	95 ※5	HPLC	1.8~6.1 ng/mL	★
2667		尿	滅菌 ポリスピッツ	酸性蓄尿 0.5 冷蔵	3~5	95 ※5		1.0~6.0 mg/day	所定容量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。24時間蓄尿量を明記してください。 ★
2664	セロトニン		血液 5 Ⓐ	血液 1 凍結	3~16		HPLC	57~230 ng/mL	★
2665			血液 5 Ⓐ	遠心 → 血漿 1.5 凍結	3~16			P（血漿） 0.04~0.35 PRP（多血小板血漿） 0.17~0.62 μg/mL	P：低温（4℃）で1500rpm 10分間血漿分離 PRP：低温（4℃）で900rpm 20分間血漿分離 ★

内分泌学的検査

膵・消化管・心臓・その他

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
0590	インスリン（IRI）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	1~2	100 ※5	CLIA	（前）5.0~10.0 μU/mL	溶血により低値となります。
2755	C-ペプチド（CPR） 血液	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.4 冷蔵	2~4	105 ※5	CLEIA	（前）0.61~2.09 ng/mL	★
2785	C-ペプチド（CPR） 尿	滅菌 ポリスピッツ	蓄尿 1 凍結	2~4	105 ※5	CLEIA	蓄尿 29.2~167 μg/day	蓄尿は冷所で行うか、あらかじめ安定化剤を蓄尿容器に一袋全量を入れて蓄尿を行ってください。他項目との重複依頼は避けてください。★
3061	膵グルカゴン（IRG）	血液 2 PAP 遠心	血漿 0.5 凍結	5~11	150 ※5	ELISA	（空腹時） 5.4~55.0 pg/mL	指定の容器（PAP）に採血し、よく混和してご提出ください。★
1238	L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）	滅菌 ポリスピッツ	部分尿 2.0 冷蔵	2~4	210 ※1	CLEIA	L-FABPクレアチニン換算値 8.4以下 μg/gCr	凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので、避けてください。室温保存ではデータに影響が認められるため、速やかに冷蔵保存にてご提出ください。★
1790	抗IA-2抗体	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.6 冷蔵	3~6	213 ※5	ELISA	0.6未満 U/mL	
1765	抗GAD抗体	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	2~4	134 ※5	ELISA	5.0未満 U/mL	
3615	インスリン抗体	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	3~7	107 ※6	RIA	0.4未満 U/mL	★
2750	ヒト脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	1~2	136 ※5	ECLIA	125以下 pg/mL	125pg/mLは心不全除外カットオフ値です。
2748	ヒト心房性Na利尿ペプチド（HANP）	血液 2 PAP 遠心	血漿 0.5 凍結	2~4	221 ※5	CLEIA	43.0以下 pg/mL	EDTA＋アプロチニンに採血し、よく混和してご提出ください。★
2749	ヒト脳性Na利尿ペプチド（BNP）	血液 2 Ⓒ 遠心	血漿 0.5 凍結	1~2	130 ※5	CLEIA	18.4以下 pg/mL	専用容器に採血し、十分混和してご提出ください。
1612	ミオグロビン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2~4	131 ※4	CLIA	M：154.9以下 F：106.0以下 ng/mL	★
1613	尿中ミオグロビン	専用容器 U50	部分尿 6 U50 冷蔵	2~4	131 ※4	CLEIA	2.0未満 ng/mL	採尿後、速やかに専用容器に入れ、冷蔵してください。凍結は避けてください。★
1611	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2~6	184 ※4	EIA	2.5以下 ng/mL	★
1635	心筋トロポニンT	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2~4	109 ※4	ECLIA	0.014以下 ng/mL	急性心筋梗塞診断のカットオフ値　0.100ng/mL ★
1634	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2~4	131 ※4	ラテックス凝集法	6.2未満 ng/mL	★

スピッツ〈茶色栓〉



EDTA＋アプロチニン PAP



BNP用 Ⓒ



滅菌ポリスピッツ



尿中ミオグロビン用 U50



項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
2707	エストラジオール（E_2）		血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2～4	167 ※5	ECLIA	下記参照 pg/mL	妊娠週により変動 ★
2721	プロゲステロン		血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2～4	139 ※5	ECLIA	下記参照 ng/mL	妊娠週により変動 ★
2723	テストステロン		血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.4 冷蔵	2～4	119 ※5	ECLIA	M：1.31～8.71 F：0.11～0.47 ng/mL	性別を明記してください。 ★
2718	フリーテストステロン		血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 凍結	2～6	156 ※5	RIA固相法	下記参照 pg/mL	午前中に採血してください。性別・年齢を明記してください。 ★
2724	HCG（ヒト絨毛性ゴナドトロピン）	血液	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	1～2	130 ※5	ECLIA	3.0以下 mIU/mL	トータルのHCGを測定しています。抗体はHCG-βを認識しています。絨毛性疾患の診断、予後管理に有用です。絨毛性疾患取り扱い規約第3版における推奨方法で、測定感度は1.0mIU/mLです。
2733		尿	滅菌 ポリスピッツ	部分尿 3 冷蔵	1～2			下記参照 mIU/mL	
2725	遊離HCG-β（HCG-βサブユニット）	血液	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2～4	129 ※5	CLIA	1.00未満 ng/mL	遊離のHCG-βサブユニットを測定しています。抗体は遊離のHCG-βを認識しています。絨毛性および非絨毛性HCG産生腫瘍のマーカーとして有用です。 ★

◆内分泌学的検査
□の項目について、1回に3項目以上検査を行った場合
(1) 3項目以上5項目以下……410点
(2) 6項目又は7項目……623点
(3) 8項目以上……900点

[2707] エストラジオール（E_2）基準値 （単位：pg/mL）

非妊婦	女性	卵胞期	28.8～196.8
		排卵期	36.4～525.9
		黄体期	44.1～491.9
		閉経後	47.0以下
男性			14.6～48.8
妊婦	妊娠初期		208.5～4289
	妊娠中期		2808～28700
	妊娠後期		9875～31800

[2721] プロゲステロン基準値 （単位：ng/mL）

非妊婦	女性	卵胞期	0.28以下
		排卵期	5.69以下
		黄体期	2.05～24.2
		閉経後	0.33以下
男性			0.22以下
妊婦	4～13週（妊娠初期）		13.0～51.8
	14～27週（妊娠中期）		24.3～82.0
	28～38週（妊娠後期）		63.5～174

[2718] フリーテストステロン年齢別・性別における基準値（メーカー参考値） （単位：pg/mL）

年齢	男性	女性
20～29	7.6～23.8	0.4～2.3
30～39	6.5～17.7	0.6～2.5
40～49	4.7～21.6	0.3～1.8
50～59	4.6～19.6	0.8～1.7
60～69	5.3～11.5	
70以上	4.6～16.9	

[2733] HCG（尿）基準値 （単位：mIU/mL）

尿	男性		3.0以下
	非妊婦		
	妊婦	6週	15000～30000
		10週	90000～120000
		20週	未設定
		40週	未設定

内分泌学的検査・その他

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
3045	レニン活性（PRA）		血液 2 Ⓐ	遠心 → 血漿 0.7 凍結	3~5	100 ※5	EIA	臥位：0.2～2.3 座位：0.2～3.9 立位：0.2～4.1 ng/mL/hr	EDTA-2Naに採血し、よく混和させご提出ください。
3044	レニン濃度（ARC）		血液 2 Ⓐ	遠心 → 血漿 0.5 凍結	2~4	102 ※5	CLEIA	2.21～39.5 pg/mL	
2791	サイクリックAMP（c-AMP）	血液	血液 2 Ⓐ	遠心 → 血漿 0.3 凍結	3~9	161 ※5	RIA　DCC法	11～21 pmol/mL	★
2792		尿	滅菌 ポリスピッツ	蓄尿 1 凍結		161 ※5		1.8～6.3 μmol/day	トルエン1～2mLを加え冷所で蓄尿し混和後必要量をご提出ください。24時間蓄尿量を明記してください。 ★
1194	肝細胞増殖因子（HGF）		血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.3 凍結	2~8	227 ※4	ELISA	0.39以下 ng/mL	★
3210	FGF23（CLEIA）		血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.4 凍結	2~6	788 ※4	CLEIA	19.9～52.9 pg/mL	トロンビン入り採血管は測定値に影響を与える恐れがあるため使用を避けてください FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症のカットオフ値は30pg/mL以上です。 ★
1311	エリスロポエチン		血液 3 スピッツ	遠心 → 血清 0.8 冷蔵	2~4	209 ※5	CLEIA	4.2～23.7 mIU/mL	★

項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
2180	ノロウイルスRNA定性	便容器	便 各拇指頭大 凍結	2~8		RT-PCR	検出せず	単独検体でご提出ください。 ★
2174	ノロウイルス抗原			2~8		ELISA	陰性	
1557	便中ヘリコバクターピロリ抗原	専用容器 (F20)	便 専用スティック体 (F20) 冷蔵	2~4	138 ※6	EIA	(－)	必ず専用容器で採取してご提出ください。 ★
1799	抗ヘリコバクターピロリ抗体〔LA〕	血液 2 スピッツ	遠心 → 血清 0.5 冷蔵	2~4	80 ※6	ラテックス凝集比濁法	10未満 U/mL	★
1587	ヘリコバクター培養	シードチューブ	胃生検 適量 冷蔵	9~11	200 ※7	培養同定	(－)	バイオプシーにて検体採取後、直ちに指定容器の線の下まで入れ冷蔵保存してください。(P95参照) ★
2191	尿素呼気試験（ユービット）	呼気バッグ Ⓥ	採取呼気 2個 Ⓥ 室温	1~2	70 ※7	赤外分光法	2.5未満（－） ‰Δ13C	空腹時に実施してください。検査薬の服用前後の呼気を採取して前後ペアでご提出ください。(P95参照)

◆内分泌学的検査
□の項目について、1回に3項目以上検査を行った場合
(1)　3項目以上5項目以下……410点
(2)　6項目又は7項目……623点
(3)　8項目以上……900点

便容器


便中ヘリコバクターピロリ抗原 (F20)

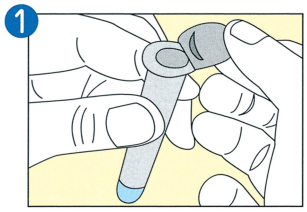

シードチューブHP用


呼気採取バック Ⓥ

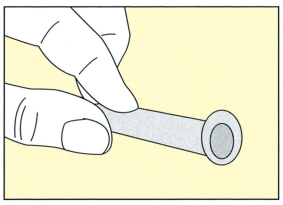

EDTA-2Na（7mL） Ⓐ


滅菌ポリスピッツ

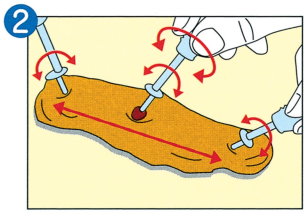

[1557] 便中ヘリコバクターピロリ抗原の採取方法

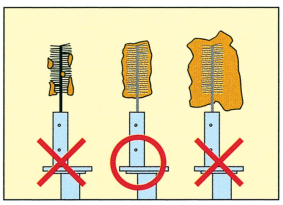


容器の中の液をこぼさないようにアルミシートをはがしてください。

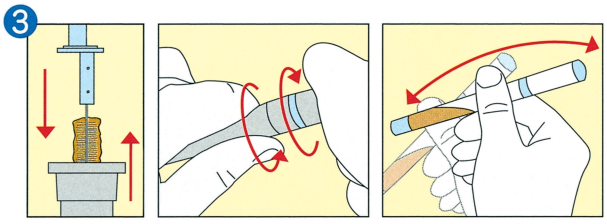


容器を平らな場所に静かに寝かせてください。静かに置けば中の液はこぼれません。



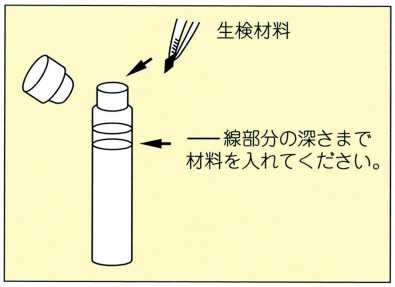


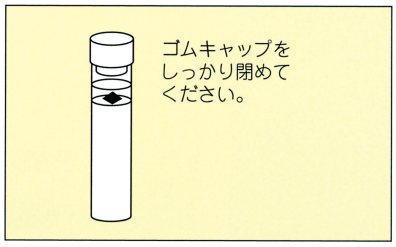
採取ブラシを便に突き刺し、ブラシの間に便が入るように、ブラシを回転させながらとってください。便は図を参考にして適切な量を採取してください。



採取ブラシを容器に差し込み、しっかりねじ込み、数回振ってください。

[1587] ヘリコバクター培養採取方法



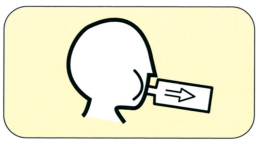


1．ゴムキャップを開け、ピンセット等を用いて胃粘膜・十二指腸粘膜等の生検材料を太線部分まで挿入します。
2．ゴムキャップをしっかり閉め、当日中にご提出ください。

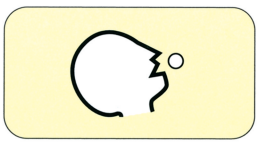
●使用上の注意
・採取した胃粘膜・十二指腸粘膜等の生検材料は速やかに挿入してください。
・検体を入れた容器は冷暗所に保存してください。
・凍結などの急激な温度変化は避けてください。

尿素呼気試験の採取方法

[2191] 尿素呼気試験（ユービット）



吹く
ユービット錠の服用前に呼気を採取します。



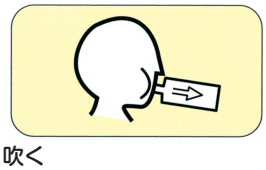
飲む
ユービット錠をつぶしたりせず、空腹時に水100mLとともに噛まずに速やかに嚥下します。



左側臥位で待つ
服用後、左側臥位の姿勢を5分間保ちます。



座位で待つ
その後は座位の姿勢を保ちます。



吹く
ユービット錠服用後20分に呼気を採取します。

＊呼気採取方法のポイント
1）呼気採取バッグを口にあて、(鼻から)息を吸って、5～10秒程度息を止めてください。
2）その後呼気採取バッグにゆっくりと息を入れてください。
3）息止めが苦しい場合は2～3回に分けて入れても大丈夫です。
4）呼気採取バッグには肺の中の息を入れるようにしてください。

一般臨床検査
尿検査

	項目コード	検査項目		採取材料 検査材料 採取量(mL) 検体量(mL) 採取容器 保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
尿検査	5001	尿中一般物質定性検査	比重	滅菌 ポリスピッツ 尿 10 冷蔵	1~2	26 ※1 ①	屈折計法	1.010~1.025	なるべく早朝第一尿をご提出ください。 前半の尿を捨て、後半の尿を採取してください。 (中間尿)
			反応				試験紙法	弱酸性	
			糖定性					(−)	
			蛋白定性					(−)	
			ウロビリノゲン					正常	
			ケトン体					(−)	
			ビリルビン					(−)	
			潜血反応					(−)	
			尿細菌					(−)	
	5012	沈渣		滅菌 ポリスピッツ 尿 10 冷蔵		27 ※1 ①	鏡検法	/HPF /WF /LPF	※② HPF：強拡大視野(400倍) WF：全視野 LPF：弱拡大視野(100倍)

①当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する

②尿沈渣鏡検法の報告について
日本臨床検査標準協議会（JCCLS）より提案された指針、尿沈渣2010（GPI-P4）に準拠して報告いたします。

★赤血球形態の報告について

尿沈渣2010に従い、糸球体型赤血球が5個以上/HPF認められた場合、出現頻度を「大部分」、「中等度」、「少数混在」の3段階で表現し、下記のとおり報告いたします。

表　糸球体型赤血球形態の3段階分類基準表

	5~9/HPF	10~19/HPF	20~29/HPF	30~49/HPF	50~99/HPF	100個以上/HPF
5~9/HPF	大部分	中等度	中等度	少数	少数	少数
10~19/HPF		大部分	中等度	中等度	少数	少数
20~29/HPF			大部分	中等度	中等度	少数
30~49/HPF				大部分	中等度	中等度
50~99/HPF					大部分	中等度
100個以上/HPF						大部分

※横軸：全体の赤血球数，縦軸：糸球体型赤血球数

尿検体の注意点

・尿は室温に放置しておくと尿成分の化学的変化、細菌増殖、細胞成分の変性や崩壊などが起こる可能性がありますので、冷暗所へ保存してください。
・尿定性検査は、各種薬剤の影響を受けるため、偽陽性や偽陰性を呈することがあります。
・24時間蓄尿の場合は、あらかじめ容器に防腐剤としてトルエンまたはキシレンを1～2mL加え、冷暗所で保存してください。

	項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器 検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
尿検査	5013	糖定量	随時尿	滅菌 ポリスピッツ 尿 3〜5 冷蔵	1〜2	9 ※1	ヘキソキナーゼ法	0 mg/dL	
	5015		24h蓄尿	滅菌 ポリスピッツ 尿 3〜5 冷蔵		9 ※1		0 mg/day	尿量を明記してください。
	5014	蛋白定量	随時尿	滅菌 ポリスピッツ 尿 3〜5 冷蔵		7 ※1	ピロガロール レッド法	30未満 mg/dL	
	5016		24h蓄尿	滅菌 ポリスピッツ 尿 3〜5 冷蔵		7 ※1		40〜150 mg/day	尿量を明記してください。
髄液検査	5048	髄液一般検査	反応	滅菌 ポリスピッツ 髄液 1〜2 冷蔵	1〜2	77 ※1	試験紙法	弱アルカリ性	出来るだけ早急にご提出ください。 ※細胞種類 【単核球】 リンパ球・単球様細胞の総称 【多核球】 好中球・好酸球・好塩基球の総称
			比重				屈折計法	1.005〜1.008	
			細胞数				鏡検法 Fuchs-Rosenthal	0〜15 /3/μL	
			細胞種類				鏡検法		
	5053	パンディー反応		滅菌 ポリスピッツ 髄液 3〜5 冷蔵			パンディ法	(−)	
	5054	ノンネ・アペルト反応					R-J変法	(−)	
	5055	トリプトファン反応					里見変法	(−)	
	5056	糖定量		滅菌 ポリスピッツ 髄液 3〜5 冷蔵		11 ※4	ヘキソキナーゼ法	40〜75 mg/dL	
	5057	蛋白定量		滅菌 ポリスピッツ 髄液 3〜5 冷蔵		11 ※4	ピロガロールレッド法	10〜40 mg/dL	
	5058	クロール定量		滅菌 ポリスピッツ 髄液 3〜5 冷蔵		11 ※4	イオン選択電極法 (希釈法)	120〜125 mEq/L	
	1760	ミエリン塩基性蛋白(MBP)		滅菌 ポリスピッツ 髄液 0.5 凍結	事前確認必要	570 ※1	ELISA法	102以下 pg/mL	★
精液検査	5081	精液量		精液容器 精液 全量 室温	1〜2	70 ※1	用手法	2.0以上 mL	・電話予約をお願いします。 採取時刻を明記し全量ご提出ください。 ・運動率低下の為、1時間以内にご提出ください。
		PH					試験紙法	7.2以上	
		精子濃度					鏡検法	20×10⁶以上 /mL	
		精子運動率						50以上 %	
		精子正常形態率						15以上 %	

滅菌ポリスピッツ



精液容器



一般臨床検査

穿刺液・関節液

	項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
穿刺液（胸水・腹水）検査	5060 胸水 5065 腹水	穿刺液一般検査	比重	滅菌 ポリスピッツ 胸水・腹水 1〜2 冷蔵	1〜2		屈折計法		微生物学的検査・生化学的検査・細胞診検査等と重複依頼の場合、できるだけ多く（10〜20mL）ご提出ください。
			リバルタ反応				Rivalta法	(−)	
			細胞数				鏡検法 Fuchs-Rosenthal	/μL	
			細胞種類				鏡検法	%	
	5070	糖定量	胸水	滅菌 ポリスピッツ 胸水 3〜5 冷蔵		11 ※4	ヘキソキナーゼ法	mg/dL	
	5071		腹水	滅菌 ポリスピッツ 腹水 3〜5 冷蔵					
	5072	蛋白定量	胸水	滅菌 ポリスピッツ 胸水 3〜5 冷蔵		11 ※4	ビウレット法	g/dL	
	5073		腹水	滅菌 ポリスピッツ 腹水 3〜5 冷蔵					
	5017	LD（LDH）	胸水	滅菌 ポリスピッツ 胸水 3〜5 冷蔵		11 ※4	JSCC 標準化対応法	U/L	
	5018		腹水	滅菌 ポリスピッツ 腹水 3〜5 冷蔵					
	1137	ADA（デアミナーゼアデノシン）	胸水	滅菌 ポリスピッツ 胸水 3〜5 冷蔵	2〜4	32 ※4	酵素法	U/L	★
	1138		腹水	滅菌 ポリスピッツ 腹水 3〜5 冷蔵					
関節液検査	5075	関節液一般検査	細胞数	滅菌 ポリスピッツ 関節液 1〜2 冷蔵	1〜2		鏡検法 Fuchs-Rosenthal	/μL	
			細胞種類				鏡検法	%	
	1313	結晶検査		滅菌 ポリスピッツ 関節液 5 冷蔵		50 ※1	顕鏡検法	尿酸Na結晶 : (−) ピロリン酸Ca結晶 : (−) コレステロール結晶 : (−)	凍結保存は避けてください。 抗凝固剤は使用しないでください。
	5078	糖定量		滅菌 ポリスピッツ 関節液 3〜5 冷蔵		11 ※4	ヘキソキナーゼ法	M : 100〜120 F : 90〜110 mg/dL	
	5079	蛋白定量		滅菌 ポリスピッツ 関節液 3〜5 冷蔵		11 ※4	ビウレット法	g/dL	

	項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
糞便検査	5035	虫卵（塗抹法）	糞便	小指頭大 冷蔵	4~6	20 ※1	薄層塗抹法	(−)	凍結保存は避けてください。検出された場合は虫卵名を報告します。 ★
	5039	虫卵（集卵法）	糞便	小指頭大 冷蔵	4~6	15 ※1	沈殿法 浮遊法	(−)	
	5044	便ヘモグロビン定性	専用容器 Ⓚ	便 冷蔵	1~2	37 ※1	ラテックス凝集法	陰性	※専用容器での採取方法は下記参照 ※一週間内にご提出ください。 ※2日法の場合は連絡事項に「2日法」とご記入ください。
	5088	便ヘモグロビン(精密)				41 ※1	ラテックス凝集法	100未満 ng/mL	
	3481	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	専用容器 (F80)	便 冷蔵	2~4	56 ※1	金コロイド凝集法	ヘモグロビン：100未満 トランスフェリン：50未満 ng/mL	★

便ヘモグロビン検査は専用容器での採便をお願いします。

消化管出血に伴って混入・付着した便中の血液成分は、様々な要因により失活することが知られていますが、専用容器に採取することで、採便後のヘモグロビンの失活を防ぐことができます。

〈便ヘモグロビンの採取方法〉



①採便棒で便の表面をまんべんなくこすりとってください。
便の量は、先端のみぞが埋まるくらいが最適です。
※多すぎると、正しい検査ができません。

②キャップと容器の向きを合わせて、さし込んでください。



③採便後は、冷暗所で保存してください。

専用容器に採便後は、一週間内にご提出ください。

滅菌ポリスピッツ



便容器



便ヘモグロビン専用 Ⓚ



便中ヘモグロビン及びトランスフェリン専用容器 (F80)



微生物学的検査

一般細菌

項目コード	検査項目	検査材料	採取容器	検体量(mL)／保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	備考
5101	塗抹鏡検		培養と同じ		1～2	67 ※7	グラム染色など	便の塗抹検査は実施していません。
5111	培養同定（口腔、気道呼吸器からの検体）	喀痰	滅菌喀痰容器	5～7／冷蔵	2～7	180 ※7 ①	(培養) 非選択培地と特定菌の選択培地 (同定) 従来法、同定キット、自動同定装置	唾液・鼻汁が混入しないように注意してください。 (採取方法 104ページ参照)
		咽頭粘膜・鼻汁など	スワブⓃ	冷蔵				(採取方法 104ページ参照)
5112	培養同定（消化管からの検体）	便	スワブⓂ	冷蔵	2～5	200 ※7 ①	同上	嫌気培養を併用する場合スワブとシードチューブⅡにも採取してください。 大腸菌血清型別 175点※免疫学的検査 (採取方法 104ページ参照)
		胆汁	滅菌ポリスピッツ	2～5／冷蔵				
5113	培養同定（泌尿器・生殖器からの検体）	尿	滅菌ポリスピッツ	10／冷蔵	2～5	190 ※7 ①	同上	目的菌が淋菌の場合は室温保存してください。 (採取方法 104ページ参照)
		分泌物	滅菌ポリスピッツ又はスワブⓂ					
5114	培養同定（血液又は、穿刺液からの検体）	血液	血液培養ボトル㊟	5～10／室温	5～7	240 ※7 ①，②	同上	細菌発育を認めた場合、随時報告いたします。 血液は血液培養ボトルに入れて室温で保存してください。 (採取方法 105ページ参照) 目的菌が髄膜炎菌の場合は室温保存してください。 嫌気培養を併用する場合シードチューブⅡに採取してください。
		髄液	滅菌ポリスピッツ	1～5／室温	2～7			
		穿刺液		5～10／冷蔵				
5115	培養同定（その他の部位からの検体）	膿、耳ろう、分泌物	滅菌ポリスピッツ又はスワブⓂⓃ	冷蔵	2～5	180 ※7 ①	同上	
		皮膚、爪	滅菌ポリスピッツ		2～14			※所要日数 一般細菌　2～5日 白癬菌　10～14日 (採取方法 104ページ参照)
5116	嫌気性培養		シードチューブⅡ	冷蔵	7～21	137(加算) ※7	ガスパック法	嫌気培養以外のご依頼には使用しないでください。 (採取方法 104ページ参照)
5118	真菌培養					122(加算) ※7		
セット201	薬剤感受性 1菌種				2～5	185 ※7	微量液体希釈法 ディスク拡散法	必ず培養同定と同時にご依頼ください。 病原菌検出時のみ実施しております。 ※201センターセット 菌種によって次ページの薬剤を実施しています。
	薬剤感受性 2菌種					240 ※7		
	薬剤感受性 3菌種以上					310 ※7		
5202	薬剤耐性菌検出					50 ※7	基質特異性拡張型βラクタマーゼ産生 メタロβラクタマーゼ産生 AmpC産生　等	薬剤感受性を行い、耐性菌が疑われる菌に対して行った場合、実施します。

※目的菌をご指示ください。

①症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数ヶ所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1か所のみの所定点数を算定する。
②血液を2か所以上から採取した場合に限り、培養同定の血液又は穿刺液を2回算定できる。この場合、嫌気性培養の加算は2回算定できる。

項目コード	検査項目	検査材料	採取容器	検体量(mL)／保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	備考
5105	BVスコア	膣分泌物	塗抹標本(自然乾燥)	室温	1～3		グラム染色	判定解釈 BVスコア　0～3　正常群 4～6　中間群 7～10　細菌性膣症
3298	CDトキシン(GDH)	便	便容器	1 g／冷蔵	2～4	95 ※6	イムノクロマト法	基準値 CDトキシンA, B（－） ディフィシル抗原（GDH）（－） ★

環境検査

項目コード	検査項目	検査材料	採取容器	検体量(mL)／保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	備考
	環境検査(MRSA)		スワブⓂ	冷蔵	2～4			MRSAのみのご報告となります。 (採取方法 105ページ参照)
	落下菌		血液寒天培地	室温	2～4			目的菌があればご指示ください。
	ふき取り		スワブⓂ	冷蔵	2～4			(採取方法 105ページ参照)

薬剤感受性センターセット（※201）

薬剤＼菌種			グラム陽性菌	腸球菌	レンサ球菌(肺炎球菌含む)	グラム陰性菌	ブドウ糖非発酵菌(緑膿菌含む)
系統名	略号	一般名					
ペニシリン系	MPIPC	オキサシリン	●				
	ABPC	アンピシリン		●		●	
	PIPC	ピペラシリン				●	●
	PCG	ベンジルペニシリン	●	●	●		
	SBT・ABPC	スルバクタム・アンピシリン				●	
	TAZ・PIPC	タゾバクタム・ピペラシリン				●	●
セファロスポリン系	CEZ	セファゾリン	●			●	
	SBT・CPZ	スルバクタム・セフォペラゾン					●
	CTRX	セフトリアキソン			●	●	
	CAZ	セフタジジム				●	●
	CFPM	セフェピム				●	●
セファマイシン系	CMZ	セフメタゾール				●	
カルバペネム系	IPM	イミペネム				●	●
	MEPM	メロペネム				●	●
モノバクタム系	AZT	アズトレオナム					●
アミノグリコシド系	GM	ゲンタマイシン	●			●	●
	AMK	アミカシン				●	●
マクロライド系	EM	エリスロマイシン	●	●	●		
リンコマイシン系	CLDM	クリンダマイシン	●		●		
テトラサイクリン系	MINO	ミノマイシン	●	●			
ポリペプチド系	VCM	バンコマイシン	●	●	●		
	TEIC	テイコプラニン	●	●	●		
オキサゾリジン系	LZD	リネゾリド	●	●	●		
キノロン系	CPFX	シプロフロキサシン					●
	LVFX	レボフロキサシン	●	●	●	●	●
その他	ST	スルファメトキサゾール・トリメトプリム	●			●	

（センターセット以外の薬剤一覧は106ページ参照）

滅菌喀痰容器



(青) カルチャースワブプラスⓂ



(ミニ) カルチャースワブプラスⓃ



便容器



血液培養ボトル



㊟ 当センター使用機器の専用ボトルです。他の血液培養ボトルの提出は避けてください。

滅菌ポリスピッツ



シードチューブⅡ



微生物学的検査

抗酸菌（結核菌）

項目コード	検査項目	検査材料	採取容器	検体量(mL)／保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	備考
2912	塗抹鏡検（集菌蛍光法）		培養と同じ		1～2	65+35 ※7 ※①	集菌蛍光法	陽性の場合は緊急報告いたします。 ※①集菌塗抹法35点加算
2913	培養（液体法）	喀痰、胃液 髄液 穿刺液	滅菌喀痰容器	2以上／冷蔵	～6週	315 ※7	酸素感受性蛍光センサー法	陽性の場合は随時報告いたします。 3週目　中間報告 6週目　最終報告 ※組織は乾燥防止のため滅菌蒸留水1mLをお入れください。 ★
		尿	滅菌ポリスピッツ	5以上／冷蔵				
		便	便容器	1g／冷蔵				
		血液	血液Ⓐ	7／冷蔵				
2158	抗酸菌同定（質量分析）	菌株 ※抗酸菌培養陽性時のみ実施しています。			2～5	376 ※7 ※④	MALDI-TOF-MS	156菌種 対象菌種名は107ページ参照。 ★
5144	抗酸菌薬剤感受性				2～4週	415 ※7	一濃度比率法	対象薬剤は103ページ参照。 ★
5142	結核菌感受性（MIC）				2～3週		微量液体希釈法	Mycobacterium tuberculosisが対象菌種となります。 対象薬剤は103ページ参照。 ★
5145	抗酸菌感受性（MIC）SGM				2～3週		微量液体希釈法	非結核性抗酸菌の遅発育菌が対象菌種となります。 対象薬剤は103ページ参照。 ★
5146	抗酸菌感受性（MIC）RGM							非結核性抗酸菌の迅速発育菌が対象菌種となります。 対象薬剤は103ページ参照。 ★

核酸増幅検査

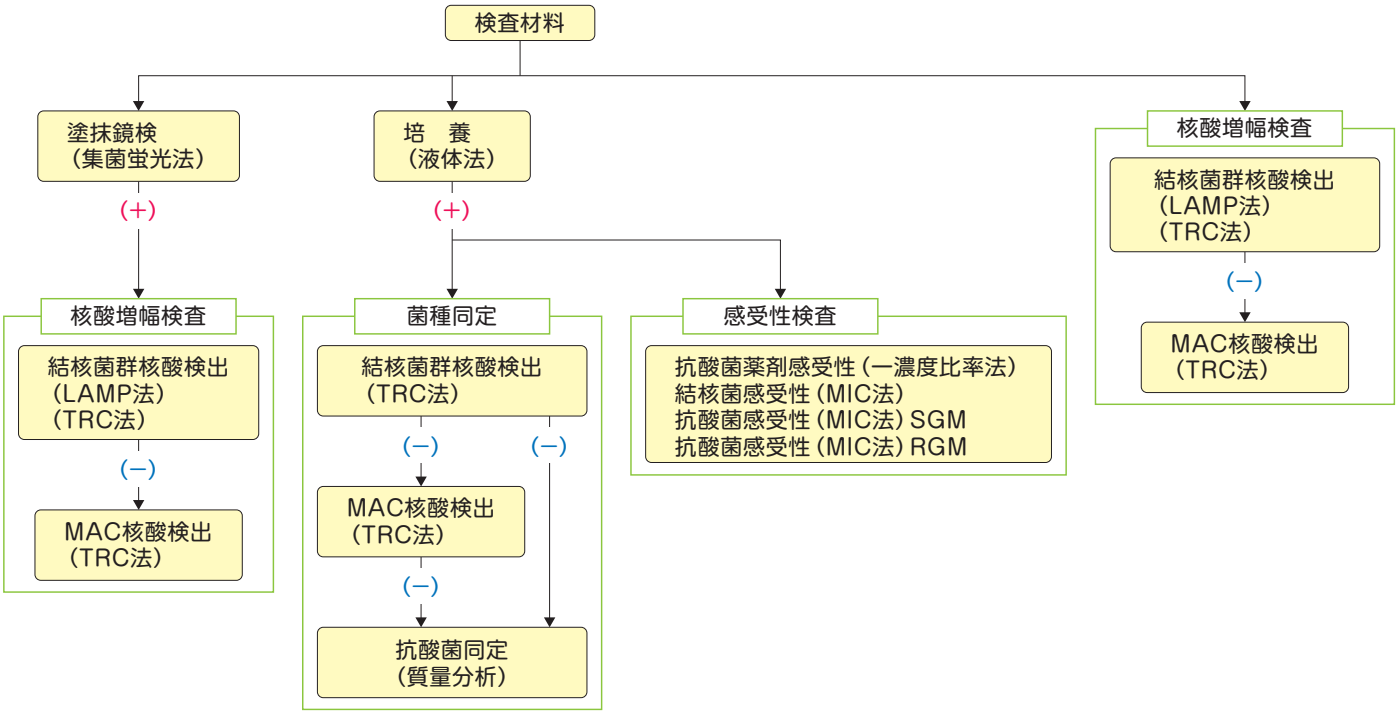
項目コード	検査項目	検査材料	採取容器	検体量(mL)／保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	備考	
3850	結核菌群LAMP	喀痰	滅菌喀痰容器	2／冷蔵	1～2	410 ※7	LAMP法	基準値（－）	
2148	結核菌群TRC	呼吸器材料（喀痰など）		※③ 2／冷蔵	2～4		TRC法	基準値（－）	※③ 喀痰は2～3mL他の材料は5～10mL採取してください。 ★
2154	MAC TRC					421 ※7 ※④		基準値 アビウム　（－） イントラセルラー（－）	

※④他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。抗酸菌同定と併せて実施された場合にあっては、主たるもののみ算定する。

結核菌感染診断補助検査（IGRA）

項目コード	検査項目	検査材料	採取容器	検体量(mL)／保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	備考
3849	T-SPOT（結核菌特異的IFN-γ）	血液	PH5	5／室温	3～5	593 ※6	ELISPOT法	予約検査 受託可能日は月～金曜日です。事前にお問い合わせください。他項目との重複依頼は避けてください。基準値（陰性） ★

抗酸菌検査の流れ



抗酸菌薬剤感受性検査に用いる薬剤一覧

薬剤	検査項目	5144 抗酸菌薬剤感受性	5142 結核菌感受性（MIC）	5145 抗酸菌感受性（MIC）SGM	5146 抗酸菌感受性（MIC）RGM
SM	ストレプトマイシン	●	●		
EB	エタンブトール	●	●	●	
KM	カナマイシン	●	●	●	
INH	イソニアジド	●	●	●	
RFP	リファンピシン	●	●	●	
RBT	リファブチン		●	●	
TH	エチオナミド	●		●	
PAS	パラアミノサリチル酸	●			
EVM	エンビオマイシン				
CS	サイクロセリン	●			
AMK	アミカシン			●	●
LVFX	レボフロキサシン	●	●		●
CPFX	シプロフロキサシン		●		
CAM	クラリスロマイシン			●	●
AZM	アジスロマイシン			●	●
MFLX	モキシフロキサシン			●	●
STFX	シタフロキサシン			●	●
DOXY	ドキシサイクリン			●	●
MINO	ミノサイクリン			●	
LZD	リネゾリド			●	●
FRPM	ファロペネム				●
MEPM	メロペネム				●
IPM	イミペネム				●
TOB	トブラマイシン				●
ST	ST合剤				●
CLF	クロファジミン				●

滅菌喀痰容器



滅菌ポリスピッツ



便容器



EDTA-2Na（7mL）
Ⓐ



ヘパリン入り（5mL）
PH5



微生物学的検査
検査材料と採取方法

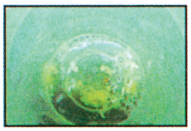
喀　痰

1．自分で痰を喀出できる場合
唾液、食物残渣、口腔咽頭細菌の混入を少なくするためにうがい後、広口の滅菌喀痰容器に唾液が入らないように喀出痰を採ります。

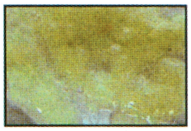
2．自分で痰を採れない場合（乳幼児）
①咽頭部を親指で外側から擦るように強く圧迫します。
②それでも咳嗽が誘発されなければ、5％食塩水と15%propyren glycolの等量混合液またはアレベール2 mLをネブライザーで10分くらい吸入させてから、①の操作を実施します。

検査に適した痰の例

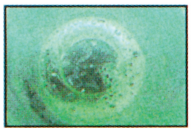
良い痰の例　（この写真は、良い痰の条件を満たしています。）
【条件】・膿性部分がある・新鮮である・うがいなどで口の中の雑菌が除かれている

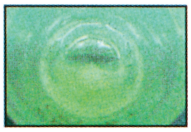

P１：膿性部分が$\frac{1}{3}$以下の痰

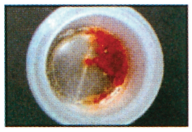

P２：膿性部分が$\frac{1}{3}$～$\frac{2}{3}$の痰


P３：膿性部分が$\frac{2}{3}$以上の痰

悪い痰の例　（このような痰では正しい結果が得られない可能性があります。）

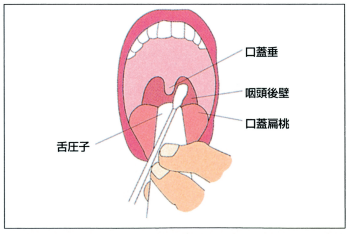

唾液（つば）


長時間放置されたもの
痰が溶けてしまっている


多量の血液が含まれたもの

咽頭ぬぐい液

①口を大きく開け、舌圧子で舌を押さえます。
②患者に”アー”といわせ口蓋が広がった時に綿棒の先が口粘膜や舌に触れないように患部、扁桃腺を強くこすります（カルチャースワブプラス）



便

便採取時には下痢の程度や出血や膿の有無など便の性状をよく観察し、粘血や膿汁が含まれる時はその部分を採取し検査に用います（カルチャースワブプラス、糞便容器、滅菌容器等 *Clostridioides difficile* を目的とする場合は嫌気ポーターを用いて保存します。）

尿

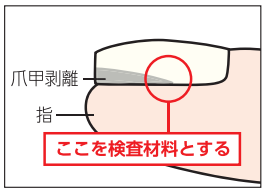
早朝第一尿が検査材料としては最適ですが、外来受診の時は実施が困難です。なるべく菌数の多い尿を採取する意味で、前回の排尿から2時間以上間隔をあけるようにします。抗菌薬が投与されている場合は、可能なら24時間以上投薬を中止した後採取します。細菌性を疑う場合、尿中の白血球の確認が必要です。

白癬菌

皮膚･爪を以下の採取方法で採取し､乾燥した状態でそのまま滅菌スピッツ等で提出してください。

〈皮膚〉
・**水泡が存在する場合**
水泡蓋を鋏で切り取ります。
・**水泡が存在しない場合**
水泡の破れた辺縁で､皮膚に付着している角層をメスで擦り取ります。
・**趾間型の場合**
正常部と病変部の境界部で、皮膚に付着している角層をメスで擦り取ります。

〈爪〉
・**爪甲下角質増殖が見られる通常の場合**
（右絵参照）
爪切りで爪甲剥離部位や爪の先端部を除去し、攝子やメスを用い爪床を採取します。
爪の奥深くを採取できない場合は、爪甲剥離の下の爪床を採取します。
・**表在性白色爪真菌症（SWO）の場合**
白濁した爪表面をメスで削り取ります。

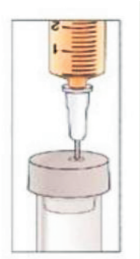


◇　シードチューブⅡの採取方法　◇

液体検体（穿刺液、消化液等）

①穿刺部（ゴムキャップ上の小円）を消毒用アルコール綿等で消毒します。

②注射針を穿刺部に垂直に穿刺し、液体検体を注入します。



固形検体（糞便、組織片等）

①ゴムキャップを消毒用アルコール綿等で消毒します。

②ゴムキャップを外し、固形検体を入れます。検体は寒天の奥まで挿入してください。

③ゴムキャップを速やかにしっかり閉めます。

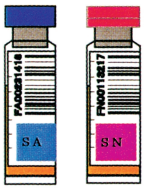


◇ 血液培養のための採血方法 ◇

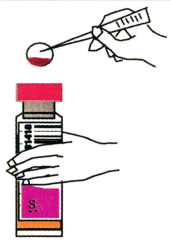
―血液培養検査では、汚染菌の混入を極力避けることが大切です。―

準　備

SA 培養ボトル（好気用）　SN 培養ボトル（嫌気用）

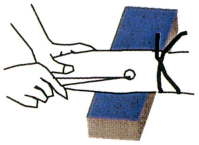


確実に原因菌を検出するために、血液培養では好気用と嫌気用の 2 本のボトルを用意します。

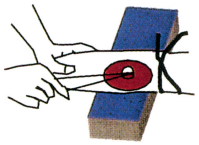


採血の10～20分前から病室のドアを閉め、空調機を止めます。ボトルのゴム栓を10%ポビドンヨード液（イソジン®）または70%エタノールで消毒します。

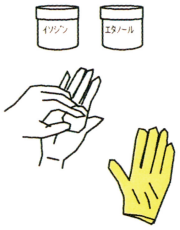
消　毒



70%エタノールで穿刺箇所を30秒ほど消毒します。



10%ポビドンヨード液（イソジン®）に浸した滅菌綿球で穿刺箇所を中心に、同心円ないし渦巻状に広範に塗布し、自然乾燥します。ポビドンヨードに過敏な場合はクロルヘキシジンで消毒します。

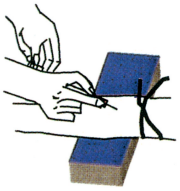


消毒した皮膚には触れないようにします。
また、採血施行者は手指を消毒するか、滅菌手袋を着用します。

採　血



滅菌ディスポーザブルの注射器を使用します。



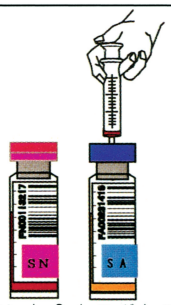
静脈より血液を必要量採血します。SA、SN、両方のボトルを使用するときは20mL程度採血します。



血管の穿刺に失敗した場合、注射器ごと新しいものに替えてください。針刺し事故に気をつけてください。

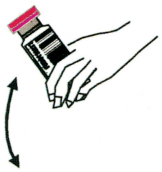


採血後、ボトルに血液を接種する前に注射針が汚染されないように注意してください。

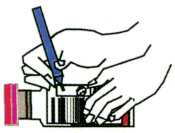


用意した 2 本のボトルに等量の血液を接種します。各ボトル10mL接種します。（嫌気⇒好気の順）

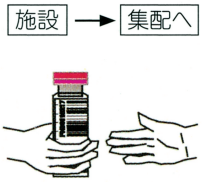
採　血　後



ボトルの内容量を静かに混和します。



ボトルに採血日時・患者名等を記入します。

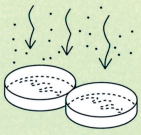
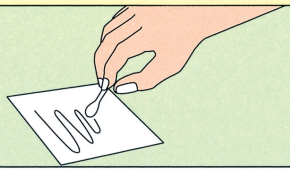


採血後のボトルは室温で保存してください。

ご　注　意

- ボトルへの最大接種量は、SA・SN各ボトル10mLです。血液接種量が多い程、検出率が向上するという報告がありますので、当センターでは最大接種量を接種するよう推奨しています。ただし、それを超えると偽陽性を呈することがありますのでご注意ください。
- ボトルを当日に提出できない場合は、室温保存し、なるべく早く提出してください。
- 培養所要日数は 5 日～7 日となりますが、細菌の発育を認めた場合、随時ご報告いたします。
- バーコードは汚さないよう、ご注意ください。
- CUMITECH1B blood culture Ⅲ を参考にしています。

◇ 環境検査採取方法 ◇

落下菌	環境検査（MRSA）、ふき取り
	
検査地点に、血液寒天培地が上にくるように置き、シャーレの蓋を取り外して、一定時間（5～10分間、通例）開放します。蓋をしめて、そのままご提出ください。	被検体の一定面積（10cm×10cm通例）をスワブに添付されている綿棒（あらかじめ培地に刺して湿らせておく）にて全体をふき取り、再度培地に刺しご提出ください。

微生物学的検査

主な抗生物質・化学療法剤

系　統	No.	略　号	一　般　名	市　販　商　品　名
ペニシリン系	102	MPIPC	オキサシリン	スタフシリンV
	103	ABPC	アンピシリン	ビクシリン，ペントレックス
	104	AMPC	アモキシシリン	クラモキシル，サワシリン
	108	PIPC	ピペラシリン	ペントシリン
	111	SBT・ABPC	スルバクタム・アンピシリン	ユナシンS
	112	CVA・AMPC	クラブラン酸・アモキシシリン	オーグメンチン
	113	TAZ・PIPC	タゾバクタム・ピペラシリン	タゾシン・ゾシン
セファロスポリン系	200	CEZ	セファゾリン	セファメジン
	203	CTM	セフォチアム	パンスポリン，ハロスポア
	204	SBT・CPZ	スルバクタム・セフォペラゾン	スルペラゾン
	205	CTX	セフォタキシム	クラフォラン，セフォタックス
	207	CMX	セフメノキシム	ベストコール
	208	CTRX	セフトリアキソン	ロセフィン
	209	CAZ	セフタジジム	モダシン
	210	CPZ	セフォペラゾン	セフォビッド，セフォペラジン
	214	CFDN	セフジニル	セフゾン
	217	CZOP	セフォゾプラン	ファーストシン
	219	CFPM	セフェピム	マキシピーム
	220	T/C	タゾバクタムセフトロザン	ザバクサ
	401	CEX	セファレキシン	セポール，ケフレックス
	403	CCL	セファクロル	ケフラール
	405	CFTM	セフテラムピボキシル	トミロン
	406	CPDX	セフポドキシムプロキセチル	バナン
	408	CXM	セフロキシム	オラセフ
	410	CDTR	セフジトレンピボキシル	メイアクト
	411	CFPN	セフカペンピボキシル	フロモックス
セファマイシン系	301	CMNX	セフノミクス	メイセリン
	303	CMZ	セフメタゾール	セフメタゾン
オキサセフェム系	501	LMOX	ラタモキセフ	シオマリン
	502	FMOX	フロモキセフ	フルマリン
ペネム系	601	FRPM	ファロペネム	ファロム，ファロペネム
カルバペネム系	701	IPM	イミペネム	チエナム
	702	PAPM	パニペネム	カルベニン
	703	MEPM	メロペネム	メロペン
	704	DRPM	ドリペネム	フィニバックス
	705	BIPM	ビアペネム	オメガシン
モノバクタム系	801	AZT	アズトレオナム	アザクタム
アミノグリコシド系	901	GM	ゲンタマイシン	ゲンタシン
	903	TOB	トブラマイシン	トブラシン
	904	AMK	アミカシン	ビクリン，アミカシン
	905	ISP	イセパマイシン	イセパシン，エクサシン
	906	ABK	アルベカシン	ハベカシン
マクロライド系	1001	EM	エリスロマイシン	エリスロマイシン
	1003	CAM	クラリスロマイシン	クラリス，クラリシッド
	1004	AZM	アジスロマイシン	ジスロマック
リンコマイシン系	1202	CLDM	クリンダマイシン	ダラシン
テトラサイクリン系	1301	MINO	ミノサイクリン	ミノマイシン
	1302	DOXY	ドキシサイクリン	ビブラマイシン
クロラムフェニコール系	1401	CP	クロラムフェニコール	クロラムフェニコール
ポリペプチド系	1502	VCM	バンコマイシン	バンコマイシン
	1503	TEIC	テイコプラニン	タゴシッド
	1505	CL	コリスチン	メタコリマイシン
オキサゾリジノン系	1601	LZD	リネゾリド	ザイボックス
キノロン系	1802	NFLX	ノルフロキサシン	バクシダール
	1803	OFLX	オフロキサシン	タリビット
	1805	CPFX	シプロフロキサシン	シプロキサン
	1806	LFLX	ロメフロキサシン	ロメバクト，バレオン
	1807	TFLX	トスフロキサシン	オゼックス
	1809	LVFX	レボフロキサシン	クラビット
	1811	GFLX	ガチフロキサシン	ガチフロ
	1812	PZFX	パズフロキサシン	パシル，パズクロス
	1814	MFLX	モキシフロキサシン	アベロックス
	1817	GRNX	ガレノキサシン	ジェニナック
	1818	STFX	シタフロキサシン	グレースビット
その他	1701	FOM	ホスホマイシン	ホスミシン
	1901	ST	スルファメトキサゾール・トリメトプリム	バクタ，バクトラミン

抗酸菌同定〔質量分析〕で同定が可能な156菌種抗酸菌名

菌　種　名	菌　種　名	菌　種　名
M.abscessus	*M.gastri*	*M.palustre*
M.agri	*M.genavense*	*M.paraense*
M.aichiense	*M.gilvum*	*M.paraffinicum*
M.algericum	*M.goodii*	*M.parafortuitum*
M.alvei	*M.gordonae*	*M.paragordonae*
M.arabiense	*M.haemophilum*	*M.parakoreense*
M.aromaticivorans	*M.hassiacum*	*M.parascrofulaceum*
M.arosiense	*M.heckeshornense*	*M.paraseoulense*
M.arupense	*M.heidelbergense*	*M.parmense*
M.asiaticum	*M.heraklionense*	*M.peregrinum*
M.aubagnense	*M.hiberniae*	*M.phlei*
M.aurum	*M.hippocampi*	*M.porcinum*
M.austroafricanum	*M.hodleri*	*M.poriferae*
M.avium※	*M.holsaticum*	*M.pseudoshottsii*
M.bacteremicum	*M.houstonense*	*M.psychrotolerans*
M.boenickei	*M.immunogenum*	*M.pulveris*
M.bohemicum	*M.insubricum*	*M.pyrenivorans*
M.botniense	*M.interjectum*	*M.rhodesiae*
M.bourgelatii	*M.intermedium*	*M.riyadhense*
M.branderi	*M.intracellulare/chimaera*※	*M.rufum*
M.brisbanense	*M.iranicum*	*M.rutilum*
M.brumae	*M.kansasii*	*M.salmoniphilum*
M.canariasense	*M.komossense*	*M.saskatchewanense*
M.celatum	*M.koreense*	*M.scrofulaceum*
M.celeriflavum	*M.kubicae*	*M.sediminis*
M.chelonae	*M.kumamotonense*	*M.senegalense*
M.chitae	*M.kyorinense*	*M.senuense*
M.chlorophenolicum	*M.lacus*	*M.seoulense*
M.chubuense	*M.lentiflavum*	*M.septicum*
M.colombiense	*M.litorale*	*M.setense*
M.conceptionense	*M.llatzerense*	*M.sherrisii*
M.confluentis	*M.longobardum*	*M.shimoidei*
M.conspicuum	*M.madagascariense*	*M.shinjukuense*
M.cookii	*M.mageritense*	*M.shottsii*
M.cosmeticum	*M.malmoense*	*M.simiae*
M.crocinum	*M.mantenii*	*M.smegmatis*
M.diernhoferi	*M.marinum*	*M.sphagni*
M.doricum	*M.marseillense*	*M.stomatepiae*
M.duvalii	*M.minnesotense*	*M.szulgai*
M.elephantis	*M.monacense*	*M.terrae*
M.engbaekii	*M.montefiorense*	*M.thermoresistibile*
M.europaeum	*M.moriokaense*	*M.tuberculosis complex*※
M.fallax	*M.mucogenicum/phocaicum*	*M.tokaiense*
M.farcinogenes	*M.murale*	*M.triplex*
M.flavescens	*M.nebraskense*	*M.triviale*
M.florentinum	*M.neoaurum*	*M.tusciae*
M.fluoranthenivorans	*M.neworleansense*	*M.vaccae*
M.fortuitum	*M.nonchromogenicum*	*M.vanbaalenii*
M.fragae	*M.noviomagense*	*M.vulneris*
M.franklinii	*M.novocastrense*	*M.wolinskyi*
M.frederiksbergense	*M.obuense*	*M.xenopi*
M.gadium	*M.pallens*	*Mycobacterium* sp.

※TRC法 同定可能菌種

感染症法に基づく届出疾患（令和８年４月６日一部改正施行）
（「感染症発生動向調査事業実施要綱」による）

１．全数把握の対象

一類感染症（診断後直ちに届出）

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱

二類感染症（診断後直ちに届出）

急性灰白髄炎、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る）
中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る）、鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１）、
鳥インフルエンザ（Ｈ７Ｎ９）

三類感染症（診断後直ちに届出）

コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス

四類感染症（診断後直ちに届出）

E型肝炎、ウエストナイル熱、A型肝炎、エキノコックス症、エムポックス、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、
キャサヌル森林病、Q熱、狂犬病、コクシジオイデス症、ジカウイルス感染症、
重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る）、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、
ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、デング熱、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１及びＨ７Ｎ９を除く）、
ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、
ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、マラリア、野兎病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、
レジオネラ症、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱

五類感染症（全数）（侵襲性髄膜炎菌感染症、風しん、麻しんは直ちに届出、その他は診断から７日以内に届出）

アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎（E型及びA型肝炎を除く）、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）、
急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）、
クリプトスポリジウム症、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、ジアルジア症、
侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る）、
先天性風しん症候群、多剤耐性緑膿菌感染症、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、
バンコマイシン耐性腸球菌感染症、百日咳、風しん、麻しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症

新型インフルエンザ等感染症（診断後直ちに届出）

該当なし

指定感染症

該当なし

２．定点把握の対象

五類感染症（定点）

小児科定点（週単位で報告）：
RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、
ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ定点/COVID-19、急性呼吸器感染症定点、基幹定点（週単位で報告）：インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、急性呼吸器感染症

眼科定点（週単位で報告）：急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎

性感染症定点（月単位で報告）：性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症

基幹定点（週単位で報告）：感染症胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）、クラミジア肺炎（オウム病を除く）、
細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合は除く）、
マイコプラズマ肺炎、無菌性髄膜炎

基幹定点（月単位で報告）：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

疑似症定点（診断後直ちに届出）：法第14条第１項に規定する厚生労働省令で定める疑似症、風しん、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

病理学的検査

細胞診検査

その他検査

薬物検査

毒物・産業医学的代謝物質、労働安全衛生法による特殊検査

特殊検査

長時間心電図解析

異常値報告の対象項目と検査値範囲

共用基準範囲・特定健診基準範囲・臨床判断値

測定法の概要

主要参考文献

病理学的検査

項目コード	検査項目	採取容器	保存方法	所要日数	実施料判断料	検査方法	備考
7001	生検病理検査 ・胃生検 ・皮膚生検 など	広口瓶	室温	3～7日	860 ※8	ヘマトキシリン・エオジン染色 その他必要な特殊染色	採取材料は、10%中性緩衝ホルマリン入り広口瓶に入れ固定し、提出してください。 （材料を乾燥させないようにお願いします。）
7002	手術材料 ・切除胃 ・子宮 など			7～14日	860 ※8	ヘマトキシリン・エオジン染色 その他必要な特殊染色	・切除臓器は可能な限り、すべてをご提出ください。 ・臓器は必要に応じて伸展し、十分な固定液に浸透させた状態または十分に固定させた状態でご提出ください。 ・切り出しに指示がある場合、依頼書にご記入ください。
	標本作成のみ			生検材料 (1～2日) 手術材料 (7～10日)		指示どおり	提出要領はそれぞれに準じます。 病理検査依頼書に「標本作成のみ」とご記入ください。
	免疫染色 （免疫抗体法）			生検材料 (4～7日) 手術材料 (10～20日)	400 ＊1		検査目的および診断目的に応じて実施します。 【試薬の種類にかかわらず、1臓器につき1回のみ算定となります。】＊1

注）材料によっては前処理として脱脂や脱灰処理を必要とします。
注）同一材料から複数個の組織を提出される場合、採取容器を別にするか部位の区別がつく状態でご提出ください。
＊1　確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には、1,200点を所定点数に加算する。

●乳腺（マンモトーム・針生検）および切除乳房について病理組織診断により悪性と診断された場合、パラフィンブロックを用いて以下の検査が可能です。

項目コード	検査項目	採取容器	保存方法	所要日数	実施料判断料	検査方法	備考
7701	エストロゲンレセプター（ER）			＊2	720 ※8	免疫組織化学染色法	乳癌治療の指標
7702	プロゲステロンレセプター（PgR）			＊2	690 ※8	免疫組織化学染色法	乳癌治療の指標
3809	HER2タンパク（IHC）4B5			＊2	690 ※8	免疫組織化学染色法	乳癌治療の指標 ★
3814	HER2遺伝子（FISH）			＊2	2700 ※8	FISH	乳癌治療の指標 ★

＊2　病理組織診断後に検査を実施します。（組織診断後　約7日）

・検査依頼をされる場合、検査目的欄に上記検査項目をご記入ください。
（病理組織診断において乳癌と診断された症例に対し、検査を実施します。）
・HER2タンパク4B5・HER2遺伝子（FISH）検査については病理組織診断後に検査を実施するため報告までに時間を要します。

・「エストロゲンレセプター」・「プロゲステロンレセプター」を同一月に実施した場合は、180点を主たる病理組織標本作製の所定点数に加算する。

免疫染色　検査目的に応じて実施します。

抗　体（例）		
CD 3	T細胞	悪性リンパ腫の診断
CD20	B細胞	
ki-67		細胞増殖のマーカー
p53	癌抑制遺伝子	良悪性評価の補助
CK7/CK20		組合せによる腫瘍細胞の鑑別
C-kit		GISTの診断
S-100	神経系関連	
SMA	筋肉系平滑筋線維由来	
CD34	血管内皮細胞	
クロモグラニン	神経系関連	カルチノイドの診断

特殊染色　必要に応じて特殊染色を実施します。

染　色　名（例）	目　　的
PAS染色	多糖類染色、真菌・アメーバの確認
鍍銀染色	結合組織線維（細網繊維）
アザン染色	結合組織線維（膠原繊維）
EVG染色	癌細胞の血管内への浸潤の確認
チール・ネールゼン染色	結核菌の確認
グロコット染色	真菌の確認
メイギムザ染色	H・ピロリ菌等の確認
コンゴー赤染色	アミロイドの確認

＊3　特殊染色を併せて行った場合は、特殊染色加算として、1臓器又は1部位ごとにそれぞれ50点を所定点数に加算する。

特殊病理検査・遺伝子関連検査　必要に応じて追加検査が可能です。

病理組織検査にて確定診断（悪性と診断）された場合、当センターにて保管しているパラフィンブロックまたは、未染色標本スライドを使用して検査が可能です。
検査を希望される場合は当センターにご相談ください。…P115をご参照ください。
（実施料（点数）は癌の種類や検査方法により異なります。）

●検査依頼書は、採取材料（臓器）ごとに提出いただき、以下の内容に関し依頼書へのご記入をお願いします。

・提出材料の具体的な採取部位や検査目的、臨床経過など。
・女性乳腺疾患・女性性器疾患の場合、月経、妊娠、授乳の状態。

●結果報告について

・報告書とともにプレパラート（ガラス標本）を返却いたします。
　＊プレパラート（ガラス標本）の返却が不要の場合、当センターにて保存・管理を行いますので、ご連絡ください。
・手術材料には切出し図を添付する場合があります。
・脱脂・脱灰などの前処理および各種染色の追加により報告が遅くなることがあります。

●検査材料の管理について

・ホルマリン固定後の残余臓器の保存は1年間とします。
・プレパラート（ガラス標本）とパラフィンブロックは原則10年間保存とします。

組織専用容器
M2

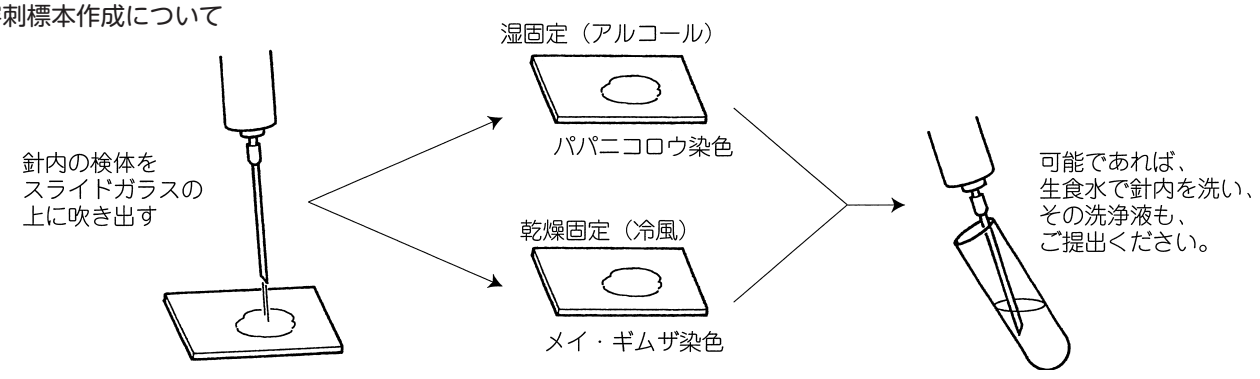


細胞診検査

項目コード	検査項目		採取容器	保存方法	所要日数	実施料判断料	検査方法	備考
6001	婦人科細胞診	直接塗抹法	スライドガラス 1～2枚	室温	3～4日 ＊	150 ※8	パパニコロウ染色 標本の鏡検	材料採取後、スライドガラスに塗抹し、乾燥しないよう、ただちに固定してください。
		LBC法	ThinPrep 専用バイアル (V41)			150＋45 ※8		採取方法につきましてはP65を参照下さい。
6002	尿細胞診		滅菌 ポリスピッツ		2～4日 ＊	190 ※8	パパニコロウ染色 メイ・ギムザ染色 その他必要な特殊染色標本の鏡検	自然尿は細胞成分が少ないので、提出量を多くしてください。**(ポリスピッツ1～3本程度)** 依頼書に採取方法をご記入ください。 (蓄尿・カテーテル尿・分腎尿・洗浄液など)
	喀痰細胞診		滅菌 喀痰容器				パパニコロウ染色 標本の鏡検	早朝起床時の新鮮痰を提出してください。
	蓄痰細胞診 (肺がん検診)						パパニコロウ染色 メイ・キムザ染色 その他必要な特殊染色標本の鏡検	3日分の喀痰を連続採取または日数をかけて採取して提出してください。
	体腔液細胞診 ・胸水 ・腹水 ・心嚢液 ・関節液 など		滅菌 ポリスピッツ					**ポリスピッツ：1～3本程度** 採取した体腔液に抗凝固剤を加え、よく混和後速やかにご提出ください。添加した抗凝固剤の種類を容器にご記入ください。 クエン酸Na・・・1/10～1/15量 ヘパリン ・・・・管壁が湿る程度
	髄液細胞診							**ポリスピッツ：1～5mL程度** 細胞量が少なく、変性し易いので提出まで **冷蔵保存し、速やかに提出してください。**
	胆汁細胞診 PTCD等		スライドガラス 2～4枚 もしくは 滅菌ポリスピッツ					**胆汁・膵液細胞診を実施される場合は事前にご連絡お願いします** 変性し易いため、採取後すぐに氷冷中に保存し、可能な限り現場での標本作成をお願いします。採取された検体を提出される場合は速やかにご提出ください。
	擦過細胞診 ・気管支 ・口腔内 ・皮膚病変など		スライドガラス 2～4枚					湿固定標本および乾燥固定標本を作成し、提出してください。【標本作成は現場でお願いします。】 ＊標本には湿固定標本と乾燥固定標本の区別を明記してください。
	穿刺細胞診 ・乳腺 ・リンパ節 ・甲状腺 ・その他		スライドガラス 3～6枚					湿固定標本および乾燥固定標本を作成し、提出してください。【標本作成は現場でお願いします。】 穿刺後の針内を1～2mL程の生理食塩水で洗浄し、提出されても結構です。 ＊標本には湿固定標本と乾燥固定標本の区別を明記してください。

＊ 専門医の判定が必要な場合は、報告が多少遅れますのでご了承ください。

●穿刺標本作成について



●検体提出について

・採取した材料は出来るだけ当日中に提出いただくようお願いします。
やむなく保存される場合は冷蔵保存（4℃）をお願いします。LBC、蓄痰は室温保存も可能です。
・同一材料を使って他の検査と同時依頼される場合は、出来るだけ検査材料を別にしてください。
（各容器に検査名の記入をお願いします。）
・体腔液の場合、添加される抗凝固剤により検査値に影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。
（生化学的検査との同時依頼は、ヘパリン系抗凝固剤をお使いください。）

●検査材料及びプレパラートの管理について

・細胞診検査の検査材料（尿・喀痰・体腔液など）の保存は、受付翌日までとします。
・プレパラート（ガラス標本）の保存期間は10年間です。
・婦人科細胞診（LBC法）で提出されたバイアルは**6週間保存**しています。
※保存期間内のHPV検査の追加検査が可能です。詳細はP65をご覧ください。

●細胞診断判定表記について

全材料	婦人科		蓄痰（肺がん検診）	喀痰・尿・体腔液・擦過など	乳腺・甲状腺・リンパ節などの穿刺材料
	子宮頸部	子宮内膜			
診断に不適当	ベセスダシステムに準拠した判定となります。（P114参照）	検体不適正	判定区分A	検体不適正	検体不適正
ClassⅠ		陰性	判定区分B	陰性	良性
ClassⅡ					
ClassⅢ（Ⅲa、Ⅲb）		疑陽性	判定区分C	疑陽性	鑑別困難
ClassⅣ		陽性	判定区分D	陽性	悪性疑い
ClassⅤ			判定区分E		悪性

画像報告書について

○当センターでは以下の細胞診結果に基づいて、画像報告書を通常報告書に添付してご報告いたします。

細胞診結果

・ベセスダ判定HSIL以上、Class判定でClassⅣ以上、その他必要に応じて。

LBC・HPV
V41



滅菌喀痰容器



滅菌ポリスピッツ



細胞診検査

ベセスダシステム2001準拠子宮頸部細胞診結果報告様式

標本の適正・不適正を判定。

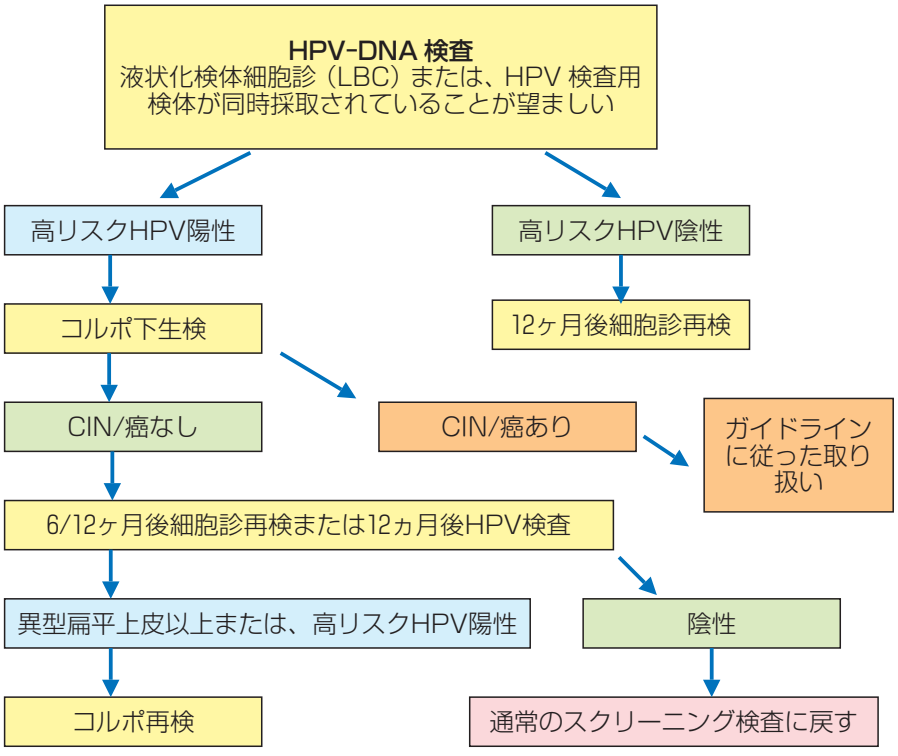
1：扁平上皮系

	英語表記	判定	推定病変	従来のClass分類	運用
陰性	Negative for intraepithelial lesion or malignancy	NILM	非腫瘍性所見、炎症	Ⅰ、Ⅱ	異常なし：定期検診
意義不明な異型扁平上皮細胞	Atypical squamous cells of undetermined significance	ASC-US	軽度扁平上皮内病変疑い	Ⅱ、Ⅲa、Ⅲ	要精密検査 HPV検査による判定が望ましい。 ※1
HSILを除外できない異型扁平上皮細胞	Atypical squamous cells cannot exclude HSIL	ASC-H	高度扁平上皮内病変疑い	Ⅲ、Ⅲa、Ⅲb	要精密検査：コルポ、生検
軽度扁平上皮内病変	Low-grade squamous intraepithelial lesion	LSIL	HPV感染、軽度異形成 あるいはCIN1	Ⅲa	
高度扁平上皮内病変	High-grade squamous intraepithelial lesion	HSIL	中等度異形成、高度異形成、上皮内癌 あるいはCIN2,3	Ⅲa、Ⅲb、Ⅳ	
扁平上皮癌	Squamous cell carcinoma	SCC	扁平上皮癌	Ⅴ	

2：腺細胞系・その他

	英語表記	判定	推定病変	従来のClass分類	運用
異型腺細胞	Atypical glandular cells	AGC	腺異型または、腺癌疑い	Ⅲ	要精密検査 ・コルポ、生検 ・頸管および内膜細胞診または、組織診
上皮内腺癌	Adenocarcinoma in situ	AIS	上皮内腺癌	Ⅳ	
腺癌	Adenocarcinoma	Adenocarcinoma	腺癌	Ⅴ	
その他の悪性腫瘍	Other malignant neoplasmus	Other malig.	その他の悪性腫瘍	Ⅴ	要精密検査：病変検索

※1　意義不明な異型扁平上皮（ASC-US）の取り扱い



特殊病理検査・遺伝子関連検査

項目コード	検　査　項　目	提出材料保存	所要日数	実施料判断料	検　査　方　法	備　　考
3824	胃癌HER2タンパク（IHC）	未染標本スライド または パラフィンブロック 室温	4～6	690 ※8	免疫組織化学染色法	★
3825	胃癌HER2遺伝子（FISH）		7～10	2700 ※8	FISH	★
3809	乳癌HER2タンパク（IHC）4B5		7	690 ※8	免疫組織化学染色法	★
3814	乳癌HER2遺伝子（FISH）		7～11	2700 ※8	FISH	★
	乳癌PD-L1タンパク（IHC）		5～10	2700 ※8	免疫組織化学染色法	ご依頼の際は使用（目的）になる薬剤をご記入もしくは、ご連絡お願いします。 ★
	肺癌PD-L1タンパク（IHC）			2700 ※8	免疫組織化学染色法	ご依頼の際は使用（目的）になる薬剤名をご記入もしくは、ご連絡お願いします。 ※目的の薬剤により報告日数が異なります。 ★
3891	EGFR変異解析 v 2.0		3～6	2500 ※2	PCR（リアルタイムPCR）	★
3828	RAS・BRAF遺伝子変異解析		4～7	4000 ※2	PCR-rSSO法	★
3920	マイクロサテライト不安定性（MSI）検査		4～8	2500 ※2	マルチプレックスPCR-フラグメント解析	★

（実施料（点数）は癌の種類や検査方法により異なります。）

・病理組織検査にて確定診断（悪性と診断）された場合、当センターにて保管しているパラフィンブロックまたは、未染色標本スライドを使用して検査が可能です。
・遺伝子関連検査では、検査に必要な腫瘍細胞が少ない場合に受託不可・検査不能となる場合があります。ご注意ください。
・上記項目は一例です。ここに記載されている以外の検査項目を希望される場合には、事前に当センターにお問い合せください。





薬物検査

	項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値及び単位（治療濃度範囲）	備考（製品名、製剤名等）
抗てんかん剤	0901	バルプロ酸Na	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	1～2	㊨	CLEIA	50.0～100.0 μg/mL	デパケン、セレニカR、バレリン、ハイセレニン
	0902	フェニトイン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	1～2	㊨	CLEIA	10.0～20.0 μg/mL	アレビアチン、ヒダントール、ジフェニルヒダントイン
	0903	フェノバルビタール	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2～4	㊨	EIA	10.0～40.0 μg/mL	フェノバール、ワコビタール、ルミナール ★
	0905	カルバマゼピン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	1～2	㊨	CLEIA	4.0～12.0 μg/mL	テグレトール、テレスミン、レキシン
	2201	プリミドン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	2～4	㊨	EIA	5.0～12.0 μg/mL	プリミドン、プリムロン ★
	2204	クロナゼパム	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	3～5	㊨	LC/MS/MS	20～70 ng/mL	ランドセン、リボトリール ★
	2205	ニトラゼパム	血液 2 スピッツ 遠心	血液 0.3 冷蔵	3～5	㊨	LC/MS/MS	20～200 ng/mL	ベンザリン、ネルボン ★
	2264	ジアゼパム	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	3～6	㊨	HPLC	ジアゼパム 600～1000 ng/mL	N-デスメチルジアゼパムも同時報告いたします。セルシン、ホリゾン、ジアパックス ★
	2208	ゾニサミド	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2～4	㊨	ラテックス凝集法	10～30 μg/mL	エクセグラン ★
	2261	クロバザム	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	3～5	㊨	LC/MS/MS	ng/mL	デスメチルクロバザムも同時報告いたします。マイスタン ★
	2202	エトスクシミド	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2～4	㊨	EIA	40.0～100.0 μg/mL	ザロンチン、エピレオプチマル ★
	2257	アセタゾラミド	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	3～9	㊨	HPLC	μg/mL	ダイアモックス ★
	2203	トリメタジオン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 凍結	7～13	㊨	LC-MS/MS	300～500 (ジメタジオン濃度として) μg/mL	ミノアレ (活性代謝物であるジメタジオンを測定) ★
	2210	ラモトリギン	血液 2 (PH5) 遠心	血漿 0.3 冷蔵	3～5	㊨	LC/MS/MS	次回投与直前 2.5～15 μg/mL	ラミクタール ★
	2209	ガバペンチン	血液 2 (PH5) 遠心	血漿 0.3 冷蔵	3～5	㊨	LC/MS/MS	μg/mL	ガバペン錠 ★
	2277	レベチラセタム	血液 2 (PH5) 遠心	血漿 0.3 冷蔵	3～5	㊨	LC/MS/MS	次回投与直前 12～46 μg/mL	イーケプラ ★
	2279	トピラマート	血液 2 (PH5) 遠心	血漿 0.3 冷蔵	3～5	㊨	LC/MS/MS	次回投与直前 5～20 μg/mL	トピナ ★
製剤 ジギタリス剤	0910	ジゴキシン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	1～2	㊨	CLEIA	0.5～1.5 ng/mL	ジゴシン、ジゴキシンサンド ㊟1
鎮咳去痰剤	0913	テオフィリン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	1～2	㊨	CLEIA	5.0～15.0 μg/mL	テオドール、テオロング、ユニフィル

㊟1　メチルジゴキシン、ラナトシドC、デスラノシドの直接的な測定方法はありません。測定使用抗体との交差性を利用してジゴキシンで測定することは可能です。しかし、有効域及び中毒域について確立されたデータはありませんのでご考慮ください。

採血時刻についての注意事項

1．TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2．連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3．中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4．標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

	項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値及び単位（治療濃度範囲）	備考（製品名、製剤名等）
精神神経用剤	2211	リチウム	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2〜4	㊖	比色法	治療濃度範囲 0.3〜1.2 mEq/L	リーマス、リチオマール ★
	2214	ハロペリドール	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2〜4	㊖	金コロイド凝集法	3〜17 ng/mL	ハロステン、セレネース、ハロマンス、リントン、ネオペリドール ★
	2216	ブロムペリドール	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.5 冷蔵	2〜4	㊖	金コロイド凝集法	至適血中濃度 15以下 ng/mL	インプロメン、ルナプロン ★
不整脈用剤	2240	アプリンジン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	3〜5	㊖	LC/MS/MS	0.25〜1.25 μg/mL	アスペノン ★
	2235	プロカインアミド	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.4 冷蔵	2〜4	㊖	EIA	4.0〜10.0 μg/mL	アミサリン ★
	2246	シベンゾリン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	3〜5	㊖	LC/MS/MS	Trough濃度 70〜250 ng/mL	シベノール ★
	2242	メキシチール（メキシレチン）	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	3〜5	㊖	LC/MS/MS	0.5〜2.0 μg/mL	メキシチール ★
	2244	フレカイニド	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	3〜5	㊖	LC/MS/MS	200〜1000 ng/mL	タンボコール ★
	2238	リドカイン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	2〜4	㊖	EIA	1.2〜5.0 μg/mL	キシロカイン ★
	2236	ジソピラミド	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	2〜4	㊖	EIA	2.0〜5.0 μg/mL	リスモダン、ノルペース、カフィール、リスラミドR ★
	2227	プロパフェノン	血液 5 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	3〜5	㊖	LC/MS/MS	ng/mL	プロノン ★
	2226	ピルシカイニド	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	3〜5	㊖	LC/MS/MS	0.2〜0.9 μg/mL	サンリズム ★
	2223	アミオダロン	血液 2 (PH5) 遠心	血漿 0.3 冷蔵	3〜5	㊖	LC/MS/MS	ng/mL	アンカロン ★
	2272	ピルメノール	血液 5 (PH5) 遠心	血漿 1.3 冷蔵	3〜9	㊖	HPLC	400.0以上 ng/mL	ピメノール ★

スピッツ〈茶色栓〉



ヘパリン入り（5mL）
(PH5)



薬物検査

	項目コード	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位 (治療濃度範囲)	備考 (製品名、製剤名等)
抗生物質製剤	2267	ゲンタマイシン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.4 凍結	2～4	特	EIA	Peak濃度 15～20 Trough濃度 1未満 μg/mL	ゲンタシン、エルタシン、ルイネシン ★
	2269	トブラマイシン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.4 凍結	2～4	特	EIA	Peak濃度 15～20 Trough濃度 1未満 μg/mL	トブラシン ★
	2247	アミカシン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.4 凍結	2～4	特	KIMS	Peak濃度 50～60 Trough濃度 4未満 μg/mL	アルベカシンとの交差反応があるのでご注意ください。アミカマイシン、ビクリン ★
	2258	アルベカシン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 凍結	2～4	特	ラテックス凝集比濁法	Peak濃度 15～20 Trough濃度 1～2未満 μg/mL	ハベカシン ★
	2250	バンコマイシン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.4 冷蔵	2～4	特	ラテックス凝集比濁法	Trough濃度 10～15 μg/mL	塩酸バンコマイシン ★
	2251	テイコプラニン	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.3 冷蔵	2～4	特	ラテックス凝集比濁法	Trough濃度 15～30 μg/mL	タゴシッド ★
抗真菌剤	2273	ボリコナゾール	血液 2 PH5 遠心	血漿 0.3 冷蔵	3～5	特	LC/MS/MS	μg/mL	ブイフェンド ★
免疫抑制剤	2256	シクロスポリン	血液 2 PKF	PKF 血液 0.7 凍結	2～4	特	ECLIA	ng/mL	ネオラール、サンディミュン ★
	2259	タクロリムス	血液 2 PKF	PKF 血液 0.7 凍結	2～4	特	ECLIA	ng/mL	プログラフ、グラセプター ★
消炎剤 解熱鎮痛	2252	サリチル酸	血液 2 スピッツ 遠心	血清 0.4 冷蔵	2～4	特	酵素法	抗炎症作用として 100～250 μg/mL	アスピリン、バファリン ★

スピッツ〈茶色栓〉



ヘパリン入り(5mL)
PH5



EDTA-2K入り
PKF



特定薬剤治療管理料　留意事項

特定薬剤治療管理料１について

注１）ジギタリス製剤又は抗てんかん剤を投与している患者、免疫抑制剤を投与している臓器移植後の患者その他別に厚生労働大臣が定める患者に対して、薬物血中濃度を測定して計画的な治療管理を行った場合に算定する。

注２）同一の患者につき特定薬剤治療管理料を算定すべき測定及び計画的な治療管理を月２回以上行った場合においては、特定薬剤治療管理料は１回に限り算定することとし、第１回の測定及び計画的な治療管理を行ったときに算定する。

注３）ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合又はてんかん重積状態の患者に対して、抗てんかん剤の注射等を行った場合は、所定点数にかかわらず、１回に限り740点を特定薬剤治療管理料１として算定する。

注４）抗てんかん剤又は免疫抑制剤を投与している患者以外の患者に対して行った薬物血中濃度の測定及び計画的な治療管理のうち、４月目以降のものについては、所定点数の100分の50に相当する点数により算定する。

注５）てんかんの患者であって、２種類以上の抗てんかん剤を投与されているものについて、同一暦月に血中の複数の抗てんかん剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、当該管理を行った月において、２回に限り所定点数を算定できる。

注６）臓器移植後の患者に対して、免疫抑制剤の投与を行った場合は、臓器移植を行った日の属する月を含め３月に限り、2,740点を所定点数に加算する。

注７）入院中の患者であって、バンコマイシンを投与しているものに対して、血中のバンコマイシンの濃度を複数回測定し、その測定結果に基づき、投与量を精密に管理した場合は、１回に限り、530点を所定点数に加算する。

注８）注６）及び注７）に規定する患者以外の患者に対して、特定薬剤治療管理に係る薬剤の投与を行った場合は、１回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。

注９）ミコフェノール酸モフェチルを投与している臓器移植後の患者であって、２種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、医師が必要と認め、同一暦月に血中の複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、６月に１回に限り250点を所定点数に加算する。

注10）エベロリムスを投与している臓器移植後の患者であって、２種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、医師が必要と認め、同一暦月に血中の複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、エベロリムスの初回投与を行った日の属する月を含め３月に限り月１回、４月目以降は４月に１回に限り250点を所定点数に加算する。

特定薬剤治療管理料２について

注11）サリドマイド及びその誘導体を投与している患者について、服薬に係る安全管理の遵守状況を確認し、その結果を所定の機関に報告する等により、投与の妥当性を確認した上で、必要な指導等を行った場合、又はカルタヘナ法に基づく管理が必要な薬剤を投与している患者について、自宅等における管理に必要な指導等を行った場合に月１回に限り所定点数を算定する。

留　意　事　項

（１）　特定薬剤治療管理料１

ア　特定薬剤治療管理料１は、下記のものに対して投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月１回に限り算定する。

(イ)　心疾患患者であってジギタリス製剤を投与しているもの

(ロ)　てんかん患者であって抗てんかん剤を投与しているもの

(ハ)　臓器移植術を受けた患者であって臓器移植における拒否反応の抑制を目的として免疫抑制剤を投与しているもの

(ニ)　気管支喘息、喘息性（様）気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫又は未熟児無呼吸発作の患者であってテオフィリン製剤を投与しているもの

(ホ)　不整脈の患者であって不整脈用剤を継続的に投与しているもの

(ヘ)　統合失調症の患者であってハロペリドール製剤又はブロムペリドール製剤を投与しているもの

(ト)　躁うつ病の患者であってリチウム製剤を投与しているもの

(チ)　躁うつ病又は躁病の患者であってバルプロ酸ナトリウム又はカルバマゼピンを投与しているもの

(リ)　ベーチェット病の患者であって活動性・難治性眼症状を有するもの又はその他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活動性の中間部又は後部の非感染性ぶどう膜炎に限る。）、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎（既存治療で十分な効果が得られない患者に限る。）、ネフローゼ症候群若しくは川崎病の急性期の患者であってシクロスポリンを投与しているもの

(ヌ)　全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎又は間質性肺炎（多発性筋炎又は皮膚筋炎に合併するものに限る。）の患者であってタクロリムス水和物を投与しているもの

(ル)　若年性関節リウマチ、リウマチ熱又は慢性関節リウマチの患者であってサリチル酸系製剤を継続的に投与しているもの

(ヲ)　悪性腫瘍の患者であってメトトレキサートを投与しているもの

(ワ)　結節性硬化症の患者であってエベロリムスを投与しているもの

(カ)　入院中の患者であってアミノ配糖体抗生物質、グリコペプチド系抗生物質又はトリアゾール系抗真菌剤を数日間以上投与しているもの

(ヨ)　重症又は難治性真菌感染症又は造血幹細胞移植の患者であってトリアゾール系抗真菌剤を投与（造血幹細胞移植の患者にあっては、深在性真菌症の予防を目的とするものに限る。）しているもの

(タ)イマチニブを投与しているもの

(レ)　リンパ脈管筋腫症、難治性脈管腫瘍又は難治性脈管奇形の患者であってシロリムス製剤を投与しているもの

(ソ)　腎細胞癌の患者であって抗悪性腫瘍剤としてスニチニブを投与しているもの

(ツ)　片頭痛の患者であってバルプロ酸ナトリウムを投与しているもの

(ネ)　統合失調症の患者であって治療抵抗性統合失調症治療薬を投与しているもの

(ナ)　ブスルファンを投与しているもの

イ　特定薬剤治療管理料１を算定できる不整脈用剤とはプロカインアミド、Ｎ－アセチルプロカインアミド、ジソピラミド、キニジン、アプリンジン、リドカイン、ピルジカイニド塩酸塩、プロパフェノン、メキシレチン、フレカイニド、シベンゾリンコハク酸塩、ピルメノール、アミオダロン、ソタロール塩酸塩及びベプリジル塩酸塩をいう。

ウ　特定薬剤治療管理料１を算定できるグリコペプチド系抗生物質とは、バンコマイシン及びテイコプラニンをいい、トリアゾール系抗真菌剤とは、ボリコナゾールをいう。

エ　特定薬剤治療管理料１を算定できる免疫抑制剤とは、シクロスポリン、タクロリムス水和物、エベロリムス及びミコフェノール酸モフェチルをいう。

オ　特定薬剤治療管理料１を算定できる治療抵抗性統合失調症治療薬とは、クロザピンをいう。

カ　当該管理料には、薬剤の血中濃度測定、当該血中濃度測定に係る採血及び測定結果に基づく投与量の管理に係る費用が含まれるものであり、１月のうちに２回以上血中濃度を測定した場合であっても、それに係る費用は別に算定できない。ただし、別の疾患に対して別の薬剤を投与した場合（例えば、てんかんに対する抗てんかん剤と気管支喘息に対するテオフィリン製剤の両方を投与する場合）及び同一疾患についてアの(イ)から(ネ)までのうち同一の区分に該当しない薬剤を投与した場合（例えば、発作性上室性頻脈に対してジギタリス製剤及び不整脈用剤を投与した場合）はそれぞれ算定できる。

キ　薬剤の血中濃度、治療計画の要点を診療録に添付又は記載する。

ク　ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合は、１

留　意　事　項

回に限り急速飽和完了日に「注３」に規定する点数を算定することとし、当該算定を行った急速飽和完了日の属する月においては、別に特定薬剤治療管理料１は算定できない。なお、急速飽和とは、重症うっ血性心不全の患者に対して２日間程度のうちに数回にわたりジギタリス製剤を投与し、治療効果が得られる濃度にまで到達させることをいう。

ケ　てんかん重積状態のうち算定の対象となるものは、全身性けいれん発作重積状態であり、抗てんかん剤を投与している者について、注射薬剤等の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合は、１回に限り、重積状態が消失した日に「注３」に規定する点数を算定することとし、当該算定を行った重積状態消失日の属する月においては、別に特定薬剤治療管理料１は算定できない。

コ　「注３」に規定する点数を算定する場合にあっては、「注８」に規定する加算を含め別に特定薬剤治療管理料１は算定できない。

サ　「注４」に規定する「抗てんかん剤又は免疫抑制剤を投与している患者」には、躁うつ病又は躁病によりバルプロ酸又はカルバマゼピンを投与している患者が含まれ、当該患者は４月目以降においても減算対象とならない。また、所定点数の100分の50に相当する点数により算定する「４月目以降」とは、初回の算定から暦月で数えて４月目以降のことである。

シ　免疫抑制剤を投与している臓器移植後の患者については、臓器移植を行った日の属する月を含め３月に限り、臓器移植加算として「注６」に規定する加算を算定し、「注８」に規定する初回月加算は算定しない。また、「注６」に規定する加算を算定する場合には、「注９」及び「注10」に規定する加算は算定できない。

ス　「注７」に規定する加算は、入院中の患者であって、バンコマイシンを数日間以上投与しているものに対して、バンコマイシンの安定した血中至適濃度を得るため頻回の測定を行った場合は、１回に限り、初回月加算（バンコマイシンを投与した場合）として「注７」に規定する加算を算定し、「注８」に規定する加算は別に算定できない。

セ　「注８」に規定する初回月加算は、投与中の薬剤の安定した血中至適濃度を得るため頻回の測定が行われる初回月に限り算定できるものであり、薬剤を変更した場合においては算定できない。

ソ　「注９」に規定する加算を算定する場合は、ミコフェノール酸モフェチルの血中濃度測定の必要性について診療報酬明細書の摘要欄に詳細を記載すること。

タ　「注10」に規定する加算を算定する場合は、エベロリムスの初回投与から３月の間に限り、当該薬剤の血中濃度測定の必要性について診療報酬明細書の摘要欄に詳細を記載すること。

チ　「注９」及び「注10」に規定する加算は同一月内に併せて算定できない。

ツ　特殊な薬物血中濃度の測定及び計画的な治療管理のうち、特に本項を準用する必要のあるものについては、その都度当局に内議し、最も近似する測定及び治療管理として準用が通知された算定方法により算定する。

（２）　特定薬剤治療管理料２

ア　特定薬剤治療管理料２は、以下のいずれかに該当する場合に、月１回に限り算定する。

㈠　胎児曝露を未然に防止するための安全管理手順を遵守した上でサリドマイド製剤及びその誘導体の処方及び調剤を実施した患者に対して、医師及び薬剤師が、当該薬剤の管理の状況について確認及び適正使用に係る必要な説明を行い、当該医薬品の製造販売を行う企業に対して確認票等を用いて定期的に患者の服薬に係る安全管理の遵守状況等を報告した場合。

㈡　薬事承認に当たって、カルタヘナ法に基づく管理が必要と定められている薬剤を処方する患者に対して、医師が当該薬剤の管理の状況について確認及び適正使用に係る必要な説明を行った場合

イ　アの(イ)に規定するサリドマイド製剤及びその誘導体とは、サリドマイド、レナリドミド及びポマリドミドをいう。

ウ　アの(イ)に規定する安全管理手順については「サリドマイド製剤安全管理手順（TERMS）」及び「レナリドミド・ポマリドミド適正管理手順（RevMate）」を遵守すること。

エ　アの(ロ)に規定するカルタヘナ法に基づく管理が必要と定められている薬剤とは、オナセムノゲン アベパルボベク、テセルパツレブ、ボレチゲン ネパルボベク、ベレマゲン ゲペルパベク及びデランジストロゲン モキセパルボベクをいう。

オ　カルタヘナ法に基づく管理のために医薬品等製造販売業者が特に必要と判断した物品については、医薬品等製造販売業者が保険医療機関に給付することとし、保険医療機関が各施設の構造上等の理由により個別に必要性を判断した環境整備に係る衛生材料及びカルタヘナ法に係る対応に関わらず一般的に使用される衛生材料の費用については、当該管理料に含まれる。

カ　特定薬剤治療管理料２を算定する場合は、診療録等に指導内容の要点を記録すること。

薬物検査

主な薬物検査の採血時期

製剤名		採血時刻
抗てんかん薬	バルプロ酸ナトリウム	次回投与直前（Trough濃度）
	フェノバルビタール	
	カルバマゼピン	
	プリミドン	
	クロナゼパム	
	ニトラゼパム	
	ジアゼパム	
	ゾニサミド	
	エトスクシミド	
	レベチラセタム	
	フェニトイン	（経口）次回投与直前（Trough濃度）、（静注）投与後 2 ～ 4 時間
ジギタリス製剤	ジゴキシン	投与後 6 時間以降 次回投与直前（消失相）
鎮咳去痰剤	テオフィリン	（経口）速放性製剤：次回投与直前（Trough濃度）および投与後 2 時間（Peak濃度） 徐放性製剤：次回投与直前（Trough濃度）および投与後 4 時間（Peak濃度） （静注）点滴静注：次回投与直前（Trough濃度）および投与後30分（Peak濃度） 持続静注：投与開始後 4 ～ 6 時間およびその後12～24時間ごと
精神用剤	リチウム	最終投与後12時間または早期投与前（Trough濃度）
経神用剤	ハロペリドール	随時（ただし、採血時刻を一定とする）
	ブロムペリドール	
不整脈用剤	アプリンジン	（経口）次回投与直前（Trough濃度） 投与後 2 ～ 4 時間（Peak濃度） （静注）次回投与直前（Trough濃度）
	プロカインアミド	次回投与直前（Trough濃度）
	シベンゾリン	朝投与直前（Trough濃度）
	メキシレチン	（経口）次回投与直前（Trough濃度） （静注）随時
	フレカイニド	次回投与直前（Trough濃度）
	リドカイン	（静　　注）投与後 2 時間 （点滴静注） 6 ～12時間
	ジソピラミド	次回投与直前（Trough濃度）
	ピルシカイニド	次回投与直前（Trough濃度）
	アミオダロン	次回投与直前（Trough濃度）
	ピルメノール	随時
抗生物質製剤	ゲンタマイシン	点滴開始 1 時間後（30分で投与した場合、終了30分後）（Peak濃度） 投与前30分以内（Trough濃度）
	トブラマイシン	
	アミカシン	
	アルベカシン	
	バンコマイシン	投与前30分以内（Trough濃度）
	テイコプラニン	投与前30分以内（Trough濃度）
免疫抑制剤	シクロスポリン	次回投与直前（Trough濃度）
	タクロリムス	
消炎鎮痛解熱剤	サリチル酸	次回投与直前（Trough濃度）

採血時刻についての注意事項

1．TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2．連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3．中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4．標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

特定薬剤治療管理料 ㊟

薬剤名	検査項目	特定薬剤治療管理料（同一患者月1回）		加算点（初回月）	備考
		1～3ヵ月	4ヵ月以上		
ジギタリス製剤 （心疾患）	ジゴキシン	470点	235点	280点 （薬剤の投与を行った初回月のみ加算）	ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合所定点数（470点）にかかわらず、1回に限り740点を算定する。
テオフィリン （気管支喘息、喘息性（様）気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫または未熟児無呼吸発作）	テオフィリン				
不整脈用剤 （不整脈）	プロカインアミド　N-アセチルプロカインアミド ジソピラミド　キニジン アプリンジン　リドカイン ピルシカイニド　プロパフェノン メキシレチン　フレカイニド シベンゾリン　ピルメノール アミオダロン　ソタロール塩酸塩 ベプリジル				
抗てんかん剤 （てんかん）	フェノバルビタール　プリミドン フェニトイン　カルバマゼピン エトスクシミド　バルプロ酸 ゾニサミド　トリメタジオン クロナゼパム　ニトラゼパム ジアゼパム　クロバザム ガバペンチン　アセタゾラミド レベチラセタム　トピラマート ラモトリギン　ラコサミド ペランパネル		470点		てんかんの患者であって、2種類以上の抗てんかん剤を投与されているものについて、同一暦月に血中の複数の抗てんかん剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、当該管理を行った月において、2回に限り所定点数を算定できる。てんかん重積状態の患者に対して、抗てんかん剤の注射等を行った場合は、所定点数（470点）にかかわらず、1回に限り740点を算定する。
アミノ配糖体抗生物質 ［入院中］	ゲンタマイシン　トブラマイシン アミカシン　アルベカシン		235点		
グリコペプチド系抗生物質 ［入院中］	バンコマイシン　テイコプラニン				
免疫抑制剤 （臓器移植後）	シクロスポリン　タクロリムス エベロリムス　ミコフェノール酸モフェチル		470点	2740点 （臓器移植を行った日の属する月を含め3月に限り加算）	
免疫抑制剤 （その他の非感染性ぶどう膜炎） （重度の再生不良性貧血、赤芽球癆） （ベーチェット病） （尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬） （全身型重症筋無力症） （ネフローゼ症候群）（アトピー性皮膚炎）	シクロスポリン			280点 （薬剤の投与を行った初回月のみ加算）	
ハロペリドール製剤 （統合失調症）	ハロペリドール		235点		
ブロムペリドール製剤 （統合失調症）	ブロムペリドール				
リチウム製剤 （躁うつ病）	リチウム				
バルプロ酸ナトリウム （躁うつ病または躁病）	バルプロ酸		470点		
バルプロ酸ナトリウム （片頭痛）	バルプロ酸		235点		
カルバマゼピン （躁うつ病または躁病）	カルバマゼピン		470点		
サリチル酸系製剤 （若年性関節リウマチ、リウマチ熱、慢性関節リウマチ）	サリチル酸（アスピリン）		235点		
メトトレキサート （悪性腫瘍）	メトトレキサート				
免疫抑制剤 （全身型重症筋無力症） （関節リウマチ）（潰瘍性大腸炎） （ループス腎炎）	タクロリムス		470点		
トリアゾール系抗真菌剤 ［入院中］ （重症または難治性真菌感染症または造血幹細胞移植）	ボリコナゾール		235点		

毒物・産業医学的代謝物質

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
1255	アルミニウム Al		血液 3 (SZZ)	遠心 血清 0.6 (SZZ)冷蔵	3～5	109 ※4	原子吸光分析法	10以下 μg/L	★
1287	鉛 Pb		血液 5 (PH5)	血液 3 (PH5)冷蔵	3～5		原子吸光分析法	次頁の別表参照 μg/dL	ヘパリン入り容器に血液を採取し、混和後冷蔵保存。 ★
1271	クロム Cr	血液	血液 5 (PH5)	血液 0.7 (PH5)冷蔵	6～19		原子吸光分光光度法	1.0以下 μg/dL	ヘパリン入り容器に血液を採取し、混和後冷蔵保存。 ★
1272		尿	(AZZ)	部分尿 1 (AZZ)冷蔵				2以下 μg/L	★
1280	カドミウム Cd	血液	血液 5 (PH5)	血液 0.5 (PH5)冷蔵	7～11		ICP-MS	0.5以下 μg/dL	ヘパリン入り容器に血液を採取し、混和後冷蔵保存。 ★
1281		尿	(AZZ)	部分尿 1 (AZZ)冷蔵	7～13		ICP-MS	3.8以下 μg/L	★
1274	マンガン Mn		血液 5 (PH5)	血液 0.7 (PH5)冷蔵	7～20	27 ※4	原子吸光分光光度法	0.8～2.5 μg/dL	ヘパリン入り容器に血液を採取し、混和後冷蔵保存。 ★
1241	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA)		滅菌 ポリスピッツ	部分尿または蓄尿 各0.7 冷蔵 (遮光)	3～5	106 ※1	HPLC	次頁の別表参照 mg/L	部分尿でも蓄尿でも可。 蓄尿の場合24時間尿量を明記。 ★
	総三塩化物	テトラクロルエチレン	滅菌 ポリスピッツ	部分尿 各0.8 冷蔵	4～10		Gas-chromatograph法	次頁の別表参照 mg/L	週末の作業終了時に採尿。 作業終了２時間前に一度排尿を行い、その後２時間は排尿せずに採取。 ★
		1.1.1-トリクロルエタン							
		トリクロルエチレン							
	三塩化酢酸	テトラクロルエチレン							
		1.1.1-トリクロルエタン							
		トリクロルエチレン							
1293	馬尿酸		滅菌 ポリスピッツ	部分尿 1.3 冷蔵	4～10		HPLC	次頁の別表参照 g/L	連続した作業日の最初の日以外の作業終了時に採尿。 作業終了２時間前に一度排尿を行い、その後２時間は排尿せずに採尿。 ★
1295	メチル馬尿酸		滅菌 ポリスピッツ	部分尿 1.3 冷蔵					
1381	尿中スチレン代謝物		滅菌 ポリスピッツ	部分尿 1.8 冷蔵	4～14		HPLC	次頁の別表参照 g/L	週末の作業終了時に採尿。 作業終了２時間前に一度排尿を行い、その後２時間は排尿せずに採取。 測定値は、マンデル酸(MA)、フェニルグリオキシル酸(PGA)および合算値(MA+PGA)。 ★
1385	尿中マンデル酸エチルベンゼン		滅菌 ポリスピッツ	部分尿 1.8 冷蔵	4～14		HPLC	g/L	週末の作業終了時に採尿。 作業終了２時間前に一度排尿を行い、その後２時間は排尿せずに採取。 ★
1297	N-メチルホルムアミド		滅菌 ポリスピッツ	部分尿 各1.7 冷蔵	4～10		Gas-chromatograph法 (GC-MSD)	次頁の別表参照 mg/L	連続した作業日の最初の日以外の作業終了時に採尿。 作業終了２時間前に一度排尿を行い、その後２時間は排尿せずに採尿。 ★
1298	2,5-ヘキサンジオン								

◆血液化学検査

の項目について、１回に５項目以上検査を行った場合

(1) ５項目以上７項目以下…… 93点

(2) ８項目又は９項目…… 99点

(3) 10項目以上……103点

使用有機溶剤	検査項目名（尿中代謝物）	検査のための採取条件	その他注意事項	検査方法	単位	分布 1 以下	分布 2 超	分布 2 以下	分布 3 超
トルエン	馬尿酸	連続した作業日の最初の日以外の作業終了時に採尿してください。 作業終了２時間前に一度排尿を行ない、その後２時間は排尿せずに採尿するようにしてください。	**尿量の影響** 尿の排出量が極端に多いか、又は少ない場合は、適切な水分摂取についてご指導ください。 **飲酒の影響** 尿の採取前日から採取までの間は飲酒を控えるようにご指導ください。 有機物溶剤は、その代謝過程にアルコール脱水素酵素を経由するものが多いので、アルコール摂取した場合、有機溶剤代謝産物濃度が低くなることが報告されています。 **安息香酸の影響** 食品衛生法では、保存料として、酒、味噌や醤油に安息香酸を添加することが認められています。安息香酸は体内で馬尿酸に代謝されて排泄されます。缶・ペットボトル・紙パック入りコーラ、ジュース、コーヒー等にも添加されていることがあり、更に牛乳や、チーズにも含まれています。 下線の食品を採尿前６時間以内に100mL以上摂取した場合、容器に記載されている内容物の原材料名を確認して、安息香酸が含まれていた場合は、別の日に実施してください。馬尿酸の分布が２以上になる場合があります。 **食品の影響** 桂皮(336.0μg/g)、ベリー系ジャム(140.0)、梅肉エキス(101.0)、福神漬(46.6)、杏(12.1)、きな粉(11.0)、すもも、いちごは、元々安息香酸を含んでいます。摂取した場合、別の日に実施してください。 **混合溶剤の影響** 塩素系溶剤の代謝物は同一ですので、２種類以上使用されている場合、種類と作業環境空気中濃度を考慮して結果を評価してください。	HPLC	g/L	1.0	1.0	2.5	2.5
キシレン	メチル馬尿酸			HPLC	g/L	0.5	0.5	1.5	1.5
ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサンジオン			GC	mg/L	2.0	2.0	5.0	5.0
N.N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド			GC	mg/L	10.0	10.0	40.0	40.0
スチレン	尿中スチレン代謝物	週末の作業終了時に採尿してください。 作業終了２時間前に一度排尿を行ない、その後２時間は排尿せずに採尿するようにしてください。		HPLC	g/L	分布報告はいたしません。			
テトラクロルエチレン	トリクロル酢酸			Gas-chromatograph法	mg/L	3.0	3.0	10.0	10.0
	総三塩化物				mg/L	3.0	3.0	10.0	10.0
1.1.1-トリクロルエタン	トリクロル酢酸				mg/L	3.0	3.0	10.0	10.0
	総三塩化物				mg/L	10.0	10.0	40.0	40.0
トリクロルエチレン	トリクロル酢酸				mg/L	30.0	30.0	100.0	100.0
	総三塩化物				mg/L	100.0	100.0	300.0	300.0

使用物質	検査項目名	検査のための採取条件	その他注意事項	検査方法	単位	分布 1 以下	分布 2 超	分布 2 以下	分布 3 超
鉛	血中鉛	任意の時にヘパリン入り容器に採血してください。		原子吸光法	μg/dL	20	20	40	40
	尿中δ-アミノレブリン酸	任意の時に採尿してください。	**尿量の影響** 尿の排泄量が極端に多いか、又は少ない場合は、適切な水分摂取についてご指導ください。	HPLC	mg/L	5	5	10	10

体内に鉛や有機溶剤がどのくらい，取り込まれているかを定期的にチェックをすることを主な目的としているため，結果の評価については，正常・異常の鑑別を目的としたものではありません。作業環境を含めた総合的な判断が必要とされています。

遮光ポリスピッツ (U00)



酸洗浄済みのポリスピッツ (AZZ)



滅菌ポリスピッツ



ヘパリン入り（５mL） (PH5)



アルミニウム用 (SZZ)



特殊検査

細胞性免疫〈曜日指定検査〉

	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
細胞表面マーカー	モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	血液 各5 (PH5)	血液 各3 (PH5) 室温	3～5	次頁参照	フローサイトメトリー	次頁参照 %	〈予約検査〉 受託可能日は月～金曜日です。 事前にお問い合わせください。 ★
	Two-color解析によるリンパ球の表面マーカー検査					Two-colorフローサイトメトリー		
	白血病・リンパ腫解析検査(LLA) CD45ゲーティング(造血器悪性腫瘍細胞検査)	血液 各5 (PH5)	血液 各5 (PH5) 室温	3～5	1882 ※3	フローサイトメトリー		
	悪性リンパ腫解析検査(MLA) CD45ゲーティング(造血器悪性腫瘍細胞検査)							
細胞機能検査	T細胞百分率 B細胞百分率	血液 5 (PH5)	血液 3 (PH5) 室温	3～5	193 ※6	フローサイトメトリー	T ：66～89 B ：4～13 %	〈予約検査〉 受託可能日は月～金曜日です。 事前にお問い合わせください。 ★
	PHAによるリンパ球幼若化検査	血液 各10 (PH9)	血液 各5 (PH9) 室温 同時依頼の場合は8mL	7～8	345 ※6	^{3}H-サイミジン取り込み能	PHA＋ 20500～56800 CONTROL 127～456 cpm	
	Con-Aによるリンパ球幼若化検査						Con-A＋ 20300～65700 CONTROL 127～456 cpm	
	薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）	血液 10 (PH9)	血液 1薬剤12 (PH9) 室温	8～10	㊟1		陰性	
	NK細胞活性	血液 5 (PNK)	血液 5 (PNK)冷蔵	3～5		^{51}Cr遊離法	18～40 (参考値) %	受託可能日は月～金曜日です。 ★

㊟1 Con-A、PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものである場合算定できる。
（リンパ球刺激試験（LST） 1薬剤345点、 2薬剤425点、 3薬剤以上700点）

・細胞性免疫検査のご依頼について

1．検体は採取後、当日中にご提出ください。
2．リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。
3．骨髄液での依頼の場合は、専用容器 (H00) を使用し冷蔵にてご提出ください。
4．リンパ節等、組織でのご依頼の場合は、事前にお問い合わせください。

・白血病・リンパ腫解析検査（LLA）・悪性リンパ腫解析検査（MLA）

	モノクローナル抗体
LLA	CD1a CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD13 CD14 CD19 CD20 CD33 CD34 CD41 CD56 GP-A HLA-DR
MLA	CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD11c CD16 CD19 CD20 CD23 CD25 CD30 CD34 CD56 κ-chain λ-chain

・薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）の検体について

1．1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。
2．1薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。
3．目安として白血球数が3,000mm^{3}以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。なお、詳しい白血球数とリンパ球%が判明している場合は、お問い合わせください。
4．2項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。
5．血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。
錠剤（1錠）、カプセル（1カプセル）、粉末（1回投与量程度1包）、リキッドタイプの飲み薬（0.5mL程度）、
注射薬（1バイアル【アンプル】）
皮内反応用テストアンプルは微量のため検査できません。その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は、ご連絡ください。
6．ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は専用容器での採血が必要です。容器については、お問い合わせください。

NK細胞活性 (PNK)



ヘパリン入り（5mL） (PH5)



ヘパリン入り（10mL） (PH9)



保存液入りマルク用 (H00)



細胞表面マーカー

●モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析実施項目一覧

CD：Cluster of differentiation

CD No.	基準値（単位）	実施料判断料	主として反応する細胞・代表的な反応性
$CD1_a$	1.0以下（%）		胸腺皮質細胞
CD2	71.0～91.0（%）		T細胞・Eロゼット形成細胞
CD3	58.0～84.0（%）	185 ※6	成熟（末梢）T細胞
CD4	25.0～54.0（%）		ヘルパーT細胞
CD8	23.0～56.0（%）		細胞障害性T細胞
CD4/CD8比	0.40～2.30		
CD5	60.0～90.0（%）		T細胞・一部のB細胞
CD7	72.0～90.0（%）		T細胞
CD10	1.0以下（%）		ALL・好中球
CD11b	18.0～49.0（%）		NK細胞・T細胞の一部
CD13	9.0以下（%）		単球・顆粒球・骨髄細胞
CD14	5.0以下（%）		単球
CD16	6.0～39.0（%）		NK細胞（Fcγレセプター）好中球
CD19	5.0～24.0（%）		B細胞
CD20	3.0～20.0（%）		成熟B細胞
CD21	3.0～18.0（%）		成熟B細胞
CD22	2.0～17.0（%）		B細胞
CD25	8.0～34.0（%）		IL-2レセプター Tac
CD30	1.0以下（%）		活性化T・B細胞・ホジキン細胞
CD33	5.0以下（%）		顆粒球・単球・骨髄細胞
CD34	1.0以下（%）		造血幹細胞
CD38	18.0～59.0（%）		活性化及び増殖細胞・形質細胞（強陽性）
CD56	9.0～43.0（%）		NK細胞
CD57	4.0～45.0（%）		NK細胞・LGL
HLA-DR	11.0～46.0（%）		B細胞・活性化T細胞（HLA-DR抗原）単球

●Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査

検査項目	基準値（%）	実施料判断料
Two-color CD4/CD45RA	CD4－CD45RA＋　30.0～57.0 CD4－CD45RA－　5.0～23.0 CD4＋CD45RA－　15.0～34.0 CD4＋CD45RA＋　9.0～37.0	185 ※6
Two-color CD4/CD29	CD4－CD29＋　22.0～59.0 CD4－CD29－　12.0～38.0 CD4＋CD29－　9.0～34.0 CD4＋CD29＋　11.0～26.0	
Two-color CD11b/CD8	CD11b－CD8＋　11.0～40.0 CD11b－CD8－　29.0～64.0 CD11b＋CD8－　8.0～32.0 CD11b＋CD8＋　6.0～27.0 Bright 20.0以下 Dull 3.0～17.0	
Two-color HLA-DR/CD4	HLA-DR＋CD4－　8.0～37.0 HLA-DR－CD4－　24.0～61.0 HLA-DR－CD4＋　22.0～51.0 HLA-DR＋CD4＋　1.0～12.0	
Two-color HLA-DR/CD8	HLA-DR－CD8＋　15.0～49.0 HLA-DR－CD8－　28.0～62.0 HLA-DR＋CD8－　6.0～25.0 HLA-DR＋CD8＋　2.0～27.0	
Two-color CD57/CD16	CD57－CD16＋　1.0～15.0 CD57－CD16－　49.0～87.0 CD57＋CD16－　2.0～40.0 CD57＋CD16＋　2.0～27.0	
Two-color CD16/CD56	CD16－CD56＋　2.0～20.0 CD16－CD56－　57.0～91.0 CD16＋CD56－　9.0以下 CD16＋CD56＋　4.0～33.0	

検査項目	基準値（%）	実施料判断料
Two-color HLA-DR/CD3	HLA-DR＋CD3－　3.0～18.0 HLA-DR－CD3－　7.0～36.0 HLA-DR－CD3＋　33.0～75.0 HLA-DR＋CD3＋　5.0～33.0	185 ※6
Two-color CD4/CD25	CD4＋CD25－　15.0～39.0 CD4－CD25－　37.0～69.0 CD4－CD25＋　2.0～14.0 CD4＋CD25＋　6.0～21.0	
Two-color CD45RO/CD4	CD45RO－CD4＋　6.0～34.0 CD45RO－CD4－　28.0～58.0 CD45RO＋CD4－　7.0～32.0 CD45RO＋CD4＋　10.0～32.0	
Two-color CD4/CD8	CD4－CD8＋　22.0～54.0 CD4－CD8－　14.0～38.0 CD4＋CD8－　23.0～52.0 CD4＋CD8＋　7.0以下 CD4/CD8比　0.40～2.30	
Two-color CD20/CD5	CD20＋CD5－　9.0以下 CD20－CD5－　9.0～40.0 CD20－CD5＋　54.0～87.0 CD20＋CD5＋　13.0以下	

曜日指定
受託可能日は月～金曜日です。

特殊検査

HLA〈曜日指定検査〉

	検　査　項　目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料 判断料	検　査　方　法	基準値及び単位	備　　考
HLA	HLA-A (遺伝子型タイピング)	血液 7 Ⓐ	血液 2 Ⓐ冷蔵	3～5		PCR-rSSO法		
	HLA-B (遺伝子型タイピング)	血液 7 Ⓐ	血液 2 Ⓐ冷蔵	3～5		PCR-rSSO法		
	HLA-C (遺伝子型タイピング)	血液 7 Ⓐ	血液 2 Ⓐ冷蔵	3～5		PCR-rSSO法		
	HLA-DRB1 (遺伝子型タイピング)	血液 7 Ⓐ	血液 2 Ⓐ冷蔵	3～5		PCR-rSSO法		★

HLA検査の検体について

1．受託可能日は月～金曜日です。
2．続柄、臨床診断名、投与薬剤名、輸血歴、移植歴は必ず明記してください。
3．HLA検査２項目以上を同時依頼の場合は血液２mLで検査可能です。
4．本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。

EDTA-2Na（7mL）
Ⓐ



	検査項目	採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
先天異常染色体	染色体 (倫) G-Banding	血液 各5 (PH5)	血液 各3 (PH5) 冷蔵	7~16	2444 + 386	G-band		受託可能日は月～金曜日です。依頼書に臨床診断名および臨床所見などをご記入ください。新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。 ★
	染色体 (倫) C-Banding			20~24		C-band		
	染色体 (倫) Q-Banding					Q-band		
	(注) 高精度分染法					高精度分染法		
	7染色体 (倫) (ウイリアムス症候群)	血液 各5 (PH5)	血液 各3 (PH5) 冷蔵	7~10	2477	FISH		受託可能日は月～金曜日です。該当する疾患名にてご依頼ください。本検査は疾患に直接関与する遺伝子を検出する検査ではなく、責任領域の欠失の有無を判断する検査です。新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。 ★
	15染色体 (倫) (プラダーウイリ症候群)			8~10				
	15染色体 (倫) (アンジェルマン症候群)			8~10				
血液疾患染色体	染色体 G-Banding	血液 ヘパリン入り (PH5) 骨髄液 保存液入り (H00)	血液 5 (PH5) 冷蔵 骨髄液 1 (H00) 冷蔵	8~14	2444 + 386	G-band		骨髄液（容器H）受託可能日は（血液、骨髄液共に）月～金曜日です。該当する疾患名にてご依頼ください。対象疾患名は下記参照ください。 ★
	末梢血好中球 BCR-ABL1 t(9；22) 転座	血液 5 (PH5)	血液 5 (PH5) 冷蔵	7~10	2477	FISH		受託可能日は月～金曜日です。血液は採血後、速やかにご提出ください。採血後30時間以上経過した血液を使用した場合、細胞の形態的変化により、判定に影響がでる場合があるため検査できません。 ★

(注)**高精度分染法の留意事項**

(倫) **倫理指針対象**

1．臨床診断名および染色体の指定部位は必ずご記入ください。
2．数的異常が疑われる疾患は検査の特性上受託できません。
3．臨床診断名および部位を指定できない場合は、G-bandの検査から行ってください。
4．形態検査での判定可能なレベルおよび文献的に特定の染色体の部位に異常が報告されている疾患が対象となります。

染色体検査のご提出について

検体は採取後、当日中にご提出ください。

血液疾患染色体検査（G-Banding）留意事項

1．G-bandingの判定には、性別情報が必要なため、性別を必ず依頼書にご記入ください。
　また骨髄移植後にG-bandingをご依頼の場合にも、ドナー性別を必ず依頼書にご記入ください。
2．骨髄染色体検査には有核細胞1000万個（1×10^7個）が必要です。この量を充分満たすように骨髄液を無菌的に採取してください。
　（これは骨髄の有核細胞数が10万個/μLの場合の骨髄液0.1mL、1万個/μLの場合の骨髄液1mLに相当します）
3．ステロイド系薬剤、アルキル化薬剤、および代謝拮抗薬剤の投与中は染色体分裂像が得られず検査ができない場合があります。
4．末梢血液でご依頼の際、血中に幼若細胞（blast）の出現がみられない場合、また寛解期患者の血液では染色体分裂像が得られず検査ができない場合があります。

血液疾患染色体検査（G-Banding）対象疾患名

Myeloid系	Lymphoid系
疾患名	疾患名
MDS（骨髄異形成症候群）	ALL（急性リンパ性白血病）
MPN（骨髄増殖性腫瘍）	CLL（慢性リンパ性白血病）
AML（急性骨髄性白血病）	ML（悪性リンパ腫）
BMT（骨髄移植）	MM/PL（多発性骨髄腫/形質細胞性白血病）
その他	その他

ヘパリン入り（5mL）
(PH5)



保存液入りマルク用
(H00)



特殊検査
AIRS

項目コード	検査項目		採取材料 採取量(mL) 採取容器	検査材料 検体量(mL) 保存	所要日数	検査方法	備考
3931	男性AIRS	認知機能評価あり	血液 5 PN5	遠心 血漿 0.5 凍結	9～12	LC/MS	〈予約検査〉 受託可能日は月～金曜日です。 事前にお問い合わせください。 50歳以上の方は認知機能評価あり、49歳以下の方は認知機能評価なしをご選択ください。 ★
3933		認知機能評価なし					
3932	女性AIRS	認知機能評価あり					
3934		認知機能評価なし					

AIRS®（AminoIndex®Risk Screening）とは

アミノインデックス®を用いて１回の採血で、血液中のアミノ酸バランスから、現在・将来のさまざまな疾患リスクを一度に評価する検査です。

AICS®（AminoIndex®Cancer Screening）とは

アミノインデックス®を用いて、現在がんである可能性を評価する検査です。

AILS（エーアイエルエス）®（AminoIndex®LifeStyle diseases）とは

血液中のアミノ酸濃度バランスから、10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスクと、４年以内に糖尿病を発症するリスクおよび、大切な栄養素である必須・準必須アミノ酸が現在血液中で低下していないか評価し、検査結果に基づくⅠ～Ⅳのタイプを報告します。また、このタイプをもとに、生活改善評価情報が提供できます。なお、AILS（エーアイエルエス）®単独での受託はできません。

アミノインデックス®とは

アミノインデックス®は、血液中の各種アミノ酸濃度のバランスから、現在の健康状態や病気の可能性を明らかにする検査です。アミノインデックス®の解析は、味の素㈱に委託して解析されています。

受託における注意点

AIRS®は下記年齢の日本人（妊娠されている方を除く）を対象として開発された検査です。これらの方以外は評価対象外となります。

検査項目		評価対象	対象年齢
男性	AICS（５種）	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん	25歳～90歳
		前立腺がん	40歳～90歳
	AILS（脳心疾患リスク）	10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスク	30歳～74歳
	AILS（糖尿病リスク）	４年以内に糖尿病を発症するリスク	20歳～80歳
	AILS（アミノ酸レベル）	血液中の必須・準必須アミノ酸の低さ	
女性	AICS（６種）	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん	25歳～90歳
		子宮がん・卵巣がん	20歳～80歳
	AILS（脳心疾患リスク）	10年以内に脳卒中・心筋梗塞を発症するリスク	30歳～74歳
	AILS（糖尿病リスク）	４年以内に糖尿病を発症するリスク	20歳～80歳
	AILS（アミノ酸レベル）	血液中の必須・準必須アミノ酸の低さ	

※脳卒中・心筋梗塞の方（治療中も含む）のAILS（脳心疾患リスク）値、糖尿病の方（治療中も含む）のAILS（糖尿病リスク）値や検査結果に基づくタイプは評価対象外となります。

・検査前８時間以内に、水以外（食事、サプリメント等）は摂取せず、午前中に採血してください。（検査前日の高タンパク質の食事も避けてください）また、当日朝の運動はお控えください。
・妊娠されている方、授乳中の方、がん患者（治療中を含む）の方、先天性代謝異常の方、透析患者の方は、検査結果に影響があるため、検査の実施はご遠慮ください。
・強溶血検体や、血漿（EDTA-2Na）以外の材料での、受託はできません。
・ご依頼の際は性別・年齢を必ず明記してください。

検体のお取り扱いについて

1．EDTA-2Na入り採血チューブにて血液約５mLを採取してください。
2．採血直後、血液を２～３回軽く転倒混和してください。（ローラーでの混和は行わないでください。）
3．混和後直ちに（１分以内）採血チューブを氷水中（血液の液面まで氷水につかる状態）で冷却（15分以上、遠心操作まで冷却）してください。
4．採血から８時間以内に冷却条件で遠心分離（４℃、3,000回転、15分）または通常遠心分離（3,000回転、15分、ローターが昇温していないこと）してください。
5．遠心後、直ちに上清の血漿を血液との界面に触れないように血漿上清の中央部から採取し、分注してください。
6．分注後、血漿を４時間以内に凍結保存してください。

EDTA-2Na（5mL）
PN5



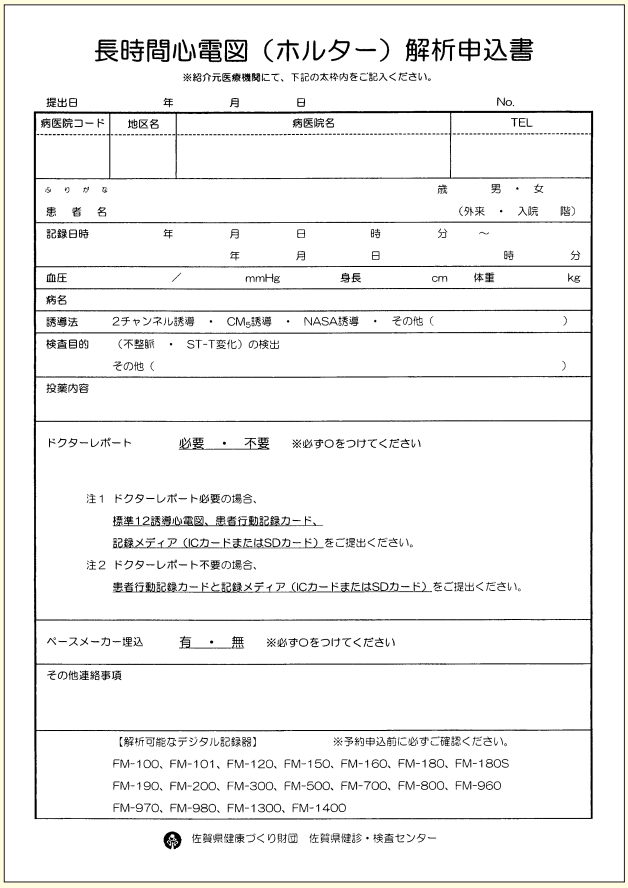
長時間心電図解析・骨塩定量検査

【ホルター心電図】

検査項目		検体	所要日数	実施料	検査方法	備考
長時間心電図解析（ホルター心電図）	判読「要」	**記録メディア** ICカード または SDカード	3〜4	1730	**解析装置** SCM8000 （フクダ電子）	記録装置はフクダ電子社製が対象となります。 判読「要」の場合は、標準12誘導心電図、行動記録カードを、判読「不要」は行動記録カードを添付してください。
	判読「不要」		1〜2			
	24時間血圧解析		判読「要」「不要」に準ずる	200		ホルター心電図と同時記録について解析が可能です。 申込用紙の連絡事項にご記入ください。
	SpO_2解析			100		

【骨塩定量検査】

検査項目	検体	所要日数	実施料	検査方法	備考
骨塩定量検査	左手第二中手骨X線データ (CD·DVD·USB)	2〜4	140	DIP法	依頼書には 氏名、年齢、性別、撮影年月日 をご記入ください。 ■



長時間心電図（ホルター）解析申込書

※紹介元医療機関にて、下記の太枠内をご記入ください。

提出日　年　月　日　No.

病医院コード	地区名	病医院名	TEL

ふりがな　歳　男・女

患者名　（外来・入院　階）

記録日時　年　月　日　時　分　～

年　月　日　時　分

血圧　／　mmHg　身長　cm　体重　kg

病名

誘導法　2チャンネル誘導・CM_5誘導・NASA誘導・その他（　）

検査目的　（不整脈・ST-T変化）の検出

その他（　）

投薬内容

ドクターレポート　必要・不要　※必ず○をつけてください

注1 ドクターレポート必要の場合、
標準12誘導心電図、患者行動記録カード、
記録メディア（ICカードまたはSDカード）をご提出ください。

注2 ドクターレポート不要の場合、
患者行動記録カードと記録メディア（ICカードまたはSDカード）をご提出ください。

ペースメーカー埋込　有・無　※必ず○をつけてください

その他連絡事項

【解析可能なデジタル記録器】　※予約申込前に必ずご確認ください。

FM-100、FM-101、FM-120、FM-150、FM-160、FM-180、FM-180S
FM-190、FM-200、FM-300、FM-500、FM-700、FM-800、FM-960
FM-970、FM-980、FM-1300、FM-1400

佐賀県健康づくり財団　佐賀県健診・検査センター

異常値報告の対象項目と検査値範囲

下記の検査項目で異常報告値が検出された場合は、緊急連絡をさせていただきます。

	検査項目名	異常値報告の範囲	基準範囲	
生化学・免疫学	総ビリルビン	10.0　以上	0.4～1.5	mg/dL
	総蛋白	3.9　以下、10.0　以上	6.6～8.1	g/dL
	AST（GOT）	1000　以上	13～30	U/L
	ALT（GPT）	1000　以上	M 10～42 F　7～23	U/L
	ALP〔IFCC〕	700　以上	38～113	U/L
	LD〔IFCC〕	1200　以上	124～222	U/L
	CK（CPK）	2000　以上	M 59～248 F 41～153	U/L U/L
	尿素窒素	80.0　以上	8～20	mg/dL
	クレアチニン	5.0　以上	M 0.65～1.07 F 0.46～0.79	mg/dL mg/dL
	カルシウム	5.9　以下、12.0　以上	8.8～10.1	mg/dL
	無機リン	0.9　以下	2.7～4.6	mg/dL
	ナトリウム	110　以下、170　以上	138～145	mmol/L
	カリウム	2.5　以下、6.0　以上	3.6～4.8	mmol/L
	血清アミラーゼ	500　以上	44～132	U/L
	尿ーアミラーゼ	3000　以上	63～475	U/L
	血清血糖	450　以上	73～109	mg/dL
	CRP	30.00　以上	0.00～0.14	mg/dL
血液学	白血球数	1.5　以下、20.0　以上	3.3～8.6	$\times 10^3/\mu L$
	赤血球数	2.00　以下	M 4.35～5.55 F 3.86～4.92	$\times 10^6/\mu L$ $\times 10^6/\mu L$
	血色素量	5.0　以下	M 13.7～16.8 F 11.6～14.8	g/dL g/dL
	血小板数	30　以下	158～348	$\times 10^3/\mu L$
	血液像	異常細胞出現時		
	検査項目名	異常値報告の範囲	有効治療濃度	
血中薬物	バルプロ酸ナトリウム	150.0　以上	50.0～100.0	μg/mL
	フェニトイン	30.0　以上	10.0～20.0	μg/mL
	フェノバルビタール	60.0　以上	10.0～40.0	μg/mL
	カルバマゼピン	12.0　以上	4.0～10.0	μg/mL
	ジゴキシン	2.5　以上	0.8～2.0	ng/mL
	テオフィリン	25.0　以上	10.0～20.0	μg/mL

共用基準範囲・特定健診基準範囲・臨床判断値

令和４年(2022年)４月現在

項目名称	項目	単位	性別	共用基準範囲 下限	共用基準範囲 上限	特定健診基準範囲	臨床判断値 値	臨床判断値 ガイドライン	臨床判断値 監修・著編者
白血球数	WBC	$10^3/\mu L$		3.3	8.6				
赤血球数	RBC	$10^6/\mu L$	M	4.35	5.55	400～539万/μl			
			F	3.86	4.92	360～489万/μl			
ヘモグロビン	Hb	g/dL	M	13.7	16.8	13.1～			
			F	11.6	14.8	12.1～			
ヘマトクリット	Ht	%	M	40.7	50.1	38.5～48.9			
			F	35.1	44.4	35.5～43.9			
平均赤血球容積	MCV	fL		83.6	98.2				
平均赤血球血色素量	MCH	pg		27.5	33.2				
平均赤血球血色素濃度	MCHC	g/dL		31.7	35.3				
血小板数	PLT	$10^3/\mu L$		158	348				
総蛋白	TP	g/dL		6.6	8.1				
アルブミン	ALB	g/dL		4.1	5.1				
アルブミン、グロブリン比	A/G			1.32	2.23				
尿素窒素	UN	mg/dL		8	20				
クレアチニン	CRE	mg/dL	M	0.65	1.07	0.60～1.00			
			F	0.46	0.79	0.40～0.70			
尿酸	UA	mg/dL	M	3.7	7.8	2.1～7.0	7.0	高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン　第３版	日本痛風・核酸代謝学会ガイドライン改訂委員会
			F	2.6	5.5				
ナトリウム	Na	mmol/L		138	145				
カリウム	K	mmol/L		3.6	4.8				
クロール	Cl	mmol/L		101	108				
カルシウム	Ca	mg/dL		8.8	10.1				
無機リン	IP	mg/dL		2.7	4.6				
グルコース	GLU	mg/dL		73	109	100未満(空腹時)	109	科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013	日本糖尿病学会
中性脂肪	TG	mg/dL	M	40	234	150未満(空腹時) 175未満(随時)	150	動脈硬化性疾病予防ガイドライン2022年版	日本動脈硬化学会
			F	30	117				
総コレステロール	TC	mg/dL		142	248		220	動脈硬化性疾病予防ガイドライン2022年版	
HDL-コレステロール	HDL-C	mg/dL	M	38	90	40以上	40	動脈硬化性疾病予防ガイドライン2022年版	
			F	48	103				
LDL-コレステロール	LDL-C	mg/dL		65	163	120未満	140		
総ビリルビン	TB	mg/dL		0.4	1.5		1.2	専門医との協議による	体質性黄疸の鑑別値
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	AST	U/L		13	30	31未満			
アラニンアミノトランスフェラーゼ	ALT	U/L	M	10	42	31未満	30	専門医との協議による	病理学的所見上での上限値
			F	7	23				
乳酸脱水素酵素（IFCC）	LD-IF	U/L		124	222				
アルカリホスファターゼ（IFCC）	ALP-IF	U/L		38	113				
γ-グルタミールトランスペプチダーゼ	γ-GT	U/L	M	13	64	51未満			
			F	9	32				
コリンエステラーゼ	ChE	U/L	M	240	486				
			F	201	421				
アミラーゼ	AMY	U/L		44	132				
クレアチン・ホスホキナーゼ	CK	U/L	M	59	248				
			F	41	153				
C反応性蛋白	CRP	mg/dL		0.00	0.14				
鉄	Fe	μg/dL		40	188				
ヘモグロビンAlc	HbAlc	%		4.9	6.0	5.6未満			

※P139参照（臨床判断値の結果報告について）

測定法の概要

●検査方法の略号と概略

CF　補体結合反応
Complement Fixation
抗原―抗体結合物がある一定の条件のもとに補体を活性化し、免疫グロブリンのFc部分に補体を結合する現象を応用した検査方法。主にウイルス抗体の検出に用いられる最も基本的なものである。CF活性を持つのはIgGとIgMのみであるが、一般に感染後短期間のみ検出される場合が多い。ペア血清で測定するのが望ましい。

CLEIA　化学発光・酵素免疫測定法
Chemiluminescent Enzyme Immunoassay
被検物質に対する抗体を担体に固相したものに検体および酵素標識抗体を反応させ、これに化学発光基質を加える。この基質は酵素により分解され酵素量に応じて発光し、その発光量をルミノメーターで測定し定量する検査方法である。

CLIA　化学発光免疫測定法
Chemiluminescent Immunoassay
被検検体にアクリジニウム・エステルを標識した抗体と固相化抗体を反応させサンドイッチ法により測定する検査方法。磁気分離固相法によりB／F分離した後、専用アナライザーでアクリジニウム・エステル発光の量により定量する。

DID　二重免疫拡散法（＝オクタロニー法）
Double Immunodiffusion, Ouchterlony法
寒天ゲルの小孔に入れた抗原と抗体を二次元の方向に拡散させると、両者の間の最適比のところで沈降線を形成する。沈降線の示す相互関係（融合、部分的融合、交叉）や線の数から抗原と抗体との反応の有無と性質を比較検討する。

ECLIA　電気化学発光免疫測定法
Electro Chemiluminescent Immunoassay
電解反応により生成されるエネルギーによりルテニウムビリジン錯体を励起して発光させる化学発光法の一種である。
被検検体に測定を目的とする物質(A)に対する抗体を結合したビーズを反応させると、抗原抗体複合物が生成される。次にこのビーズを洗浄し、ビーズに結合した（A）にルテニウム標識抗体を反応させるとサンドイッチ状の複合物が形成される。さらにビーズを洗浄し電極上にて電気エネルギーを加えるとビーズに結合したルテニウム標識抗体量に応じてルテニウム錯体が発光する。この発光量は（A）の量と相関するので検量線により濃度を読み取る。

EIA　酵素免疫測定法
Enzyme Immunoassay
抗原または抗体に被検検体を反応させた抗原抗体複合物に酵素標識抗体を加え反応させた後、その酵素に対する基質を添加し発色させ、その吸光度により比色定量するものである。競合法と非競合法に大別され、広く各種ホルモン、ウイルス抗原・抗体価、薬物濃度などの測定に用いられる。標識酵素にはペルオキシダーゼやアルカリフォスファターゼなどが用いられている。

ELFA　蛍光酵素免疫測定法
Enzyme Linked Fluorescent Assay
EIAの１つで、標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光基質を加えて蛍光強度を測定する方法。

ELISA　酵素免疫測定法
Enzyme-Linked Immunosorbent Assay
固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に２次反応させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

FA　蛍光抗体法
Fluorescent Antibody Method
抗原または抗体を測定する場合にFITCなどの蛍光色素を標識し抗原と抗体を反応させ蛍光顕微鏡下で観察すると特異的な蛍光が見られ、これにより判定する。抗体（抗原）に蛍光色素を直接結合させる直接法と抗原抗体反応させた後、さらに抗血清に蛍光色素を反応させる間接法がある。

FISH
Fluorescence in situ hybridization
蛍光色素で標識したプローブを用いて標的DNAとハイブリダイゼーションを行い、特定の波長で発色させた部位を蛍光シグナルとして蛍光顕微鏡下で検出する方法。

FPIA　蛍光偏光免疫測定法
Fluorescence Polarization Immunoassay
血中薬剤濃度のような比較的分子量の小さい物質の測定に用いられる。試料中の測定物質と一定量の蛍光標識標準物質が、一定量のこの標準物質の抗体と競合する。この抗原―抗体反応と、蛍光偏光度との関係から検量線を用いて濃度を求める。

GC　ガスクロマトグラフィー
Gas Chromatography
固定相としてキャピラリーカラムを用い、測定試料が移動相（キャリアーガス）にのって流動する間に溶解性の差によって分離・同定される。充填剤は測定試料の構造により無極性型、極性型があり、検出器には電子捕獲検出器（ECD）、水素炎イオン化検出器（FID）、熱伝導度検出器（TCD）などが用いられている。

HA　赤血球凝集反応
Hemagglutination
赤血球の表面抗原と抗体を反応させ、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。

HI　赤血球凝集抑制反応
Hemagglutination Inhibition
一般にウイルスは動物の赤血球を凝集する性質を持っており、ウイルス抗原が対応する抗体と結合し抗原抗体反応を起こすと赤血球凝集能が抑制される。この性質を利用してウイルス抗原を被検検体と反応させ、これに赤血球を加え反応させ、どの希釈倍率まで凝集が抑制されたかにより抗体価を判定する。

HPLC　高性能液体クロマトグラフィー
High Performance Liquid Chromatography
微細の球体のシリカやイオン交換樹脂、疎水性のアルキル基、親水基をもったシリカゲルなどを充填したカラムを用いて試料中の測定物質を分離し、光学的方法や電気的な検出方法によりその測定物質を検出し、得られたクロマトグラムからピーク高やピーク面積により定量化する。

IFA　間接蛍光抗体法
Indirect Fluorescent Antibody Method
目的とする抗原に対して、蛍光色素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光顕微鏡下で蛍光強度を測定する方法。
蛍光色素で標識した抗体を直接反応させる直接法と、抗原に対して抗体を反応させた後、蛍光色素で標識した抗体を２次反応させる間接法がある。

IRMA　免疫放射定量法
Immunoradiometric Assay
RIA法（ラジオイムノアッセイ）の一つで、非競合的な反応に基づくものをいい、一般のRIA法より特異性が高いといわれる。測定を目的とする抗原に標識抗体を加えると抗原と標識抗体が結合した抗原・抗体複合物ができるが、その放射活性により検量線から濃度を読み取る。最近では２抗体法以外の方法をIRMAと呼ぶことがある。

KIMS
Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution
抗原または抗体を結合させたマイクロパーティクルを用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の濁度を、光を照射させて透過率から測定する方法。

LA　ラテックス凝集法
Latex Agglutination
　測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検検体を反応させると陽性の場合に抗原抗体反応によりラテックス粒子が凝集する性質を利用し、目的物質を測定する。

LAMP法
Loop-mediated Isothermal Amplification
　標的遺伝子の６つの領域に対して４種類のプライマーを設定し、鎖置換反応を利用して一定温度で反応させることを特徴とします。

LPIA　ラテックス近赤外免疫比濁法
Latex Photometric Immunoassay
　測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検検体を反応させると抗原抗体反応により凝集し濁度が変化する。これに赤外線を当てその透過度により定量する方法である。

NT　中和反応
Neutralization Test
　ウイルス抗体価の測定によく用いられる。被検検体を段階希釈しウイルスを添加、混合し検体中の抗体と抗原抗体反応を起こさせ、そのウイルスに感受性のある細胞に接種して一定期間培養を行う。中和抗体が存在するとウイルスが中和され細胞変性効果(CPE)が起こらず、その最大希釈倍率を抗体価とする。最も特異性の高い抗体価測定法である。

PA　粒子凝集反応
Particle Agglutination
　ゼラチン粒子などの担体に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これと被検検体を反応させると、抗体が陽性の場合にはゼラチン粒子が凝集する。

PCR　ポリメラーゼ連鎖反応
Polymerase Chain Reaction
　DNAの断片を増幅する方法である。目的とする領域のDNAを増幅するために、まず加熱し変性させ一本鎖DNAにする。次に２種のプライマーを混合させ適当な温度条件でアニールさせると各々のプライマーは変性したDNAと相補性のある塩基で対を形成し、DNAポリメラーゼの反応により鎖が伸長し、最初のDNA部分の鎖は１回だけ増幅される。このプロセスを数十回繰り返していくと数百塩基対から数千塩基対のDNA断片のコピーをほぼ無限大に得ることができる。RNAを増幅する場合は逆転写酵素（reverse transcriptase：RT）によりcDNAに転換して増幅する。

PHA　受身赤血球凝集反応
Passive Hemagglutination
　動物の赤血球に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これに被検検体を反応させる。凝集が起これば陽性である。

RIA　放射性免疫測定法
Radioimmunoassay
　測定を目的とする抗原に対する抗体を用いて、被検検体に抗体を加え抗原抗体反応を起こさせた後、さらにラジオアイソトープで標識した抗体を入れて、複合体を形成した標識物（bound）と未反応物（free）を分離（B・F分離）し、放射活性を測定してB/Fの比率を求めて検量線から濃度を測定する。一般に二抗体法のような競合反応以外の方法を、IRMAと呼んでいる。

RPHA　逆受身赤血球凝集反応
Reversed Passive Hemagglutination
　検出しようとする抗原に対する抗体をある特定の動物の赤血球に吸着させたのち、被検検体と反応させると、抗原が陽性の場合には凝集を起こす性質を利用した検査方法である。

RRA　ラジオレセプターアッセイ
Radio Receptor Assay
　ホルモンやビタミンDなどはそのレセプターと結合することで活性を持つが、その性質を応用して通常の抗原・抗体反応と同じ様に、測定を目的とする物質にレセプターを結合させ、その反応性により目的物質を定量する方法である。

RT-PCR
Reverse transcriptase-polymerase chain reaction
　PCR法において増幅対象がRNAの場合、逆転写酵素を用いてRNAから相補的なcDNAを合成し、PCRを行う方法。

TIA　免疫比濁法
Turbidimetric Immunoassay
　被検検体中の測定目的物質に対応する抗体を検体に加えると抗原抗体反応により、抗原抗体複合物が生成される。この複合物の濁度は被検物質の抗原量と相関するため、この濁度を測定し既知濃度標準物質により作成された検量線により濃度を測定する。

UV　紫外部吸光光度分析
Ultraviolet Spectrophotometry
　通常、比色法は可視部波長を用いて吸光度により測定するが、補酵素がNADHやNADPHの場合は波長が340nm付近の紫外部に最大吸収を持つので、これらの補酵素が反応系に関与する場合はUV法が用いられる。

インベーダー法
　DNAの三重鎖構造を特異的に認識して切断をするクリベース（エンドヌクレアーゼの一種）を利用した、二段階のホモジニアスな等温反応からなる遺伝子多型の判定法。

ウエスタンブロット法
Western blot
　目的とする蛋白質を電気泳動により分画し、電気的にニトロセルロース膜に転写して、目的の蛋白質に対する抗体を反応させた後、放射性同位元素または酵素で標識した抗体を２次反応させ、目的の蛋白質を検出する方法。イムノブロット法とも呼ばれる。

ネフェロメトリー
Nephelometry
　抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ、光の散乱強度を測定する方法。

フローサイトメトリー
Flow cytometry
　蛍光色素で標識したモノクローナル抗体で染色した細胞を高速度で流しながらレーザー光を照射し、前方散乱光（細胞の大きさ）や90°散乱光（細胞の内部構造）と蛍光強度（細胞表面の対応抗原）から個々の細胞を解析する方法。
　２種類の蛍光色素を用いて二重染色を行い解析する場合はTwo-colorフローサイトメトリーと呼ばれる。

リアルタイムPCR
　PCR法を基本原理とする核酸増幅法の一種であり、分解により蛍光を発するオリゴヌクレオチドを利用することにより、PCRサイクルごとに蛍光シグナルを確認することでリアルタイムにターゲット核酸の定量が可能となる測定方法。

原子吸光分析法
　元素試料を化学炎中や加熱グラファイト管中などで元素の原子化を行い、その原子蒸気に元素固有の共鳴線をあてると原子蒸気中の原子の数に応じて吸収される。吸光度を測定することによって元素の量を求める方法。

電気泳動法
　溶液中の蛋白質はすべて固有の荷電状態（両性電解質）にあり、アルカリ溶液中では負に荷電している。これに通電すると陽極側に移動し、その移動速度は蛋白の種類によって異なる。この原理を利用して分離、定量する方法を言う。
　水溶液支持体にはセルロースアセテート膜、アガロースゲル、アクリルアミドゲルなどが用いられる。

ラインブロット法
Line immunoassay
　抗原を機械的にメンブレン上に点着し、抗原に対する特異的抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を、２次反応させ、抗体の検出を行う方法。

主要参考文献

一般検査

尿検査・・・・・・・・・・・・・・一般検査技術教本第２版　社団法人日本臨床衛生検査技師会
河合忠他　尿検査～その知識と病態の考え方～　メディカル・ジャーナル社
尿検査法　検査と技術増刊号　医学書院
奥田清　臨床検査アトラス尿沈渣　第２版　医歯薬出版
尿沈渣検査法　2010　社団法人日本臨床検査技師会
伊藤機一他　尿中細胞アトラス　医歯薬出版
尿沈渣アトラス　シスメックス
宿谷賢一　見て学ぶ一般検査学アトラス　医学書院
八木靖二　ポケットマニュアル尿検査第２版　医葉薬出版

便検査・・・・・・・・・・・・・・吉田幸雄　医動物学　南山堂
高尾善則　寄生虫検査の手引き（第１～３集）

髄液・穿刺液・関節液検査・・・・伊藤機一　穿刺液細胞アトラス　医歯薬出版
髄液検査法　2002　社団法人日本臨床衛生検査技師会
髄液検査技術教本　社団法人日本臨床衛生検査技師会
体腔液検査のすべて　Medical Technology増刊号　2005　Vol13　No.13　医歯薬出版

精液・胆汁検査・・・・・・・・・・体液検査法　検査と技術　増刊号　医学書院
日本泌尿器科学会監修　精液検査標準化ガイドライン

血液検査

血液一般・・・・・・・・・・・・・検査血液学　臨床病理
血液疾患診療ナビ　宮崎仁
奈良信雄　疾患からまとめた病能生理　FIRST AID 2007
メディカル・サイエンス・インターナショナル
血液検査技術教本第２版　社団法人日本臨床衛生検査技師会

血液像・骨髄像・・・・・・・・・・エビデンス血液形態学　近代出版
西国広他　血液形態観察のすすめ方　近代出版　第２版
阿南建一他　形態学からせまる血液疾患　近代出版
渡邊俊樹他　HTLV-Iと疾患　2007　文光堂
平野正美他　ビジュアル臨床血液形態学改訂第３版

特殊染色・・・・・・・・・・・・・新染色法のすべて　Medical Technorogy　別冊　医歯薬出版

凝固検査・・・・・・・・・・・・・血栓症と血小板凝固線溶系検査　医学書院

細菌検査

細菌全般・・・・・・・・・・・・・小栗豊子他　臨床微生物検査ハンドブック　第５版　三輪書店
岡田淳他　微生物学／臨床微生物学　第３版　2010　医歯薬出版
菅野治重，川上小夜子（監）　感染症診断に必要な微生物検査　2003　ライフ・サイエンス
山中喜代治(編)新・カラーアトラス微生物検査（月刊Medical Technology別冊）
2009　医歯薬出版
微生物検査ナビ　栄研化学㈱　第３版
永田邦昭　感染症診断に役立つグラム染色　第３版　日水製薬㈱
臨床微生物検査技術教本

抗酸菌全般・・・・・・・・・・・・抗酸菌検査ガイド　2025

真菌全般・・・・・・・・・・・・・山口英世，内田勝久　真菌症診断のための検査ガイド　栄研化学㈱
D.H.ラローン　医真菌　同定の手引き　第５版　栄研化学㈱
検体採取等に関する厚生労働省指定講習会テキスト

感染対策・・・・・・・・・・・・・改正感染症法における結核対策　2007　財団法人結核予防会
臨床検査技師のための病院感染対策の実践ガイド　2005　日本臨床衛生検査技師会

主要参考文献

病理検査

細胞診検査・・・・・・・・・・・・ベセスタ・システム基礎と実践　－その理解のために－
2010　日本細胞診診断推進協会細胞検査士会
坂本稼彦他　細胞診を学ぶ人のために　医学書院

免疫血清検査

免疫学的検査・・・・・・・・・・・臨床検査技術学　臨床免疫学　医学書院
（感染症、自己免疫、血漿蛋白、アレルギー）
検査と技術　増刊号　免疫反応と臨床検査2010　医学書院
病態のしくみがわかる免疫学　医学書院
性感染症　診断・治療ガイドライン　日本性感染症学会
これでわかるピロリ除菌療法と保険適用　改訂第５版
ガイドラインに基づく活用法　高橋信一著　南江堂
医学のあゆみ　膠原病　診断・治療の進歩　医歯薬出版株式会社
自己免疫疾患の診断基準と治療指針　第10版　MBL　医学生物学研究所
甲状腺疾患の疾病管理テキスト　メディカルレビュー社
臨床検査で遭遇する異常蛋白質　基礎から発見・解析法まで　医歯薬出版株式会社
IgE抗体から調べるアレルゲン　株式会社ヤトロン

腫瘍関連検査・・・・・・・・・・TUMOR MARKER　SRL社資料
胃がんリスク検診（ABC検診）マニュアル　胃がん撲滅のための手引き　南山堂

ウイルス感染症検査・・・・・・・古澤浩司，飯野四郎（著）ウイルス肝炎　診断・治療のてびき
（ウイルス抗原・抗体、肝炎ウイルス）
ウイルス感染症　検査と診断　SRL社資料
―改訂版―ウイルス感染症　診断・検査の手引き　株式会社BML
B型肝炎母子感染防止対策事業　実施の手引き　恩賜財団母子愛育会
HBV検査と治療の最前線　シスメックス株式会社
ウイルス肝炎の最新のアップデート～A型、B型、C型肝炎における基礎と臨床動向～
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

薬物検査関連・・・・・・・・・・TDMハンドブック　篠崎公一　シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
宮崎克巳，高橋保志　TDMポケットガイド
循環器薬の薬物血中濃度モニタリングに関するガイドライン　2015年版［ダイジェスト版］
日本循環器学会／日本TDM学会合同ガイドライン
抗てんかん薬TDM標準化ガイドライン2018
一般社団法人日本TDM学会

輸血関連検査・・・・・・・・・・輸血検査の実際　改訂第３版　日本臨床検査技師会ライブラリー
新輸血検査の実際　初版　日本臨床検査技師会
輸血検査のすべて　Medical Technology　2003　Vol.31　No.13　医歯薬出版株式会社

臨床･生化学

酵素・濃度項目・・・・・・・・・櫻林郁之介，熊坂一成　検査項辞苑’第２版　大塚製薬㈱　大塚アッセイ研究所
河合忠，橋本信也，只野壽太郎　今日の検査指針　第２版　医学書院
最新医学大辞典　医歯薬出版株式会社
臨床検査精度管理教本　社団法人日本臨床衛生検査技師会編集　近代出版
脂質異常症治療ガイド　日本動脈硬化学会編　協和企画
動脈硬化性疾患予防ガイドライン　2022年版　日本動脈硬化学会
CKD診療ガイド2024　日本腎臓学会編　東京医学社
石井暢　検査値の経時的変動　㈱エスアールエル
診断群別臨床検査のガイドライン　～医療の標準化に向けて～
日本臨床検査医学会　日常初期診療における臨床検査の使い方小委員会
宇宙堂八木書店
臨床検査のガイドライン　JSLM　2024　検査値アプローチ・症候・疾患
日本臨床検査医学会　日本臨床検査学会ガイドライン作成委員会　2015　宇宙堂八木書店
骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの適正使用ガイド（2018年度）
日本骨粗鬆症学会　骨代謝マーカー検討委員会
糖尿病治療ガイド2024　日本糖尿病学会　文光堂

主要参考文献

その他

臨床検査ガイド2009～2010　文光堂
最新検査項目辞典　医歯薬出版株式会社
臨床検査データブック2025～2026　医学書院
最新臨床検査のABC　日本医師会編
臨床検査の正しい仕方　―検体採取から測定まで―　宇宙堂八木書店
標準採血法ガイドライン　JCCLS特定非営利活動法人日本臨床検査標準協議会
金井泉他　臨床検査法提要　金原出版
検査値の高い時・低い時　佐賀県医師会

その他、必要な文献・資料など、各部門、項目で用意いたしております。
是非ご利用下さいますようお願いいたします。

■「FIB-4 index」

項目コード No	検査項目	材料	判断基準	計算に必要な測定項目
0104	FIB-4 index	スピッツ，アンチクロット	表　参照	AST，ALT，血液一般（血小板数）

－FIB-4 index 判定基準－

必須　生年月日

低値域	1.30未満	肝線維化進展の可能性は低いと考えられます。
中間値域	1.30～2.66	肝線維化マーカーの追加検査をお勧めします。
高値域	2.67以上	肝臓専門医への受診をお勧めします。

当検査センターでは、AST・ALT・血液一般（血小板数）のオーダーがあれば、計算により無料でFIB-4 indexのデータ提供が可能です。

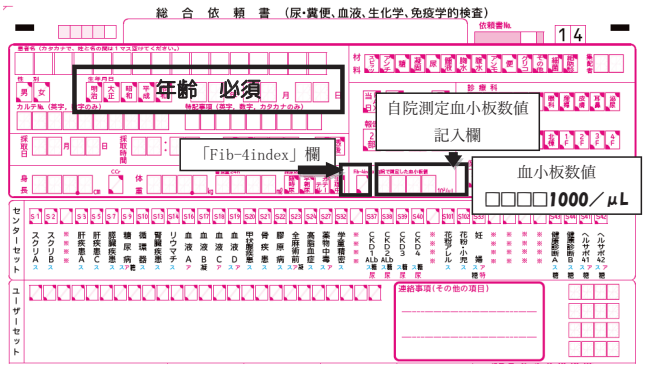
【依頼方法】

①　ご依頼の際には、依頼書の「FIB-4 index」欄にマークしてください。（マーク枠が無い依頼書は、連絡事項欄に「FIB-4 index」とご記入ください。）

※検体は、スピッツとアンチ（＝センター検査実施時）をご提出ください。

※溶血検体・血小板の凝集、採血不備に伴うフィブリンの析出した検体では、FIB-4 indexが病態に正確に反映されない場合や報告できない場合があります。

「FIB-4 index」は、血液生化学的検査データを用いたスコアリングシステムであり、肝線維化の程度が予測できます。
（医界佐賀令和３年６月１日号「臨床検査トピックス」参照）



②　自院測定血小板値記入欄

「S-5肝疾患C」ご依頼の際に、自院測定の血小板数値を総合依頼書の記入欄にご記入いただくと、「Fib-4 index」をご報告します。

（注意点）

当検査センターの報告値は、□□□□1000/μLです。

自院測定値の桁数にご注意ください。

記入例；（右づめ）123…血小板数値　12万3千/μL

■臨床判断値の検査結果報告の対応について

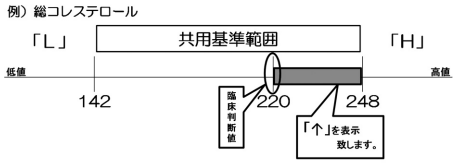
「臨床判断値」が設定されている検査項目には、当検査センターからの検査結果報告書の中で、報告値が「共用基準範囲」内にある場合でも、臨床判断値を超えれば「↑」、臨床判断値を下回れば「↓」を印字致します。（平成30年１月より）

※「臨床判断値」「共用基準範囲」…P133参照

【参考例】

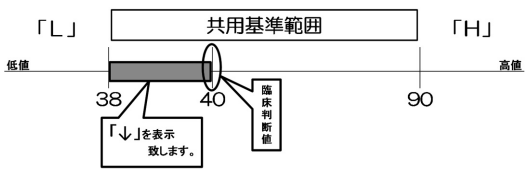
●臨床判断値を超えた場合

対象項目：総コレステロール　・　中性脂肪（男性）　・　LDLコレステロール
尿酸（男性）　・　ALT（男性）

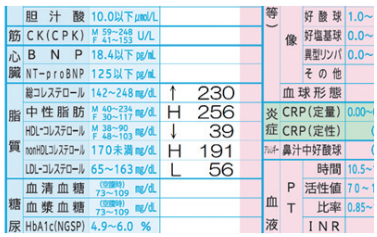


●臨床判断値を下回った場合

対象項目：HDLコレステロール（男性）



イメージ図



■推定１日食塩摂取量

案内書掲載頁	項目コードNo	検査項目	材料	単位	測定法	基準値	計算に必要な測定項目
41	0070	推定１日食塩摂取量	尿	g/日	計算法(田中式)	設定なし	〔随時尿〕 尿中ナトリウム 尿中クレアチニン

必須　生年月日、身長、体重

【依頼方法】

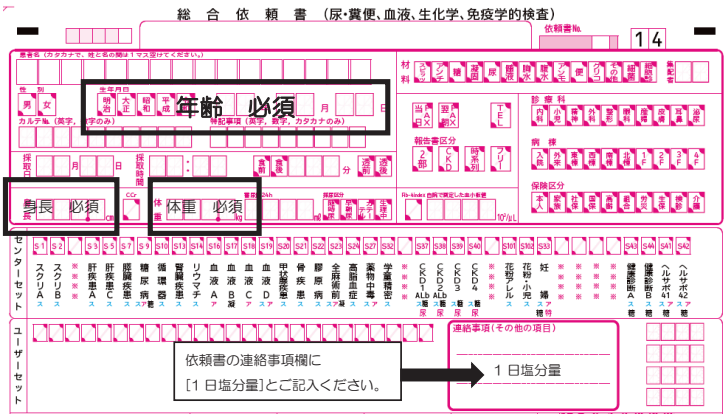
単項目で依頼される場合は、総合依頼書に「尿中ナトリウム・尿中クレアチニン」の２項目に加えて、連絡事項欄に「１日塩分量」とご記入下さい。

※必ず、生年月日、身長、体重をご記入下さい。

※推定１日食塩摂取量は尿中ナトリウム、尿中クレアチニンの測定値を計算式で求める保険未収載項目です。
　レセプト請求ではナトリウム（尿）（11点）、クレアチニン（尿）（11点）でご請求下さい。

※センターセット「S－39（CKD3）」・「S－40（CKD4）」にはセット項目に含まれています。

【参考】
計算式
・推定１日食塩摂取量（g／日）
　＝24時間尿Na排泄量（mmol／日）÷17



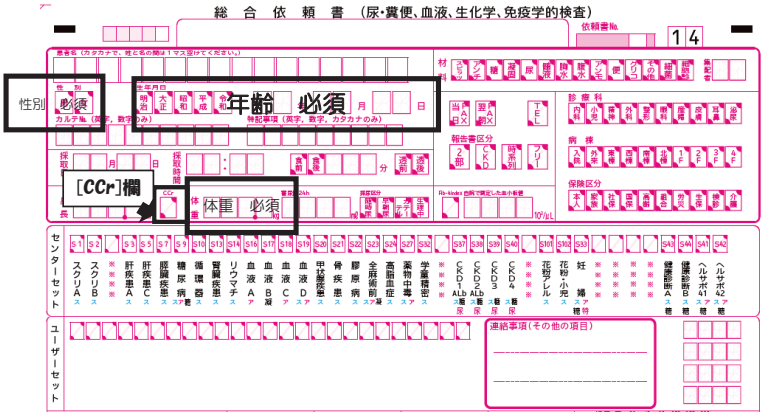
■「クレアチニンクリアランス（CCr）推算値」

案内書掲載頁	項目コードNo	検査項目	材料	計算に必要な測定項目
16・41	0069	CCr	スピッツ	血清クレアチニン

必須　性別、生年月日、体重（小数第１位まで）

【依頼方法】

クレアチニンクリアランス（CCr）推算値の報告を希望される医療機関は、血清クレアチニンの依頼に**性別、生年月日、体重（小数第１位まで）**を併記され、依頼書の「CCr」欄にマークしてください。（マーク枠が無い依頼書は、連絡事項欄に「CCr」とご記入ください。）



Memo

日曜日および祝祭日の緊急検査対応について

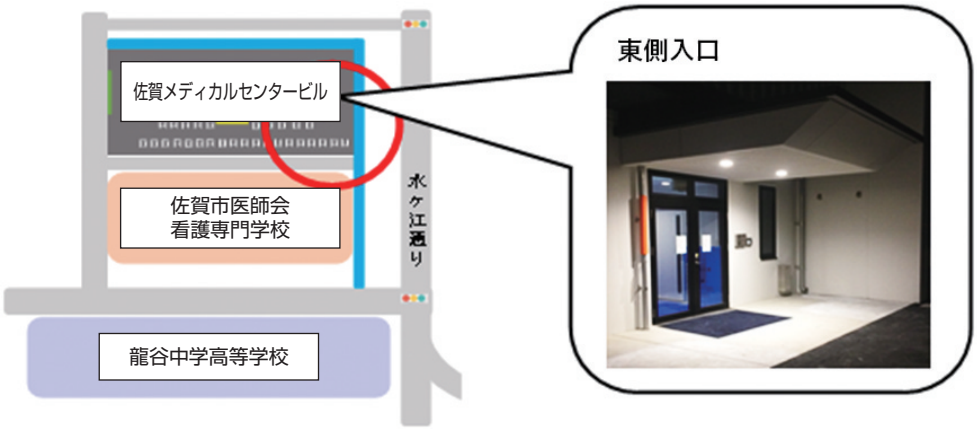
当センターでは、日曜日および祝祭日の緊急検査に対応しております。

緊急検査の結果は、FAX（もしくは電話）にて報告し、後日、報告書をお届けします。
また、Webきゃどらいんでの閲覧も可能です。

●検査検体は、原則、**持ち込み**となります。
　持ち込まれる際は、あらかじめ電話で連絡をお願いします。
●検査検体の受付は、8：30～17：00です。

緊急検査対応項目

生化学的検査 ・ 免疫学的検査	総ビリルビン	直接ビリルビン	総蛋白
	アルブミン	AST	ALT
	ALP	γ－GT	LD
	CK	コリンエステラーゼ	血清アミラーゼ
	総コレステロール	中性脂肪	HDLコレステロール
	LDLコレステロール	尿素窒素	クレアチニン
	尿酸	カルシウム	無機リン
	ナトリウム	カリウム	クロール
	血糖	血清鉄	UIBC
	CRP	リウマチ因子（RF定量）	フェリチン
	〔計算項目：間接ビリルビン、A/G比、TIBC〕		
血液学的検査	末梢血液一般（白血球数、赤血球数、血色素量、ヘマトクリット値、血小板数） プロトロンビン時間（PT－INR）　活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT） フィブリノゲン　Dダイマー		



検査物のお持ち込みは東側入口インターホンから

健診・検査センター
中央検査室受付　3F

をお呼び出し下さい。



佐賀メディカルセンタービルへのご案内



休日・時間外で正面玄関が施錠されている場合は、『1階東側通用口』で受取りますので、**東側入口インターホンから「健診・検査センター中央検査室受付」をお呼出しください。**なお、正面玄関が開錠されている場合は、『3階検体受付』窓口へご持参ください。

3階平面図



公益財団法人
佐賀県健康づくり財団
佐賀県健診・検査センター
〒840−0054　佐賀市水ヶ江一丁目12番10号
佐賀メディカルセンタービル内
ＴＥＬ　0952（37）3301〔代表〕
（37）3302〔臨床検査部〕
ＦＡＸ　0952（37）3061〔代表〕
（37）3062〔臨床検査部〕
ＵＲＬ　http://saga-kenkou.or.jp/

デザインコンセプト
成長していく健康な「木」、健診・検査にかかせない「聴診器」、
からだをイメージした「ハート」を表しています。